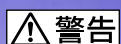
4-658-472-**01** (1)

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。

パーソナルコンピューター

PCV-RX73/RX63/RX53

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

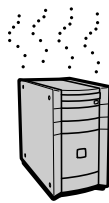
安全のための注意事項を守る

8～16ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理をご依頼ください。

万一異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したとき**

❶ **電源を切る**

❷ **電源コードや接続ケーブルを抜く**

❸ VAIO**カスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理を依頼する**

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

注意

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

ぬれ手禁止

接触禁止

行為を指示する記号

指示

アース線を接続せよ

プラグをコンセントから抜く

アース線の接続について

アース接続は必ず電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

（社団法人電子情報技術産業協会（旧JEIDA）のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS・C-6802）クラス1適合のDVD-RWドライブ（PCV-RX73/RX63）またはCD-RW／DVD-ROM一体型ドライブ（PCV-RX53）が搭載されています。

著作権について

あなたが本機で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用することはできません。また、著作者の許可なく、取り込んだ映像・画像・音声に変更・切除その他の改変を加え、著作物の同一性を損うことは禁じられています。コピーガード信号の入った映像は録画することができません。

本機の内蔵モデムについて

本機の内蔵モデムは、諸外国で使用できる機能を有していますが、日本国内で使用する際は、他国のモードを使用すると電気通信事業法（技術標準）に違反する行為となります。工場出荷時の設定は「日本モード」となっておりますので、そのままご使用ください。

高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象商品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっております。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

本書で使われている本機のイラストや画面について

本書で使われているイラストや画面は断わりがない限り、PCV-RX73のものです。また画面のイラストは実際のものと異なる場合があります。

「取扱説明書（本書）」について

本書では、以下のことについて説明しています。

- 本機を使う前に必要な準備
- 電源の入れかた／切りかた
- コンピュータの基本的な使いかた
- インターネットへの接続のしかた
- 困ったときの対処のしかた
- 周辺機器の接続や本機の拡張のしかた
- 使用上のご注意

コンピュータを初めてお使いになる方はもちろん、よくご存知の方も、必ず本書からお読みください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

画面で見る電子マニュアル「サイバーサポート」について

VAIOマニュアル「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」（以降、「サイバーサポート」と略します。）は、VAIOの使いかたや楽しみかたをディスプレイ画面上で説明する電子マニュアルです。本書に載っていない情報も、「サイバーサポート」で調べることができます。
使いかたについて詳しくは、「「サイバーサポート」の使いかた」（180ページ）をご覧ください。

 電子マニュアルとは

本機の使いかたやソフトウェアの操作説明などをディスプレイ画面上で読めるようにしたマニュアルのことです。

「サイバーサポート」では、以下の情報を見ることができます。

できる Windows：Windowsの基本的な使いかたの説明を見ることができます。

インターネット：インターネットに接続してホームページを見るための手順や、電子メールをやりとりするための説明を見ることができます。

VAIOの使いかた：DVD-RW／DVD-R（PCV-RX73/RX63のみ）やCD-RW／CD-Rの使いかたをはじめ、コンピュータの設定のしかたなど、本機の基本的な使いかたの説明を見ることができます。

VAIOの楽しみかた：動画編集のしかたや本機でテレビを見る方法などソニー製のソフトウェアを使った本機の楽しみかたや、付属のソフトウェアの紹介などの説明を見ることができます。

困ったときは：本機を操作していて困ったときの対処方法や、トラブルが発生したときの対処方法の説明を見ることができます。

サービス／サポート：サービス／サポートを受けるための説明を見ることができます。

目次

はじめにお読みください

コンピュータの基本操作を練習する

カスタマー登録する／インターネットに接続する

本機の使いかたがわからないときに

困ったときは

接続／拡張するときは

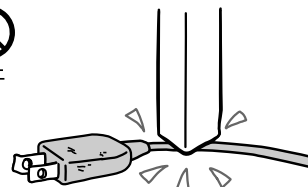
その他

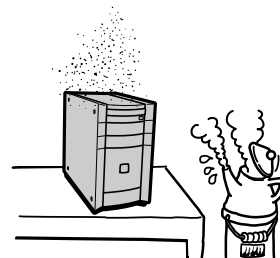
⚠警告 火災 感電 **下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。**

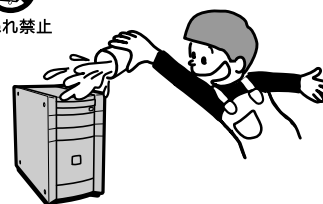
電源コードを傷つけない

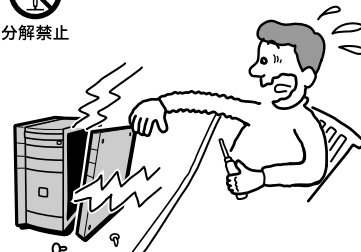
電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

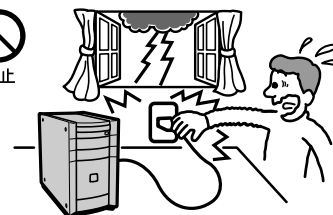
- 設置時に、製品と壁やラック(棚)などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

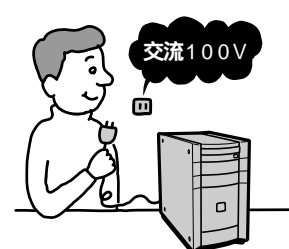
万一、電源コードが傷んだら、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。

油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に点検・修理をご依頼ください。

むやみに内部を開けない

- 内部には電圧の高い部分があり、ケースやフロントカバーをむやみに開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の点検、修理はVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- 各種の拡張ボード(基板)を取り付けたりメモリを増設する場合など、コンピュータの内部を開ける必要があるときは、本機の電源コードを抜き、取扱説明書の周辺機器の拡張のページで指定された方法に従い、部品や基板などの角で手や指にけがをしないように注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となることがあります。

雷が鳴り出したらテレホンコードや電源プラグに触らない

感電の原因になります。

本機は日本国内専用です

交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電、故障の原因となることがあります。

内蔵モデムを一般回線以外の電話回線に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN(デジタル)対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機(PBX)へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。

NETWORK（ネットワーク）コネクタに指定以外のネットワークや電話回線を接続しない

禁止

本機のNETWORK（ネットワーク）コネクタに下記のネットワークや回線を接続すると、コネクタに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホンの回線には、絶対に接続しないでください。

- 10BASE-Tと100BASE-TXタイプ以外のネットワーク
- 一般電話回線
- PBX（デジタル式構内交換機）回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

⚠警告　**下記の注意事項を守らないと、健康を害するおそれがあります。**

ディスプレイを長時間継続して見ない

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

キーボードを使いすぎない

キーボードやマウスなどを長時間継続して使用すると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやマウスなどを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

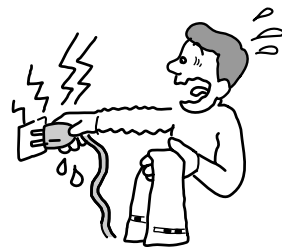
大音量で長時間つづけて聞きすぎない

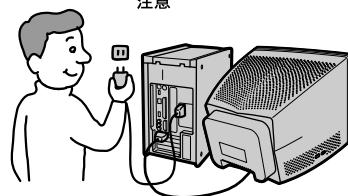
耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

禁止

⚠注意　下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。

接続の際は電源を切る

電源コードや接続コードを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。

指定された電源コードや接続コードを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

アース線を接続する

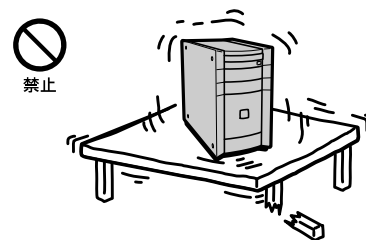
アース線を接続しないと感電の原因となることがあります。アース線を取り付けることができない場合は、販売店にご相談ください。

通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しを良くするために次の項目をお守りください。

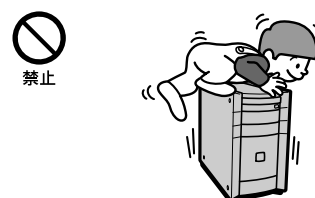
- 壁から15cm以上離して設置する。
- 密閉されたせまい場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物（じゅうたんや布団など）の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや横倒し、逆さまにしない。

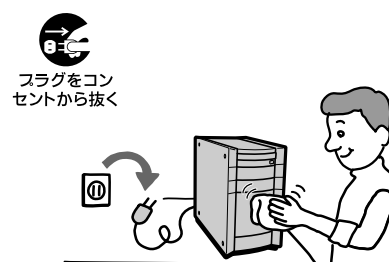
不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度も十分にお確かめください。

運搬時は慎重に

コンピュータを運搬するときは、底面全体を保持し、安定した姿勢で運んでください。前面および後面パネル部分に手をかけて持たないでください。運搬中にバランスを崩すと落下によりけがの原因となることがあります。また、本体と設置面との間に指を挟まないようにご注意ください。

製品の上に乗らない、重い物を乗せない

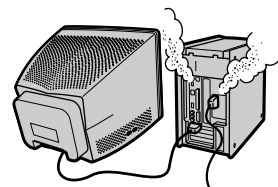
倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

お手入れの際は電源を切ってプラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

移動させる時は電源コードや接続コードを抜く

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

⚠注意 下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

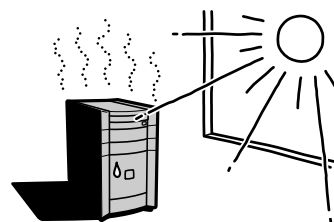
コネクタはきちんと接続する

- コネクタ(接続端子)の内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート(短絡)して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むとピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。
- アース線のあるコネクタには必ずアースを接続してください。

直射日光の当たる場所や熱器具近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。

電池についての安全上のご注意

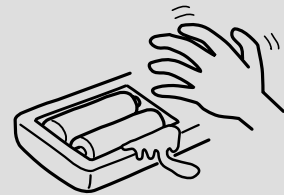
漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

アルカリ電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけがが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。

必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で十分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水で濡らさない

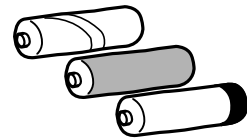
破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

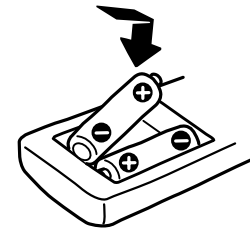
電池についての安全上のご注意

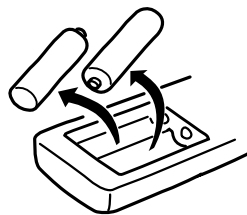
漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠注意

市販のアルカリまたはマンガン電池（単三型）以外の電池をリモコンに使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。
機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

はじめにお読みください

この章では、本機を使う際に最初に行う準備について説明します。準備が整うと、本機のいろいろな機能が使えるようになります。

こんなことができます

本機は、デジタルビデオカメラレコーダーやビデオデッキ、テレビなどと組み合わせて使うことを想定して設計された、ソニーならではのコンピュータです。
ここでは、本機を使ってできることの例をあげてあります。
なお、これらの機能をお使いいただくには、最初に、本書に沿ってひと通りの接続や準備を完了しておく必要があります。次ページからの説明に従って、本機の接続と準備を行ってください。
また、それぞれの操作について詳しくは、「サイバーサポート」または各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

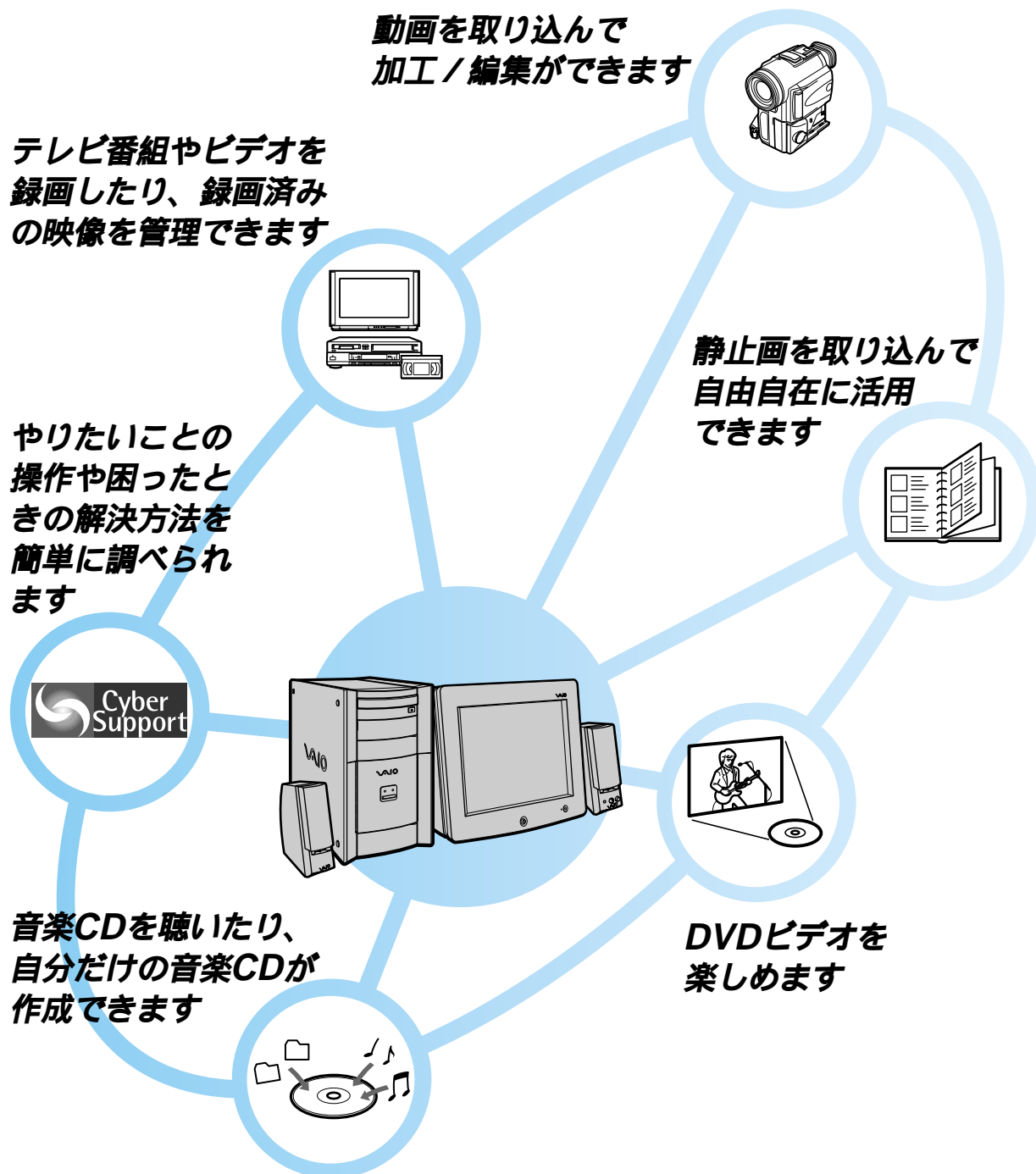
動画を取り込んで加工／編集ができます

テレビ番組やビデオを録画したり、録画済みの映像を管理できます

静止画を取り込んで自由自在に活用できます

やりたいことの操作や困ったときの解決方法を簡単に調べられます

DVDビデオを楽しめます

音楽CDを聴いたり、自分だけの音楽CDが作成できます

動画を取り込んで編集したい

MovieShaker

映像ファイルを組み合わせてオリジナルの作品が作れるソフトウェアです。好きなシーンを集めて「シェイク」すると自動的に楽しい作品ができあがります。

DVgate

デジタルビデオカメラなどで撮影した映像をVAIOに取り込み、必要な部分を切り取って編集することができます。PCV-RX73/RX63では、8mmビデオなど従来のアナログビデオの素材の取り込みもできます。

テレビ番組を見たり、録画したい

Giga Pocket

VAIOでテレビを楽しむためのソフトウェア群です。テレビを見る、予約録画する、録画した番組（ビデオカプセル）を整理することなどができます。

DVDを楽しむ

Media Bar DVD プレーヤー

スマートな操作で高画質、高音質なDVD再生を実現するDVDプレーヤーです。

DVDit! for VAIO （PCV-RX73/RX63のみ）

「DVgate」や「Giga Pocket」ソフトウェアで作ったMPEGファイルをCD-R／CD-RWまたはDVD-R／DVD-RWに書き込みを行うソフトウェアです。

音楽CDを聴いたり作成したい

SonicStage for VAIO

音楽CDの再生／録音や、インターネット上の音楽配信サービスの利用、オリジナルCDの作成、対応ポータブルプレーヤーへの書き出しまで、音楽を統合環境で快適に楽しめます。

RecordNow DX （PCV-RX73/RX63のみ）

手軽にオリジナルCDやDVDの作成ができます。

静止画を取り込んで活用したい

DigitalPrint

デジタル写真の取り込みからプリント、焼き増し、そしてフォトアルバムの作成やCD、MDラベルの印刷などが手軽に行えます。

PictureGear

動画から画像を合成したり、HTMLアルバム・スライドショーなど画像データを使って、いろいろなものを作ることができます。

PictureToy

デジタル写真を加工するためのお絵描きソフトウェアです。デジタル写真に手書きで絵を描いたり文字やいろいろなスタンプを貼り付けることができます。

ボタン１つでソフトウェアを起動したりしたい

VAIO Action Setup

本機のキーボードのショートカットキーの働きを設定するためのソフトウェアです。

VAIOの使い方や困ったときの解決方法を簡単に調べたい

CyberSupport for VAIO

本機についての情報を知りたいときや、本機を使っていて困ったことや疑問があったときに使用するソフトウェアです。

操作の流れ

本機をお使いになる前に必要な準備や操作の大まかな流れを以下に示します。

1 付属品を確かめる（22ページ）

箱を開け、この説明書を読みながら本機の付属品がすべてそろっているか確かめます。

2 各部のなまえ（26ページ）

本機の各部のなまえを紹介します。

3 設置する（30ページ）

本機を設置する場所を決めます。

4 接続する／準備する（32ページ）

ディスプレイやテレホンコードなどを接続します。

電話回線にISDN回線をお使いになる場合は
NTT（局番なしの116番）にご相談ください。

5 電源を入れる（47ページ）

本機の電源を入れます。

6 Windowsを準備する（49ページ）

Windowsを使うために、名前などを登録します。

7 テレビを見る準備をする（55ページ）

テレビを見るために「Giga Pocket」ソフトウェアの設定をします。

8 電源を切る（58ページ）

本機の電源を切ります。

必要に応じて下記もご覧ください。

❑ コンピュータの基本操作を練習する（61ページ）

コンピュータを初めてお使いになる方は、このページをお読みになり、マウスやキーボードの使いかたを練習してください。

❑ カスタマー登録する／インターネットに接続する（107ページ）

登録カスタマー専用のいろいろなサービスを受けられるように、本機をカスタマー登録してください。インターネットを始めたい方は、このページをお読みになり、インターネット接続のための準備を行います。ホームページを見たり、電子メールをやりとりしたりする方法も練習してください。

❑ 本機の使いかたがわからないときに（177ページ）

本機の使いかたがわからなくなったときに読むマニュアルやヘルプの使いかたを説明しています。

❑ 困ったときは（191ページ）

本機を操作していてトラブルが発生したときにご覧ください。

❑ 接続／拡張するときは（237ページ）

本機と周辺機器を接続したり、本機を拡張をするときにご覧ください。

❑ その他（289ページ）

本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。

付属品を確かめる

本機を初めて使うにあたって、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。
❑マークにチェックしながら確認すると便利です。
付属品が足りないときや破損しているときは、VAIOカスタマーリンクまたは販売店にご連絡ください。
本書で使用するものについては、本書がついています。

❑ コンピュータ本体（1）本書

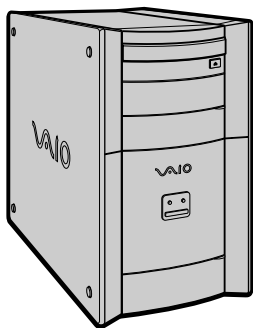
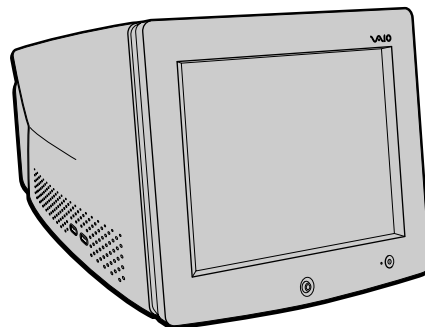
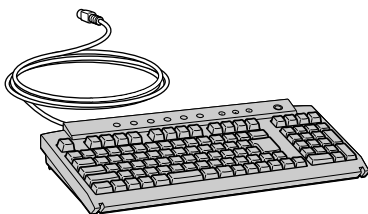
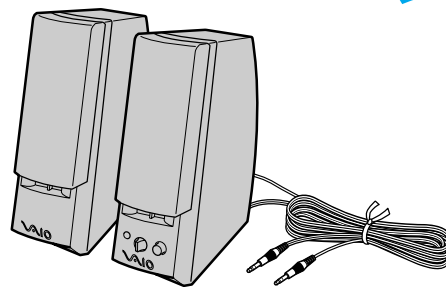
❑ キーボード（1）本書

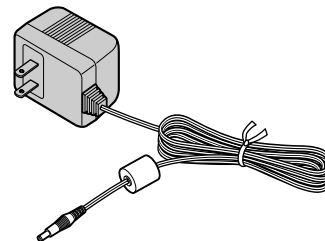
❑ パームレスト（1）本書

❑ テンプレート（1）

ちょっと一言

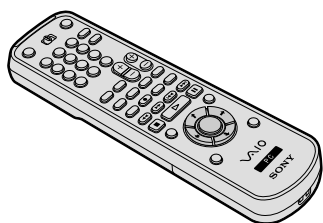
パームレストとテンプレートはキーボードの箱の中に入っています。

❑ マウス（1）本書

❑ ディスプレイおよびその付属品（1）本書

上のイラストはソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイPCVD-A201です。
お買い求めのコンピュータによって、ディスプレイは付属されていないことがあります。また省スペース型の TFT 液晶デジタルディスプレイPCVD-15XD5など、その他のディスプレイを使うこともできます。ディスプレイによっては別売りのディスプレイケーブルが必要になることがあります。

❑ アクティブスピーカー（1）本書

❑ スピーカー用ACアダプタ（1）本書

ご注意

スピーカー用ACアダプタは、付属のアクティブスピーカー以外には使用しないでください。

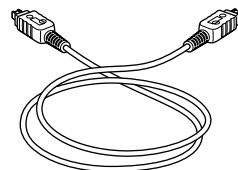
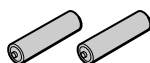
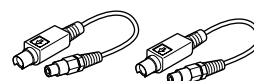
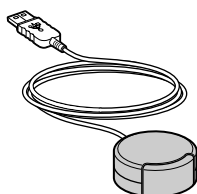
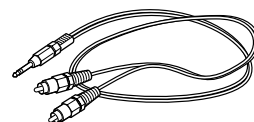
❑ リモコン（1）本書

❑ 単3乾電池（2）本書

❑ リモコン用
受光ユニット（1）本書

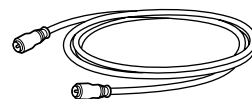
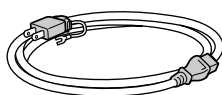
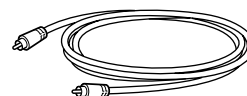
ケーブル

❑ 電源コード（1）本書

❑ テレホンコード（1）本書

❑ i.LINKケーブル
（4ピン←→4ピン）（1）

❑ ビデオ接続用
変換コネクタ（2）本書

❑ オーディオ接続ケーブル（1）本書

❑ アンテナ接続ケーブル（1）本書

❑ ビデオ接続ケーブル（1）本書

次のページへつづく

説明書および CD-ROM

❑ **取扱説明書**
（本書、1）

❑ **「Giga Pocket」取扱説明書（1）**

❑ **「Microsoft® Windows® XP Home Edition」ファーストステップガイド（1）**

❑ **リカバリ CD-ROMパッケージ（1）**

ご注意

「Microsoft® Windows® XP Home Edition」ファーストステップガイドとリカバリ CD-ROMは再発行できませんので、大切に保管してください。

PCV-RX73

❑ **「Adobe Premiere」CD-ROM（1）**

❑ **「Adobe Premiere」および「Adobe Photoshop Elements」ユーザー登録はがき（1）**

❑ **「デジタルビデオ編集読本」（CD-ROMつき、1）**

PCV-RX63

❑ **「Adobe Premiere LE」ユーザー登録はがき（1）**

❑ **「Adobe Photoshop Elements」ユーザー登録はがき（1）**

❑ **「デジタルビデオ編集読本」（CD-ROMつき、1）**

PCV-RX53

❑ **「Adobe Photoshop Elements」ユーザー登録はがき（1）**

ご注意

ユーザー登録はがきに記載されている「Adobe Photoshop Elements」のシリアル番号は、「Adobe Photoshop Elements」ソフトウェアの初回起動時に入力が必要になりますので、なくさないようにしてください。

ちょっと一言

- 本機の使いかたについて詳しくは、「サイバーサポート」をご覧ください。使いかたについて詳しくは、「「サイバーサポート」の使いかた」（180ページ）をご覧ください。
- 各ソフトウェアの操作について詳しくは、ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
  ソフトウェアの中には、電子マニュアルが付属されているものがあります。電子マニュアルを見るには、デスクトップ画面左下の をクリックし、[すべてのプログラム]にポインタを合わせ［VAIOソフトウェアはこちら］、［VAIOソフトウェアマニュアル］の順にクリックして、見たいソフトウェアの電子マニュアルを選んでください。

電子マニュアルとは

本機の使いかたやソフトウェアの操作説明などをディスプレイ画面上で読めるようにしたマニュアルのことです。

その他

- ❑ CyberCode（サイバーコード）シール（1）
- ❑ VAIOサービス・サポートのご案内（1）
- ❑ VAIOカルテ（1）
- ❑ ソフトウェア使用許諾契約書（1）
- ❑ VAIOカスタマー登録、保証書お申込書（1）
- ❑ その他パンフレット類

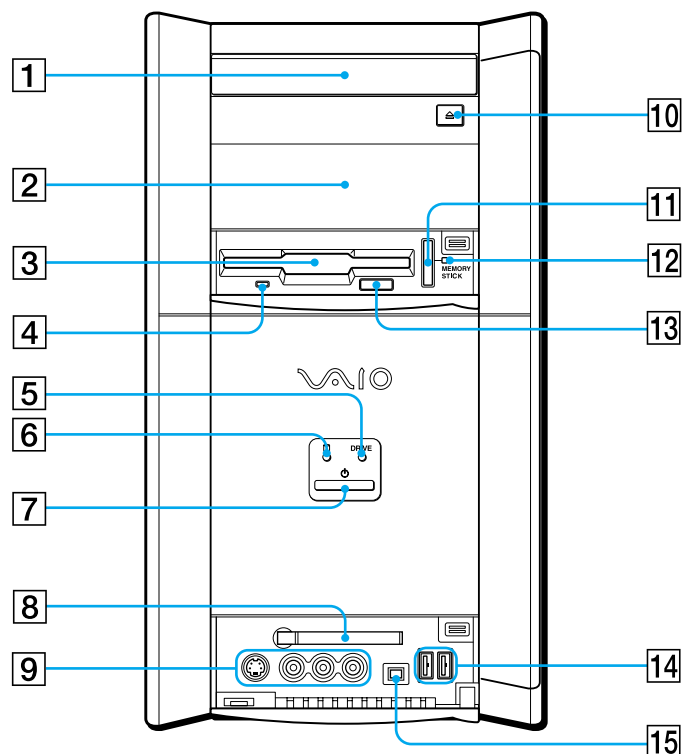
CyberCodeとは

CyberCodeは、ソニー独自の2次元バーコードで、約1,677万通り（24ビット）存在します。このうち、約100万通り（20ビット）のCyberCodeを登録することができます。残りのCyberCodeは、将来のサービス拡張用です。CyberCodeはそれが貼られたものから、対応するコンピュータ上の情報を引き出すためのインデックスの役割をします。

各部のなまえ

ここでは、本機の各部のなまえについて紹介します。各部のなまえとはたらきについて詳しくは、（　）内のページおよび「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［各部の説明］をクリックして表示される情報をご覧ください。
「サイバーサポート」の見かたについて詳しくは、「「サイバーサポート」の使いかた」（180ページ）をご覧ください。

前面

PCV-RX73/RX63

1 DVD-RW**ドライブ（**294**ページ）**

2 **拡張デバイスベイ（**284**ページ）**

3 **フロッピーディスクドライブ**

4 **フロッピーディスクドライブアクセスランプ**

5 DVD-RW**ドライブアクセスランプ**

6 **（ハードディスク）アクセスランプ**

7 **（電源）ボタンと電源ランプ（**47**ページ）**

8 PC CARD**（**PC**カード）スロット（**256**ページ）**

9 VIDEO 2 INPUT**（映像入力**2**）コネクタ（**240**ページ）**
S VIDEO**（**S**映像入力）**
VIDEO**（映像入力）**
L/R**（音声入力）**

10 DVD-RW**イジェクトボタン（**294**ページ）**

11 MEMORY STICK **（メモリースティック）スロット**

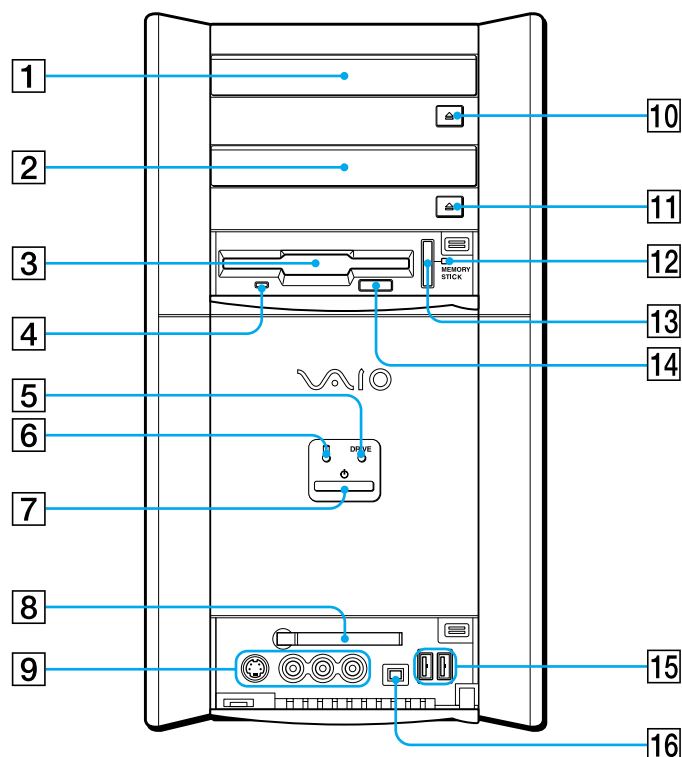
12 MEMORY STICK **（メモリースティック）アクセスランプ**

13 **フロッピーディスクイジェクトボタン**

14 USB**コネクタ（**251**ページ）**

15 i.LINK S400**コネクタ（**4**ピン）（**243**ページ）**

前面

PCV-RX53

1 DVD-ROM**ドライブ（**294**ページ）**

2 CD-RW**ドライブ**

3 **フロッピーディスクドライブ**

4 **フロッピーディスクドライブアクセスランプ**

5 DVD-ROM／CD-RW**ドライブアクセスランプ**

6 **（ハードディスク）アクセスランプ**

7 **（電源）ボタンと電源ランプ（**47**ページ）**

8 PC CARD**（**PC**カード）スロット（**256**ページ）**

9 VIDEO 2 INPUT**（映像入力**2**）コネクタ（**240**ページ）**
S VIDEO**（**S**映像入力）**
VIDEO**（映像入力）**
L/R**（音声入力）**

10 DVD-ROM**イジェクトボタン（**294**ページ）**

11 CD-RW**イジェクトボタン**

12 MEMORY STICK **（メモリースティック）アクセスランプ**

13 MEMORY STICK **（メモリースティック）スロット**

14 **フロッピーディスクイジェクトボタン**

15 USB**コネクタ（**251**ページ）**

16 i.LINK S400**コネクタ（**4**ピン）（**243**ページ）**

次のページへつづく

後面

1 MOUSE（マウス）コネクタ（39ページ）

2 KEYBOARD（キーボード）コネクタ（39ページ）

3 NETWORK（ネットワーク）コネクタ（252ページ）

4 USBコネクタ（40、44、251ページ）

5 PRINTER（プリンタ）コネクタ（249ページ）

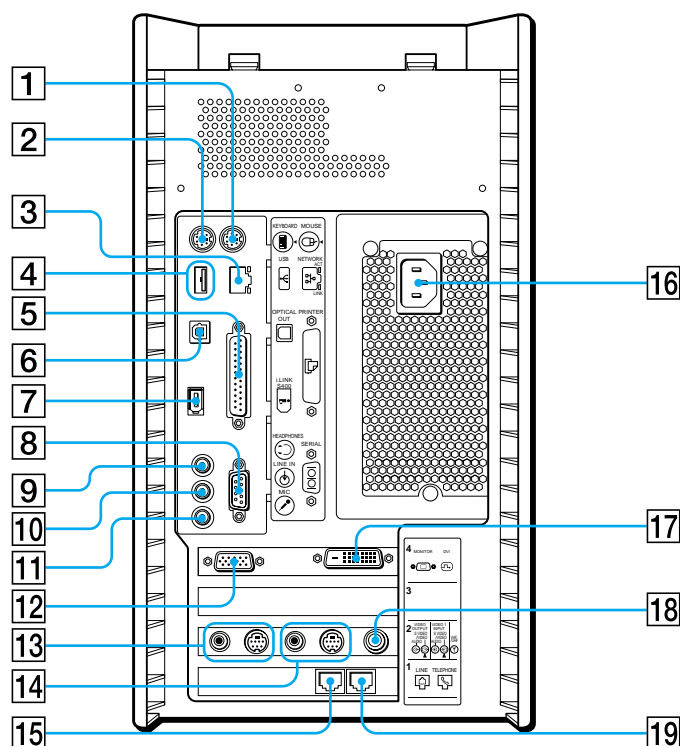
6 OPTICAL OUT（光デジタル出力）コネクタ（PCV-RX73/RX63のみ）（253ページ）

7 i.LINK S400コネクタ（6ピン）（243、244ページ）

8 SERIAL（シリアル）コネクタ

9 HEADPHONES（ヘッドホン）コネクタ（34ページ）

10 LINE IN（ライン入力）コネクタ

11 MIC（マイクロホン）コネクタ

12 MONITOR（モニタ）コネクタ（32ページ）

13 VIDEO OUTPUT（映像出力）コネクタ（38、239、241ページ）
S VIDEO／VIDEO（S映像／映像出力）
AUDIO（音声出力）

14 VIDEO 1 INPUT（映像入力）コネクタ（38、239ページ）
S VIDEO／VIDEO（S映像／映像入力）
AUDIO（音声入力）

15 LINE（電話回線）ジャック（42ページ）

16 AC INPUT（AC電源入力）プラグ（46ページ）

17 DVIコネクタ（33ページ）

18 VHF／UHF（アンテナ）コネクタ（35ページ）

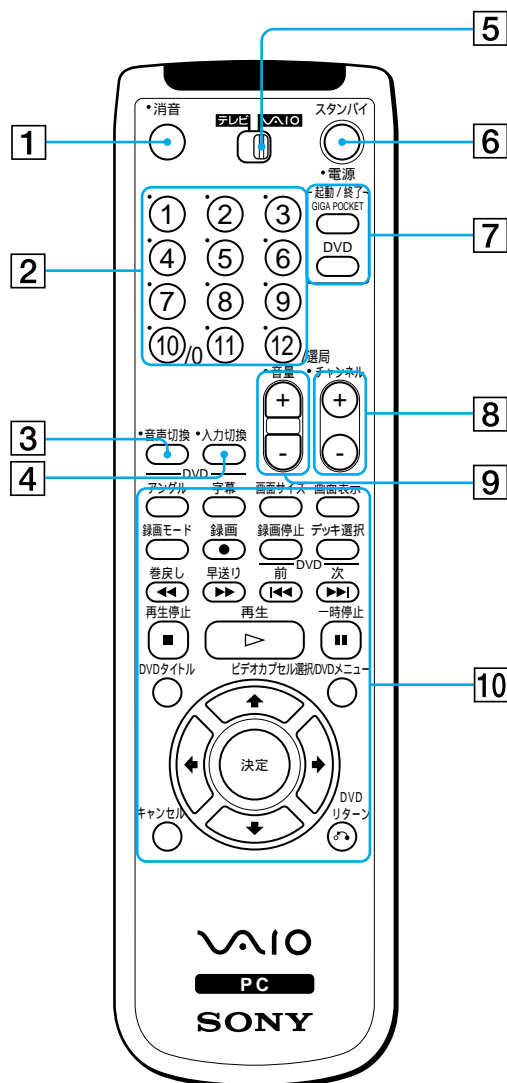
19 TELEPHONE（電話機）ジャック（41ページ）

リモコン

1 **消音ボタン**

2 **チャンネル数字ボタン**

3 **音声切換ボタン**

4 **入力切換ボタン**

5 **テレビ／VAIO切り換えスイッチ**

6 **電源／スタンバイボタン**

7 **「Giga Pocket」ソフトウェア／「Media Bar DVD プレーヤー」ソフトウェア起動／終了ボタン**

8 **チャンネルボタン**

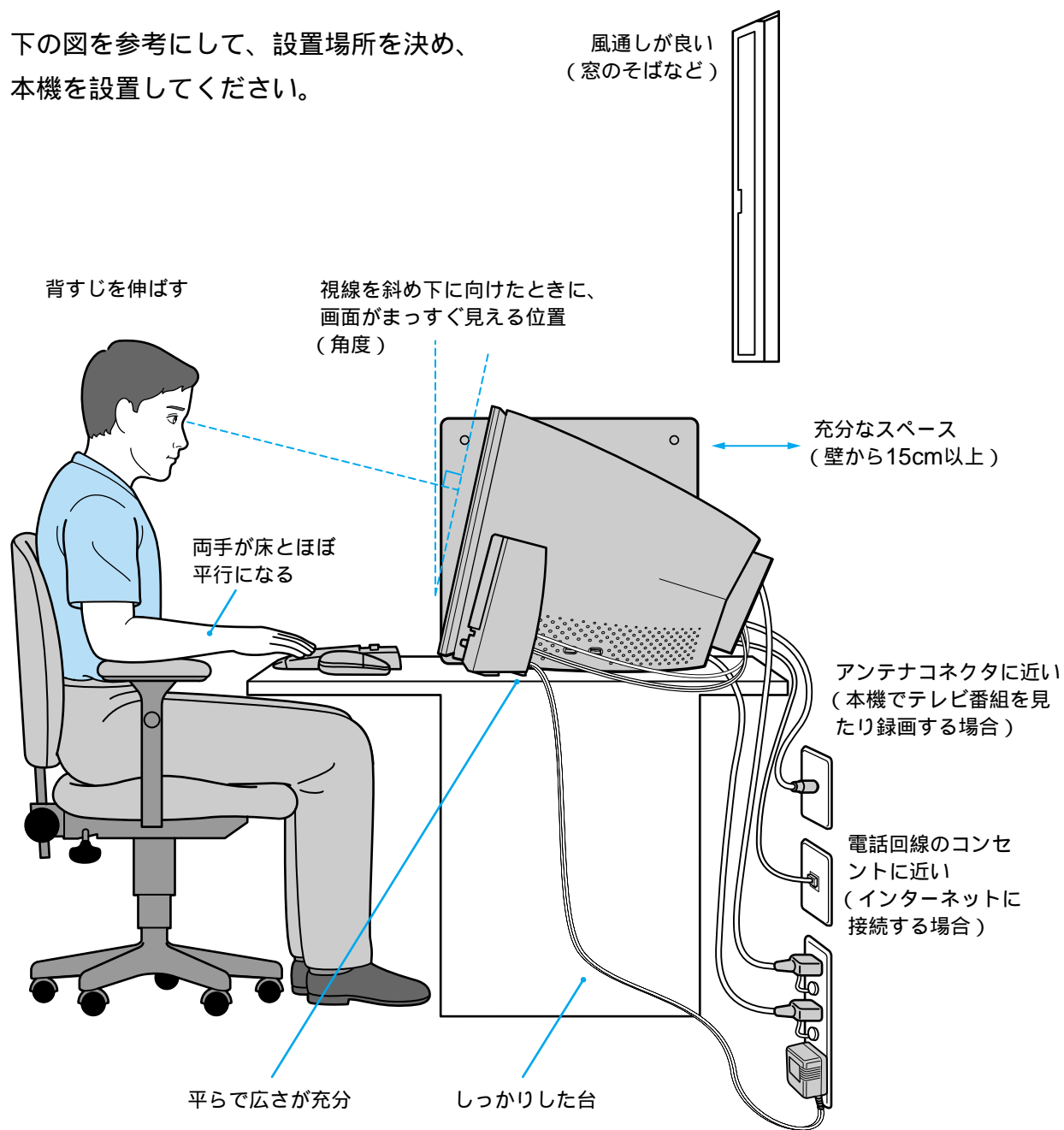
9 **音量ボタン**

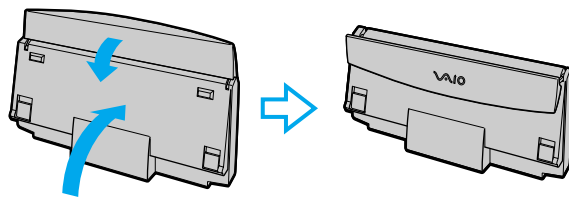
10 **「Giga Pocket」ソフトウェア／「Media Bar DVD プレーヤー」ソフトウェア操作ボタン**

ちょっと一言

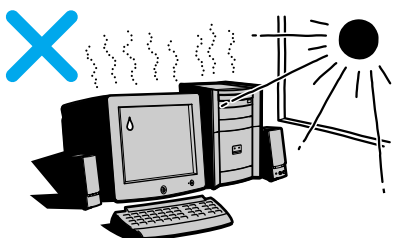
- 5ボタン、チャンネル＋ーボタンに突起がついています。
- リモコンの使いかたについて詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［各部の説明］→［各部の説明：リモコン］の順に表示される情報をご覧ください。

設置する

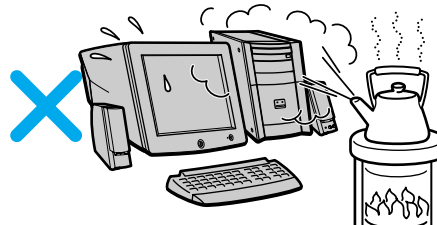
下の図を参考にして、設置場所を決め、
本機を設置してください。

ちょっと一言

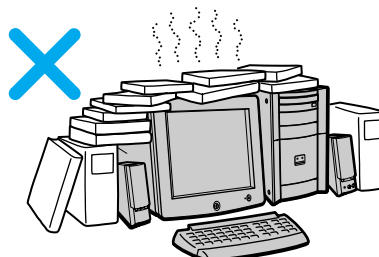
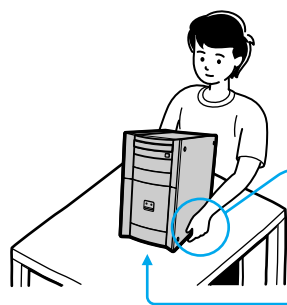
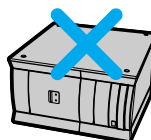
キーボードは立てて置くことができます。
キーボードを立てたときは、パームレストを
キーボードの裏側に折り畳むことができます。
本機を使わないときに場所を取りません。
キーボードにパームレストを取り付けるときは、
「キーボードにパームレストを取り付けるには」（39ページ）をご覧ください。

設置に適さない場所

次のような場所には設置しないでください。本機の故障や破損の原因となります。

❑ **直射日光が当たる場所**

❑ **ほこりが多い場所**

❑ **磁気を発生するものや磁気を帯びているものの近く**

❑ **湿気が多い場所**

❑ **暖房器具の近くなど、温度が高い場所**

❑ **風通しが悪い場所**

設置時のご注意

次のことをお守りください。

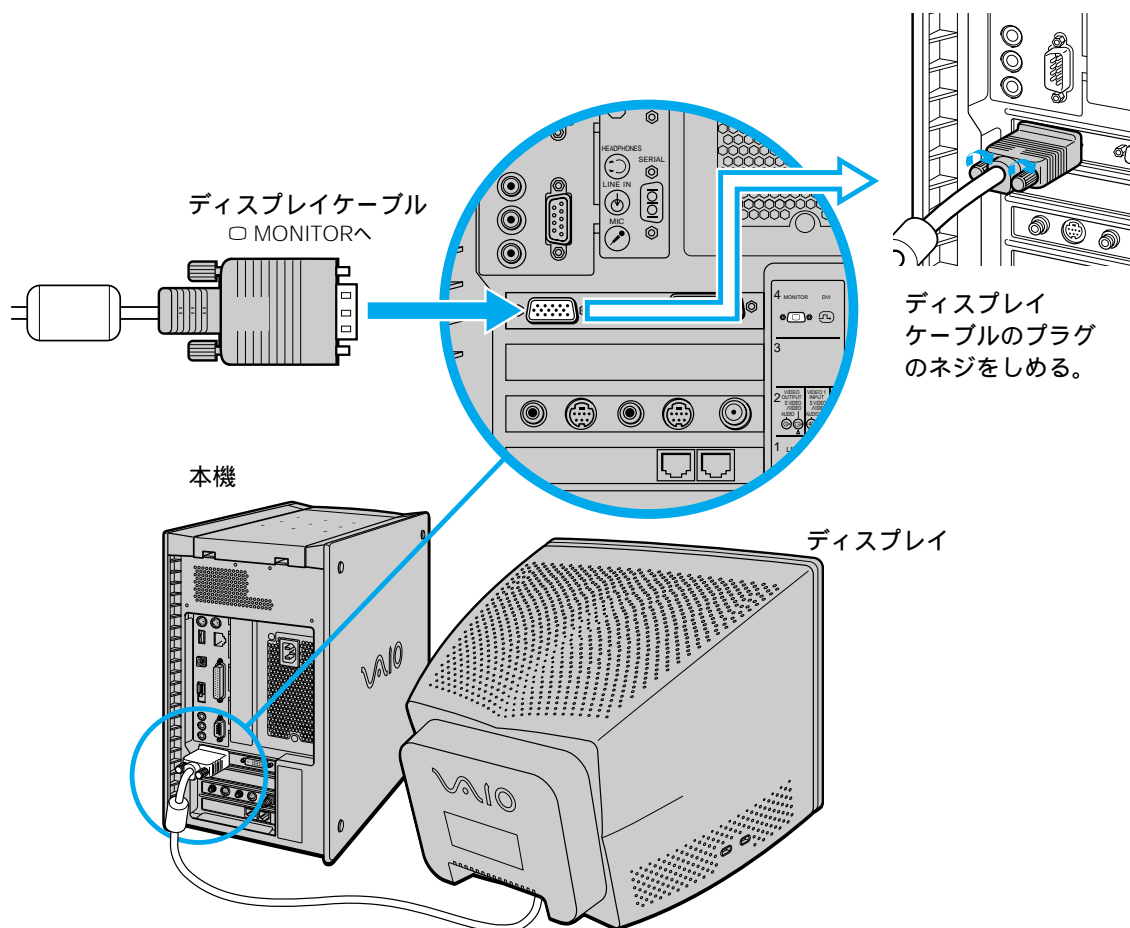
このほかにも、設置の際の安全上の注意事項が8〜16ページに記載されています。
そちらもあわせてご覧ください。

接続する／準備する

以下の手順に従って、ディスプレイ、アクティブスピーカー、アンテナ、AV機器、キーボード、マウス、テレホンコード、電源コードを接続し、リモコンを使えるように準備します。

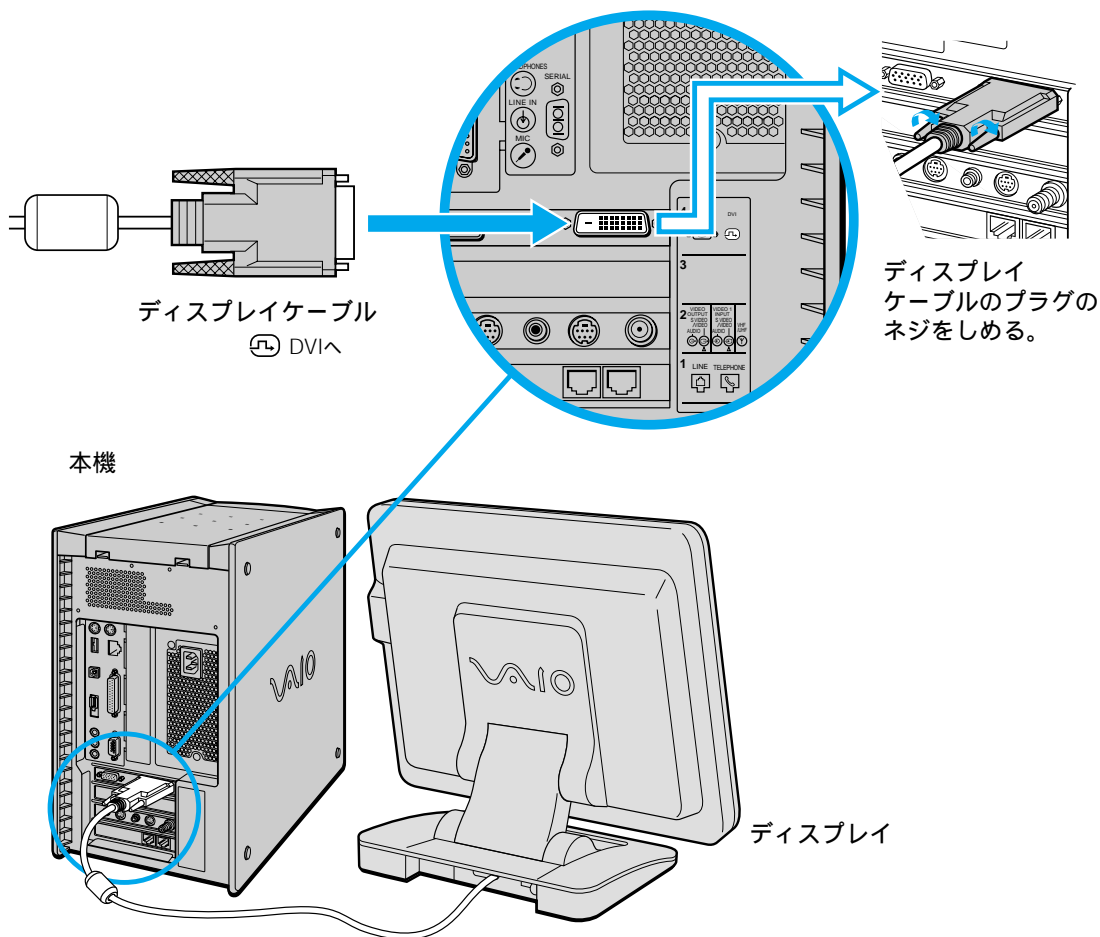
1 ディスプレイを接続する。

ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイPCVD-A201を接続する場合

ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイPCVD-A201をお使いになるときは、ディスプレイケーブルのプラグをMONITOR（モニタ）コネクタへ接続します。

PCVD-15XD5など、その他のディスプレイを接続する場合

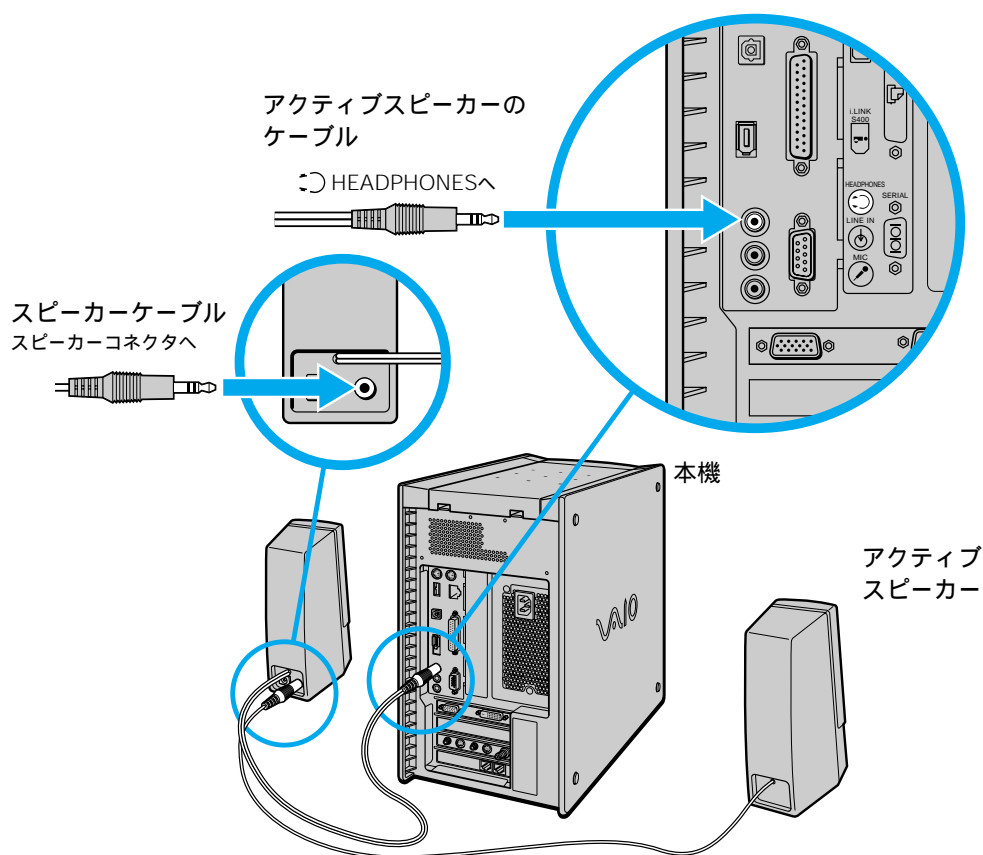
接続ケーブルを使って、ディスプレイを本機に接続します。接続のしかたはディスプレイによって違います。
ディスプレイに付属の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- PCVD-15XD5などのディスプレイに付属のACアダプタは、ディスプレイ以外には使用できません。ディスプレイを接続するときはご注意ください。
- 本機には、MONITOR（モニタ）コネクタとDVI（ディーブイアイ）コネクタの2つのコネクタがあります。接続するコネクタはディスプレイによって違います。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
- MONITOR（モニタ）コネクタまたはDVI（ディーブイアイ）コネクタのいずれかにディスプレイを接続してください。
  両方のコネクタにディスプレイを接続しないでください。

次のページへつづく

2 アクティブスピーカーを接続する。

付属のアクティブスピーカーのケーブルのプラグをHEADPHONES（ヘッドホン）コネクタへ接続します。

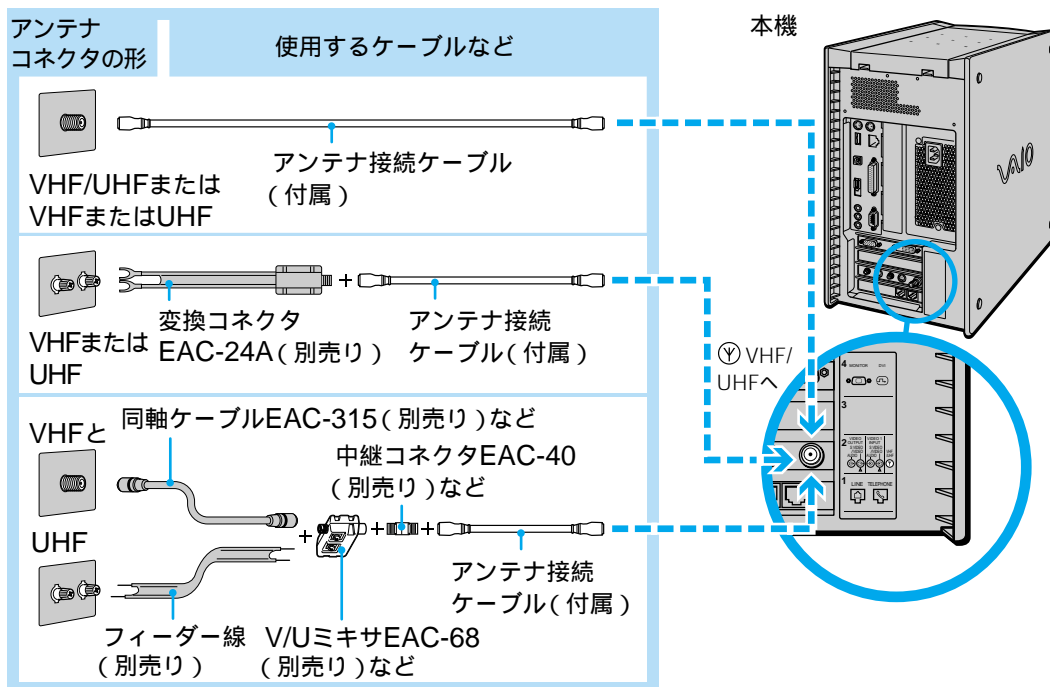
ご注意

- 付属のアクティブスピーカー用のACアダプタは、アクティブスピーカー以外には使用できません。アクティブスピーカーを接続するときは、ご注意ください。
- ヘッドホンを接続する場合は、アクティブスピーカーのヘッドホン端子に接続してください。
  ヘッドホンをアクティブスピーカーに接続すると、アクティブスピーカーからは音は出なくなります。

3 アンテナを接続する。

本機に付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってテレビを見たり、テレビ番組を録画するときは、付属のアンテナ接続ケーブルを使って壁のアンテナコネクタにつなぎます。テレビを見たり、テレビ番組を録画／再生する方法については、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの楽しみかた］をクリックして、［VAIOを楽しむ］→［VAIOではじまる、快適テレビ生活］の順にクリックして表示される情報、または別冊の「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書およびヘルプをご覧ください。
接続のしかたは、以下の場合で異なりますので、ご自分の使用環境に合わせて接続してください。

- 本機のみを壁のアンテナコネクタに接続する場合。
- すでにビデオデッキやテレビが壁のアンテナコネクタに接続されており、本機をあらたに接続する場合（37ページをご覧ください）。

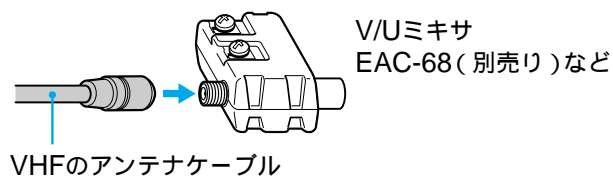
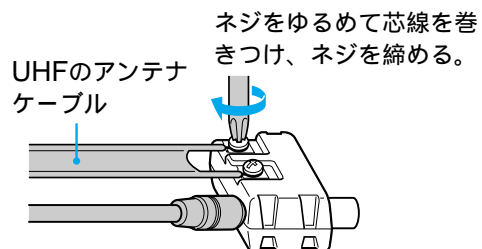
本機のみを壁のアンテナコネクタに接続する場合

以下のようにアンテナを接続します。
アンテナのつなぎかたは、壁のアンテナコネクタの形や使用するケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選び、接続してください。なお、いずれにも当てはまらない場合は、販売店にご相談ください。

次のページへつづく

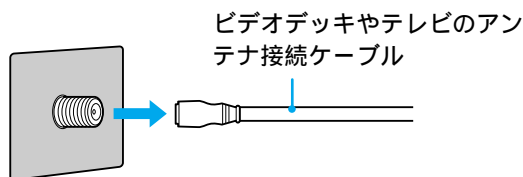
ご注意

- フィーダー線は同軸ケーブルにくらべ雑音電波などの影響を受けやすく、信号が劣化します。できるだけ同軸ケーブルをご使用ください。
- フィーダー線をご使用になる場合は本機からできるだけ離してください。
- フィーダー線をご使用になる場合は、長くなりすぎないようにご注意ください。

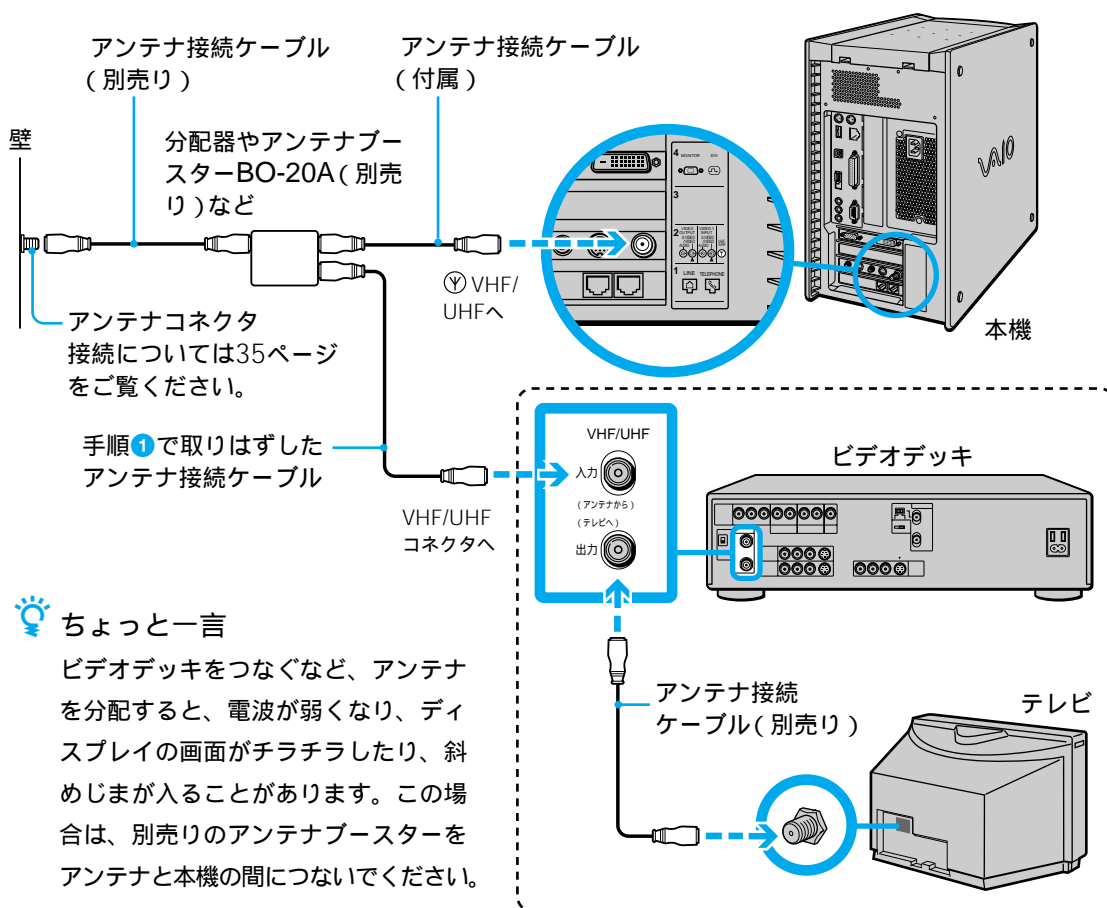
V/Uミキサをつなぐには

(1) VHFのアンテナケーブルをV/Uミキサにつなぐ。

(2) UHFのアンテナケーブルをV/Uミキサにつなぐ。

すでにビデオデッキやテレビが壁のアンテナコネクタに接続されており、本機をあらたに接続する場合

以下のようにアンテナを接続します。

1 壁のアンテナコネクタに接続されているビデオデッキやテレビのアンテナ接続ケーブルを取りはずす。

2 アンテナを接続する。

別売りの分配器やアンテナブースターBO-20Aなどを使ってアンテナを接続します。壁のアンテナコネクタと分配器やアンテナブースターのつなぎかたは、壁のアンテナコネクタの形や使用するケーブルによって異なります。35ページの例から、最も近いものを選び接続してください。

アンテナ接続ケーブル（別売り）
アンテナ接続ケーブル（付属）
壁
分配器やアンテナブースターBO-20A（別売り）など
VHF/UHFへ
アンテナコネクタ
接続については35ページをご覧ください。
本機
手順1で取りはずしたアンテナ接続ケーブル
VHF/UHFコネクタへ
VHF/UHF
入力
（アンテナから）
（テレビへ）
出力
ビデオデッキ
アンテナ接続ケーブル（別売り）
テレビ

ちょっと一言

ビデオデッキをつなぐなど、アンテナを分配すると、電波が弱くなり、ディスプレイの画面がチラチラしたり、斜めじまが入ることがあります。この場合は、別売りのアンテナブースターをアンテナと本機の間につないでください。

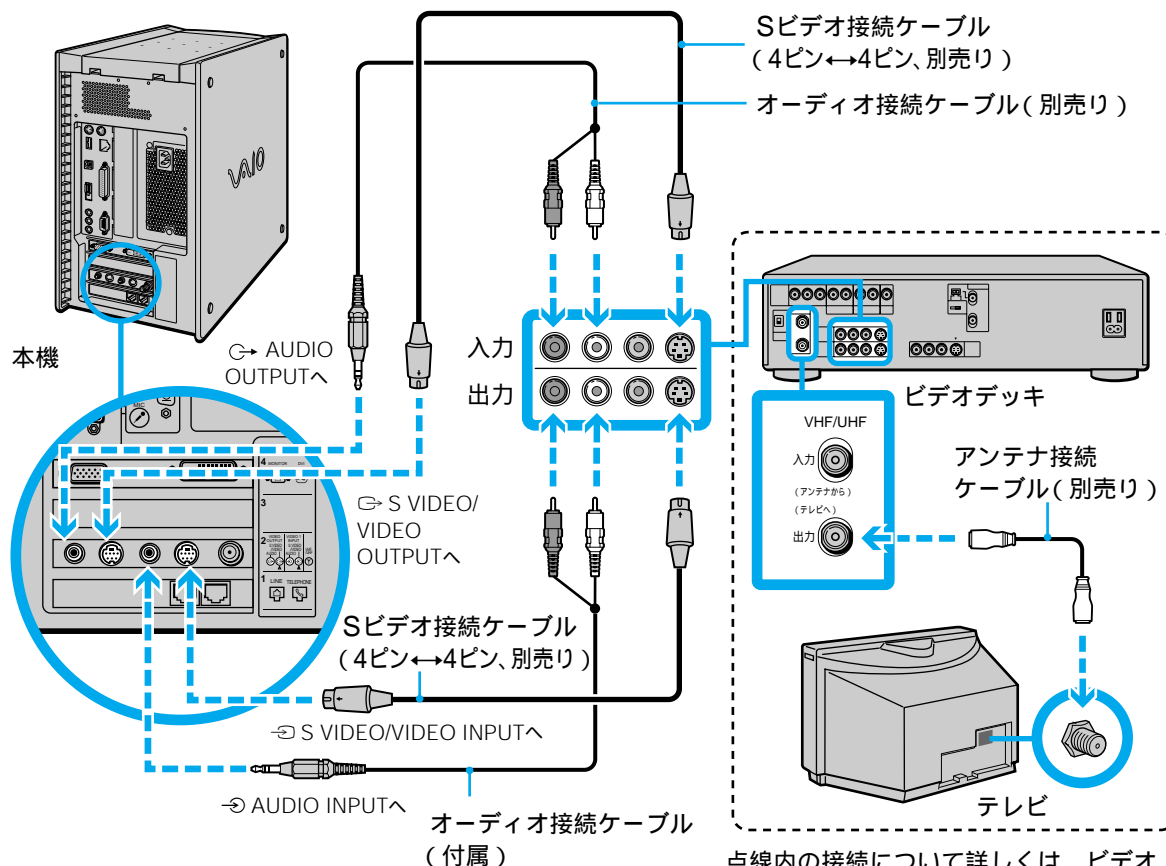
点線内の接続について詳しくは、ビデオデッキまたはテレビの取扱説明書をご覧ください。

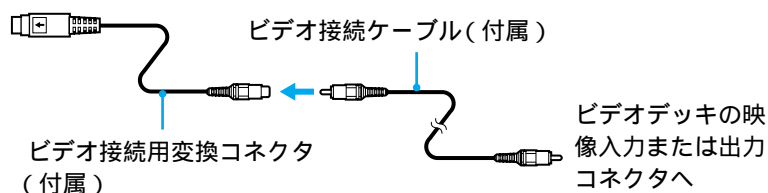
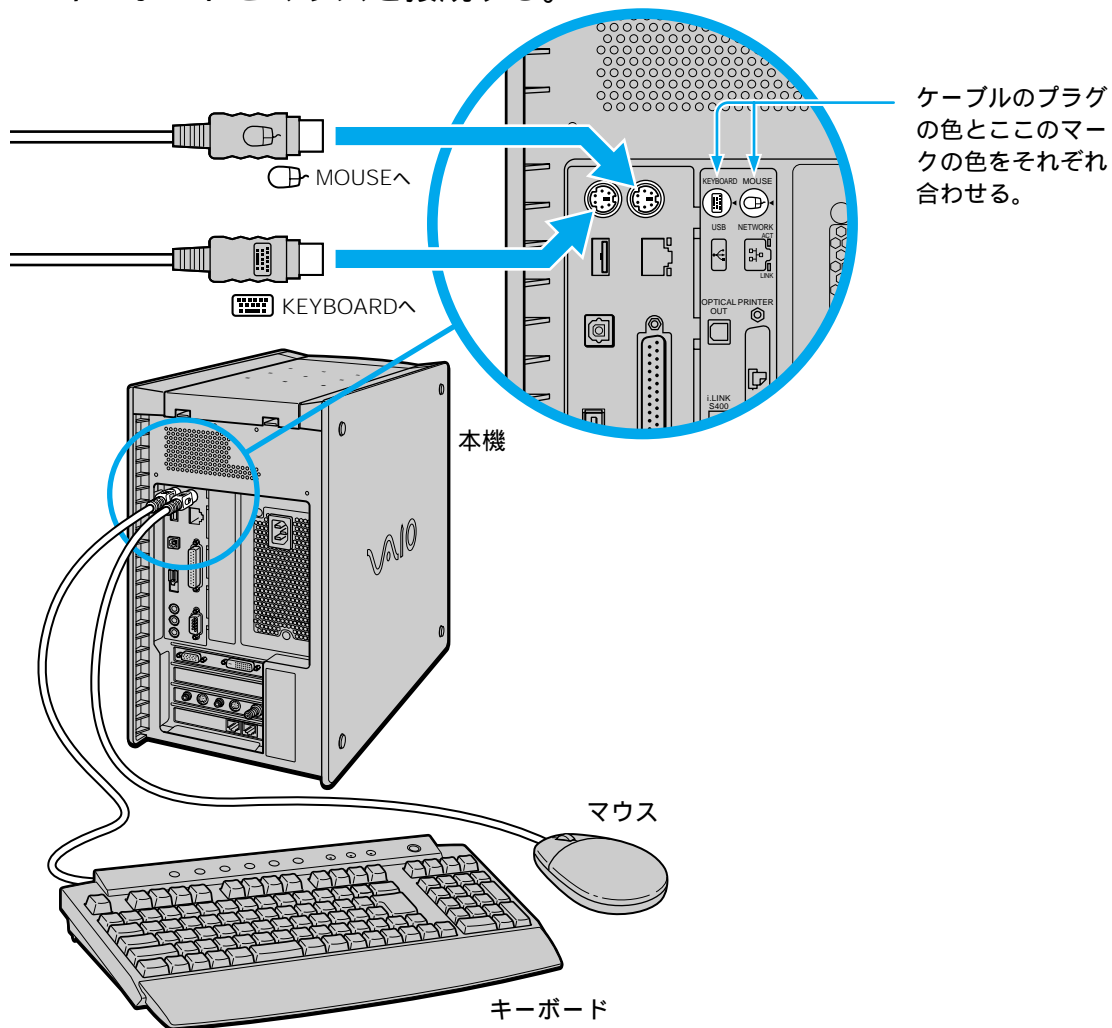
次のページへつづく

本機とビデオデッキを接続する。

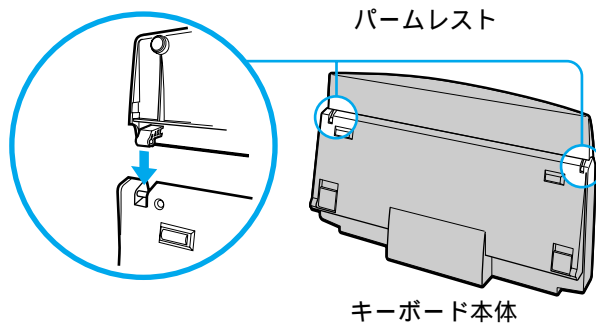
本機とビデオデッキの映像／音声の入出力コネクタ同士をつなぐと、以下のことができるようになります。

- ビデオデッキで再生する映像を本機につないだディスプレイで見る。
- ビデオデッキで再生する映像を本機に録画する。
- 本機に付属の「Giga Pocket」ソフトウェアで再生する映像を、ビデオデッキに録画したり、テレビで見る。

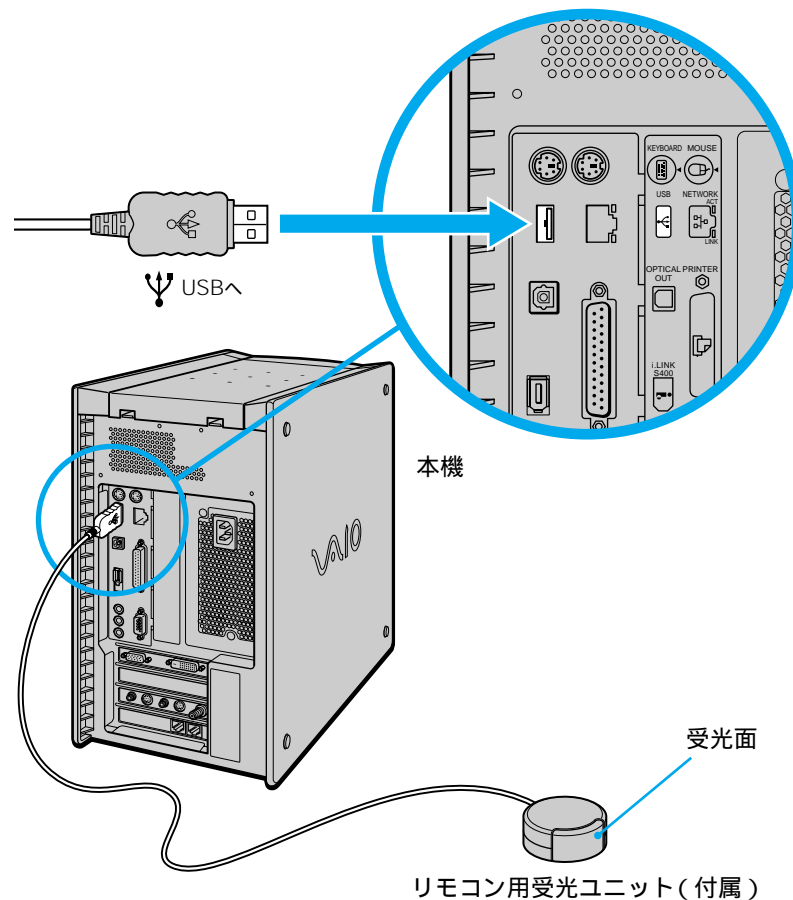
点線内の接続について詳しくは、ビデオデッキまたはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

S映像入力／出力コネクタのないビデオデッキをつなぐときは、Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（付属）をつないで使うことができます。

5 キーボードとマウスを接続する。

キーボードにパームレストを取り付けるには

パームレストをキーボードに取り付けると、キーボードを使うとき、手首に負担がかからなくなります。

キーボードを立て、パームレストの左右にあるツメをキーボードの左右にある切り込みにカチッと音がするまで差し込みます。

次のページへつづく

リモコン用受光ユニットを接続する。

付属のリモコン用受光ユニットを本機のUSB（ユーエスビー）コネクタに接続します。

ご注意

- リモコン用受光ユニットは、本機および付属のリモコン専用です。他の機器ではお使いになれません。
- リモコン用受光ユニットを設置するときは、以下の点にご注意ください。
  - 受光面をリモコンの信号が受けやすい方向に向けてください。
  - 受光ユニットの受光面とリモコンの発光部の間に障害物がない場所に設置してください。

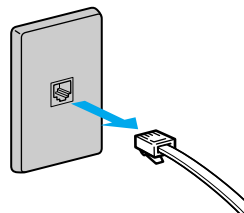
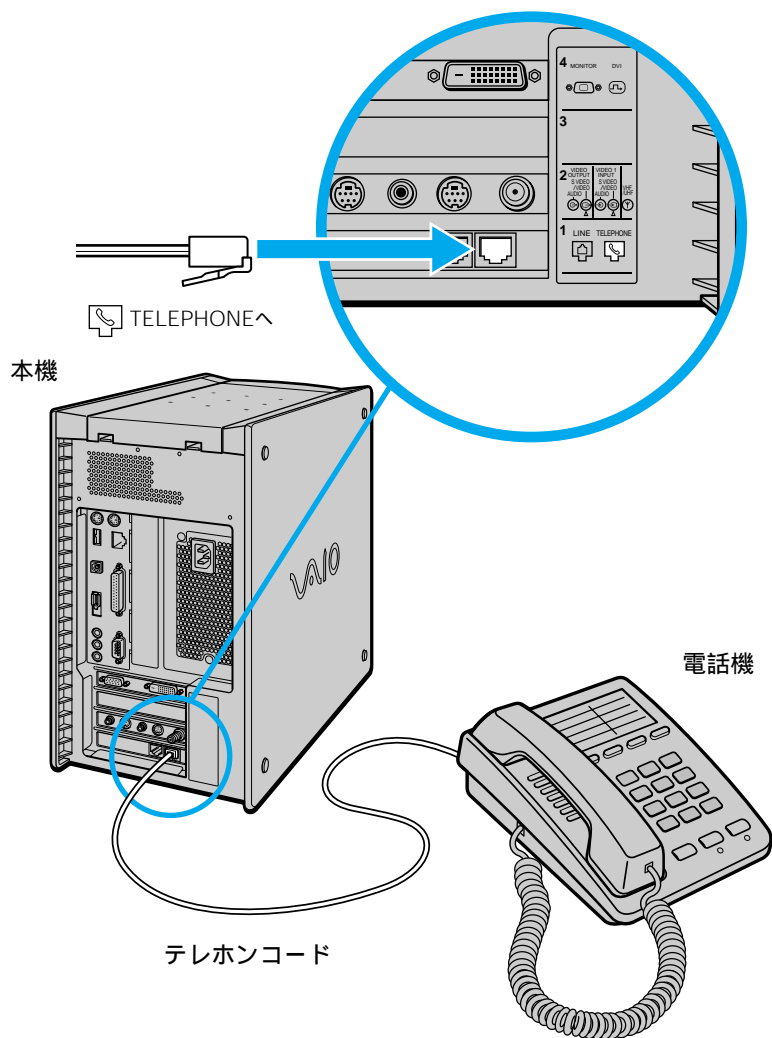
ちょっと一言

- リモコン用受光ユニットをつなぐと、付属のリモコンを使って、付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを操作できるようになります。
- リモコン用受光ユニットを本機やディスプレイの上など安定しない場所に設置するときは、付属のマジックテープを貼ると受光ユニットの滑り落ちを防げます。マジックテープを受光ユニットの底面と受光ユニットを設置する場所に貼ります。

7

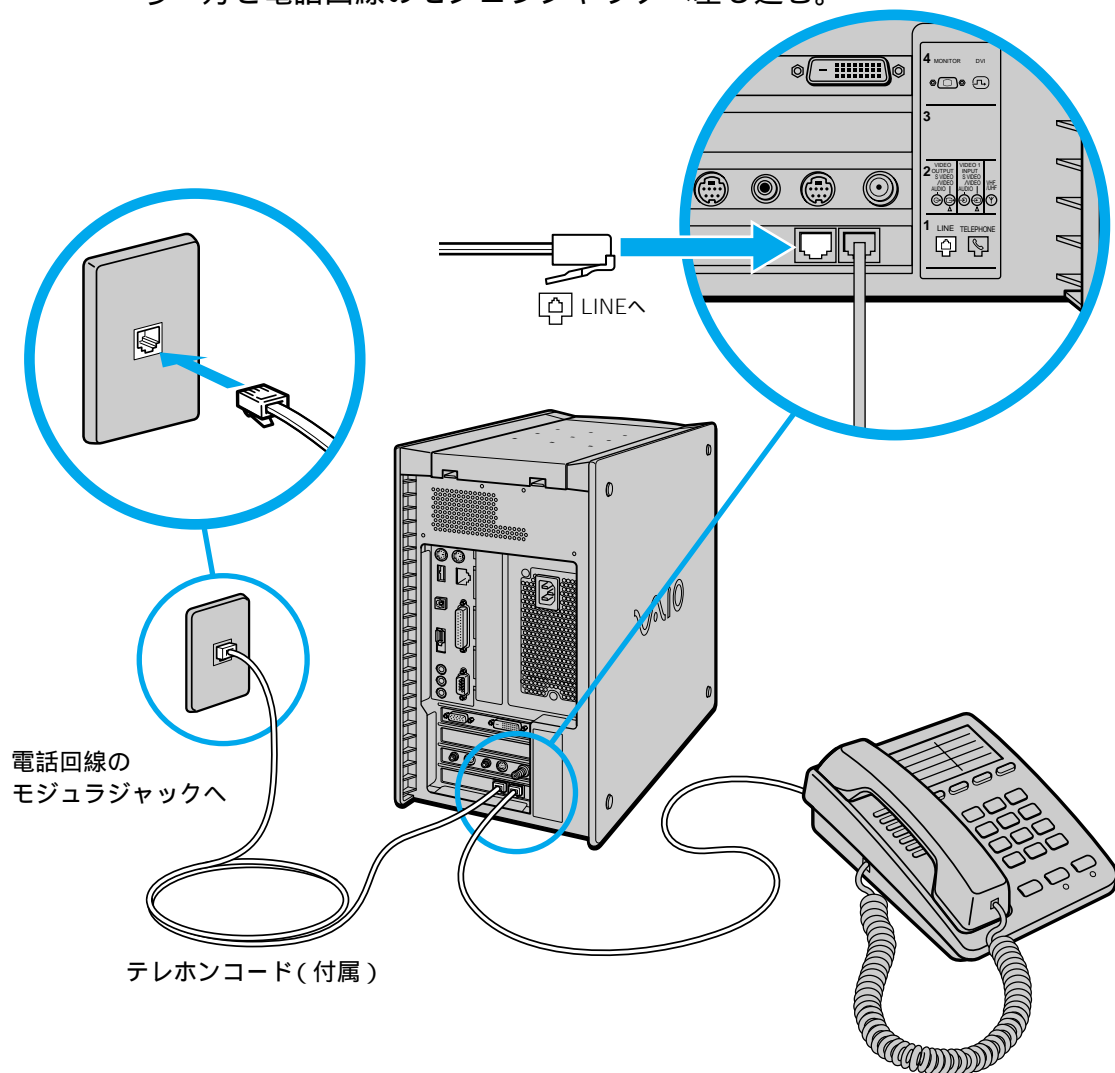
電話回線に接続する。

インターネットに接続するなどデータ通信をするときは、付属のテレホンコードを使って本機を電話回線につなぎます。
インターネットへの接続について詳しくは、「インターネットを始める」(120ページ) をご覧ください。

1 お使いの電話機のテレホンコードを電話回線のモジュラジャックからはずす。

2 1ではずしたテレホンコードを本機のTELEPHONE（電話機）ジャックにカチッと音がするまで差し込む。

ご注意

テレホンコードは本機後面のNETWORK（ネットワーク）コネクタに接続しないでください。

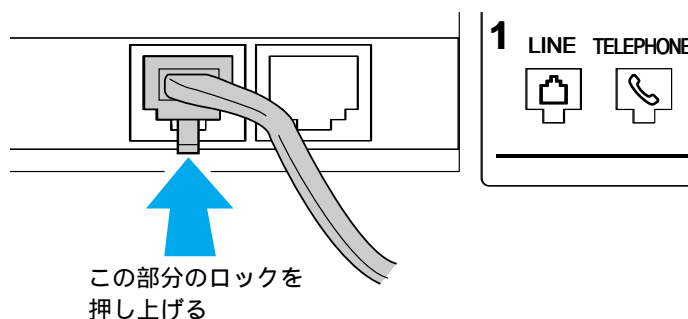
次のページへつづく

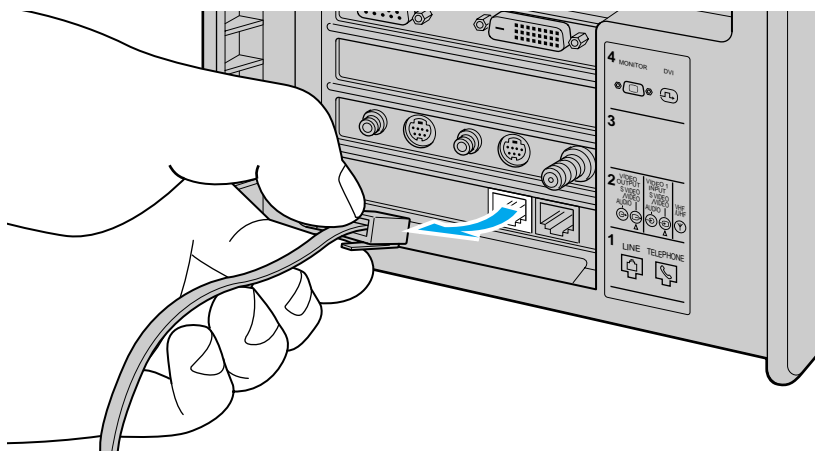
3 付属のテレホンコードの一方を本機のLINE（電話回線）ジャックへ、もう一方を電話回線のモジュラジャックへ差し込む。

ちょっと一言

電話回線のコンセントの形状が付属のテレホンコードに合わないときは交換工事や取り付け工事が必要な場合があります。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［VAIOインフォメーション］→［知っ得情報］→［電話回線のコンセントの種類］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

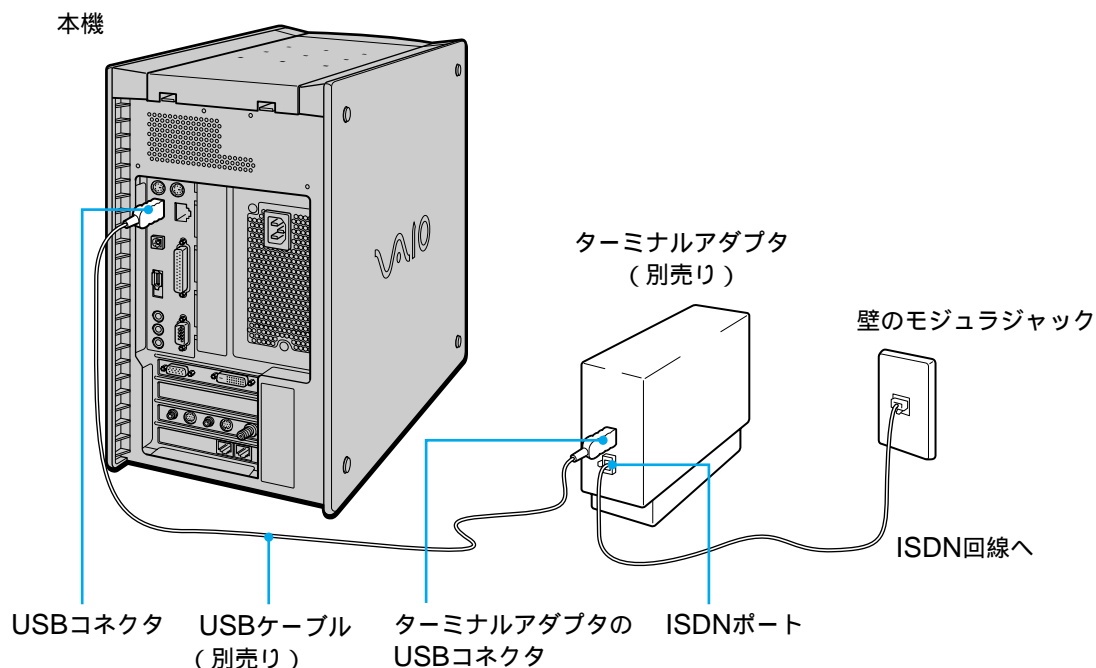
本機からテレホンコードを取りはずすには

❶ TELEPHONE（電話機）ジャックまたはLINE（電話回線）ジャックにつながっているテレホンコードのモジュラアダプタ部分をいったん本機の奥に押し込む。

❷ モジュラアダプタのロックを押し上げ、テレホンコード部分といっしょにつかむ。

❸ ロックを押しながら、上方向に引き抜く。

次のページへつづく

ISDN回線につなぐときは

「ISDN回線」とはNTTのデジタル通信網を使った電話回線で、通信速度も速く、1回線で従来の2回線が使えます。ISDN回線を使って本機を使用するためには、本機の他に「ターミナルアダプタ」というコンピュータや従来の一般電話回線対応の通信機器、電話機をつなぐためのISDN回線用の機器が必要です。

ISDN回線を通じてオンラインカスタマー登録したり（108ページ）、インターネットの接続会社と契約して（127ページ）インターネット経由でホームページを見たり、電子メールをやりとりするときは、下図のように本機のUSBコネクタとターミナルアダプタのUSBコネクタをつないでください。接続について詳しくは、ターミナルアダプタの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

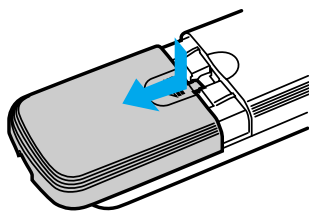
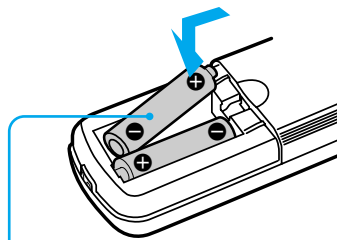
本機前面のUSBコネクタにつなぐこともできます。

ADSLにつなぐときは

ADSLとは「Asymmetric Digital Subscriber Line」の略で、一般電話回線を利用してインターネットへ高速に常時接続できるサービスのことです。このサービスを利用するには、ADSL接続サービスを提供している接続業者と契約し、申し込むことが必要です。
ADSL**接続サービスの申し込み方法、料金、必要な機器とその接続方法について詳しくは、契約する**ADSL**接続サービスを提供している接続業者にお問い合わせください。**

リモコンを準備する。

❶ **リモコンを裏返す。**

❷ **リモコン裏面の乾電池入れのふたを開ける。**

❸ **⊕と⊖の方向を確かめて、付属の単3乾電池を2本入れる。**

ご注意

乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破損のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。

- ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
- 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池は充電しないでください。
- 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
- 乾電池が液もれしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

❹ **乾電池入れのふたを閉める。**

ちょっと一言

電池の交換時期は約6か月です。リモコン操作できる距離が短くなったら、2本とも新しい乾電池に交換してください。

次のページへつづく

9 電源コードを接続する。

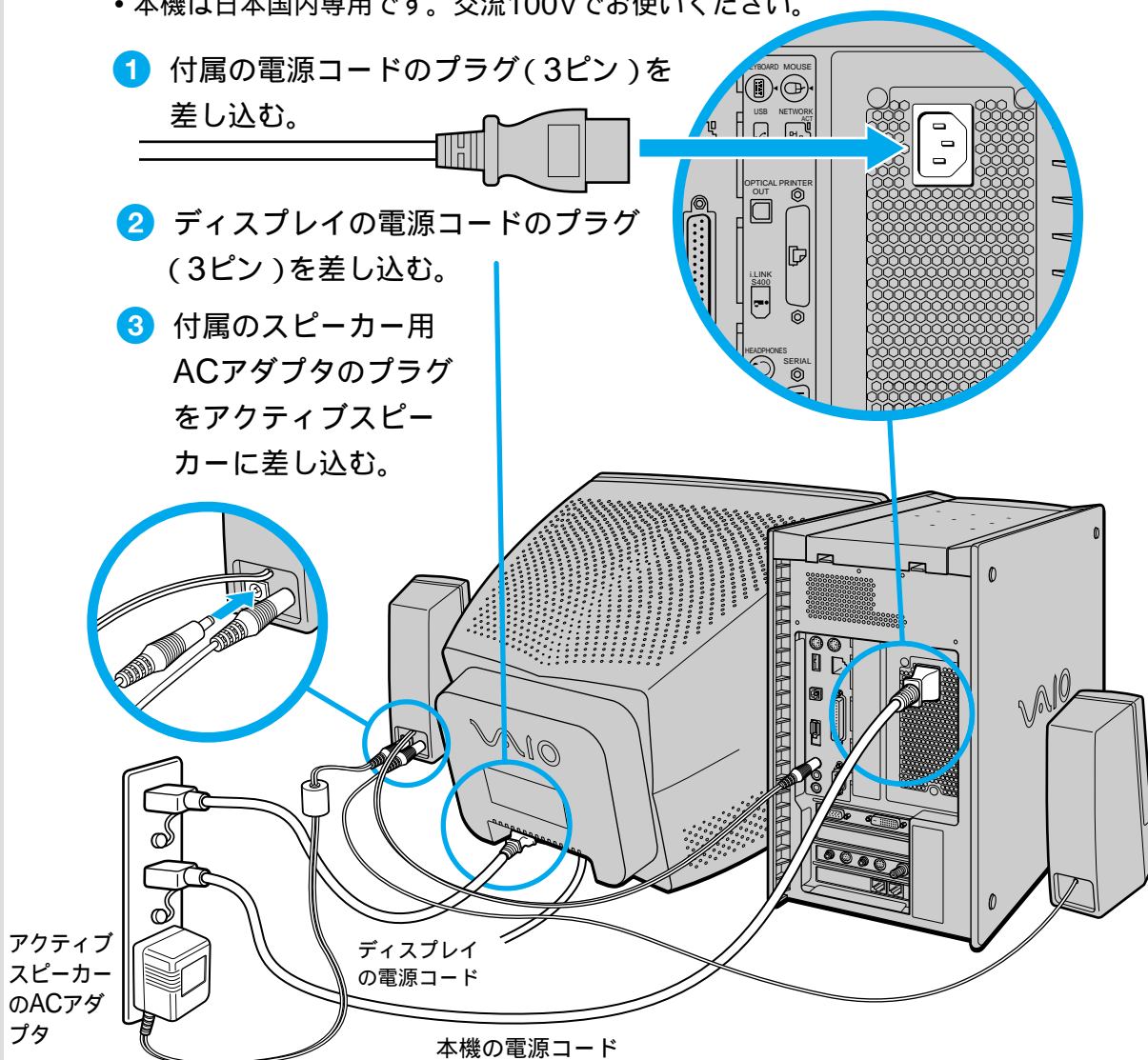
本機、ディスプレイ、アクティブスピーカーを電源コンセントに接続します。

ご注意

- **同じコンセントに複数の機器を同時につながないでください。**
- **本機は日本国内専用です。交流100Vでお使いください。**

1 付属の電源コードのプラグ（3ピン）を差し込む。

2 ディスプレイの電源コードのプラグ（3ピン）を差し込む。

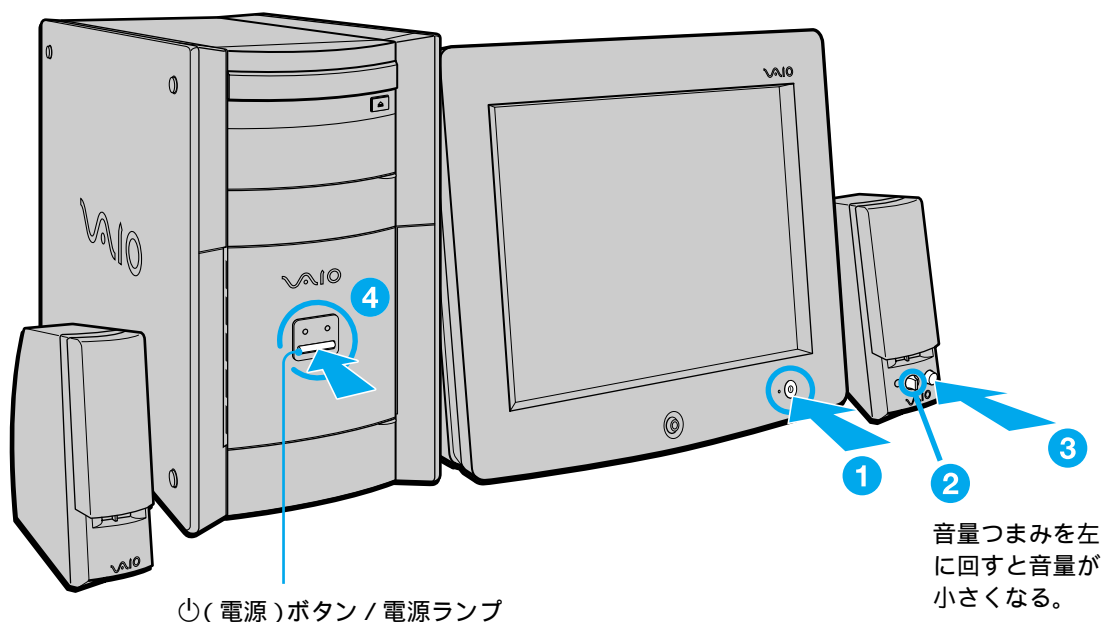
3 付属のスピーカー用ACアダプタのプラグをアクティブスピーカーに差し込む。

4 本機およびディスプレイの電源コードのアースを接続し、電源プラグとアクティブスピーカーのACアダプタを壁の電源コンセントに差し込む。

ご注意

付属のアクティブスピーカー用のACアダプタは、アクティブスピーカー以外には使用できません。また、PCVD-15XD5などのディスプレイに付属のACアダプタもディスプレイ以外には使用できません。
アクティブスピーカーやディスプレイを接続するときはご注意ください。

電源を入れる

ディスプレイ、アクティブスピーカー、本機の電源を入れる。

1. **ディスプレイの電源ボタンを押す。**
2. **スピーカーの音量つまみで音量を小さくする。**
3. **アクティブスピーカーの電源ボタンを押す。**
4. **本機の ⏻（電源）ボタンを押す。**
   電源が入ると、電源ランプが青色に点灯します。

ちょっと一言

アクティブスピーカーの音量が小さくなっているか確認してください。Windowsの準備（49ページ）が終わると、音が鳴るようになっています。突然大きな音がしないように、スピーカーの音量を小さくしておきましょう。アクティブスピーカーの音量つまみで調整します。

次のページへつづく

電源を入れる（つづき）

本機の電源を初めて入れる場合は、Windowsのロゴの画面が表示され、しばらくして「Microsoft Windowsへようこそ」の画面が表示されます。次ページの「Windowsを準備する」の手順に従って、Windowsのセットアップを行ってください。

2回目以降に電源を入れたときは

ユーザーを2名以上設定している場合は、ユーザー名を選ぶ画面が表示されます。ユーザー名をクリックすると、Windowsが起動します。

Windowsを準備する

本機をお使いいただくために、最初のステップとしてWindowsの準備が必要です。Windowsが使える状態になると、本機に付属のソフトウェアやいろいろな機能も使えるようになります。
以下の手順に従って、Windowsを使う準備をします。

1

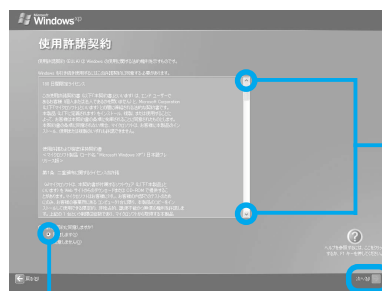
「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されたら、画面右下にある ➡（次へ）をクリックする。

ちょっと一言

マウスの使いかたについて詳しくは、「マウスの使いかたを練習する」（64ページ）をご覧ください。

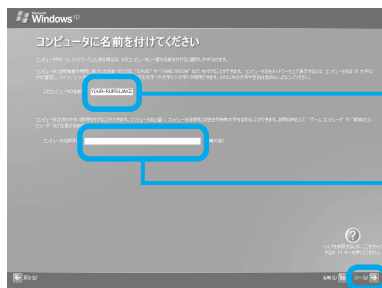
「使用許諾契約」画面が表示されます。

2

画面に表示された内容を読み、内容に同意するときは［同意します］の ○ をクリックして ◉ にし、➡（次へ）をクリックする。

「コンピュータに名前を付けてください」画面が表示されます。

次のページへつづく

3

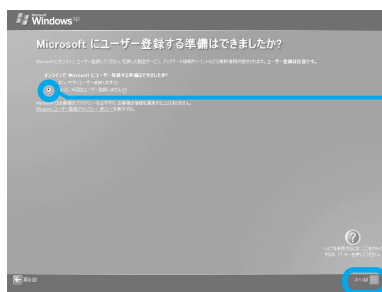
必要な場合はコンピュータ名を変更し、➡（次へ）をクリックする。

「インターネット接続が選択されませんでした」画面が表示されます。

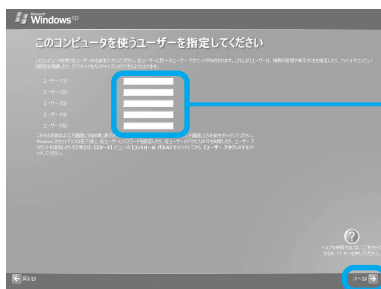
4

➡（次へ）をクリックする。

「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」画面が表示されます。

5

［いいえ、今回はユーザー登録しません］の ◯ をクリックして ◉ にし、➡（次へ）をクリックする。

「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」画面が表示されます。

6 ユーザーの名前を入力し、➡（次へ）をクリックする。

「設定が完了しました」画面が表示されます

ちょっと一言

Windowsのセットアップ完了後に、使用するユーザーを追加したり、設定を変更することもできます。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［できるWindows］をクリックして表示される情報をご覧ください。

7 ➡（完了）をクリックする。

これでWindowsが使えるようになりました。

ご注意

ホームページを見たり、電子メールをやりとりするためには、さらにインターネットに接続する準備が必要です。詳しくは、「インターネットを始める」（120ページ）をご覧ください。

本機を複数のユーザーで使えます

登録したユーザーごとに専用のデスクトップ画面やマイドキュメントが用意され、それぞれのユーザーが自分専用のコンピュータのように使用することができます。
ソフトウェアによっては、ユーザーの簡易切り替えに対応していないものがあります。詳しくは各ソフトウェアのヘルプをご覧になるか、各ソフトウェアのお問い合わせ先にお問い合わせください。
複数ユーザーでのWindowsの使用について詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［できるWindows］をクリックして表示される情報をご覧ください。

次のページへつづく

Windowsを準備する（つづき）

ご注意

- デスクトップ画面上にあるアイコンには、一定期間使用しないとデスクトップ画面上から削除されるものがあります。
  Windowsの初回起動時から1週間後に、アイコンを削除するかどうかを確認する画面が表示されます。その後60日ごとに、使用していないデスクトップ画面上のアイコンが自動的に検索され、削除するかどうかを確認する画面が表示されます。
  デスクトップ画面上のアイコンを削除しても、ソフトウェア自体は削除されません。
- 本機に付属のリカバリ CD-ROMに入っているOS（Operating System（オペレーティング システム））以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。本機のOSはMicrosoft® Windows® XP Home Edition＊です。
  ＊ 本書では、WindowsまたはWindows XPと略します。

OS（Operating System）とは

コンピュータを動かすために必要な基本ソフトウェアのことです。画面表示や操作方法などもOSによって決められています。OSがないと他のソフトウェアも使えません。

55ページからは、お好みに合わせて操作してください。

❑ **テレビを見たい（55ページ）**

❑ **電源を切りたい（58ページ）**

❑ **コンピュータの基本操作を練習したい（61ページ）**

❑ **カスタマー登録したい（108ページ）**

❑ **インターネットに接続したい（120ページ）**

❑ **プリンタなどの機器をつなぎたい（237ページ）**

困ったときの解決方法を知りたいときは

「困ったときは」（191ページ）をご覧いただくか、「サイバーサポート」をご覧ください。
使いかたについて詳しくは、「「サイバーサポート」の使いかた」（180ページ）をご覧ください。

「ヘルプとサポートセンター」について

「ヘルプとサポートセンター」は、WindowsやVAIOの使いかた、FAQ（よくある質問とその回答）の検索、最新情報の入手など、サポートに関する情報の入り口です。困ったときは、まず「ヘルプとサポートセンター」をご覧ください。

「ヘルプとサポートセンター」を見るには

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、表示されるメニューから［ヘルプとサポート］をクリックする。

「ヘルプとサポートセンター」画面が表示されます。

1 ナビゲーションバー

よく使用するページを登録したり、開いたページの履歴を参照することができます。ここからVAIOマニュアル「CyberSupport」を起動することもできます。

2 検索

WindowsやVAIOで調べたいことをキーワード検索できます。

3 Windows XPのヘルプ

WindowsやVAIOの使いかたやFAQ（よくある質問とその回答）をご覧になれます。

4 VAIOの情報はこちら

VAIOマニュアル「CyberSupport」や、VAIOカスタマーリンクのホームページなどを見ることができます。「CyberSupport」の使いかたについて詳しくは「「サイバーサポート」の使いかた」（180ページ）をご覧ください。

次のページへつづく

5 サポートツール

困ったとき、設定を変更したいとき、Windowsの操作を学習するときなどに役に立つソフトウェアを起動したり、関連する情報を見ることができます。

6 最新サポート情報

WindowsやVAIOの最新サポート情報を見ることができます。

ちょっと一言

「ヘルプとサポートセンター」の情報の中には、インターネットに接続することによって、最新の情報に更新されるものがあります。インターネットの接続について詳しくは、「インターネットを始める」（120ページ）をご覧ください。

テレビを見る準備をする

本機では、付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってテレビを見ることができます。
初めて「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってテレビを見るときには以下の手順に従って、チャンネルの地域設定を行います。

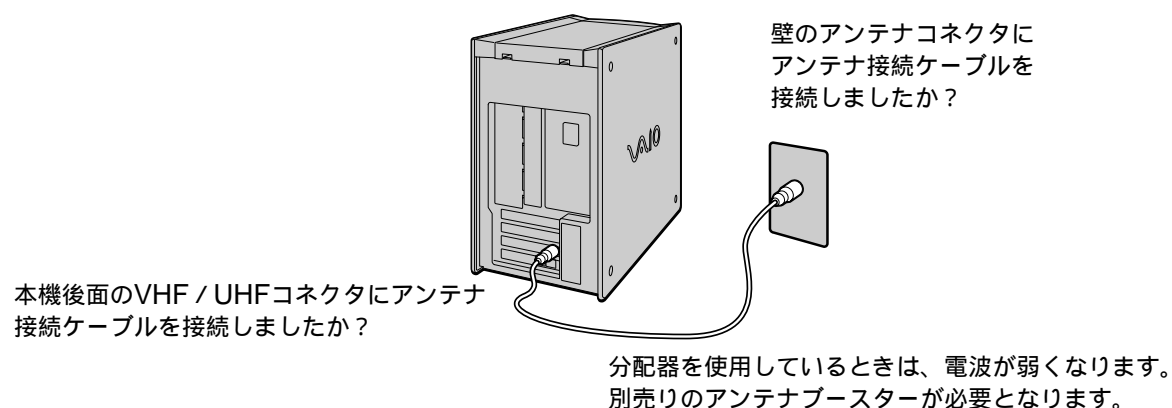
ご注意

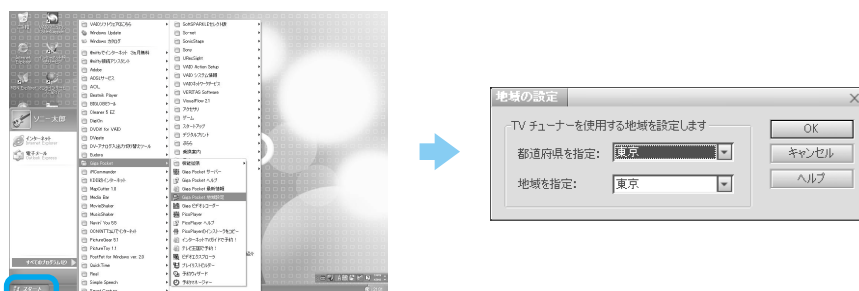
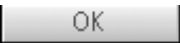
チャンネルの地域設定を行う前に、アンテナが本機に接続されていることをご確認ください。アンテナが本機に接続されていないと、「Giga Pocket」ソフトウェアでテレビ番組を見ることができません。アンテナの接続方法について詳しくは、「接続する／準備する」の手順3（35ページ）をご覧ください。

壁のアンテナコネクタにアンテナ接続ケーブルを接続しましたか？

本機後面のVHF／UHFコネクタにアンテナ接続ケーブルを接続しましたか？

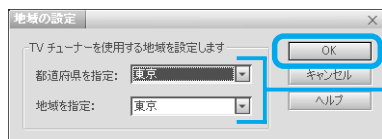
分配器を使用しているときは、電波が弱くなります。別売りのアンテナブースターが必要となります。

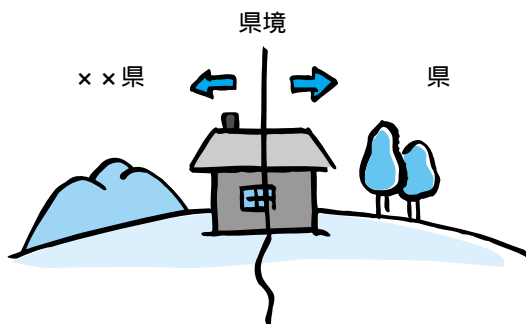
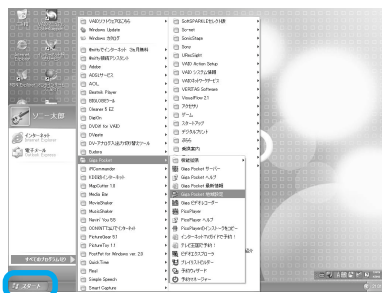
1

デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［すべてのプログラム］にポインタを合わせ、［Giga Pocket］、［Giga Pocket 地域設定］の順にクリックする。

「地域の設定」画面が表示されます。
「警告」画面が表示されたときは、［OK］をクリックしてください。

ここをクリックする。

次のページへつづく

2 本機を使用する都道府県および最も近い地域を選んで、 OK をクリックする。

選んだ地域の標準チャンネルが設定されます。

ご注意

県境でお使いの場合などは、お使いになる都道府県や地域を設定してもテレビが映らないことがあります。その場合は、隣接する都道府県や地域を設定してください。

3 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして「すべてのプログラム」にポインタを合わせ、[Giga Pocket]、[Giga ビデオレコーダー] の順にクリックする。

「Giga ビデオレコーダー」ソフトウェアが起動します。

4 TV をクリックする。

「Giga ビデオレコーダー」ソフトウェアのモニタに、TV／録画デッキの映像が表示されます。

5 CH をクリックして、一覧の中から見たいチャンネルを選ぶ。

「Giga ビデオレコーダー」ソフトウェアのモニタに選択したチャンネルの番組が表示されます。

ここをクリックする。

ちょっと一言

「Giga Pocket」ソフトウェアについて詳しくは、別冊の「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

「Giga Pocket」ソフトウェアのチャンネル設定を変更するには

「Giga Pocket」ソフトウェアのチャンネル設定を変更するには、以下の手順に従って設定を変更してください。
また、「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプも合わせてご覧ください。
ここでは、「VAIOテレビ」が「3チャンネル」に設定されているが、ご使用になっている地域では「20チャンネル」で放送されており、「VAIOテレビ」のチャンネル設定を「3チャンネル」から「20チャンネル」に変更する例で、以下の手順を説明します。

1. **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［すべてのプログラム］にポインタを合わせ、［Giga Pocket］、［Giga ビデオレコーダー］の順にクリックする。**
   「Giga ビデオレコーダー」ソフトウェアが起動します。
2. **［設定］をクリックして、表示されるメニューから［チャンネルの設定］をクリックする。**
   「チャンネルの設定」画面が表示されます。
3. **変更するチャンネル名（ここでは「VAIOテレビ」）を選択し、［変更］をクリックする。**
   「チャンネルの追加／変更」画面が表示されます。
4. **「受信チャンネル」から設定したいチャンネル（ここでは「20チャンネル」なので「20」）を選ぶ。**
   チャンネル番号がわからない場合は、「受信チャンネル」の ▼ をクリックしてチャンネルを変更していき、設定したいチャンネルが表示されるチャンネル番号を選択してください。
5. **OK をクリックする。**

以上の手順を繰り返して、映らないチャンネルすべての設定をしてください。

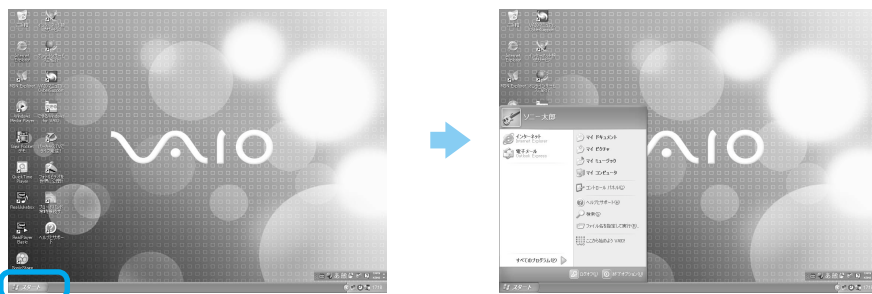
電源を切る

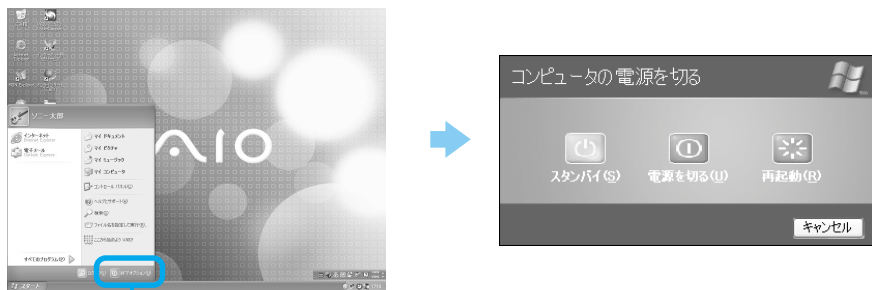
本機を使う準備が終わったところで、いったん電源を切ってみます。

ご注意

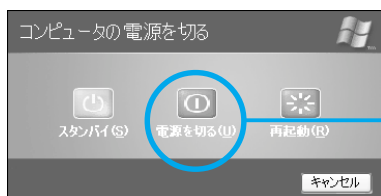
手順に従って電源を切らないと、故障の原因になることがあります。⏻（電源）ボタンを4秒以上押すと電源が切れることがありますが、⏻（電源）ボタンを押して電源を切らないでください。必ず次の手順に従って電源を切ってください。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。

2 [終了オプション] をクリックする。

「コンピュータの電源を切る」画面が表示されます。

ここをクリックする。

3 [電源を切る] をクリックする。

しばらくすると本機の電源が自動的に切れ、電源ランプが消灯します。

ここをクリックする。

ちょっと一言

ソニー製のコンピュータディスプレイをお使いのときは、手順3で本機の電源が切れたあと、自動的にディスプレイが節電モードに入ります。

4 ディスプレイの電源ボタンを押す。

ディスプレイの電源が切れます。

5 アクティブスピーカーの電源ボタンを押す。

アクティブスピーカーの電源が切れます。

ご注意

「Windowsを準備する」の手順6（51ページ）で、2人以上のユーザーの名前を入力した場合、次回から本機の電源を入れると「ようこそ」画面が表示されます。ユーザー名を選んでWindowsを起動してください。

これで本機を使う上で必要な準備と操作はひと通り終わりました。
さらにいろいろな操作をするためには、引き続きこのあとのページおよび「サイバーサポート」をご覧ください。

コンピュータの基本操作を練習する

この章では、本機を使うための基本的な操作を説明します。

デスクトップ画面の各部のなまえとはたらき

本機の電源を入れた後、ディスプレイ画面全体に表示されるのが「デスクトップ画面」です。
「デスクトップ画面」は、本機のさまざまな機能を使いこなしていただくときの出発点となります。

デスクトップ画面のイラストは実際のものとは異なる場合があります。

■デスクトップアイコン

① ごみ箱

いらなくなった文書や画像などを捨てる場所です。ごみ箱に捨てた文書や画像などは、ごみ箱の中に残っています。ごみ箱について詳しくは、「ファイルを削除する」（104ページ）をご覧ください。

② Internet Explorer

インターネットのホームページなどを見るときに使うソフトウェアです。詳しくは、「インターネットを始める」（120ページ）をご覧ください。

③ インターネット接続サービス

インターネット接続サービスを提供する会社（プロバイダ）と契約（オンラインサインアップ）します。詳しくは、「インターネットを始める」（120ページ）をご覧ください。

④ VAIOマニュアルCyberSupport

VAIOの使いかたや楽しみかた、困ったときの解決方法をディスプレイ画面上で説明する電子マニュアルです。使いかたについて詳しくは「「サイバーサポート」の使いかた」（180 ページ）をご覧ください。

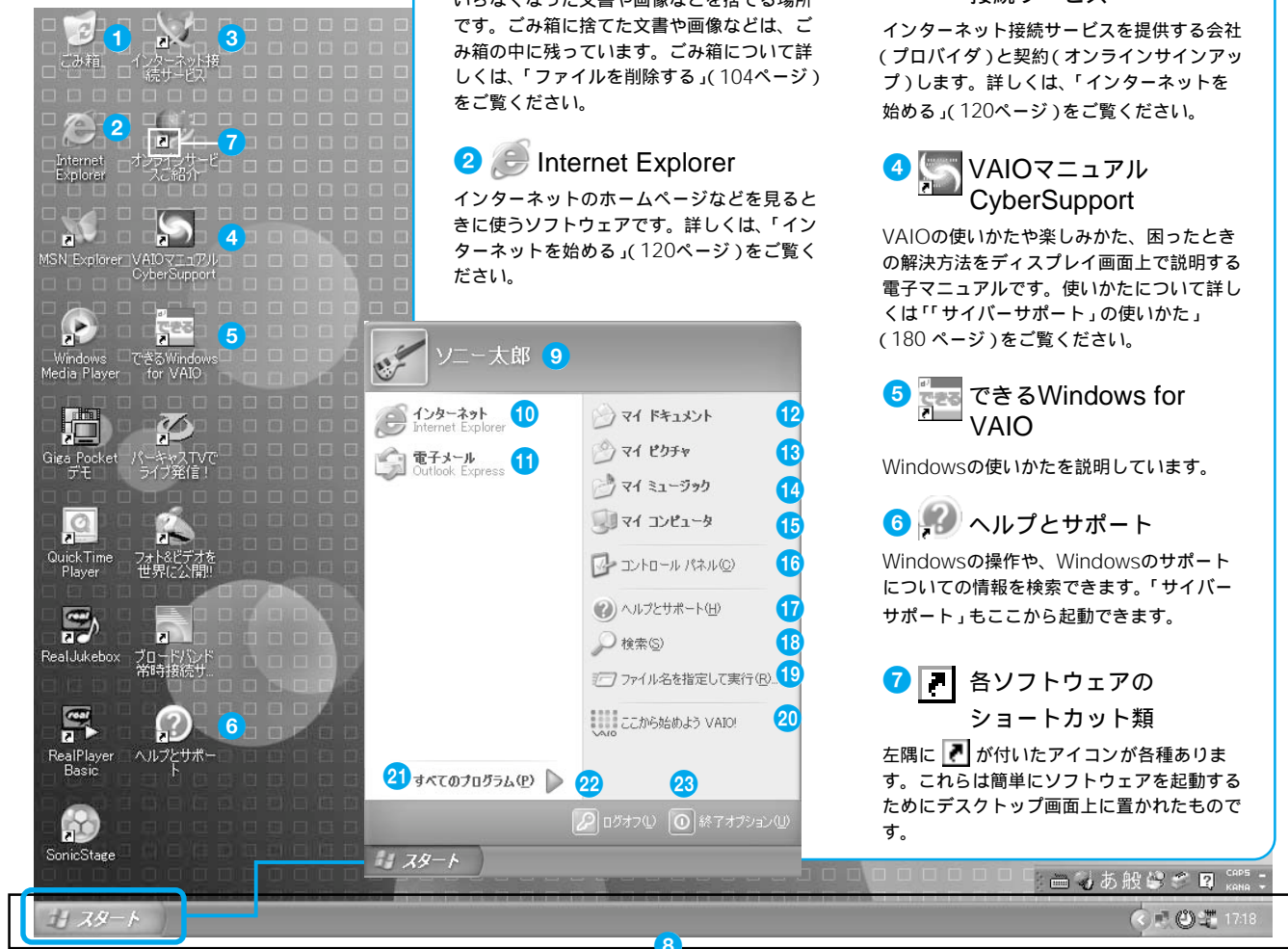
⑤ できるWindows for VAIO

Windowsの使いかたを説明しています。

⑥ ヘルプとサポート

Windowsの操作や、Windowsのサポートについての情報を検索できます。「サイバーサポート」もここから起動できます。

⑦ 各ソフトウェアのショートカット類

左隅に が付いたアイコンが各種あります。これらは簡単にソフトウェアを起動するためにデスクトップ画面上に置かれたものです。

⑧タスクバー

本機に付属のソフトウェアやコンピュータの設定をすばやく確認し、操作できるための機能をまとめた場所です。大きく3領域があり、それぞれ［スタート］ボタン、使用中のソフトウェアや文書などを表示しておく機能をもつ領域、Windowsに関連する機能を表示しておく通知領域（タスクトレイ）に分かれます。

［スタート］ボタン

ここをマウスでクリックすると、本機に付属のソフトウェアを起動したり、本機のさまざまな機能を使うためのメニューが表示されます。まずはここをクリックして始めてください。

ウィンドウのボタン表示

使用中のソフトウェアや文書などがここにボタンとして表示されます。
デスクトップ画面上にソフトウェアや文書などが表示されていなくても、このボタンをクリックすると画面にそのソフトウェアや文書などが表示されます。

通知領域（タスクトレイ）

本機を起動したときに自動的に使えるようになったWindowsの機能がここに表示されます。アイコンが表示されていないときは をクリックすると表示されます。

■「スタート」メニュー

スタート をクリックすると「スタート」メニューが表示され ます。
「スタート」メニューの左側には、最近使用したファイルやソフトウェアのアイコンが表示されます。

⑨ ユーザー名

現在コンピュータを使用しているユーザーの名前が表示されます。

⑩ インターネット

インターネットのホームページなどを見るときに使うソフトウェアです。詳しくは、「インターネットを始める」(120ページ)をご覧ください。

⑪ 電子メール

電子メールをやりとりするときに使うソフトウェアです。詳しくは、「インターネットを始める」(120ページ)をご覧ください。

⑫ マイドキュメント

本機に付属のさまざまなソフトウェアで作成した文書や画像などを保存しておく場所です。マイドキュメントは、マイコンピュータの中にあるC:ドライブの中のものと同じです。

⑬ マイピクチャ

デジタル写真、イメージ、グラフィックなどを保管しておくフォルダが開きます。

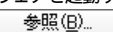
⑭ マイミュージック

ミュージックファイルやオーディオファイルを保管しておくフォルダが開きます。

⑮ マイコンピュータ

ここからソフトウェアを起動したり、作成した文書や画像をコピーしたりできます。

⑯ コントロールパネル

本機に接続されている各種の記憶装置やシステムの設定のための機能が入っている場所です。

⑰ ヘルプとサポート

Windowsの操作や、Windowsのサポートについての情報を検索できます。「サイバーサポート」もここから起動できます。

⑱ 検索

作成した文書や画像を探したり、インターネットなどで情報を検索するときに使います。

⑲ ファイル名を指定して実行...

作成した文書や画像を指定することでソフトウェアを起動することができます。また、参照(B)... をクリックすると作成した文書や画像を探し出せます。

⑳ ここから始めようVAIO！

ソニー製ソフトウェアを起動するときに使います。

㉑ すべてのプログラム

本機に付属しているさまざまなソフトウェアを起動するときに使います。

㉒ ログオフ

本機を使用するユーザーを切り換えるときに使います。

㉓ 終了オプション

スタンバイ状態にするとき、電源を切るとき、再起動するときに使います。

ご注意

デスクトップ画面上にあるアイコンには、一定期間使用しないとデスクトップ画面上から削除されるものがあります。
Windowsの初回起動時から1週間後に、アイコンを削除するかどうかを確認する画面が表示されます。その後60日ごとに、使用していないデスクトップ画面上のアイコンが自動的に検索され、削除するかどうかを確認する画面が表示されます。
デスクトップ画面上のアイコンを削除しても、ソフトウェア自体は削除されません。

アイコンとは

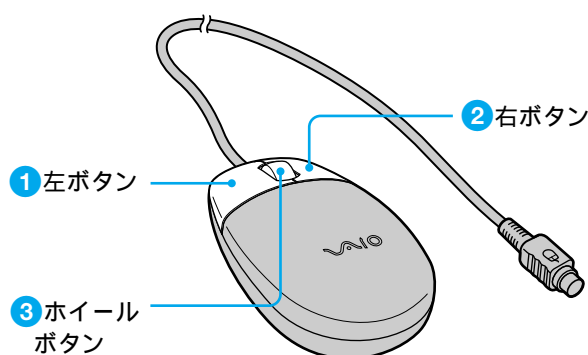
画面上に表示されるソフトウェア、文書、画像などを表す絵記号のことです。それぞれの固有のデザインにより、ソフトウェア、文書、画像などの種類がわかりやすくなっています。

ウィンドウとは

「スタート」メニューから「マイコンピュータ」や「マイドキュメント」を選んでクリックしたとき、デスクトップ画面に表示される枠で囲まれた領域を「ウィンドウ」と言います。文書や画像を作成するときもウィンドウで作業します。

マウスの使いかたを練習する

本機を操作するときは、キーボードのほかにマウスを使います。マウスのはたらきを
理解して、その使いかたをマスターすることが、本機を使いこなす第一歩になります。

マウスの各部のなまえとはたらき

1 左ボタン

文書や画像、ソフトウェアなどを選んだりするときに押します。
マウスを使うときは、主にこのボタンを使います。

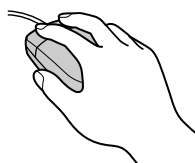
2 右ボタン

文書や画像をコピーするなど、さまざまな操作や設定をすぐに行うためのメニューを表示するときに押します。

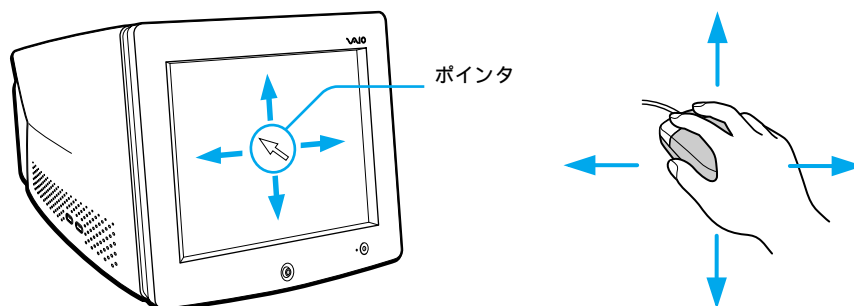
3 ホイールボタン

ウィンドウを移動するときなどに、このボタンを使うと、左ボタンを使うよりも楽に操作できます。

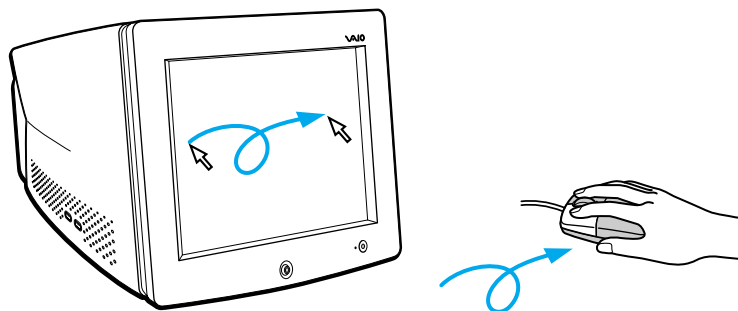
マウスの持ちかた

マウスは強く握ったり、押しつけたりせず、手のひらを軽く乗せるようにします。また、
ボタンをクリックしやすいように、指先をボタンに乗せてください。

ここからは1～6の手順に従ってマウスの使いかたを練習してみましょう。

1 マウスを動かす

マウスを動かすと、その動きに合わせてデスクトップ画面上の ↖（ポインタ）も同じ方向に移動します。

ポインタとは

マウスを動かすと、画面上に表示されている ↖ が動きます。この矢印を「ポインタ」と言います。ポインタを目的の位置まで動かして左ボタン、右ボタン、またはホイールボタンを押すことで、さまざまな命令をコンピュータに伝えることができます。

机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスを動かすときは、腕全体を使うようにします。

大きく動かすときは

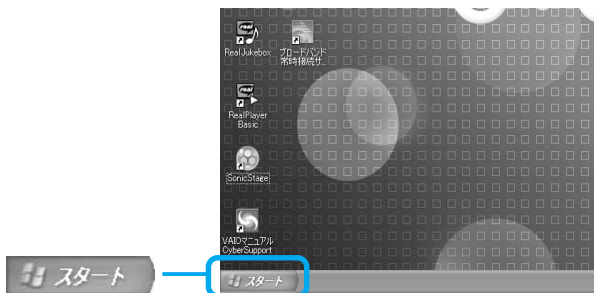
マウスを動かしていると、机の端まで行ってしまうことがあります。このようなときは、マウスを持ち上げて元の位置に戻し、また同じ方向に動かします。マウスを持ち上げている間は、ポインタは動きません。

次のページへつづく

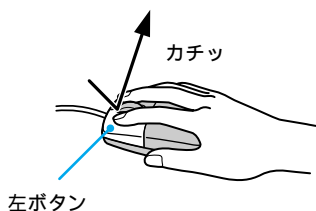
マウスの使いかたを練習する（つづき）

2 クリックする

左ボタンをカチッと1回押してすぐ離すことです。
スタート などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。
ためしに、スタート をクリックしてみましょう。

1 **マウスを動かして、（ポインタ）をデスクトップ画面左下の スタート の上に合わせる。**

スタート

2 **マウスの左ボタンを押す（クリックする）。**

「スタート」メニューが表示されます。

3 ポイントする

ポインタを希望の位置に合わせることです。メニューの項目を選ぶときなどに使います。
ためしに スタート からWindowsの［ヘルプとサポート］をポイントしてみましょう。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。**

「スタート」メニューが表示されます。

2 マウスを上に動かして、（ポインタ）を［ ヘルプとサポート］の上に動かす。

3 「 ヘルプとサポート」の上でマウスの左ボタンを押す（クリックする）。

Windowsの「ヘルプとサポートセンター」が表示されます。

ちょっと一言

Windowsの「ヘルプとサポートセンター」の画面を閉じるには、画面右上の（［閉じる］ボタン）をクリックします。

4 ダブルクリックする

左ボタンをカチカチッと2回すばやく押してすぐ離すことです。

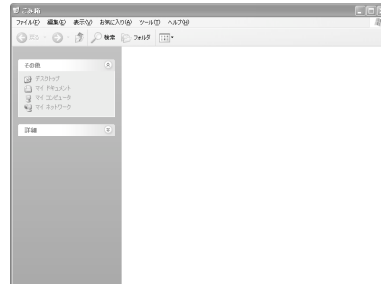
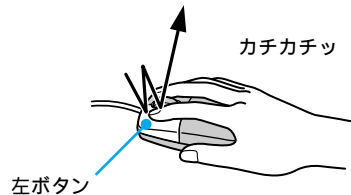
ソフトウェアを実行したり、作成した文書を開くときなどに使います。

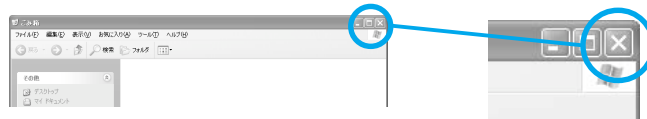
ためしに（ごみ箱）をダブルクリックしてみましょう。

1 マウスを動かして（ポインタ）を（ごみ箱）の上に合わせる。

次のページへつづく

2 マウスの左ボタンを2回すばやく押す（ダブルクリックする）。

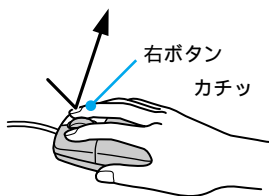
「ごみ箱」のウィンドウが表示されます。

ちょっと一言

「ごみ箱」のウィンドウを閉じるには、画面右上の ✕（[閉じる] ボタン）をクリックします。

5 右クリックする

右ボタンを1回押してすぐ離すことです。押したときのポインタの位置によって、さまざまな内容のショートカットメニューが表示されます。
ためしに デスクトップ画面で右クリックしてみましょう。

1 マウスを動かして、（ポインタ）を デスクトップ画面のどこかに合わせる。

2 マウスの右ボタンを押す（右クリックする）。

ショートカットメニューが表示されます。

ちょっと一言

表示されたメニューのことを「ショートカットメニュー」と言います。
ショートカットメニューは、メニュー以外のデスクトップ画面上をクリックすると消えます。

3 ショートカットメニューから［新規作成］に（ポインタ）を合わせる。

さらにメニューが横にならびます。このメニューを「サブメニュー」と言います。

4 サブメニューの［フォルダ］に（ポインタ）を合わせてマウスの左ボタンを押す（クリックする）。

デスクトップ画面上に新しいフォルダ がてきます。

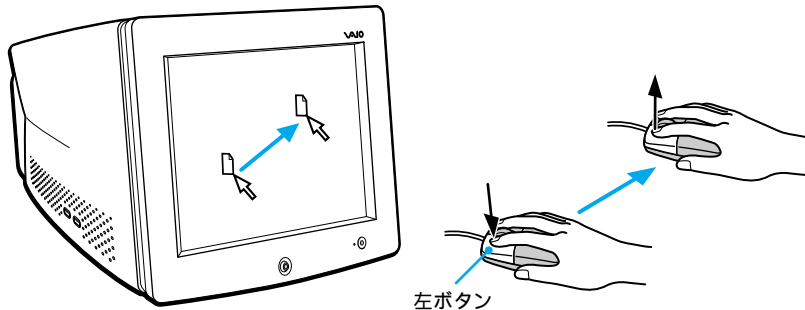
ちょっと一言

自分で作成した文書や画像を保存する場所を「フォルダ」と言います。目的に合わせて、フォルダには名前を付けることができます。ここではそのまま「新しいフォルダ」にしておきます。

次のページへつづく

マウスの使いかたを練習する（つづき）

6 ドラッグアンドドロップする

文書や画像などをドラッグして、フォルダやソフトウェアのアイコンやウィンドウなどの上でマウスのボタンを離すことです。
マウスで選んだ文字や画像を他の文書に追加したり、文書などを作成したソフトウェアのアイコンに重ね合わせてソフトウェアを起動し、内容を見たりします。

ドラッグとは、マウスの左ボタンを押したまま、マウスを動かしてからボタンを離すことです。

ためしに手順5で作った「新しいフォルダ」をドラッグアンドドロップしてみましょう。

（新しいフォルダ）を （ごみ箱）に移動する（ドラッグアンドドロップする）。

「新しいフォルダ」がごみ箱に移動し、アイコンが から に変わります。
（ごみ箱の中に紙くずが入ります。）

これでマウスの使いかたの練習は終わりです。使えるようになるまで何度も練習し、マウスに慣れましょう。

ウィンドウの基本操作を練習する

「ウィンドウ」とは、Windowsでさまざまな操作をするときの画面のことです。
ここでは、ウィンドウの基本操作を練習しましょう。

ちょっと一言

「ウィンドウ」は日本語で「窓」の意味です。画面の形が窓に似ています。

ここからは1～7の手順に従って、ウィンドウの基本操作を練習してみましょう。

1 ウィンドウを開く

ためしに（マイコンピュータ）のウィンドウを開いてみましょう。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックする。**

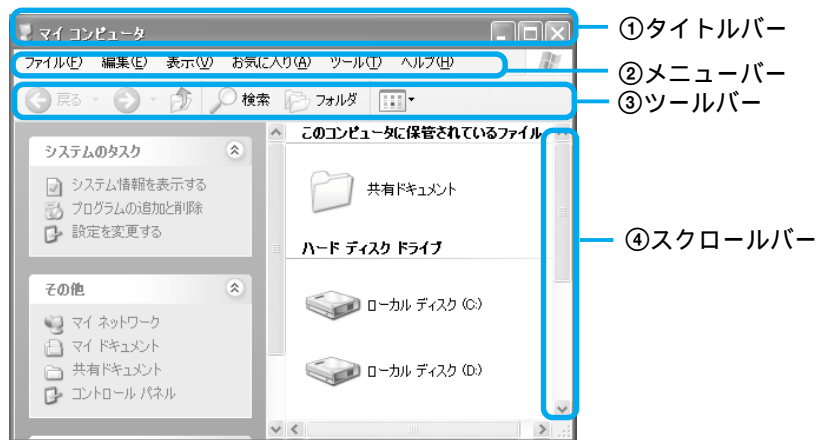
「スタート」メニューが表示されます。

2 **マウスを動かして、ポインタを［マイコンピュータ］の上に合わせ、クリックする。**

「マイコンピュータ」ウィンドウが開きます。

次のページへつづく

ウィンドウの各部のなまえとはたらき

ウィンドウ右側にはマイコンピュータの中にある各種の装置のアイコンやフォルダがあります。
ここでは、ウィンドウの各部のなまえとはたらきを覚えましょう。

① タイトルバー

ウィンドウのなまえを表示します。ここでは （マイコンピュータ）を選択したので「マイコンピュータ」と表示されます。

② メニューバー

ウィンドウの中にある各装置を利用したり、内容を変更したりするときに使う機能が一列になって配置されます。

③ ツールバー

メニューバーと同様のはたらきをしますが、特によく使う機能がアイコン表示されます。

④ スクロールバー

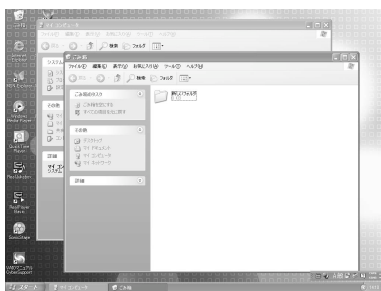
ウィンドウの中にたくさんのフォルダなどがあって1度に表示できない場合に表示されます。このバーにポインタを合わせて上下に動かすか、上下の をクリックすると、隠れているフォルダなどを表示できます。

複数のウィンドウを開くには

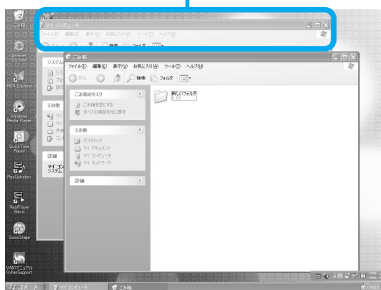
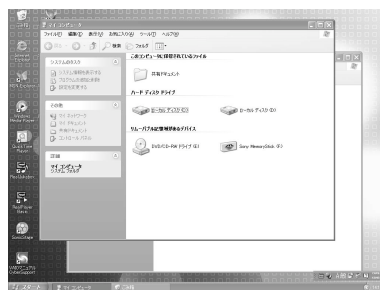
ウィンドウは2つ以上同時に開くこともできます。ウィンドウを複数開くと、ファイルを移動したり、コピーするといった、このあとに練習する操作をするときに便利です。

ここでは「マイコンピュータ」ウィンドウのほかに「ごみ箱」ウィンドウを開いてみましょう。

（ごみ箱）をダブルクリックする。

「ごみ箱」ウィンドウが表示されます。

複数のウィンドウを切り替えるときは

使いたいウィンドウを最前面に表示させます。マウスを動かし、タイトルバーなど、切り替えたいウィンドウのいずれかの部分をクリックします。

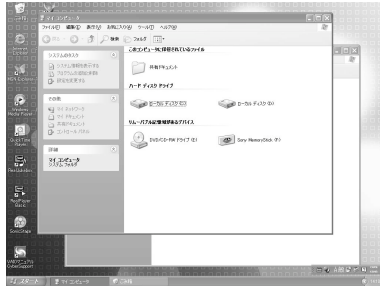
この部分のどこかをクリックする。

「ごみ箱」ウィンドウが使える状態

「マイコンピュータ」ウィンドウが使える状態

ちょっと一言

最前面に表示されているウィンドウは、タイトルバーが濃い色になります。この最前面に表示されているウィンドウのことを「アクティブなウィンドウ」と言います。

次のページへつづく

タスクバーを使って複数のウィンドウを切り替えるときは

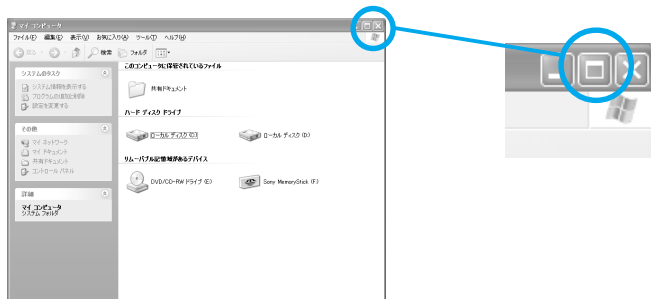
マウスを動かし、タスクバーに表示されているウィンドウのボタンの中から、切り替えたいウィンドウのボタンにポインタを合わせ、クリックします。

上の「マイコンピュータ」ウィンドウが使える状態になります。

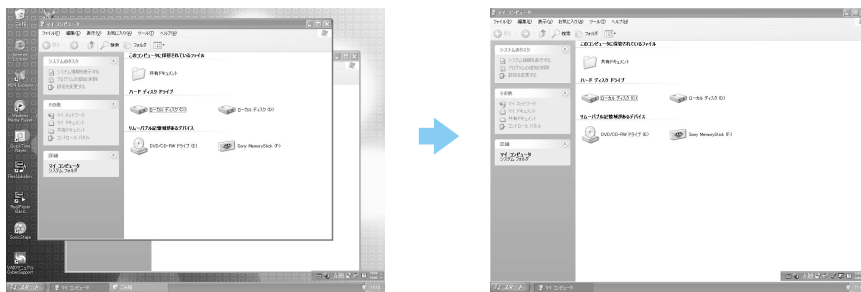
ちょっと一言

タスクバーに表示されているボタンをクリックすることは、デスクトップ画面上で完全に隠れて見えないウィンドウを最前面に出すときに便利です。

2 ウィンドウを最大化する

ウィンドウをデスクトップ画面いっぱいに広げて表示させることです。
ためしに手順1で開いた「マイコンピュータ」ウィンドウを最大化してみましょう。

1 **マウスを動かして、ポインタをウィンドウ右上の □（[最大化] ボタン）の上に合わせる。**

2 **□（[最大化] ボタン）をクリックする。**

「マイコンピュータ」ウィンドウがデスクトップ画面いっぱいに広がって表示されます。

このとき、□（[最大化] ボタン）が □ になります。

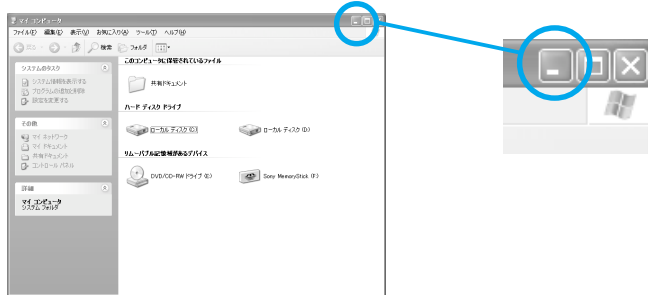
最大化したウィンドウを元のサイズに戻すには

1. **マウスを動かして、ポインタをウィンドウ右上の □（[元に戻す（縮小）] ボタン）の上に合わせる。**
2. **□（[元に戻す（縮小）] ボタン）をクリックする。**
   「マイコンピュータ」ウィンドウが、最大化する前のサイズに戻ります。

次のページへつづく

3 ウィンドウを最小化する

ウィンドウをデスクトップ画面下のタスクバーに収納することです。
ためしに手順1で開いた「マイコンピュータ」ウィンドウを最小化してみましょう。

1 マウスを動かして、ポインタをウィンドウ右上の（[最小化] ボタン）の上に合わせる。

2 （[最小化] ボタン）をクリックする。

「マイコンピュータ」ウィンドウが最小化され、タスクバーにボタンとして表示されます。

最小化したウィンドウを元に戻すには

1. **マウスを動かして、タスクバーの中にあるボタンの上に合わせる。**

2. **ボタンをクリックする。**

「マイコンピュータ」ウィンドウが開いて、最小化する前のサイズに戻ります。

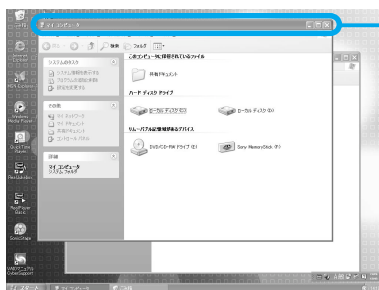
「閉じる」と「最小化」の違い

ウィンドウを閉じる（80ページ）と、そのウィンドウはデスクトップ画面から消えます。
ウィンドウを最小化すると、そのウィンドウはデスクトップ画面からは見えなくなりますが、タスクバーにボタンとして残ります。ウィンドウを一時的に見えなくするときは、「最小化」の方が便利です。

4 ウィンドウを動かす

ウィンドウをデスクトップ画面上で自由に移動できます。ウィンドウを開いたときに、ウィンドウの下に隠れてしまったアイコンをクリックしたいときなどにはウィンドウを動かします。

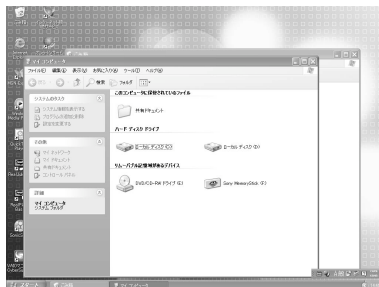
ためしに手順1で開いた「マイコンピュータ」ウィンドウを動かしてみましょう。

1 マウスを動かして、ポインタをタイトルバーの上に合わせる。

このいずれかの場所にポインタを合わせる。

ちょっと一言

タイトルバーの中央付近の、文字や絵のない部分にポインタを合わせてください。タイトルバーの右端や左端をクリックすると、ウィンドウが移動しないことがあります。

2 マウスの左ボタンを押したまま、マウスを移動する（ドラッグする）。

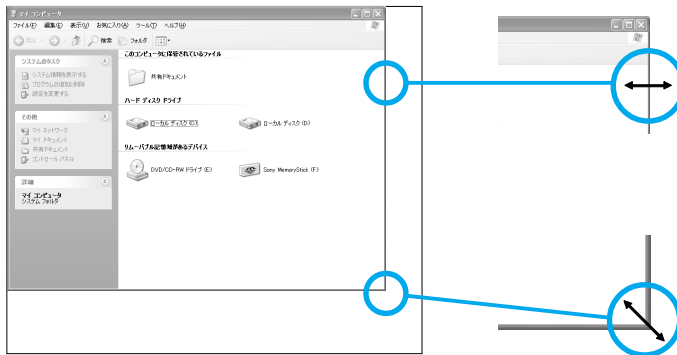
「マイコンピュータ」ウィンドウが移動します。

3 移動したい位置まで来たら、マウスのボタンを離す。

次のページへつづく

5 ウィンドウのサイズを変える

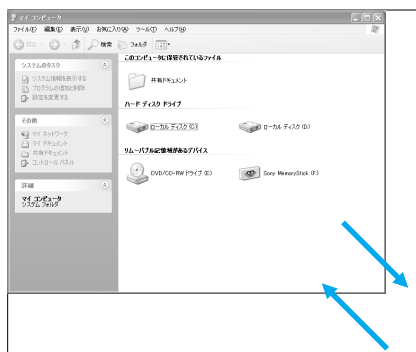
ウィンドウのサイズが小さかったり、大きかったりするときは、ウィンドウのサイズを変えられます。
ためしに手順1で開いた「マイコンピュータ」ウィンドウのサイズを変えてみましょう。

1 マウスを動かして、ポインタをウィンドウの角や辺に合わせる。

ポインタの形が ↘ や ↕ に変わります。

ご注意

ウィンドウが最大化されて表示されているときは、ウィンドウのサイズを変更することはできません。

2 マウスの左ボタンを押したまま、マウスを移動する（ドラッグする）。

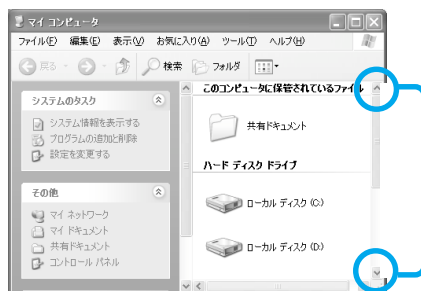
ウィンドウのサイズが変わります。
サイズを大きくしたいときにはウィンドウの外側に、小さくしたいときにはウィンドウの内側にドラッグします。

3 希望の大きさになったらマウスのボタンを離す。

6 見えない部分を表示する（スクロールする）

ウィンドウのサイズが小さいとき、見えない部分をマウスを使って表示できます。
これを「スクロールする」と言います。
ためしに手順1で開いた「マイコンピュータ」ウィンドウの見えない部分をスクロールして表示してみましょう。

1 ウィンドウの右側にスクロールバーが表示されていないときは、表示されるまで、ウィンドウを小さくする。

ウィンドウの右側にスクロールバーが表示されます。

2 マウスを動かして、ポインタをスクロールバーの ▲ または ▼ の上に合わせる。

ちょっと一言

ウィンドウの内容がすべて表示されているときは、スクロールバーは表示されません。また、ウィンドウの下側にスクロールバーが表示されることもあります。

3 マウスの左ボタンを押したままにする。

▲ を押すとウィンドウの上の方に隠れている部分が表示されます。
▼ を押すとウィンドウの下の方に隠れている部分が表示されます。

4 マウスのボタンを離す。

スクロールが止まります。

ちょっと一言

マウスのホイールボタンを使ってスクロールすることもできます。

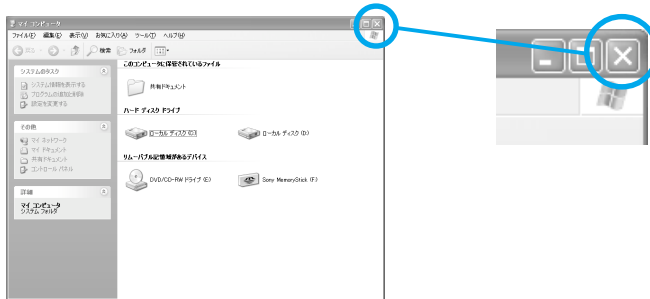
次のページへつづく

ウィンドウの基本操作を練習する（つづき）

7 ウィンドウを閉じる

最後に「マイコンピュータ」と「ごみ箱」ウィンドウを閉じてみましょう。

1

マウスを動かして、ポインタを「マイコンピュータ」ウィンドウの（[閉じる] ボタン）の上に合わせる。

2

（[閉じる] ボタン）をクリックする。

「マイコンピュータ」ウィンドウが閉じます。
「ごみ箱」ウィンドウも同じ操作を行い、ウィンドウを閉じます。

これでウィンドウの基本操作の練習は終わりです。ウィンドウは本機に付属のソフトウェアなどにもたくさん使われています。何度も練習してソフトウェアを楽に使いこなせるようになりましょう。

文字の入力を練習する（キーボードの使いかた）

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している「ワードパッド」ソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。

ちょっと一言

キーボード上の特殊なキーのなまえとはたらきについて詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［各部の説明］→［各部の説明：キーボード］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

1 「ワードパッド」ソフトウェアを起動する

まず、「ワードパッド」ソフトウェアを起動します。

1 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックする。

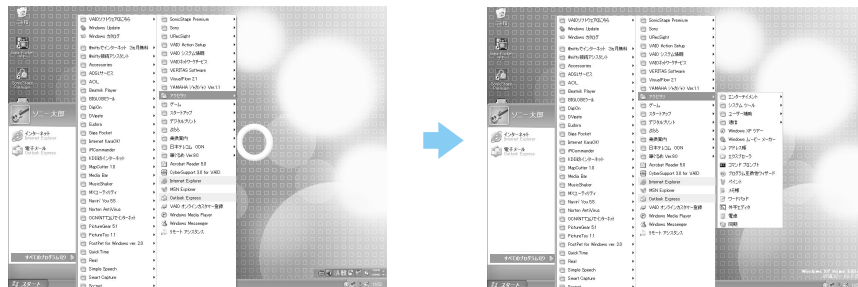
「スタート」メニューが表示されます。

2 表示された「スタート」メニューの中の［すべてのプログラム］にポインタを合わせる。

右側に新しいメニューが表示されます。

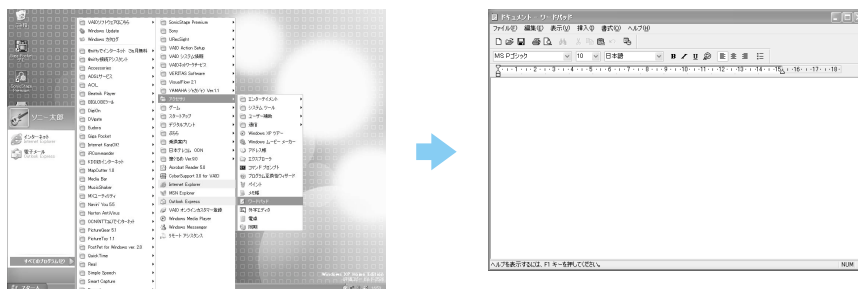
次のページへつづく

3 ［すべてのプログラム］の右側に表示されたメニューの中の［アクセサリ］にポインタを合わせる。

［アクセサリ］の右側にも新しいメニューが表示されます。

ちょっと一言

「スタート」メニューに表示される項目で［アクセサリ］のように右端に▶の付いたものは、ポインタを合わせると右側に新しいメニューが表示されます。

4 ［アクセサリ］の右側に表示されたメニューの中にある［ワードパッド］にポインタを合わせ、クリックする。

「ワードパッド」ソフトウェアが起動し、デスクトップ画面に「ワードパッド」ソフトウェアの画面が表示されます。

これで文字を入力する準備が整いました。

ちょっと一言

「ワードパッド」ソフトウェアの画面は使いやすいサイズに調節してください（78ページ）。

2 入力のしかたを選ぶ

キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。
入力したい文字に応じて、デスクトップ画面右下に表示されている「MS-IMEツールバー」を使って、入力文字を切り替える必要があります。

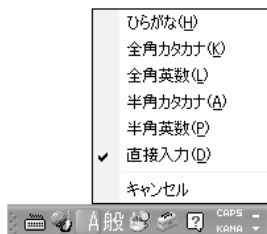
MS-IMEツールバーが表示されていないときは

デスクトップ画面右下のタスクトレイにある JP をクリックします。表示されたMS-IMEメニューの中の［言語バーの表示］をクリックします。
MS-IMEツールバーについて詳しくは、MS-IMEのヘルプをご覧ください。

MS-IMEツールバー

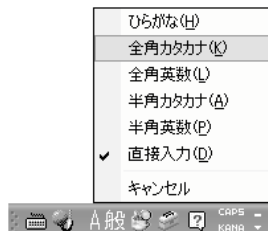
ここでは例として、カタカナでの入力に切り替えてみましょう。

1 デスクトップ画面右下のMS-IMEツールバーの［ A］にポインタを合わせ、クリックする。

文字入力選択メニューが表示されます。

2 文字入力選択メニューの中の［全角カタカナ］にポインタを合わせ、クリックする。

ツールバーの表示が［ A］から［カ］に変わり、カタカナを入力できるようになります。

［A］から［カ］に変わる。

次のページへつづく

文字の入力を練習する（つづき）

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。
お好みに合わせて、入力方法を選んでください。
なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

❑ ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。
1文字を入力するために2つまたは3つのキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れている方はこちらが便利です。

❑ かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。
1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り替えるには

MS-IMEツールバーの［KANA］をクリックするか Ctrl（コントロール）キーを押しながら Caps Lock 英数（キャプスロック／英数）キーを押すと、ローマ字入力とかな入力とが切り替わります。

ちょっと一言

MS-IMEのツールバーは、状態により縮小したり、デスクトップ画面右下のタスクトレイに収納されたりします。

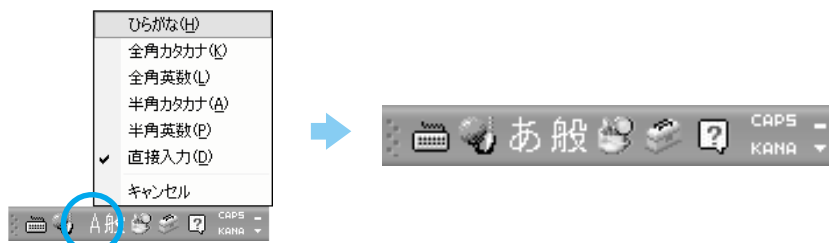
3 文字を入力する

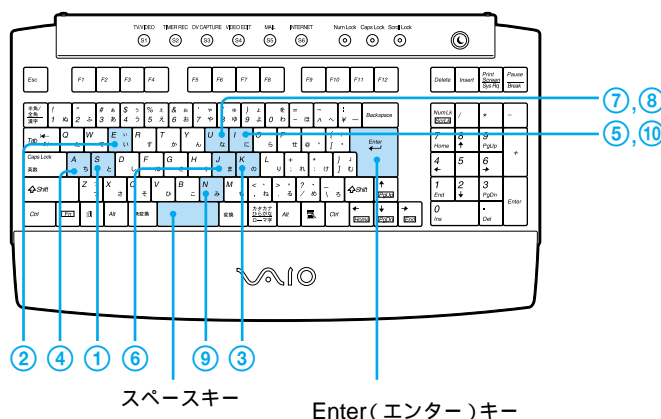
次に、具体的に文字の入力のしかたを練習します。
「世界中にひろがったソニーVAIO PCV-RX73」という言葉を例に漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベット、数字の順に入力していきます。

1

「世界中に」と入力する。（漢字入力）

❶ MS-IMEのツールバーの［ A］をクリックして、［ひらがな］をクリックする。

ツールバーの表示が［あ］になり、ひらがなが入力できる状態になります。

❷ 「世界中に」の読みを入力する。

ローマ字入力の場合

① S と、② E い、③ K の、④ A ち、⑤ I に、⑥ J ま、⑦ U な、⑧ U な、⑨ N み、⑩ I に の順にキーを押します。

次のページへつづく

かな入力の場合

①［P せ］、②［T か］、③［E い］、④［D し］、⑤［@ ゛］（濁点）、⑥［Shift］［8 ゆ］（シフトキーを押しながら［8 ゆ］を押します）、⑦［4 う］、⑧［I に］の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソル（画面上で点滅している「｜」のこと）がローマ字入力、かな入力とも入力位置に動きます。

3 ［　　］（スペース）キーを押す。

入力した読みに当てはまる漢字が表示されます。間違った漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで［　　］（スペース）キーを押します。

ちょっと一言

「き」など同音異義の漢字がたくさんある場合は、変換候補が表示されるまで［　　］（スペース）キーを押し続けます。

❹ Enter（エンター）キーを押す。

変換が確定します。

間違って入力したときは

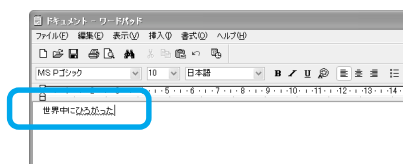
次のキーを使って修正します。

Backspace **（バックスペース）キー**：　カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

Delete **（デリート）キー**：カーソルのある位置の1字を消します。

Esc **（エスケープ）キー**：確定していない文字をすべて消します。

2 「ひろがった」と入力する。（ひらがな入力）

❶ 「ひろがった」の読みを入力する。

ローマ字入力の場合

丸数字はキーを押す順番です。

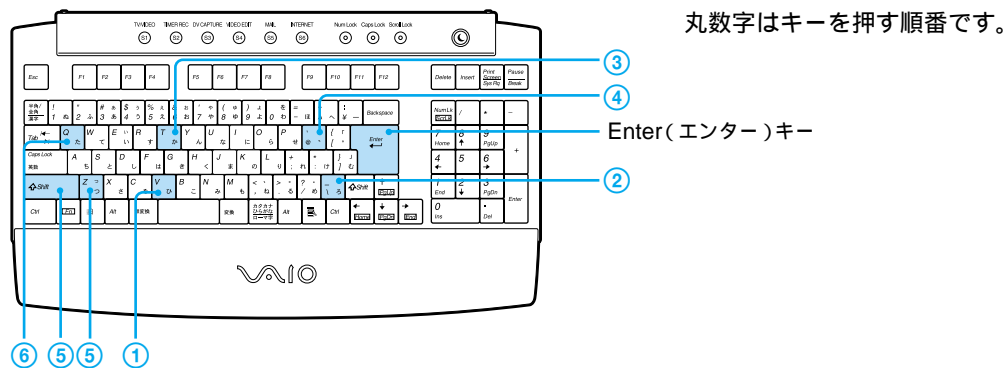
①H く、②I に、③R す、④O ら、⑤G き、⑥A ち、⑦T か、⑧T か、⑨A ち

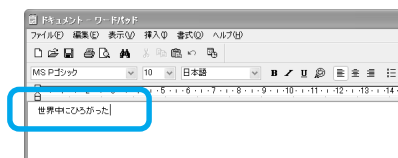
の順にキーを押します。

次のページへつづく

ちょっと一言

小さい「っ」を入力するときは、「かった」のように次の文字が「た」であれば [T か] キーを2回押します。

かな字入力の場合

① [V ひ]、② [\ ろ]、③ [T か]、④ [@ ゛]（濁点）、⑤ [Shift] [Z っ]（シフトキーを押しながら [Z っ] を押します）、⑥ [Q た] の順にキーを押します。

キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

❷ [Enter]（エンター）キーを押す。

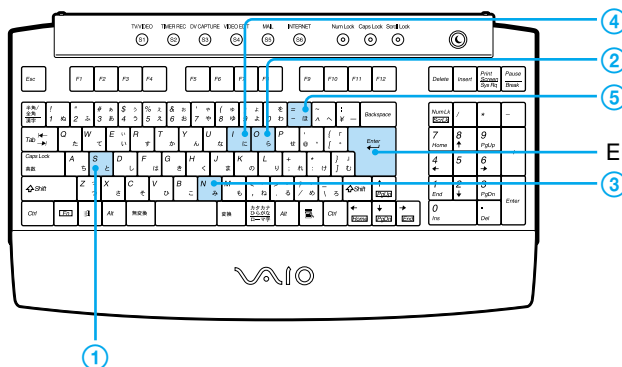
変換する必要がないので、[　　　]（スペース）キーを押す必要はありません。

3 「ソニー」と入力する。（カタカナ入力）

❶ MS-IMEのツールバーの［あ］をクリックして、［全角カタカナ］をクリックする。

ツールバーの表示が［カ］になり、カタカナが入力できる状態になります。

❷「ソニー」の読みを入力する。

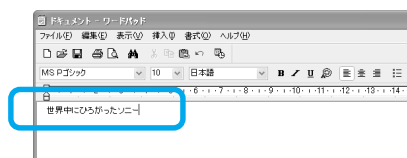
ローマ字入力の場合

①S と、②O ら、③N み、④I に、⑤- ほ（ハイフン）の順にキーを押します。

かな入力の場合

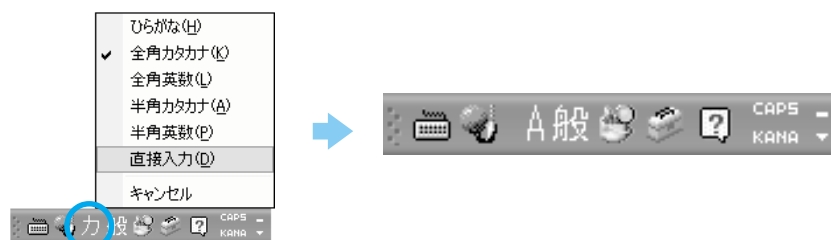
①C そ、②I に、③¥ ー の順にキーを押します。

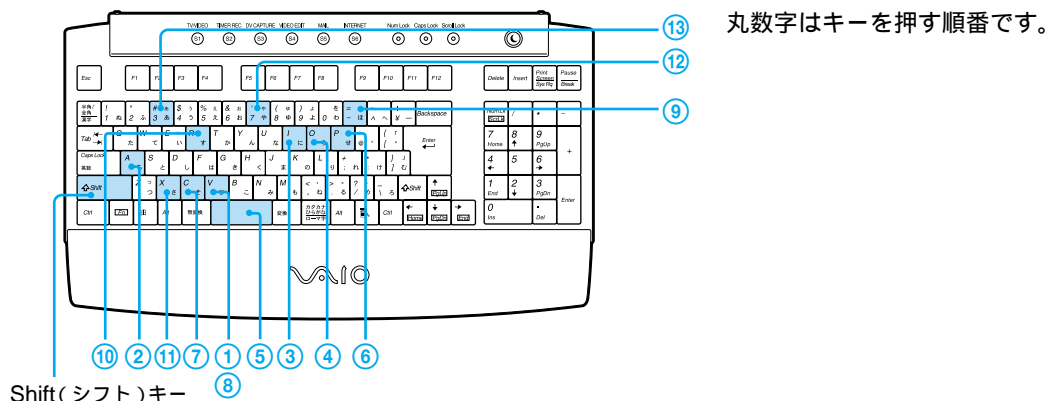
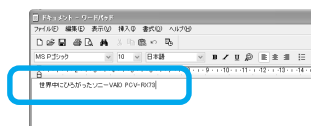
キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

次のページへつづく

❸ Enter（エンター）キーを押す。

変換する必要がないので、　　（スペース）キーを押す必要はありません。

4 「VAIO PCV-RX73」と入力する。（アルファベットと数字の入力）

❶ **MS-IMEのツールバーの［カ］をクリックして、［直接入力］をクリックする。**

ツールバーの表示が［ A］になり、アルファベットが入力できる状態になります。

❷ **Shift（シフト）キーを押しながら①V、②A、③I、④Oの順にキーを押し、次に⑤　　（スペース）のみを押す。再び Shift（シフト）キーを押しながら⑥P、⑦C、⑧Vの順にキーを押し、⑨−キーを押す。もう1度 Shift（シフト）キーを押しながら⑩R、⑪Xを押し、最後に⑫7、⑬3 の順にキーを押す。**

丸数字はキーを押す順番です。

変換する必要がないので、[　　] （スペース）キーを押す必要はありません。

ちょっと一言

アルファベットの小文字や数字を入力するときは、[Shift] （シフト）キーを押す必要はありません。

これで「世界中にひろがったソニーVAIO PCV-RX73」と入力できました。

キーボード上にない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、MS-IMEのヘルプをご覧ください。

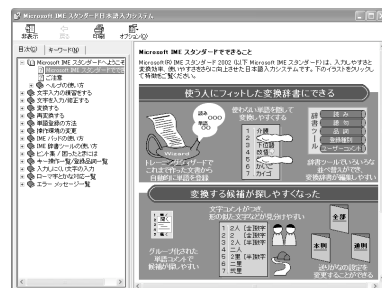
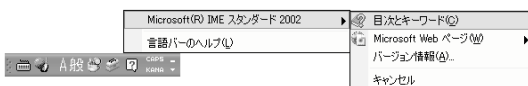
MS-IMEのヘルプを見るには

1. **MS-IMEツールバーの右にある [?] をクリックする。**

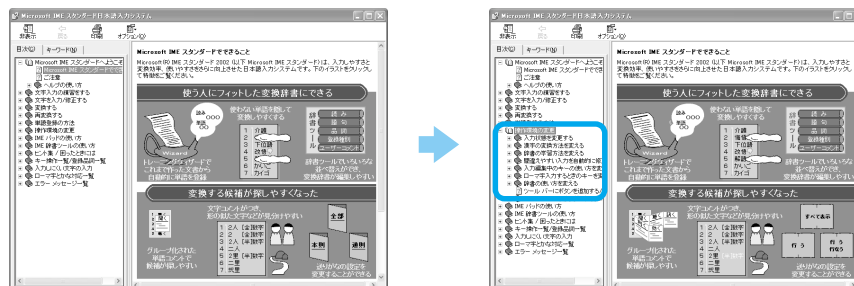
メニューが表示されます。

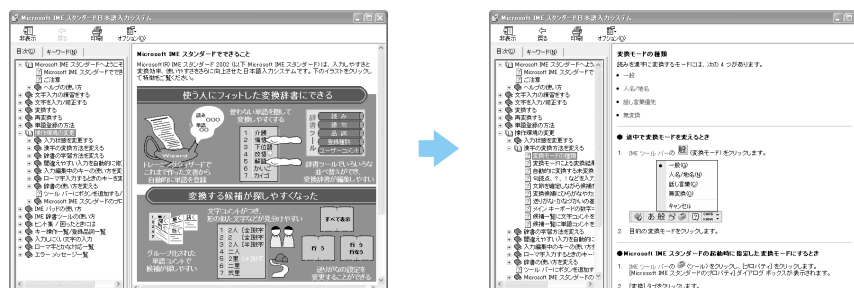
MS-IMEツールバー

2. **[Microsoft(R) IME スタンダード2002] をポイントし、表示されるメニューから [目次とキーワード] をクリックする。**

「Microsoft IME スタンダード2002 日本語入力システム」画面が表示されます。

次のページへつづく

3 左側の「目次」の一覧から見たい項目をダブルクリックする。

さらに詳しい項目が表示されます。

4 見たい項目をクリックする。

参照したい項目が右側に表示されます。

ちょっと一言

「Microsoft IME スタンダード2002 日本語入力システム」画面を閉じるには、画面右上の ☒（［閉じる］ボタン）をクリックします。

「～」や「~」を入力するには

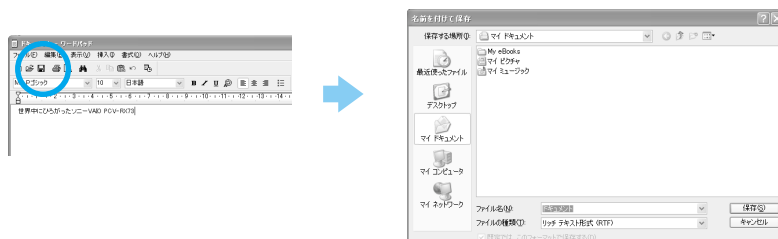
- 全角の「～」を入力するには、MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで（83ページ）、ひらがなで「から」と入力し、「～」が選ばれるまで スペースキーを押すか、Shift（シフト）キーを押しながら へ キーを押します。
- インターネットのホームページのアドレスなどによく使われる半角の「~」（チルダ）を入力するには、MS-IMEツールバーで「直接入力」（90ページ）または「半角英数」を選び、Shift（シフト）キーを押しながら へ キーを押します。

4 作成した文書を保存する

手順3の「文字を入力する」で作成した文書を保存してみましょう。

1

「ワードパッド」のツールバーの（上書き保存）をクリックする。

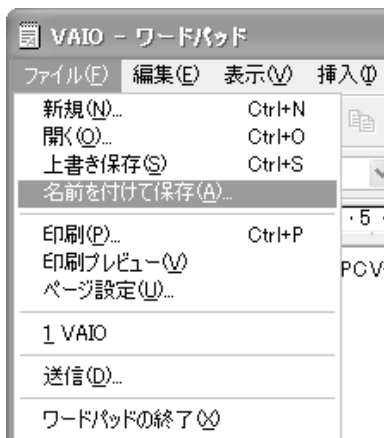
「名前を付けて保存」ウィンドウが表示されます。

2

作成した文書に名前（ファイル名）をつける。

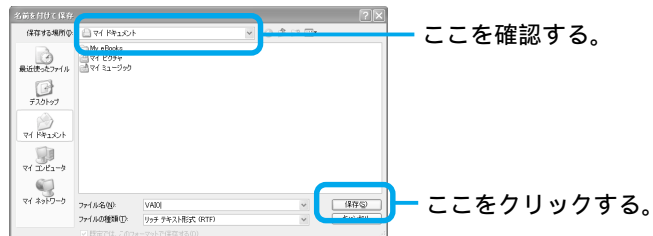
ファイル名の部分は「ドキュメント」の文字が反転表示されています。
ここでは「VAIO」と名前をつけて保存してみます。
文字が反転した状態のまま「VAIO」と入力します。

文字の入力のしかたについては、「3文字を入力する」（85ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

1度名前を付けると、「名前を付けて保存」ウィンドウは表示されず、そのまま上書きされて保存されます。
名前を変えて保存したいときは「ワードパッド」のウィンドウ上部の［ファイル］をクリックし、表示されるメニューから［名前を付けて保存］をクリックします。

次のページへつづく

3 保存場所を確認して 保存(S) をクリックする。

作成した文書が保存されます。
このように保存された文書や画像を「ファイル」と言います。

上の例では、「VAIO」ファイルは「マイドキュメント」に保存されました。このファイルをもう1度見るときはデスクトップ画面左下の スタート をクリックし、表示されたメニューの［マイドキュメント］にポインタを合わせてクリックします。表示された「マイドキュメント」ウィンドウの中から「VAIO」ファイルをダブルクリックします。

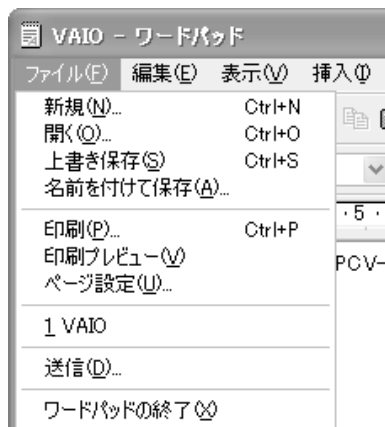
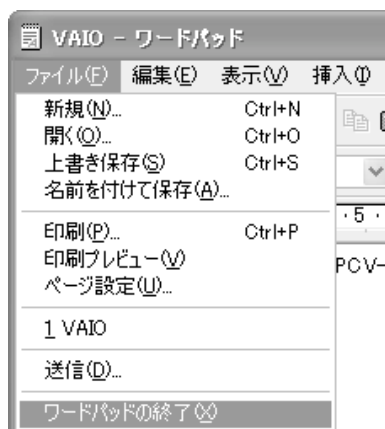
ちょっと一言

保存先は本機の他の場所やフロッピーディスクなどに変更することもできます。
フロッピーディスクへの保存について詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［基本的な使いかた］→［フロッピーディスクを使う］→［フロッピーディスクにデータをコピーする］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

5 「ワードパッド」ソフトウェアを終了する

最後に「ワードパッド」ソフトウェアを終了します。

1 [ファイル]にポインタを合わせ、クリックする。

ファイルメニューが表示されます。

2 [ワードパッドの終了]にポインタを合わせ、クリックする。

「ワードパッド」ソフトウェアが終了します。

 ちょっと一言

ウィンドウ右上にある ✕（[閉じる]ボタン）をクリックしても終了できます。

「ワードパッド」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「ワードパッド」のヘルプをご覧ください。
「ワードパッド」のウィンドウ上部の[ヘルプ]をクリックし、表示されるメニューから[トピックの検索]をクリックすると「ワードパッド」のヘルプが表示されます。

ファイルの操作を練習する

ここでは、「文字の入力を練習する（キーボードの使いかた）」の手順4で保存したファイルを、さまざまに操作する練習をしましょう。

ちょっと一言

「ワードパッド」ソフトウェアなどで作成したファイルは、特に指定しない限り、（マイドキュメント）に保存されます。それぞれのファイルは のようにアイコンとして表示されます。

1 ファイルを開く

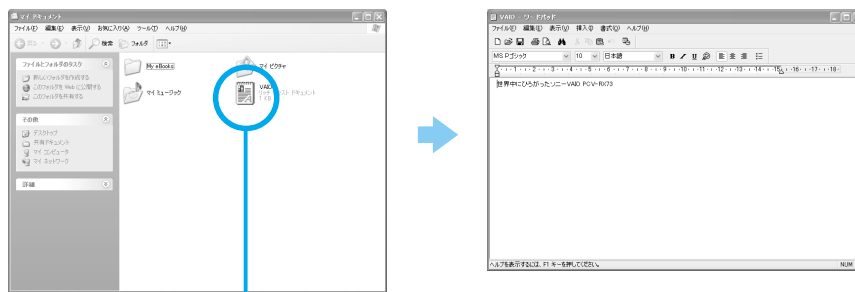
ためしに「文字入力を練習する（キーボードの使いかた）」の手順4で保存したファイルを開いてみます。

1

デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、表示されたメニューの［マイドキュメント］にポインタを合わせ、クリックする。

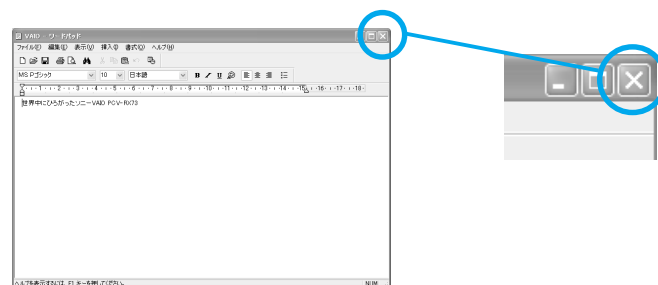
「マイドキュメント」ウィンドウが表示されます。ウィンドウの中に「文字の入力を練習する（キーボードの使いかた）」の手順4で作成した「VAIO」ファイルがアイコンで表示されます。

2 「VAIO」ファイルのアイコンにポインタを合わせ、ダブルクリックする。

「ワードパッド」ソフトウェアが起動し、「VAIO」ファイルのウィンドウが開きます。

これをダブルクリックする。

ファイルを閉じるには

「VAIO」ファイルのウィンドウ右上の ☒ にポインタを合わせ、クリックする。

「VAIO」ファイルのウィンドウが閉じ、「ワードパッド」ソフトウェアが終了します。

ファイルを開いても変更を加えなければ、終了してもファイルは新しく保存されません。

ちょっと一言

- ファイルの内容に変更があるときは、終了する前に、変更内容を保存するか、保存しないで終了するか確認するメッセージが表示されます。
- 「ワードパッド」ソフトウェアの「ファイル」メニューから［ワードパッドの終了］をクリックしても終了できます。

次のページへつづく

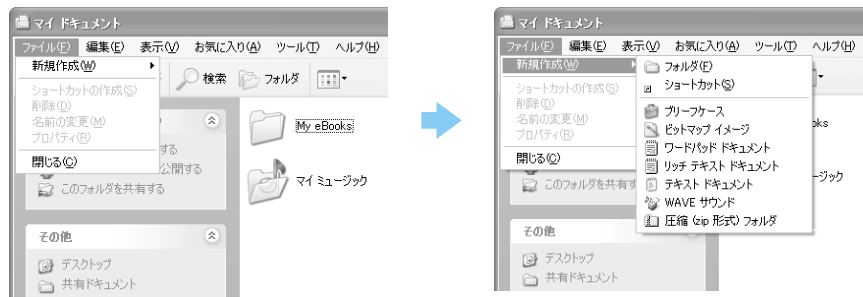
2 フォルダを作る

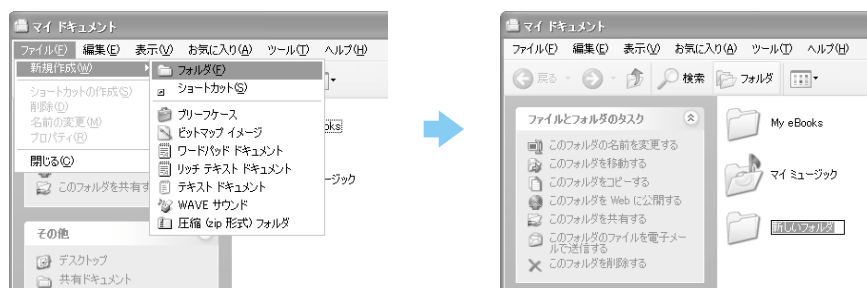
「フォルダ」は作成したファイルやソフトウェアを保存しておく場所です。
例えば、「お絵かき」フォルダや、「手紙」フォルダのように、種類や用途別に名前をつけてフォルダを作ってファイルを保存しておけばわかりやすく整理できます。
ためしに「マイドキュメント」の中にフォルダを作ってみます。

1 **デスクトップ画面の「マイドキュメント」ウィンドウのどこかをクリックする。**

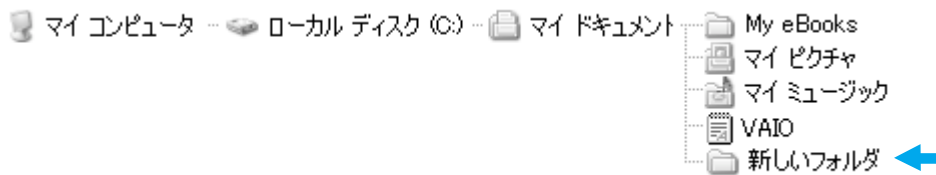
「マイドキュメント」ウィンドウが最前面に表示されます。

2 **「マイドキュメント」ウィンドウのメニューバーの［ファイル］をクリックし、表示されるメニューから［新規作成］にポインタを合わせる。**

サブメニューが表示されます。

3 **サブメニューから［フォルダ］をクリックする。**

「マイドキュメント」ウィンドウの中に新しいフォルダが作成されます。

ちょっと一言

新しいフォルダは以下のところに作成されます。

マイ コンピュータ … ローカル ディスク (C:) … マイ ドキュメント … My eBooks / マイ ピクチャ / マイ ミュージック / VAIO / 新しいフォルダ

4 新しいフォルダに「Sony」と名前を入力する。

ちょっと一言

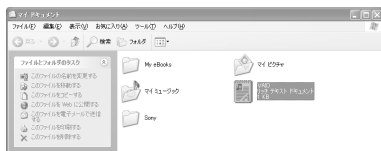
- デスクトップ画面上でフォルダやファイルを作成すると、すぐ名前が付けられるようフォルダやファイルの名前の部分が反転して表示されます。
  もし入力前にデスクトップ画面上のどこかをクリックすると、反転表示が解除され、再度名前の部分をクリックしないと名前を入力できません。
  反転表示が解除されたときは、次の手順で名前を入力します。
  ① 名前を入れたいフォルダのアイコンをクリックする。
  アイコンと名前の部分の両方が反転表示されます。
  ② この状態で名前の部分をもう1度クリックする。
  アイコンの反転表示だけが解除されて名前を入力できるようになります。
- フォルダやファイルの名前はデスクトップ画面上でいつでも変えることができます。

3 ファイルを移動する

ためしに手順2で作った「Sony」フォルダに、「ワードパッド」ソフトウェアで作った「VAIO」ファイルを移動してみましょう。

1 「マイドキュメント」ウィンドウの中にある「VAIO」ファイルにポインタを合わせ、クリックする。

「VAIO」ファイルが選択され、反転表示されます。

次のページへつづく

ファイルの操作を練習する（つづき）

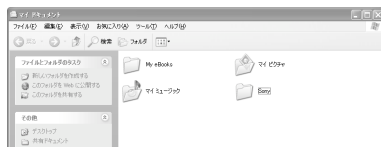
2

マウスの左ボタンを押したまま、「VAIO」ファイルを「Sony」フォルダまでマウスを移動（ドラッグ）して重ねる。

「VAIO」ファイルの輪郭もポインタと一緒に移動します。

3

「Sony」フォルダが反転表示されたら、マウスの左ボタンを離す。

「VAIO」ファイルが「Sony」フォルダの中に移動します。

「VAIO」ファイルを見るには、「Sony」フォルダにポインタを合わせ、ダブルクリックします。「Sony」フォルダのウィンドウが開き、移動した「VAIO」ファイルが表示されます。

「マイドキュメント」ウィンドウに戻るには、ウィンドウ上部の 戻る をクリックします。

ここをクリックする。

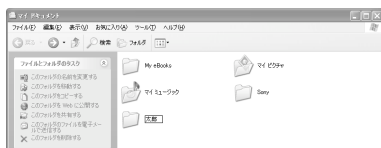
4 ファイルをコピーする

作成した文書などのファイルはコピーすることができます。
ためしに「マイドキュメント」ウィンドウに別のフォルダを作って「VAIO」ファイルをコピーしてみましょう。

ちょっと一言

ファイルはわざわざ作成した文書を開かなくてもコピーすることができます。

1

「2フォルダを作る」のやりかたで新しいフォルダを作り、「太郎」と名前を付ける。

2

「Sony」フォルダをダブルクリックする。

「Sony」フォルダが開きます。

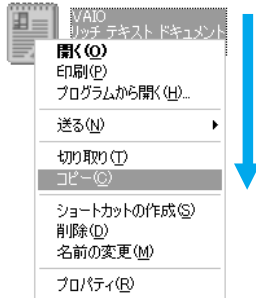
3

「VAIO」ファイルにポインタを合わせ、右クリックする。

ポインタの位置にショートカットメニューが表示されます。

次のページへつづく

[コピー] にポインタを合わせ、クリックする。

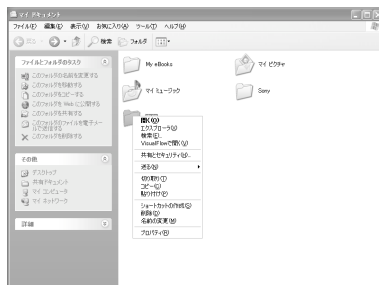
「VAIO」ファイルがコピーされます。

5

戻る をクリックする。

「マイドキュメント」ウィンドウに戻ります。

6

新しく作った「太郎」フォルダを右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。

7 ［貼り付け］にポインタを合わせ、クリックする。

「太郎」フォルダの中に「VAIO」ファイルが貼り付けられます。

コピーした「VAIO」ファイルを見るには、［太郎］フォルダをダブルクリックします。
「太郎」フォルダが開き、コピーされた「VAIO」ファイルが表示されます。

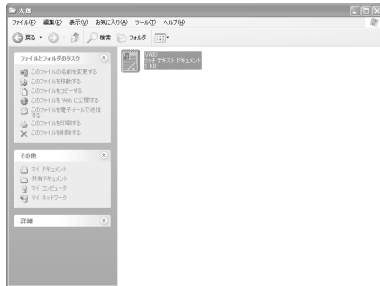
次のページへつづく

5 ファイルを削除する

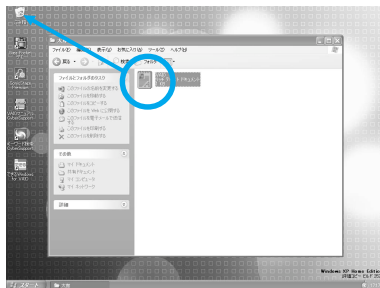
いらなくなったファイルは削除することができます。ためしに手順4でコピーした「VAIO」ファイルを削除してみましょう。

1

「VAIO」ファイルにポインタを合わせ、クリックする。

「VAIO」ファイルが選択され、反転表示されます。

2

マウスの左ボタンを押したまま、（ごみ箱）までマウスを移動（ドラッグ）し、（ごみ箱）に重ねる。

「VAIO」ファイルの輪郭がポインタと一緒に移動し、ファイルがごみ箱に入ります。

ちょっと一言

ファイルを移動（ドラッグ）中に、手がマウスの左ボタンから離れてしまったときは、そこにファイルが置かれた状態になっています。あわてず、その場所からあらためてファイルにポインタを合わせて、マウスの左ボタンを押して移動（ドラッグ）を続けてください。

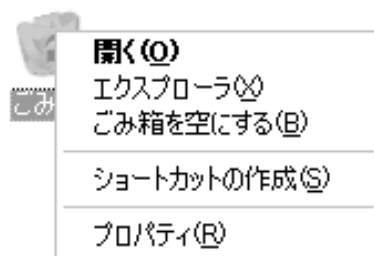
ごみ箱を空にするには

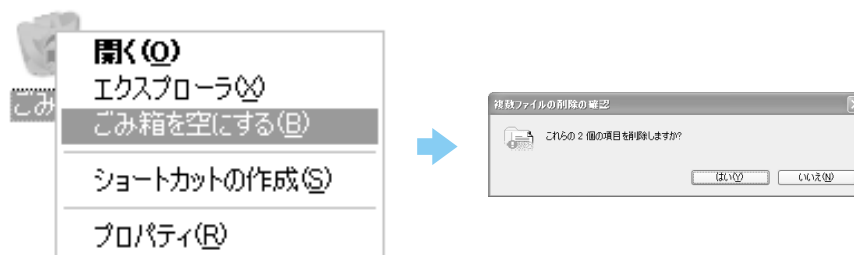
ごみ箱に移動したファイルは、ごみ箱の中から取り出すことができます。
ごみ箱の中のファイルを完全に消すには以下のように操作します。

ご注意

以下の操作を行うと、ファイルは完全に消去され復元することはできません。

1 （ごみ箱）にポインタを合わせ、右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。

2 ［ごみ箱を空にする］にポインタを合わせ、クリックする。

ファイルの削除を確認する画面が表示されます。

3 はい(Y) をクリックする。

ファイルが完全に削除されます。
ごみ箱アイコンが から に変わります。（ごみ箱の中の紙くずがなくなります。）

ちょっと一言

ファイルを削除するには、ファイルを右クリックし、ショートカットメニューで［削除］をクリックするという方法もあります。

カスタマー登録する／インターネットに接続する

この章では、オンラインでカスタマー登録する手順と
インターネット接続サービスへのオンライン入会手順を
説明します。

カスタマー登録する

ここでは、まずオンラインカスタマー登録する手順を説明します。

VAIOカスタマーご登録について

ソニーは「バイオ」をご所有のお客様へ必要な情報をお知らせし、充実したサポート・サービスをご提供するために、「VAIOカスタマーご登録」を行っていただくことをおすすめしています。ご登録のメリットについては、VAIOホームページ（http://www.vaio.sony.co.jp/）をご覧ください。

また、出荷時点で付属する保証書が提供する製品の保証期間はお買い上げ日から3か月です。ご登録を行っていただくことで、VAIOカスタマー専用デスクから、お買い上げより1年間有効な保証書と「VAIOカスタマーID」を記したご登録証「VAIO Customer's Card」をお送りします（すでに「VAIO Customer's Card」をお持ちの方へはカードの送付は行われません）。なお、保証について詳しくは「保証書とアフターサービス」（312ページ）をご覧ください。

VAIOカスタマーご登録に関するお問い合わせ先
ソニーマーケティング株式会社　VAIOカスタマー専用デスク　　電話番号：03-5977-7255
営業時間：月～金　10時～18時まで（土・日・祝日、年末年始を除く）

VAIOカスタマーご登録の方法

電話回線を通じて手軽にご登録が行えます。

ちょっと一言

- 付属の「VAIOカスタマー登録・保証書お申込書」にご記入の上、郵送いただくことでもご登録を行えます。
- 下記の場合を除き、ソニーがお客様の同意なく登録内容を外部へ開示することはありません。ただし、お客様個人を特定できない統計情報はこの限りではありません。
  (1) お客様が、別途ご案内する「Upgrade Area」および「バイオネットワークサービス」を利用する場合には、これらのサービスの運営会社のソニースタイルドットコム・ジャパン株式会社もお客様の情報を利用いたします。
  (2) VAIOカスタマー登録制度の運営に必要な場合、ソニーは業務を委託する協力会社に開示することがあります。（ソニーは、協力会社に対して、お客様の情報の厳重な管理と使用目的の遵守を徹底します。）
  (3) 法的義務を伴う要請を受けた場合、司法機関または行政機関に開示することがあります。
- VAIOカスタマーご登録は、本機の再セットアップをしたあとなどに再び行う必要はありません。住所などのご登録内容の変更を行うときは、VAIOホームページ内（http://www.vaio.sony.co.jp/）のページ上で、変更手続きが行えます。また、デスクトップ画面左下の をクリックして［ここから始めようVAIO!］をクリックして表示される画面で、［VAIOカスタマー登録のおすすめ］をクリックして変更手続きを行ってください。
- 12才までのおこさまは、ほごしゃのかたといっしょにとうろくしてください。

下記の手順を行うには、本機が電話回線につながっている必要があります。「VAIOオンラインカスタマー登録」にご使用いただく電話回線は一般電話回線だけでなく、ISDN回線にも対応しています。ISDN回線をお使いになる場合は、ターミナルアダプタのUSBコネクタと本機後面のUSBコネクタをつないでください。つなぎかたについては「接続する／準備する」の「ISDN回線につなぐときは」（44ページ）をご覧ください。ISDN回線やターミナルアダプタについて詳しくは、NTT（局番なしの116番）またはターミナルアダプタの製造元にお問い合わせください。

ご注意

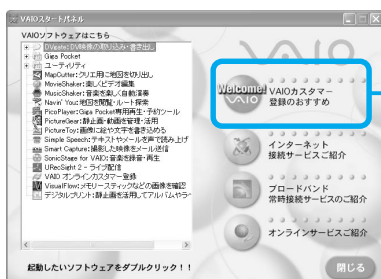
VAIOオンラインカスタマー登録は、「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーのみ行うことができます。

1

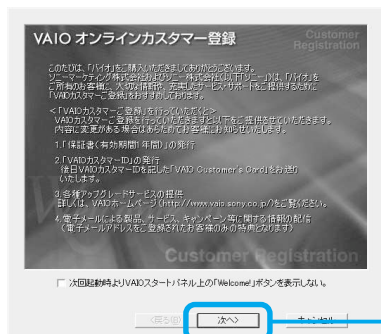
デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［ここから始めようVAIO！］をクリックする。

「VAIO スタートパネル」画面が表示されます。

2

「VAIOカスタマー登録のおすすめ」をクリックする。

「VAIOオンラインカスタマー登録」の画面が表示されます。

次のページへつづく

3

次へ> をクリックする。

「VAIOカスタマーID VAIOカスタマーパスワード」の画面が表示されます。

1つ前の画面が見たいときは

<戻る(B) をクリックします。

カスタマー登録をしない、またはあとでするときは

キャンセル をクリックして表示される画面で 終了(E) をクリックすると、「インターネット接続サービスご紹介」画面が表示されます。その後の手順について詳しくは129ページをご覧ください。

4

次へ> をクリックする。

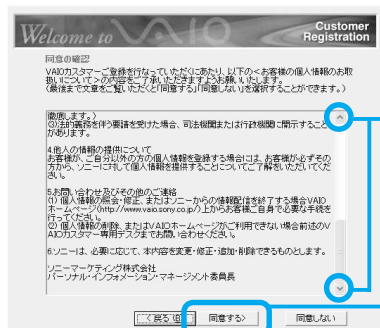
「VAIOカスタマーご登録を行っていただくときのご注意」画面が表示されます。

5

次へ> をクリックする。

「同意の確認」画面が表示されます。

6

または をクリックして、画面に表示された内容をすべて読み、内容に同意するときは 同意する> をクリックする。

1. ここをクリックすると文章が上下に移動する。
2. ［同意する］をクリックする。
［同意しない］をクリックすると、「ここでこのアプリケーションを終了すると登録が完了しません。」というメッセージが表示され、［終了］をクリックすると、「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示される。

「登録種別の選択」画面が表示されます。

7

「新規」の ○ をクリックして ◉ にし、［次へ>］をクリックする。

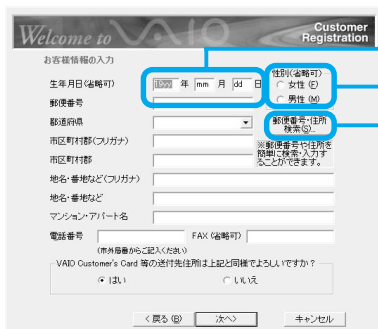
「お客様氏名の入力」画面が表示されます。

ちょっと一言

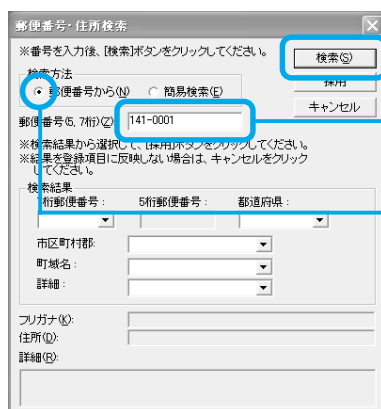
- 本機を含めてバイオをすでに2台以上お持ちの方など、すでにVAIOカスタマーIDをお持ちの方は、「機種追加」を選び、画面の指示に従って操作してください。
- すでにVAIOカスタマーご登録がお済みの方で、住所など、ご登録内容を変更したいときは、「更新」を選び、画面の指示に従って操作してください。

8

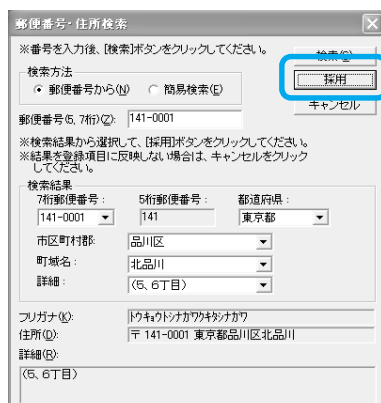
お客様のお名前を漢字で、ふりがなをカタカナで入力し、［次へ>］をクリックする。

「お客様情報の入力」画面が表示されます。

次のページへつづく

9

生年月日（任意）を入力し、性別（任意）を選び、 **をクリックする。**

「郵便番号・住所検索」画面が表示されます。

10

［検索方法］で「郵便番号から」の ○ をクリックして ◉ にし、ご自分の郵便番号を入力してから 検索(S) をクリックする。

自動的に入力された住所を確認し、正しければ 採用 をクリックしてください。
「郵便番号・住所検索」画面が閉じ、郵便番号や住所が自動的に入力されます。

11 残りの空欄を入力し、「VAIO Customer's Card」など送付先が入力した住所でよければ「はい」の ◯ をクリックして ◉ にし、［次へ＞］をクリックする。

「住所の確認」画面が表示されます。

入力した住所とは別の住所に「VAIO Customer's Card」と保証書などを送付してほしいときは

「いいえ」の ◯ をクリックして ◉ にしてください。「VAIO Customer's Card／保証書の送付先」画面が表示されますので、画面の指示に従って操作してください。

12 住所をご確認の上で、［次へ＞］をクリックする。

「電子メールアドレスの入力（任意）」画面が表示されます。

次のページへつづく

13 すでに電子メールアドレスをお持ちの方は、電子メールアドレスを入力し、［次へ>］をクリックする。

「パスワードリマインダー（任意）」画面が表示されます。

電子メールアドレスとは

インターネットなどのネットワークを使ってコンピュータ同士でメッセージをやりとりするシステムを電子メール（Eメール）といいます。電子メールアドレスとは、アルファベットや数字で表された電子メールの宛先のことで住所と同じ役割をします。

14 質問と答えを入力し、［次へ>］をクリックする。

「製品情報の入力」画面が表示されます。

パスワードリマインダーとは

パスワードリマインダーとは、VAIOカスタマーパスワードを忘れてしまったときに備え、あらかじめ設定しておいた質問と答えを使って、パスワードの初期化と再設定が行える便利な機能です。

15 本機のモデル名を確認し、使用しているディスプレイを ▼ をクリックして選び、本機の購入日や販売店名を入力し、 次へ> をクリックする。

「登録内容の確認」画面が表示されます。

16 ご登録いただく内容をご確認の上で、 次へ> をクリックする。

「接続方法の選択」画面が表示されます。

ちょっと一言

登録内容を変更するときは をクリックし、変更したい画面まで戻り、入力し直します。

17 「VAIOオンラインカスタマー登録専用回線」の ○ をクリックして ◉ にし、 次へ> をクリックする。

「発信方式の設定」画面が表示されます。

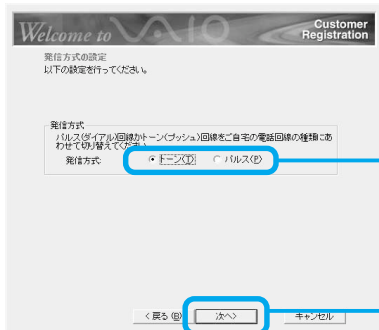
次のページへつづく

ご注意

- 外線発信（0発信）はできません。
- 「インターネット経由」を選んでご登録いただく場合、接続料金はお客様の負担となります。
- ターミナルアダプタなど、お使いになる通信機器によっては正しく接続できないことがあります。この場合は、本機後面のLINEジャックと一般電話回線をつなぎ、通信を行ってください。

ちょっと一言

- 次へ> をクリックすると、「接続デバイスの選択」画面が表示されることがあります。この場合は、通信に使う機器を選び、次へ> をクリックしてください。
- 「インターネット経由」を選んで 次へ> をクリックしたときは、「インターネット経由の接続設定」画面が表示されますので、画面の指示に従って操作して手順19に進んでください。
  また、LANの環境などによっては、「インターネット経由の接続設定」画面でプロキシの設定をする必要があります。プロキシの設定について詳しくは、各法人・団体様のシステム管理者にお尋ねください。

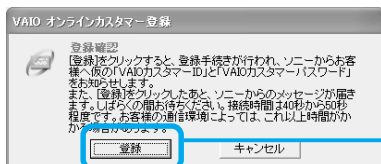
18 お使いの電話回線のダイヤル方法を選び、次へ> をクリックする。

「登録確認」画面が表示されます。

ちょっと一言

トーン式ダイヤルとは：電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、「カチカチ」という音がしない電話機のダイヤル方法です。

パルス式ダイヤルとは：ボタンではなくダイヤルを回す電話機、またはダイヤルボタンを押すたびに「カチカチ」という音がする電話機のダイヤル方法です。

お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、NTTなどの電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線（基本）使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。電話回線のダイヤル方法について詳しくは、NTT（局番なしの116番）などの電話会社にお問い合わせください。

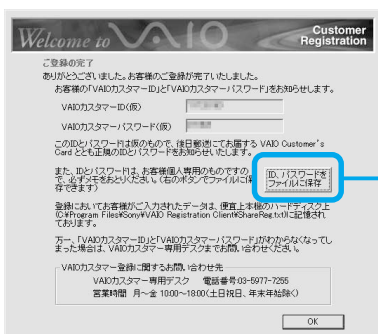
19 電話回線がつながっていることを確認し、［登録］をクリックする。

登録内容が電話回線を通じて送られ、送信が終わると「ご登録の完了」画面が表示されます。

ご注意

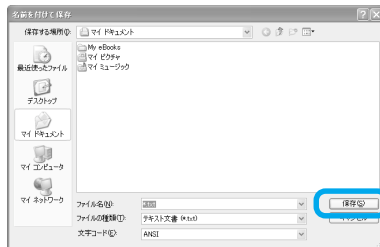
ターミナルアダプタなど、お使いになる通信機器によっては正しく接続できないことがあります。この場合は、本機後面のLINEジャックと一般電話回線をつなぎ、通信を行ってください。

ちょっと一言

オンラインご登録時にお知らせする「VAIOカスタマーID」と「VAIOカスタマーパスワード」は、正規の「VAIOカスタマーID」と「VAIOカスタマーパスワード」が届くまでの間ご使用いただく仮のIDとパスワードです。正規のIDとパスワードは後日、ソニーより「VAIO Customer's Card」や「1年間保証書」などとともに郵送でお知らせいたします。また、次の手順20〜21の操作を行い、仮の「VAIOカスタマーID」と「VAIOカスタマーパスワード」をデータとして保存しておくことをおすすめします。

20 ［ID、パスワードをファイルに保存］をクリックする。

「名前を付けて保存」ウィンドウが表示されます。

次のページへつづく

21 ファイルに任意の名前を付け、保存(S) をクリックする。

ご注意

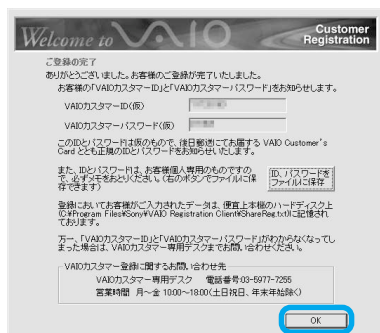
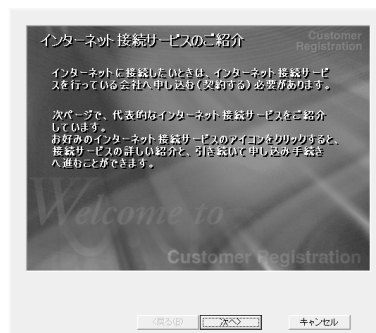
保存されたデータを他人に見られたり、紛失しないようにご注意ください。

ちょっと一言

保存されたファイルは、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［マイドキュメント］をクリックすると表示されます。

お客様のカスタマーIDとパスワードの情報がファイルとして「マイドキュメント」フォルダの中に保存され、「ご登録の完了」画面が表示されます。

22 OK をクリックする。

「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示されます。

ちょっと一言

- OK をクリックすると、サービス内容などをお知らせする画面が表示されることがあります。この場合は、次へ> をクリックしてください。「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示されます。
- VAIOカスタマーご登録が終わると、デスクトップ画面上に アイコン が表示されます。このアイコンをダブルクリックすると、バイオに関するサービス・サポート情報やVAIOのホームページのご案内などのお知らせを見ることができます。

23 次へ> をクリックする。

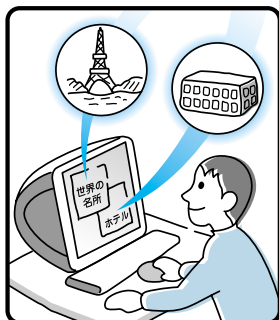
インターネット接続サービス「DION」の紹介画面が表示されます。
インターネットに接続するときは130ページの手順へお進みください。
インターネットを利用しない、または後で入会手続きを行う場合は
キャンセル をクリックします。

インターネット接続サービスとは

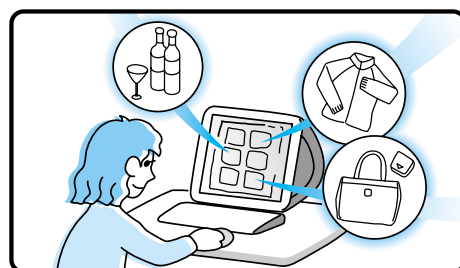
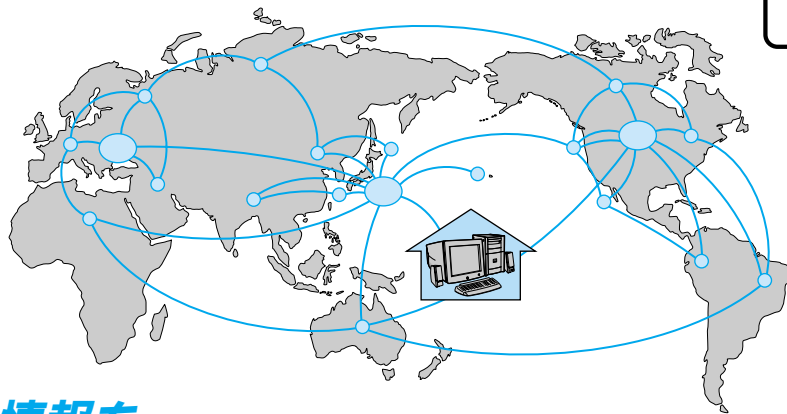
インターネットにつなぐためには、インターネット接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。インターネット接続サービスはインターネットとコンピュータとの間を仲介する役割を持っています。インターネット接続サービスを提供する会社と契約すると、インターネットを使っていろいろな情報を記述したホームページを簡単に見たり、電子メールを送受信したりできるようになります。

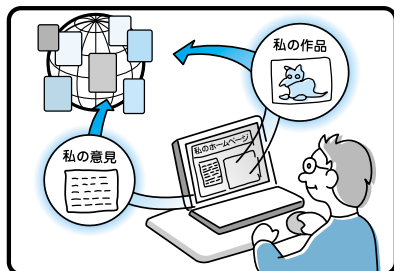
インターネットを始める

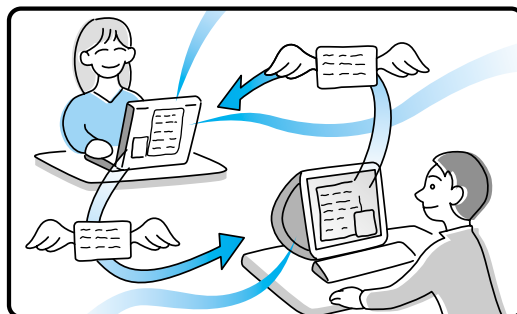
インターネットとは

インターネットとは、世界中のコンピュータがつながった、地球規模のネットワークのことです。ここではインターネットを利用するために必要な準備やホームページの見かた、電子メールのやりとりのしかたを説明します。

ホームページを見る

世界の景色を見る。
ホテルや乗物の予約をする。
調べたい情報を検索する。
趣味の仲間をさがす。
すべてが地球規模です。

オンラインショッピングをする

食べ物や衣類など、
家に居ながら遠く離れた外国でも行きつけのお店の感覚で買い物ができます。

情報を発信する

自分の意見を発言する。
趣味の仲間をつのる。
絵や文芸作品を発表する。
仕事の広告を出す。
世界中が読者です。

電子メールをやりとりする

世界各国に時間を気にすることなく好きなときに、電子メールを送れます。

インターネット接続に必要なものは

世界中の情報に接することのできるインターネットですが、インターネット自体は電話回線のように、ケーブルがつながったものでしかありません。情報を受け取ったり、発信したりするためには専用のソフトウェアが必要になります。
また、電話回線を通してインターネットにつなぐためにインターネット接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。
インターネットに接続するために必要なものは以下の通りです。

電話回線

電話回線には一般電話回線とISDN（アイエスディエヌ）回線の2種類があります。電話を使っている回線が一般電話回線です。

ISDNとは

NTTのデジタル通信網を使った回線で、通信速度も速く、1回線で従来の2回線が使えます。
ISDN回線をお使いになる場合はNTT（局番なしの116番）にご相談ください。

ADSLについて

ADSLとは「Asymmetric Digital Subscriber Line」の略で、一般電話回線を利用してインターネットへ高速に常時接続できるサービスのことです。このサービスを利用するには、ADSL接続サービスを提供している接続業者と契約し、申し込むことが必要です。
ADSL接続サービスの申し込み方法、料金、必要な機器とその接続方法について詳しくは、契約するADSL接続サービスを提供している接続業者にお問い合わせください。
本機からADSL接続サービスの申し込みを行うことができます。デスクトップ画面左下の

をクリックし、［ここから始めようVAIO！］、［ブロードバンド常時接続サービスのご紹介］の順にクリックして表示される画面から申し込みを行ってください。

ターミナルアダプタ

コンピュータや従来の一般電話回線対応の通信機器、電話機をつなぐためのISDN回線用の機器です。ISDN回線を使って本機を使用するためには、本機の他にこの機器が必要になります。ターミナルアダプタについて詳しくは、NTT（局番なしの116番）またはターミナルアダプタの製造元にお問い合わせください。

モデム

電子メールをやりとりしたり、インターネット上のホームページを見るために電話をかける装置です。本機には内蔵されていますので、準備する必要はありません。

ソフトウェア

インターネットに接続してホームページを見るには専用のソフトウェア（「ウェブブラウザ」と言います。）が必要です。また、電子メールをやりとりするにも専用のソフトウェアが必要です。本機には両方の専用ソフトウェアが付属しています。

次のページへつづく

インターネットを始める（つづき）

本機には以下のウェブブラウザおよび電子メールソフトウェアが付属しています。

ウェブブラウザ

 Microsoft Internet Explorer

電子メールソフトウェア

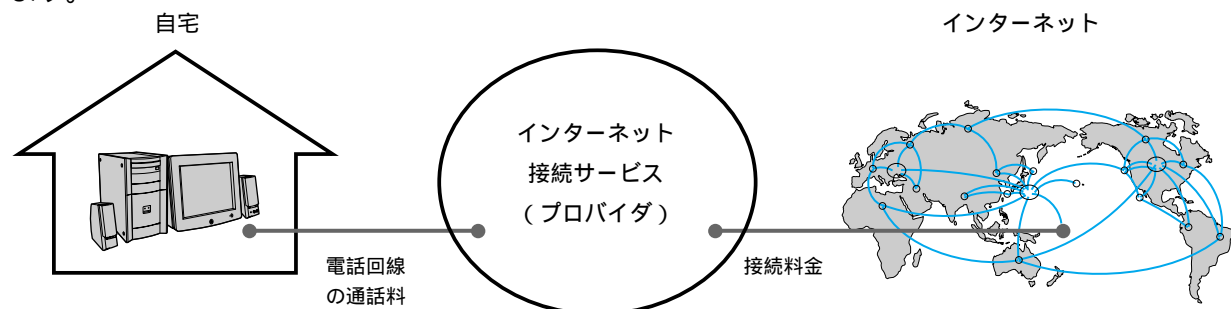
 Outlook Express

 Eudora

 PostPet

本書では、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアと「Outlook Express」ソフトウェアの設定と使いかたを中心に説明していきます。
これらのソフトウェアの特長について詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの楽しみかた］をクリックして、［付属ソフトウェアの一覧］→［コミュニケーション］の順にクリックして表示される各ソフトウェアの情報をご覧ください。

インターネット接続サービス（インターネットサービスプロバイダ）

インターネットにつなぐためには、インターネット接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。この会社のことを「インターネットサービスプロバイダ」または単に「プロバイダ」と言います。（以下、「プロバイダ」と記します。）
プロバイダはインターネットと本機との間を仲介する役割を持っています。
プロバイダと契約すると、インターネットを使って、いろいろな情報が載ったホームページを簡単に見ることができます。また、「電子メールアドレス」という、あなたの住所のようなものが契約時に用意されます。電子メールアドレスは、電子メールを送受信するときの宛先になります。これらのサービスの他に、契約するプロバイダによっていろいろなサービスがあります。
プロバイダと契約すると、サービスに応じた接続料金がかかります。また、プロバイダには電話回線を使って接続するので、接続料金とは別に電話回線の通話料がかかります。

ご注意

- 本機および付属ソフトウェアの設定によっては、本機の電源を切っている間でも、自動的にインターネットに接続することがあります。自動接続すると、接続を自動的に終了しないことがあります。この場合、通話料と接続料金が多額になる可能性がありますので、ご注意ください。
- インターネットに接続している間は、電話をかけたり、受けたりできないことがあります。

インターネット上でのトラブルについて

さまざまなサービスを提供しているインターネットですが、普及に伴いトラブルも発生しています。
インターネットは非常に便利なものですが、使いかたを誤ったり、安易な気持ちで使用すると思わぬトラブルにあう可能性があります。

インターネット上の情報について

インターネット上の情報はすべてが正しいとは限りません。
ひぼう・中傷・暴力・わいせつなど情報を受ける側もモラルを持って情報を利用する必要があります。
また、情報を発信する場合もマナーを守って行わないと、気がつかないところで自分が加害者になる恐れもあります。
ユーザー名やパスワードなどは他人に知られないように管理してください。

コンピュータウイルスやチェーンメールなどの被害について

ホームページからダウンロードしたファイルや悪意を持った人たちから突然送られてくる電子メールには、コンピュータウイルス（コンピュータの動作に悪影響を与えるプログラム）が潜んでいたり、チェーンメールなどにより不快な内容の電子メールが送られてくることもあります。
見知らぬ人から電子メールが送られてきた場合は、安易に開いたり、プログラムを実行せずに削除してください。
また、できるだけインターネットサービスプロバイダなどに報告して、自分が加害者にならないようにしましょう。

次のページへつづく

情報の機密性について

ソフトウェアやOSなどの不具合により、コンピュータの情報などが漏れてしまう可能性があります。悪意の持った人たちの標的になりやすいため対応することが必要です。
ウェブブラウザやOSの各ソフトウェアの情報が、開発元のホームページなどに掲載されていますので、不具合情報をこまめに確認することをおすすめします。
また、電子メールには完全な機密性はありません。送信する内容にはご注意ください。

OSとは

「オペレーティングシステム」の略称で、「オーエス」と読みます。リソースなど、コンピュータ全体を管理し、コンピュータを操作するのに必要な基本ソフトウェアです。本機で使用しているWindowsも代表的なOSの1つです。

インターネットショッピングでのトラブル

インターネットショッピングをするときに、むやみにクレジットカードの番号を入力しないようにご注意ください。プライバシー情報が漏れる可能性があります。
注文した品物と違う、代金を送金したのに品物が届かないなどのトラブルも発生しています。できるだけ信頼のおけるところを利用するなどの注意が必要です。

その他

インターネット上で無料で公開されているソフトウェアの中には、国際電話やダイヤルQ2などに接続し、課金されている場合がありますのでご注意ください。

- インターネット上での個人情報の公開には細心の注意を払いましょう。
- 社会的に犯罪とされているものはインターネット上でも犯罪です。

インターネットに接続するまでの流れ

インターネットを利用してホームページを見たり、電子メールをやりとりするには、本機をインターネットに接続する必要があります。
以下のステップに入る前に次の点を確認してください。

- 本機が正しく電話回線につながっているか（41ページ）
- お使いの電話回線がトーン式ダイヤル、パルス式ダイヤルのどちらか（116ページ）

ISDN回線をご利用の場合はNTT（局番なしの116番）にご相談ください。
以下の流れに従ってインターネットに接続します。詳しくは、各手順の参照ページをご覧ください。

ご注意

「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーのみインターネットに接続するための設定を行うことができます。

1 プロバイダと契約しましょう（127ページ）

プロバイダと契約します。
契約すると、インターネット接続に必要な情報が記載された資料が郵送されてきます。

2 チェックシートを作成しましょう（139ページ）

プロバイダから郵送されてきた資料をもとに、チェックシートを作成します。資料の内容など、インターネット接続の設定の際の不明点については、契約したプロバイダにお問い合わせください（137ページ）。

ご注意

郵送されてくるまでしばらく時間がかかります。

3 接続のための設定をしましょう（145ページ）

チェックシートをもとに、本機を使ってインターネットに接続するための設定をします。

次のページへつづく

4 電子メールソフトウェアの設定をしましょう（153ページ）

電子メールを使うときは電子メールを使うための設定をします。

5 インターネットに接続してみましょう（159ページ）

契約したプロバイダに接続します。

インターネットに接続したあとは、

ホームページを見てみましょう（163ページ）

ホームページを見る練習をします。

電子メールをやりとりしてみましょう（170ページ）

電子メールをやりとりする練習をします。

1 プロバイダと契約する

インターネットに接続するには、インターネット接続サービスを提供する会社「プロバイダ」と契約する必要があります。
数多くのプロバイダがありますので、料金やサービスの内容をご検討の上、ご自分に合ったプロバイダと契約することをおすすめします。料金やサービスの内容について詳しくは、次ページからの手順に従って操作し、DIONの紹介画面や各プロバイダの紹介画面の説明をご覧ください。

ご注意

- 契約時にクレジットカードが必要になるプロバイダもあります。
- 接続料金はプロバイダにより異なります。

プロバイダと契約するには、オンラインサインアップを使うと便利です。

オンラインサインアップとは

電話回線を通じてプロバイダと契約することです。

次ページの手順に従って、オンラインサインアップを始めてみましょう。

次のページへつづく

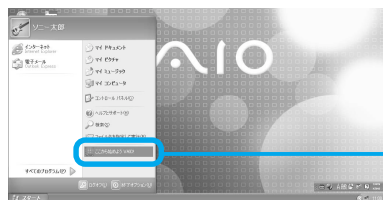
インターネットに接続するまでの流れ（つづき）

ご注意

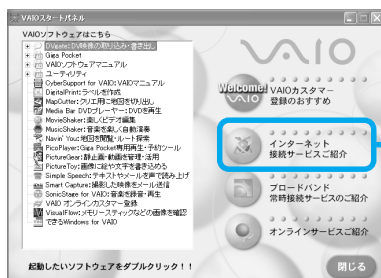
オンラインサインアップソフトウェアによっては、「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーしか使えない場合があります。どのプロバイダのオンラインサインアップソフトウェアでも使えるように「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーでログオンしてください。

プロバイダとWindows XPのユーザー制限

プロバイダ	ユーザー制限
AOL	制限なし
BIGLOBE	「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーのみ
DION	「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーのみ
@nifty	「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーのみ
OCN	「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーのみ
ODN	「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーのみ
So-net	「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーのみ
バイオネットワークサービス	制限なし
ぷらら	制限なし

各プロバイダについて詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの楽しみかた］をクリックして、［付属ソフトウェアの一覧］→［コミュニケーション］の順にクリックして表示される情報をご覧いただくか、各プロバイダの電話番号（137ページ）へお問い合わせください。
また、上記以外のプロバイダと契約するときは、契約するプロバイダにWindowsのユーザー制限についてお問い合わせください。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、［ここから始めようVAIO！］をクリックする。

「VAIOスタートパネル」の画面が表示されます。

2 ［インターネット接続サービスご紹介］をクリックする。

インターネット接続サービス「DION」の説明が表示されます。

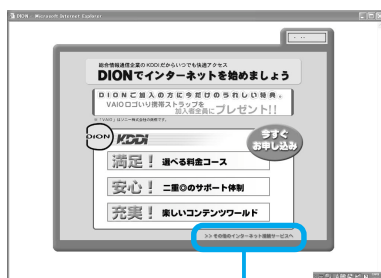
ここからは、入会したいプロバイダに応じて操作してください。

DION**に入会したいときは**：

次ページの「DIONにオンラインサインアップするには」をご覧ください。

その他のプロバイダに入会したいときは：

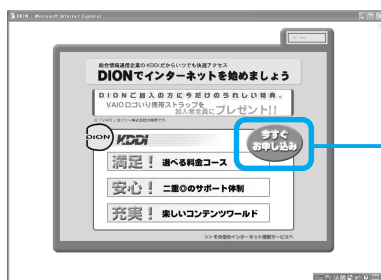
［その他のインターネット接続サービスへ］をクリックしてください。

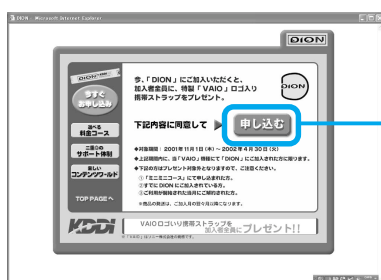
「インターネット接続サービスご紹介」画面が表示されます。

この後の手順については、「DION以外のプロバイダにオンラインサインアップするには」（136ページ）をご覧ください。

DIONにオンラインサインアップするには

ここでは、実際にDIONにオンラインサインアップします。
以下の手順に従って操作してください。

ちょっと一言

下記の画面は、2001年8月現在のものです。実際の画面とは異なる場合がありますのでご了承ください。

1 今すぐお申し込み をクリックする。

DIONの紹介画面が表示されるので、特典や各プランの内容やその他のサービス内容について確認します。

2 DIONの紹介画面の 申し込む をクリックする。

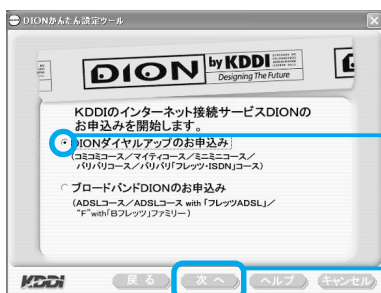
「DIONでインターネットを始めましょう」画面が表示されます。

3 今すぐお申込み をクリックする。

「KDDIのインターネット接続サービス「DION」へようこそ」画面が表示されます。

4 画面に表示された利用規約の内容を確認の上、次へ をクリックする。

「KDDIのインターネット接続サービスDIONのお申込みを開始します。」画面が表示されます。

5 [DIONダイヤルアップのお申込み]の ◯ をクリックして ◉ にして、次へ をクリックする。

「総合オープン通信網サービス契約約款」画面が表示されます。

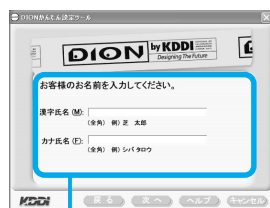
次のページへつづく

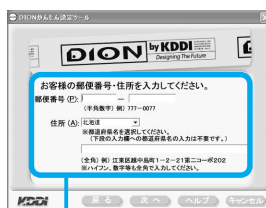
6

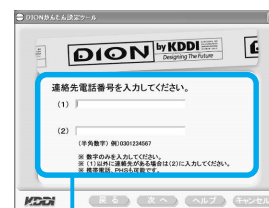
画面の内容を確認の上、 次へ をクリックする。

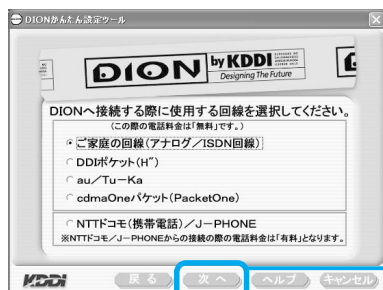
「申込区分を選択してください。」画面が表示されます。

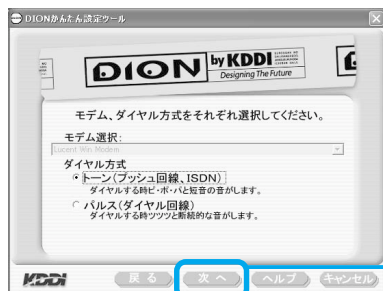
7

［個人でお申込み］または［法人でお申込み］のどちらかの ○ をクリックして ◉ にして、 次へ をクリックする。

「お客様のお名前を入力してください。」画面が表示されます。

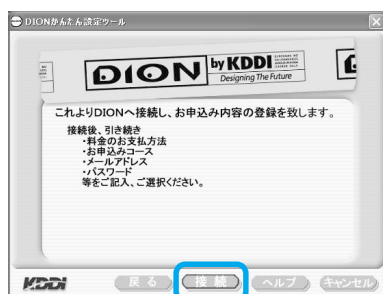
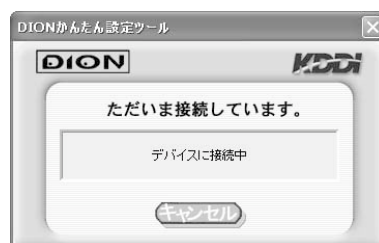
8

お客様の情報を入力する。

お客様の名前、郵便番号、住所、電話番号を表示される画面に従って入力して 次へ をクリックしてください。

「DIONへ接続する際に使用する回線を選択してください。」画面が表示されます。

9 使用される回線の ◯ をクリックして ◉ にして、［次へ］をクリックする。

「モデム、ダイヤル方式をそれぞれ選択してください。」画面が表示されます。

10 「ダイヤル方式」の［トーン（プッシュ回線、ISDN）］または［パルス（ダイヤル回線）］の ◯ をクリックして ◉ にして、［次へ］をクリックする。

「これよりDIONへ接続し、お申込み内容の登録を致します。」画面が表示されます。

11 ［接続］をクリックする。

「ただいま接続しています。」画面が表示されます。

接続が完了すると「DIONお申込み画面」が表示されます。

次のページへつづく

12

画面の「エントリーコード」が「6020210MV005010」であることを確認し、画面をスクロールして手順8で入力したお客様情報を確認の上、「お支払い方法」、「お申込みコース」、「メールアドレス」等を入力する。
入力内容を確認して OK をクリックする。

「お申込み内容の確認」画面が表示されます。

13

画面の内容を確認し、画面をスクロールして OK をクリックする。

「お申込み完了」画面が表示されます。

14 表示された登録内容をメモに取り、画面をスクロールして［自動設定］をクリックする。

「ファイルのダウンロード」画面が表示されます。

15 開く(O) をクリックする。

これでDIONとの契約が完了しました。

次のページへつづく

DION以外のプロバイダにオンラインサインアップするには

お好みのプロバイダのアイコンをクリックして、入会する手続きを開始します。

画面の指示に従って操作してください。

お好みのプロバイダのアイコンをクリックする。

プロバイダとの契約後にインターネット接続を手動で設定する、またはLAN（ネットワーク）を使って接続するときは

「インターネット接続サービスご紹介」画面右下の［こちらへ］をクリックします。
「インターネット接続ウィザード」画面が表示されるので、郵送されてきた資料の設定情報をご覧になり、画面の指示に従って必要事項を入力してください。

入会手続きをしない、またはあとでするときは

「インターネット接続サービスご紹介」画面右上の をクリックします。

入会手続きが終わると、インターネットが使えるようになります。

プロバイダと契約したあとは

契約後はプロバイダから契約内容とインターネットに接続するために必要な情報が記載された資料がお手元に郵送されてくるまでお待ちください。
すぐにインターネットに接続したいときは、契約するプロバイダにご相談ください。
各プロバイダについて詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの楽しみかた］をクリックして、［付属ソフトウェアの一覧］→［コミュニケーション］をクリックして表示される情報をご覧いただくか、下記の電話番号へお問い合わせください。

AOL
株式会社ドコモAOL　AOLサポートセンター
受付時間：9時〜21時（年中無休）
会員サポート・入会問い合わせ：(0120) 275-265（フリーダイヤル）
携帯電話および国際電話によるサポート：(03) 5331-7400
電子メール：AOLJapanMS@aol.com

BIGLOBE
BIGLOBEカスタマーサポート　インフォメーションデスク
電話番号：(0120) 86-0962（フリーダイヤル）
携帯電話：(03) 3947-0962
受付時間：24時間365日
電子メール：info@bcs.biglobe.ne.jp
ホームページ：http://www.biglobe.ne.jp

DION
KDDIカスタマーサービスセンター
サービス内容に関するお問い合わせ
電話番号：(0077) 7192（無料）
接続・設定などに関するお問い合わせ
電話番号：(0077) 20227（有料、全国一律1分10円）
上記番号につながらない場合は
札幌 (011) 232-7012（有料）
東京 (03) 5348-3975（有料）

@nifty
ニフティ株式会社　@niftyサービスセンター
電話番号：(0120) 816-042（フリーダイヤル）
携帯電話・PHS・国際電話の場合：(03) 5753-2374（電話料金はお客様負担となります。）

ご注意
お問い合わせの際は、電話番号をよくお確かめください。
受付時間：毎日9時〜21時
（ビルの電源工事などによりお休みさせていただく場合があります）

次のページへつづく

OCN
OCNインフォメーションデスク
電話番号：(0120) 047-815（フリーダイヤル）
受付時間：9時～21時（月～金曜日）
9時～17時（土曜日・日曜日・祝日）
電子メール：info@ocn.ad.jp

ODN
日本テレコム株式会社　ODNサポートセンター
電話番号：0088-86（無料）

So-net
ソニーコミュニケーションネットワーク株式会社
So-net インフォメーションデスク
電話番号：全国共通（0570）00-1414
携帯・PHSからおかけになる場合は、こちらへおかけください。
札幌（011）711-3765／仙台（022）256-2221／
東京（03）3446-7555／名古屋（052）819-1300／大阪（06）6577-4000／
広島（082）286-1286／福岡（092）624-3910
受付時間：10時～21時（年中無休）
ご入会方法、サービス内容のお問い合わせ、各種会員情報の変更方法や課金状況の確認などのお問い合わせは、上記の電話番号のほか、ファックスや電子メールでも承ります。
ファックス番号：(03) 3446-7557
電子メール：info@so-net.ne.jp

バイオネットワークサービス
ソニースタイルドットコム・ジャパン（株）　バイオネットワークサービスセンター
電話番号：(03) 5783-1133

ぷらら
株式会社ぷららネットワークス「ぷららダイアル」
電話番号：0120-488912（スバヤクイージー）
テクニカル：(03) 5954-5311

2 チェックシートを作成する

プロバイダと契約を結ぶと、通常、インターネットに接続するために必要な情報が記載された資料が郵送されてきます。
その資料をもとにインターネットに接続するための設定をします。
プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になりながら、次ページのチェックシートをあらかじめ作成しておくと、「接続のための設定をする」（145ページ）および「電子メールソフトウェアの設定をする」（153ページ）の手順でインターネットに接続するための設定が簡単になります。
141ページからの説明に従ってチェックシートの各項目をご記入ください。

ご注意

- このチェックシートに書き込む内容は、あなたの個人情報です。取り扱いには充分ご注意ください。
- このチェックシートは、将来、再度設定し直さなければならないときなどにも活用できますので、この説明書は大切に保管しておいてください。
- 他人にご自分のパスワードなどの情報が漏れないようにご注意ください。パスワードは、他人に自分の名前を使われたり、電子メールを読まれたりしないようにするためのものです。できるだけ紙に書き留めず、記憶しておくことをおすすめします。
- 「❹パスワード（PPP）」はプロバイダに電話回線を通じて接続できるようにするためのパスワードです。「⓮パスワード（POPアカウントパスワード）」は電子メールを受信できるようにするためのパスワードです。これらのパスワードは両方とも同じでも、別々でもかまいません。これらのパスワードはWindowsを使用するときのパスワードとは異なります。

ちょっと一言

- 他人に見られることがないように、次ページを複写した上で各項目を記入し、厳重に保管することをおすすめします。
- 複写した紙に記入しておくと、153ページからの設定を行うときに便利です。

次のページへつづく

設定項目	あなたの設定値	例（So-net の場合）
❶ ダイヤルアップ接続名		So-net 東京第16
❷ 電話番号（アクセスポイント）		03-5792-9060
❸ ユーザー名（PPP）		ichiro@aa2
❹ パスワード（PPP）		
❺ 市外局番		03
❻ トーン／パルス（電話回線の種類）		
❼ DNSサーバーアドレス（プライマリDNS）	. . .	202.238.95.24
❽ 別のDNSサーバーアドレス（セカンダリDNS）	. . .	202.238.95.26
❾ 表示名（差出人フィールドでの表示）		Ichiro Suzuki
❿ 電子メールアドレス	@	ichiro@aa2.so-net.ne.jp
⓫ 受信メール（POP3、IMAPまたはHTTP）サーバー		pop.aa2.so-net.ne.jp
⓬ 送信メール（SMTP）サーバー		mail.aa2.so-net.ne.jp
⓭ POPアカウント名		ichiro
⓮ パスワード（POPアカウントパスワード）		
⓯ インターネットメールアカウント名		ichiro@aa2.so-net.ne.jp

記入内容がわからないときは契約したプロバイダにお問い合わせください。

「❼DNSサーバーアドレス（プライマリDNS）」、「❽別のDNSサーバーアドレス（セカンダリDNS）」、「⓫受信メール（POP3、IMAPまたはHTTP）サーバー」、「⓬送信メール（SMTP）サーバー」は、プロバイダによっては設定しなくてよいことがあります。

設定項目について

❶ ダイヤルアップ接続名

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、[コントロールパネル]、[ネットワークとインターネット接続]、[ネットワーク接続]の順にクリックして表示される接続名です。

お好みの名前をご記入ください。

例：So-net 東京第16

ちょっと一言

プロバイダによっては、オンラインサインアップソフトウェアを使って契約すると自動的に接続アイコンが作られ、名前も付けられます。

❷ 電話番号（アクセスポイント）

プロバイダから送られてきた資料をご覧になり、プロバイダのアクセスポイントの電話番号（接続先の電話番号）をご記入ください。アクセスポイントは「V.90」に対応しているものをお選びになると、より高速な通信ができます。

例：03-5792-9060

アクセスポイントとは

一般加入電話からインターネットに接続するために、プロバイダが設けている接続地点のことです。インターネットの利用者は接続地点までの電話料金を負担する必要があるので、利用地点からより近いアクセスポイントで接続する方が通話料は少なくてすみます。

ご注意

- ここで記入する電話番号はご自分の電話番号ではありませんのでご注意ください。
- 電話番号は必ず市外局番からご記入ください。
- ISDN回線をお使いの場合やPHSを使ってインターネットに接続するときは、電話番号が異なる場合があります。詳しくは契約したプロバイダにお問い合わせください。

❸ ユーザー名（PPP）

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、プロバイダにダイヤルアップ接続するときに使用するユーザー名をご記入ください。

例：ichiro@aa2

ちょっと一言

ユーザー名は「ユーザーID」、「PPPログイン名」、「ネットワークID」、「接続ログイン名」、「アカウント名」、「ログオン名」などともいいます。

PPPとは

「Point to Point Protocol」の略で、ネットワークに接続する方法の1つです。電話による接続が一般的なことからダイヤルアップ接続とも呼ばれています。

次のページへつづく

❹ パスワード（PPP）

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、プロバイダにダイヤルアップ接続するときに使用する、ユーザー名に対するパスワードを記入します。

ちょっと一言

- このパスワードは「PPPパスワード」、「ネットワークパスワード」、「接続パスワード」などともいいます。
- パスワードの入力は、一般的に半角の英数字や記号などを使います。

ダイヤルアップ接続とは

電話回線を通じてインターネットに接続することです。

❺ 市外局番

ご自分の電話番号の市外局番をご記入ください。
例：03

❻ トーン／パルス（電話回線の種類）

お使いの電話回線のダイヤル方法がトーン式かパルス式か確認してご記入ください。

トーン式： 電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、「カチカチ」と音がしない電話機のダイヤル方法です。

パルス式： ボタンではなくダイヤルを回す電話機、またはダイヤルボタンを押すたびに「カチカチ」と音がする電話機のダイヤル方法です。パルス式ダイヤルの場合、ダイヤルボタンを押すと受話器から電子音が聞こえるものもあります。

お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、NTTなどの電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。
請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線（基本）使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。
電話回線のダイヤル方法について詳しくは、NTT（局番なしの116番）などの電話会社にお問い合わせください。

❼ DNSサーバーアドレス（プライマリDNS）

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、ご記入ください。
例：202.238.95.24

ちょっと一言

- DNSサーバーは「ネームサーバー」、「プライマリDNSサーバー」、「プライマリネームサーバー」、「ドメインネームサーバー」ともいいます。
- この項目が必要ないプロバイダもあります。詳しくは、プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になるか、契約したプロバイダにお問い合わせください。

❽ 別のDNSサーバーアドレス（セカンダリDNS）

前ページの「❼DNSサーバーアドレス」以外のアドレスがプロバイダから郵送されてきた資料に書かれている場合はご記入ください。
DNSサーバーアドレスは1つだけのプロバイダもあります。この場合は、「❽別のDNSサーバーアドレス」は空欄のままでかまいません。
例：202.238.95.26

❾ 表示名（差出人フィールドでの表示）

あなたが送る電子メールの差出人欄に表示する名前をお好みでご記入ください。通常はご自分の名前のフルネームにします。
例：Ichiro Suzuki

ちょっと一言

この表示名は全角の漢字でも良いですが、日本語圏以外の相手に電子メールを送ることが多い方は半角のアルファベットにすることをおすすめします。こうすることによって電子メールを送った相手には「Ichiro Suzuki<ichiro@aa2.so-net.ne.jp>」などと表記されます 。

❿ 電子メールアドレス

電子メールをやりとりするときのあなたの宛先をご記入ください。
プロバイダから郵送されてきた資料には「xxxxx@xxxx.xx.xx」と記載されています。電子メールアドレスは、あなたの住所と同じ役割をします。
例：ichiro@aa2.so-net.ne.jp

ちょっと一言

電子メールアドレスは、「E-Mailアドレス」、「Mailアドレス」、「メールアドレス」などともいいます。

⓫ 受信メール（POP3、IMAPまたはHTTP）サーバー

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、電子メールを受け取るサーバーのアドレスをご記入ください。受信メールサーバーは、郵便局のような役割をします。受信メールサーバーからあなたの電子メールアドレスに電子メールが送られます。
例：pop.aa2.so-net.ne.jp

ちょっと一言

- 受信メールサーバーは、「メールサーバー」、「POPサーバー」、「メール受信サーバー」、「POP3」などともいいます。
- この項目が自動的に設定されるプロバイダもあります。詳しくは、プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になるか、契約したプロバイダにお問い合わせください。

次のページへつづく

⓬ 送信メール（SMTP）サーバー

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、電子メールを送信するサーバーのアドレスをご記入ください。送信メールサーバーも郵便局のような役割をします。あなたが送った電子メールを受け取り、送り先の電子メールアドレスに送ります。

例：mail.aa2.so-net.ne.jp

ちょっと一言

- 送信メールサーバーは「メールサーバー」、「SMTPサーバー」、「メール送信サーバー」、「SMTP」などともいいます。「⓫受信メールサーバー」と同じ場合もあります。
- この項目が自動的に設定されるプロバイダもあります。詳しくは、プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になるか、契約したプロバイダにお問い合わせください。

⓭ POPアカウント名

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、受信メールサーバーにアクセスするためのアカウント名をご記入ください。「❿電子メールアドレス」の「@」（アットマーク）より前の部分を記入します。電子メールを見るためには、このアカウント名と「⓮パスワード」の両方が必要になります。

例：「ichiro@aa2.so-net.ne.jp」が電子メールアドレスなら、POPアカウント名は「ichiro」になります。

ちょっと一言

POPアカウント名は「メールアカウント名」、「メールサーバーログイン名」、「メールログイン名」、「POPサーバーアカウント」、「POPサーバーログイン名」ともいいます。「❸ユーザー名」と同じ場合もあります。

⓮ パスワード（POPアカウントパスワード）

受信メールサーバーにアクセスするためのアカウント名に対する
パスワードを半角の英数字でご記入ください。

電子メールを見るためには、「⓭POPアカウント名」とこのパスワードの両方が必要になります。

ちょっと一言

このパスワードは、「メールパスワード」、「メールサーバーパスワード」などともいいます。

⓯ インターネットメールアカウント名

お好みの名前をご記入ください。わかりやすいように電子メールアドレスを入れることをおすすめします。

例：ichiro@aa2.so-net.ne.jp

3 接続のための設定をする

本機をインターネットに接続するための設定を行います。
ここでは、本機の内蔵モデムを使ってインターネットにダイヤルアップ接続するための設定方法を説明します。
「チェックシートを作成する」（139ページ）で作成したチェックシートをご覧になりながら、各項目に記入した内容を実際の画面の入力欄にキーボードを使って入力していきます。以下の手順に従って操作してください。

1 本機の電源を入れる。

電源の入れかたについては、「電源を入れる」（47ページ）をご覧ください。

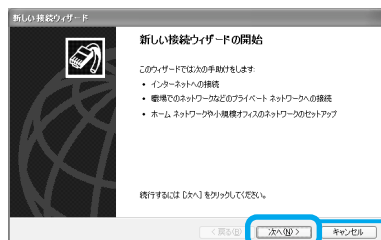
2 デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、[インターネット]をクリックする。

ここをクリックする。

「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されます。

「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されないときは

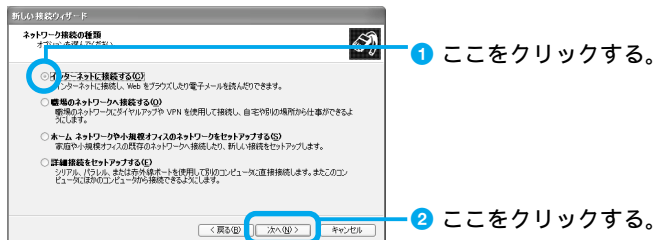
接続のための設定が終わったあとは スタート 、[インターネット] の順にクリックすると、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアが起動するようになります。もう1度「新しい接続ウィザード」を表示させたいときは、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして [すべてのプログラム] にポインタを合わせ、[アクセサリ]、[通信]、[新しい接続ウィザード] の順にクリックします。

3 次へ(N) > をクリックする。

ここをクリックする。

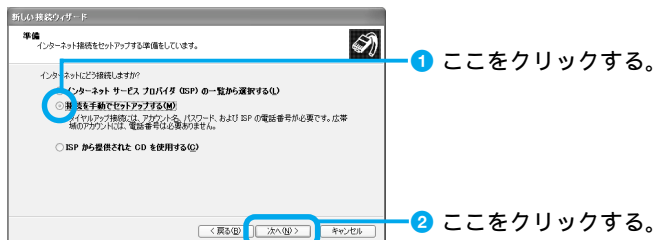
「ネットワーク接続の種類」画面が表示されます。

次のページへつづく

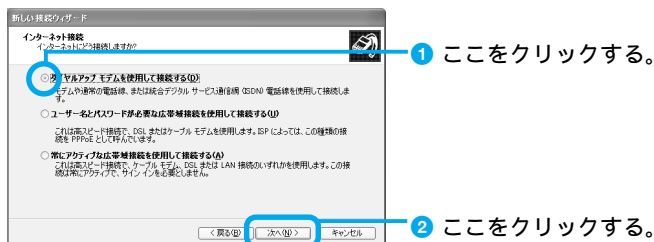
4

[インターネットに接続する] の ○ をクリックして ◉ にし、 次へ(N) > をクリックする。

「準備」画面が表示されます。

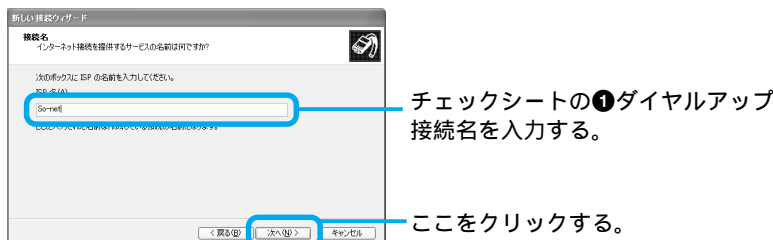
5

[接続を手動でセットアップする] の ○ をクリックして ◉ にし、 次へ(N) > をクリックする。

「インターネット接続」画面が表示されます。

6

[ダイヤルアップモデムを使用して接続する] の ○ をクリックして ◉ にし、 次へ(N) > をクリックする。

「接続名」画面が表示されます。

7

「ISP名」（ダイヤルアップ接続名）を入力し、 次へ(N) > をクリックする。

「ダイヤルする電話番号」画面が表示されます。

8 アクセスポイントの電話番号を入力し、 次へ(N) > をクリックする。

「インターネットアカウント情報」画面が表示されます。

9 ユーザー名とパスワードを入力し、「パスワードの確認入力」に同じパスワードを再度入力してから、 次へ(N) > をクリックする。

「新しい接続ウィザードの完了」画面が表示されます。

ちょっと一言

「パスワード」はパスワードの文字数と同じ数の「＊」で表示されます。

10 完了 をクリックする。

「新しい接続ウィザード」が終了します。

ちょっと一言

「新しい接続ウィザードの完了」画面の「この接続へのショートカットをデスクトップに追加する」にチェックしておくと、デスクトップ画面上にダイヤルアップ接続のアイコンが作られます。

11 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

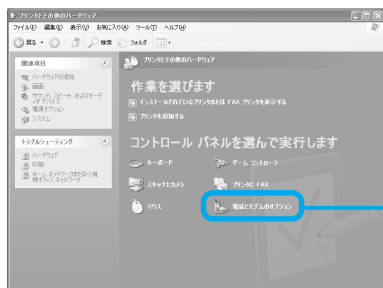
次のページへつづく

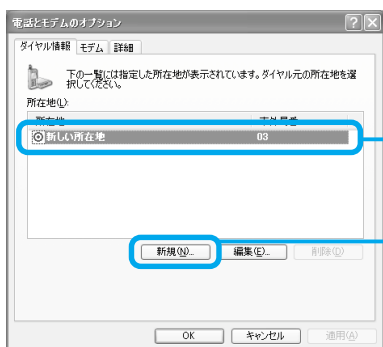
12 ［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする。

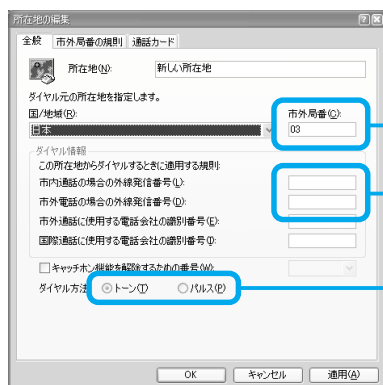
「プリンタとその他のハードウェア」画面が表示されます。

ちょっと一言

手順12および13の画面での操作はお買い上げ時の状態です。

13 ［電話とモデムのオプション］をクリックする。

「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。

14 設定されている所在地をクリックして選び、［編集(E)...］をクリックする。

「所在地の編集」画面が表示されます。

15 各項目を以下のように設定し、 OK をクリックする。

16 「電話とモデムのオプション」画面の OK をクリックする。

手順17以降は、チェックシートに❼DNSサーバーアドレス（プライマリDNS）および❽別のDNSサーバーアドレス（セカンダリDNS）を記入した場合（プロバイダから郵送されてきた資料にDNSサーバーアドレスが記入されている場合）のみ、操作を行ってください。

17 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［接続］にポインタを合わせ、［すべての接続の表示］をクリックする。

「ネットワーク接続」画面が表示されます。

ちょっと一言

以下の方法でも「ネットワーク接続」画面を表示することができます（お買い上げ時のウィンドウの設定の場合）。
デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、［コントロールパネル］をクリックする。表示された「コントロールパネル」画面で［ネットワークとインターネット接続］アイコンをクリックする。表示された「ネットワークとインターネット接続」画面で［ネットワーク接続］アイコンをクリックする。

次のページへつづく

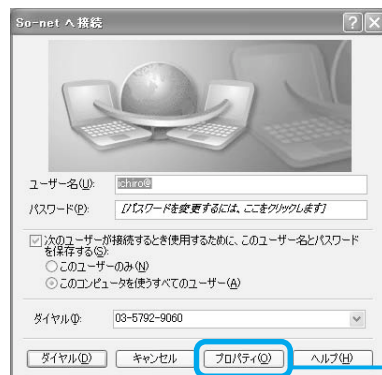
18 ダイヤルアップ接続（チェックシート❶）のアイコンをダブルクリックする。

So-netの例では［So-net］をダブルクリックします。

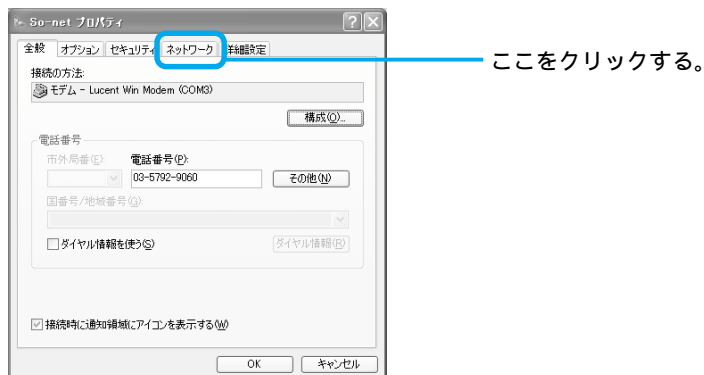
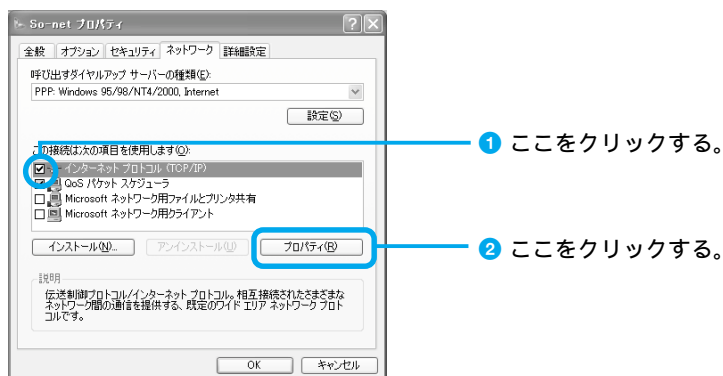
「So-netへ接続」画面が表示されます。

ちょっと一言

手順10で、「新しい接続ウィザードの完了」画面の「この接続へのショートカットをデスクトップに追加する」にチェックしておくと、デスクトップ画面上にダイヤルアップ接続のアイコンが作られます。これをダブルクリックして、手順19に進むこともできます。

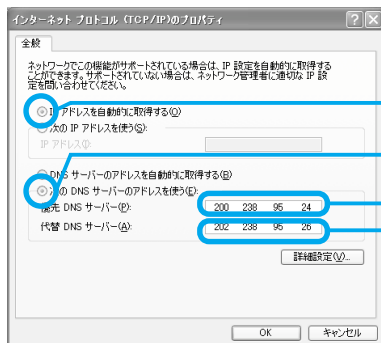
19 プロパティ(P) をクリックする。

ここをクリックする。

ダイヤルアップ接続名のプロパティ画面が表示されます。

20 [ネットワーク] タブをクリックする。

21 「この接続は次の項目を使用します」で [インターネットプロトコル (TCP/IP)] の □ をクリックして ☑ にし、 プロパティ(P) をクリックする。

「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面が表示されます。

次のページへつづく

22 各項目を以下のように設定する。

- ［IPアドレスを自動的に取得する］をクリックする。
- ［次のDNSサーバーのアドレスを使う］をクリックし、DNSサーバーアドレスを入力する。

ちょっと一言

「❼DNSサーバーアドレス（プライマリDNS）」と「❽別のDNSサーバーアドレス（セカンダリDNS）」は同じ場合があります。このときは「代替DNSサーバー」には入力する必要はありません。

23 OK をクリックする。

「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面が閉じます。

24 ダイヤルアップ接続名のプロパティ画面で OK をクリックする。

ダイヤルアップ接続名のプロパティ画面が閉じます。

25 「（ダイヤルアップ接続名）へ接続」画面で キャンセル をクリックする。

「（ダイヤルアップ接続名）へ接続」画面が閉じます。
これでインターネット接続のための設定は終わりです。

4 電子メールソフトウェアの設定をする

電子メールのやりとりを正しく行えるようにするための設定を行います。
ここでは、本機に付属の電子メールソフトウェア「Outlook Express」※を例に電子メールをやりとりするための設定をしていきます。

※本書で使われている「Outlook Express」ソフトウェアの画面のイラストは、本機にインストールされているバージョンです。

ちょっと一言

「Outlook Express」ソフトウェアの設定は1度行えば、2回目以降の起動時には不要です。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［電子メール］をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが起動し、インターネット接続ウィザードの「名前」画面が表示されます。

2 表示したい名前を入力し、 次へ(N) > をクリックする。

「インターネット電子メール アドレス」画面が表示されます。

次のページへつづく

3 電子メールアドレスを入力して、 次へ(N) > をクリックする。

「電子メール サーバー名」画面が表示されます。

4 受信メールサーバーと送信メールサーバーの名前を入力し、 次へ(N) > をクリックする。

「インターネット メール ログオン」画面が表示されます。

ちょっと一言

「⑪受信メール（POP3、IMAPまたはHTTP）サーバー」の名前と「⑫送信メール（SMTP）サーバー」の名前は同じ場合があります。

POPアカウント名とパスワードを入力し、 次へ(N) > をクリックする。

「設定完了」画面が表示されます。

ちょっと一言

- 「パスワード」は「＊」で表示されます。
- 「パスワードを保存する」の□をクリックして☑にすると、実際にインターネットに接続するときの「接続」画面（160ページの手順2）でパスワードを入力する手間が省けます。

6 完了 をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアの設定が完了します。

ご注意

完了 をクリックしたあと、その他の画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示に従って操作してください。

次のページへつづく

ちょっと一言

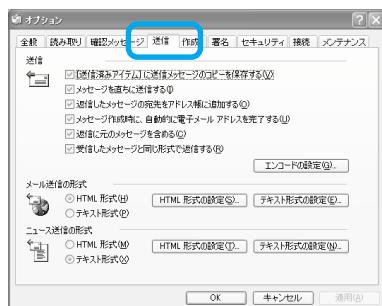
「Outlook Express」ソフトウェアで作成したメッセージは初期設定でHTML形式になります。HTML形式に対応していない電子メールソフトウェアを使っている相手にHTML形式のメッセージを送ると、相手側が正しく受け取れないことがあります。メッセージはテキスト形式で送ることをおすすめします。

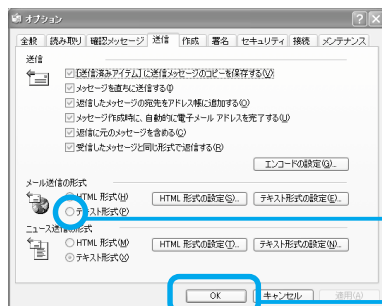
メッセージをテキスト形式で送るように設定するには、以下の手順に従ってください。

1 **「Outlook Express」画面上部の［ツール］をクリックし、表示されるメニューから［オプション］をクリックする。**

「オプション」画面が表示されます。

2 **［送信］タブをクリックする。**

「送信」画面が表示されます。

3 **「メール送信の形式」で［テキスト形式］をクリックし、［OK］をクリックする。**

送信するメッセージがテキスト形式になります。

電子メールをテキストのみで送りたいときも同様の設定でお使いください。

HTMLとは

ホームページを作成するためのページ記述言語のことです。

7 画面右上の ☒（「閉じる」ボタン）をクリックする。

ここをクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが終了します。

ちょっと一言

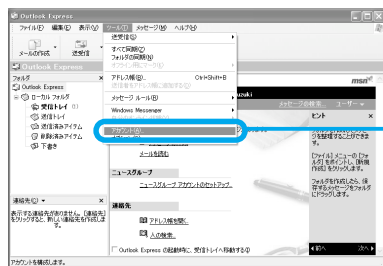
電子メールのアカウントを追加するなど、もう1度「インターネット接続ウィザード」を表示させたいときは、「Outlook Express」画面で［ツール］をクリックし、［アカウント］をクリックします。表示される「インターネットアカウント」画面で［追加］をクリックし、［メール］タブをクリックします。

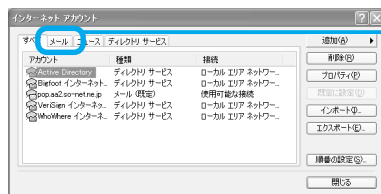
電子メールの設定を変更するには

チェックシートの「⑮インターネットメールアカウント名」は、下記の方法で変更できます。

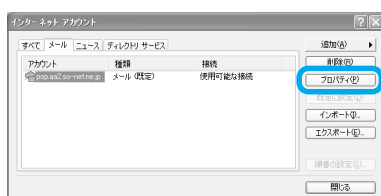
1 「Outlook Express」画面で、［ツール］をクリックする。

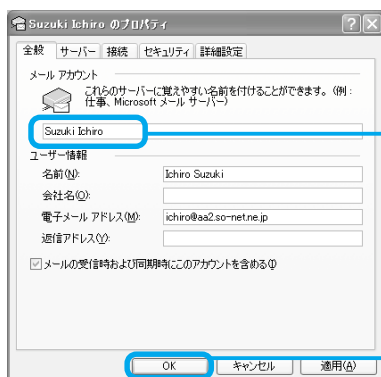
「ツール」メニューが表示されます。

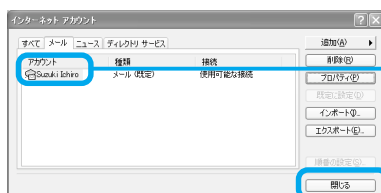
2 ［アカウント］をクリックする。

「インターネット アカウント」画面が表示されます。

次のページへつづく

3 ［メール］タブをクリックする。

「メール」画面が表示されます。

4 プロパティ(P) をクリックする。

プロパティ画面が表示されます。

5 「pop.aa2.so-net.ne.jp」と反転表示されている部分を変更し OK をクリックする。

ここでは「Suzuki Ichiro」と入力してみます。

6 名前を変更した場合は、変更されているか確認して、閉じる をクリックする。

7

「Outlook Express」画面で右上の ✕（「閉じる」ボタン）をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが終了します。

5 インターネットに接続する

契約したプロバイダのインターネットサーバーに接続するには、以下の手順に従って操作してください。

インターネットサーバーとは

常時インターネットに接続され、アクセス可能なコンピュータのことです。
ホームページ・サーバー、メールサーバーなどがあります。

1

デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、[接続]、[ダイヤルアップ接続名（チェックシートの❶）] の順にクリックする。

下の例では［So-net］をクリックします。

「接続」画面が表示されます。

次のページへつづく

2 「接続」画面の各項目を入力または確認する。

❶ ユーザー名（チェックシートの❸）と電話番号（チェックシートの❷）が正しいか確認する。

❷ ダイヤル(D) をクリックする。

プロバイダのインターネットサーバーに接続します。

「現在（ダイヤルアップ接続名）に接続しています。」画面が表示されたときは、OK をクリックします。
OK をクリックする前に［今後、このメッセージを表示しない］の ☐ をクリックして ☑ にしておけば、次回からこの画面は表示されません。
デスクトップ画面右下には が表示されます。
これで、接続は完了です。
インターネットに接続しているときは、常にデスクトップ画面右下に が表示されます。
ホームページを見たり、電子メールをやりとりするには、次ページ以降をご覧ください。
接続を切断するときは：162ページの「接続を切断するには」をご覧ください。
接続できなかった場合は：「困ったときは」の「モデム／インターネット」（212ページ）をご覧ください。

パスワード（チェックシートの❹）を変更するには

手順2の「接続」画面で［パスワード］に新しいパスワードを入力します。

ご注意

- 「次のユーザーが接続するとき使用するために、このユーザー名とパスワードを保存する」の □ をクリックして ☑ にし、ユーザーの種類を選ぶと、パスワードを保存することができ、次回からパスワードを入力する手間が省けます。しかし、他人に勝手にインターネットに接続される恐れがありますのでご注意ください。

ちょっと一言

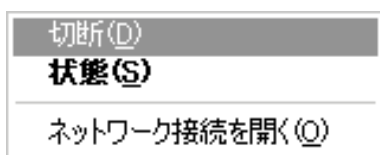
- 「パスワード」（チェックシートの❹パスワード（PPP））は「＊」で表示されます。
- 「パスワード」の入力欄は、「電子メールソフトウェアの設定をする」の手順5（155ページ）で「パスワードを保存する」の □ をクリックして ☑ にしておくと入力された状態で表示されます。
- インターネットに接続していないときに、ウェブブラウザでホームページを見ようとしたり、電子メールソフトウェアで電子メールをやりとりしようとした場合、「接続」画面が表示され、そこからインターネットに接続することができます。接続先とユーザー名を確認し、パスワードを入力して ダイヤル(D) をクリックします。

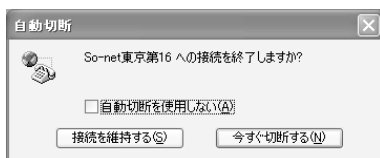
次のページへつづく

接続を切断するには

インターネットに接続している間は、ホームページを見たり、電子メールをやりとりするなどの操作を行っていないときでも通話料やプロバイダへの接続料金がかかります。また「Microsoft Internet Explorer」や「Outlook Express」ソフトウェアを終了しても、インターネットへの接続は解除されません。操作を行わないときや操作が終わったあとなどは、インターネットの接続を切断します。

接続を切断するには、以下の3つの方法があります。

- **デスクトップ画面右下の をを右クリックして表示されるメニューから[切断]をクリックする。**

- **デスクトップ画面右下の をダブルクリックして表示される「(ダイヤルアップ接続名）に接続」画面で 切断(D) をクリックする。**

- **「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを終了すると表示される「自動切断」画面で 今すぐ切断する(N) をクリックする。**

ちょっと一言

- 電子メールを書いているときや電子メールを受け取ったあとに読むときは、インターネットの接続を切断しておけば接続料金はかかりません。
- 「自動切断」画面は「自動切断を使用しない」の ☐ をクリックして ☑ にすると、次回インターネットに接続したときからは表示されません。

ホームページを見る

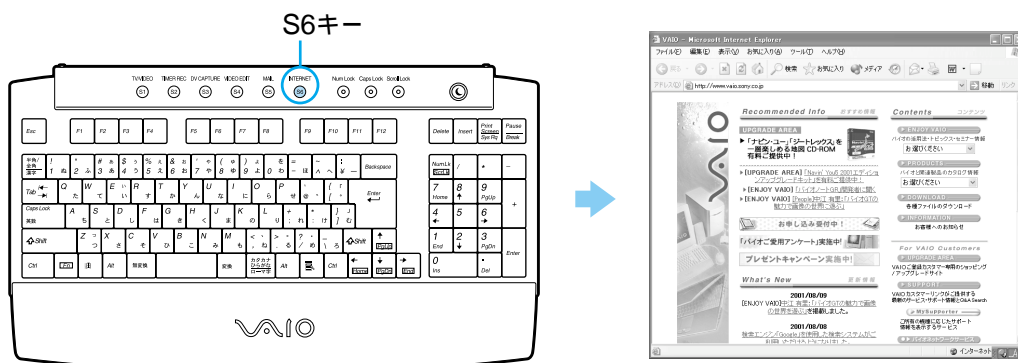
インターネット上のホームページを見てみます。ホームページを見るには、「ウェブブラウザ」という専用ソフトウェアが必要です。ここでは、付属の「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを使ってホームページを見てみます。

以下の操作をする前に、デスクトップ画面右下に が表示されていることを確認してください。表示されていれば、インターネットに接続しています。インターネットに接続していない場合は、下記の操作を行うと、「インターネット接続ウィザード」が起動します。「インターネットに接続する」（159ページ）の手順に従い、インターネットに接続し、 を表示させてください。

1 「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動する

まず「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動します。

キーボードの S6 キーを押す。

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアが起動し、ホームページが表示されます。

ちょっと一言

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動するには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［インターネット］をクリックする方法もあります。

ご注意

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動したときに表示されるホームページは各自の設定により異なります。上の図は、最初に表示されるホームページをVAIOホームページに設定したときの例です。設定のしかたについては、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

ホームページが表示されなかった場合は、「困ったときは」の「モデム／インターネット」（212ページ）をご覧ください。

次のページへつづく

2 「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアにあらかじめ登録されているホームページを見る

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアにあらかじめ登録されているホームページを見ることができます。ここでは、VAIOカスタマーリンクのホームページを見てみましょう。

1 メニューバーの［お気に入り］をクリックする。

メニューが表示されます。

2 ［ソニーお勧めのサイト］にポインタを合わせ、［VAIOカスタマーリンク］の順にクリックする。

VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。

3 ホームページのURL（ユーアールエル）を入力してホームページを見る

見たいホームページのURLをすでにご存知の場合は、アドレスバーにそのURLを入力します。

ここでは、VAIOカスタマーリンクのホームページ（URL：http://vcl.vaio.sony.co.jp/）を見てみます。

URLとは

インターネット上で使われるホームページにはそれぞれ特定の住所があります。この住所のことを「URL」と言います。URLを書き込むことでホームページが見られます。

1 アドレスバーに「http://vcl.vaio.sony.co.jp/」と入力する。

「~」（チルダ）を入力するには

インターネットのホームページのアドレスなどによく使われる半角の「~」（チルダ）を入力するには、「直接入力」（90ページ）または「半角英数」を選び、Shift（シフト）キーを押しながら ~ ^ へ キーを押します。

2 キーボードの Enter（エンター）キーを押す。

VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。

次のページへつづく

4 リンクをたどる

ホームページから他のホームページにジャンプしたり、データをインターネット上から本機にコピーすることができます。このように、ホームページから、他のページにジャンプしたり、データにジャンプすることを「リンクする」と言います。
ここでは、VAIOカスタマーリンクのホームページから、ENJOY VAIOのホームページにジャンプしてみましょう。

マウスを使って（ポインタ）を［ENJOY VAIO］に移動して、に変わったらクリックする。

ENJOY VAIOのホームページが表示されます。

ここをクリックする。

ちょっと一言

ホームページの中で、（ポインタ）がに変わる文字や画像は、リンクが張られているところです。

5 目的のホームページを検索して見る

目的のホームページを「検索」メニューで検索することができます。
ここでは「VAIO」を検索してみましょう。

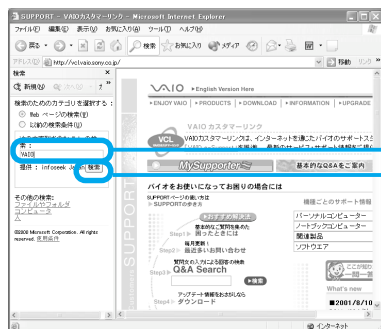
1

ツールバーの 検索 をクリックする。

ここをクリックする。

検索画面が表示されます。

2

検索画面の中央上にある　　　　　　　　　の中に「VAIO」と入力し、検索 をクリックする。

該当するホームページの検索結果が一覧表示されます。

3

検索結果から、見たいホームページをクリックする。

クリックしたホームページが表示されます。

6 *よく見るホームページを登録する*

よく見るホームページを「お気に入り」メニューの中に登録することができます。
ここではSony online Japanのホームページを登録してみましょう。

ちょっと一言

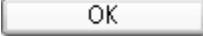
Sony online Japanはインターネット上のソニーエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

1

アドレスバーに「http://www.sony.co.jp/」と入力する。

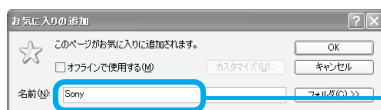
次のページへつづく

2 キーボードの Enter（エンター）キーを押す。

Sony online Japanのホームページが表示されます。

3 メニューバーの［お気に入り］をクリックし、次に［お気に入りに追加］をクリックする。

「お気に入りの追加」画面が表示されます。

4 「名前」に、登録するホームページを示すお好みの名前を入力し、OK をクリックする。

ここでは「Sony」と入力します。

Sonyホームページが登録され、入力した名前が「お気に入り」メニューの中に表示されるようになります。

7 「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを終了する

最後に「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを終了します。

1 **メニューバーの［ファイル］にポインタを合わせ、クリックする。**

ファイルメニューが表示されます。

2 **［閉じる］にポインタを合わせ、クリックする。**

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアが終了します。

3 **デスクトップ画面右下の を右クリックして表示されるメニューから［切断］をクリックする。**

インターネットへの接続が切断されます。

ご注意

インターネットに接続している間は、ホームページを見たり、電子メールをやりとりするなどの操作を行っていないときでも、通話料やプロバイダへの接続料金がかかります。また、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを終了しても、インターネットへの接続は解除されません。ホームページを見ている間など、操作を行わないときや、操作が終わったあとなどは、インターネットへの接続を切断してください。

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアについて詳しくは、ヘルプをご覧ください。「Microsoft Internet Explorer」のヘルプを見るときは、「Microsoft Internet Explorer」画面上部の［ヘルプ］をクリックしてください。

電子メールをやりとりする

インターネットを使って、電子メールをやりとりできます。電子メールをやりとりするには、電子メールソフトウェアが必要です。

ここでは、付属の「Outlook Express」ソフトウェアを使って自分の電子メールアドレスに電子メールを送ったり、受け取ったりしてみます。

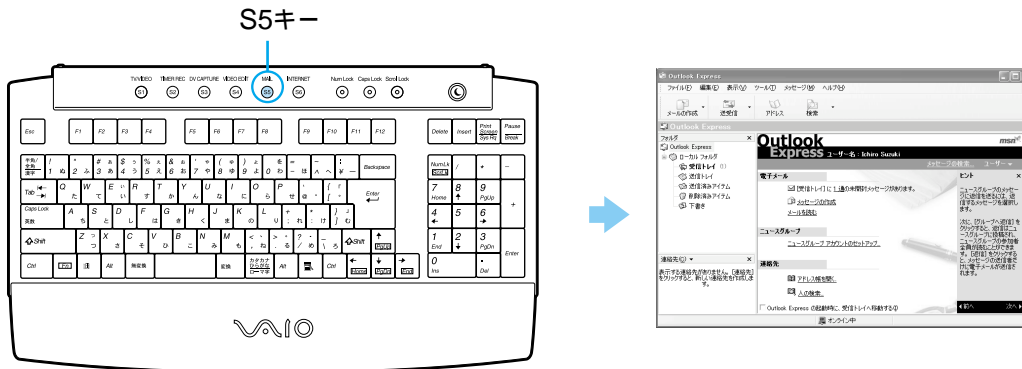
ご注意

電子メールをやりとりする手順は、インターネットへの接続やソフトウェアの設定によって変わることがあります。

1 「Outlook Express」ソフトウェアを起動する

まず「Outlook Express」ソフトウェアを起動します。

キーボードの Ⓢ5 キーを押す。

「Outlook Express」ソフトウェアが起動します。

「接続」画面が表示されたときは、［キャンセル］をクリックして画面を閉じてください。

2 電子メールを送信する

ためしに自分のメールアドレス宛に電子メールを送信してみましょう。

1 ［メッセージの作成］をクリックする。

「メッセージの作成」画面が表示されます。

ちょっと一言

電子メールを書くときや電子メールを受け取ったあとに読むときはインターネットに接続していない状態（オフライン作業）の方が接続料金と通話料がかからなくてすみます。

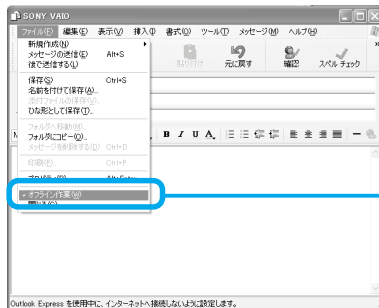
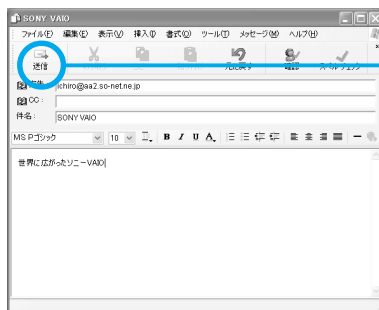
オフライン作業とは

「オフライン作業」とはインターネットに接続していない状態で「Outlook Express」ソフトウェアを使って電子メールを書いたり、読んだりといった作業をすることです。

2 メッセージを作成する。

ここでは、メッセージに「世界に広がったソニーVAIO」と入れてみます。
タイトルは「SONY VAIO」にしましょう。
文字の入力のしかたについて詳しくは、「文字の入力を練習する（キーボードの使いかた）」（81ページ）をご覧ください。

次のページへつづく

3 ［ファイル］をクリックし、［オフライン作業］をクリックする。

「オフライン作業」の前のチェックマークが消えます。

4 ツールバーの［送信］をクリックする。

「（ダイヤルアップ接続名）に接続中」画面が表示され、本機がインターネットに接続し、作成した電子メールが送り先に送られます。

ご注意

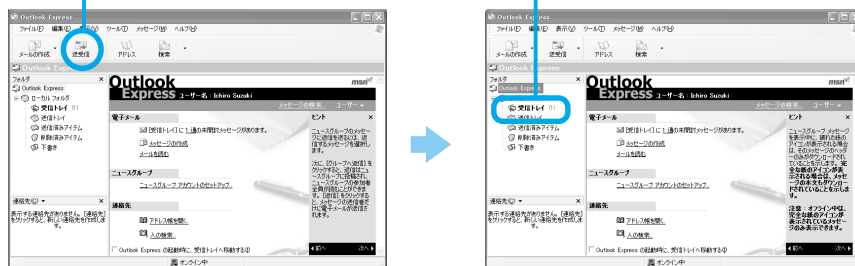
オフライン（インターネットに接続していない状態）で［送信］をクリックした場合は、電子メールは送信トレイに保管されます。「Outlook Express」のツールバーの［送受信］をクリックすると、電子メールが送り先へ送られます。

3 電子メールを受信する

手順2で送った自分のメールアドレス宛の電子メールを受信してみましょう。

インターネットに接続した状態で、ツールバーの［送受信］をクリックする。

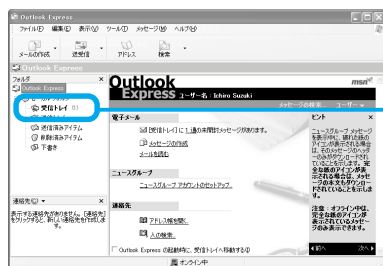
手順2で送った電子メールが届きます。

ご注意

オフライン（インターネットに接続していない状態）のときは、「オフラインで作業しています。オンラインに切り替えますか？」というメッセージが表示されます。この場合は、［はい(Y)］をクリックしてください。

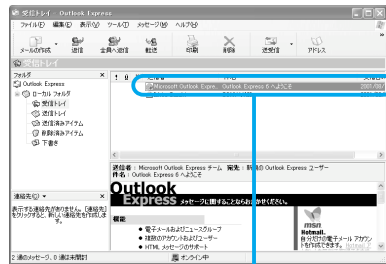
ちょっと一言

- 作成した電子メールが送信トレイにある場合は、同時に送り先に送られます。インターネットに接続していない場合は、「接続」画面が表示され、接続を促します。インターネットに接続したあとに電子メールが送受信されます。
- 電子メールの送受信のあと、ホームページを見たりしないときは、インターネットの接続を切断しましょう（162ページ）。

4 受け取った電子メールを見る

手順3で届いた電子メールを見てみます。

1 ［受信トレイ］をクリックする。

受信トレイの中身が表示されます。

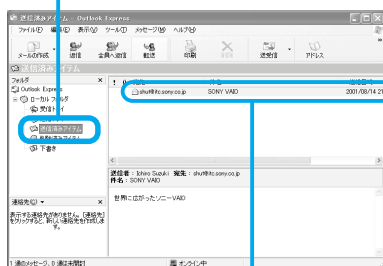
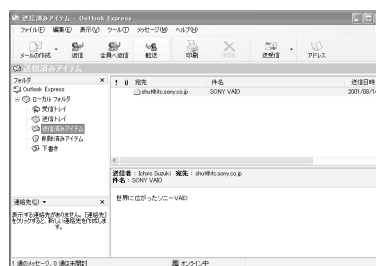
次のページへつづく

2 [SONY VAIO] をクリックする。

受け取った電子メールのメッセージが表示されます。

5 送った電子メールを見る

手順2で送った電子メールを見てみます。

[送信済みアイテム] をクリックし、[SONY VAIO] をクリックする。

送った電子メールのメッセージが表示されます。

電子メールをやりとりできなかった場合は、「困ったときは」の「モデム／インターネット」（212ページ）をご覧ください。

6 「Outlook Express」ソフトウェアを終了する

最後に「Outlook Express」ソフトウェアを終了します。

1

［ファイル］にポインタを合わせ、クリックする。

ファイルメニューが表示されます。

2

［終了］にポインタを合わせ、クリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが終了します。

3

デスクトップ画面右下の を右クリックして表示されるメニューから［切断］をクリックする。

インターネットへの接続が切断されます。

本機の使いかたがわからないときに

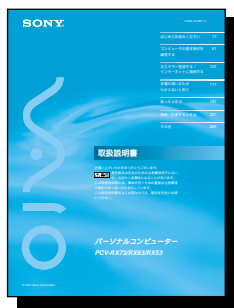
この章では、本機の使いかたがわからなくなったときに
読むマニュアルやヘルプの使いかたについて説明します。

どのマニュアルを読む？

本機に付属しているマニュアルの内容を簡単に紹介します。それぞれの目的に合わせてお読みください。
画面で見る電子マニュアル「サイバーサポート」の使いかたについて詳しくは、「「サイバーサポート」の使いかた」（180ページ）をご覧ください。

本機に付属しているマニュアル

❑ 取扱説明書（本書）

本機をお買い上げいただいたあとに最初に行う準備をはじめ、本機の基本的な使いかたや本機と周辺機器の接続方法、本機の機能を拡張する方法、使用上のご注意などについて説明しています。

❑ VAIOサービス・サポートのご案内

本機を使っていてトラブルが発生したときの対処方法や、本機が故障したときなどのお問い合わせ先、サービス／サポートの内容について説明しています。

このほかに、ソニー製以外のソフトウェアの使いかたを説明したパンフレット類が付属しています。

画面で見るマニュアル

❑ サイバーサポート

コンピュータの基礎的な知識をはじめ、本機の使いかたや楽しみかたについて詳しく説明しています。また、本機に付属のソフトウェアの起動方法やお問い合わせ先なども説明しています。本書を読み終わったかたは、「Windowsを準備する」（49ページ）の手順が終わったあと、本機の電源が入っている状態で、デスクトップ画面上の をダブルクリックして必ずこちらもご覧ください。使いかたについて詳しくは、「「サイバーサポート」の使いかた」（180ページ）をご覧ください。

❑ ヘルプとサポートセンター

Windowsの操作のしかたやサポートについての情報を検索できます。また「サイバーサポート」をここから起動することもできます。
ヘルプとサポートセンターについて詳しくは、「「ヘルプとサポートセンター」について」（53ページ）をご覧ください。

❑ ソニー製のソフトウェアのヘルプ

本機に付属しているソニー製のソフトウェアの使いかたを説明しています。
ソフトウェアの中には電子マニュアルが付属されているものがあります。電子マニュアルを見るには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［すべてのプログラム］にポインタを合わせ［VAIOソフトウェアはこちら］、［VAIOソフトウェアマニュアル］の順にクリックして、見たいソフトウェアの電子マニュアルを選んでください。

ピクチャーギア
- PictureGear
  本機で静止画や動画を見たり、保管するためのソフトウェア

ギガ　ポケット
- Giga Pocket
  本機で映像を録画したり、編集したりするためのソフトウェア
  紙の取扱説明書も付属しています。

ディーブイゲート
- DVgate
  動画／静止画編集用にデジタルビデオカメラレコーダーなどの機器から動画や静止画を取り込むためのソフトウェア

ナビン　ユー
- Navin' You
  本機で地図を見たり、ルートの検索などが行えるソフトウェア

スマート　キャプチャー
- Smart Capture
  デジタルビデオカメラレコーダーなどの機器から動画や静止画を取り込むためのソフトウェア

ムービーシェイカー
- MovieShaker
  本機に取り込んだ動画を編集するためのソフトウェア

ソニックステージ　フォー　バイオ
- SonicStage for VAIO
  ソニーが開発した著作権保護技術「OpenMG」を採用し、コンピュータのハードディスクに保存したデジタル音楽コンテンツを楽しむソフトウェア

ユーレックサイト
- URecSight
  パーソナルキャスティング（個人インターネット放送）をするためのソフトウェア

デジタルプリント
- DigitalPrint
  デジタル写真の取り込みからプリント、焼き増し、そしてフォトアルバムの作成やCD、MDラベルの印刷などが行えるソフトウェア

❑ その他のソフトウェアのヘルプ

ソニー製以外のソフトウェアにもヘルプが付属されているものがあります。
また、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの楽しみかた］をクリックして、［付属ソフトウェアの一覧］をクリックして表示される各ソフトウェアの情報の中には、「操作がわからなくなったときは」の項目があります。あわせてご覧ください。

電子マニュアルとは

本機の使いかたやソフトウェアの操作説明などをディスプレイ画面上で読めるようにしたマニュアルのことです。

ヘルプとは

Windowsやソフトウェアなどの操作についてわからなくなったときに、デスクトップ画面上でその解決方法についての情報を検索して表示する機能のことです。

ディーブイディーイットフォー　バイオ
❑ 「DVDit! for VAIO」お使いになる前に（電子マニュアル）

（PCV-RX73/RX63のみ）

MPEGファイルの作成から「DVDit! for VAIO」ソフトウェアを使ってCDを作るまでを簡単に説明しています。

レコードナウ　ディーエックス
❑ 「RecordNow DX」お使いになる前に（電子マニュアル／ヘルプ）

（PCV-RX73/RX63のみ）

オリジナルのDVDやCDディスクが手軽に作成できるソフトウェアを説明しています。

「サイバーサポート」の使いかた

「サイバーサポート」ってなに？

「サイバーサポート」はVAIOについての情報の入り口です。VAIOの使いかたを知りたいときや、VAIOを使っていて困ったことがあったときは「サイバーサポート」を開いてください。

デスクトップ画面にあるこのアイコンをダブルクリックする。

「サイバーサポート」は、VAIOの使いかたや楽しみかたをデスクトップ画面上で説明する電子マニュアルです。本書に載っていない情報も、「サイバーサポート」で調べることができます。

こんなときに「サイバーサポート」

目的に合わせて、「サイバーサポート」の情報をご覧ください。

コンピュータを初歩から学びたいときは

→ できる Windows

Windowsの操作方法や文字入力の練習など、コンピュータの基本的な使いかたに関する情報が載っています。

インターネットを楽しみたいときは

→ インターネット

初めてインターネットを使用するときの設定のしかたや、ホームページの見かた、電子メールのやりとりに関する情報が載っています。

VAIOの基本的な使いかたを知りたいときは

→ VAIOの使いかた

本機の基本的な使いかたの説明を見ることができます。

VAIOに付属しているソフトウェアを活用したいときは

→ VAIOの楽しみかた

本機に付属しているソフトウェアの説明や、楽しみかたの紹介が載っています。

なにかトラブルが起きたら

→ 困ったときは

本機を操作していて困ったときの解決方法や、トラブルが発生したときの対処方法の説明を見ることができます。

→ サービス／サポート

VAIOについてのサービスやサポートを受けるための説明を見ることができます。

意味のわからない用語があったら

→ 用語集

コンピュータ用語の説明を見ることができます。

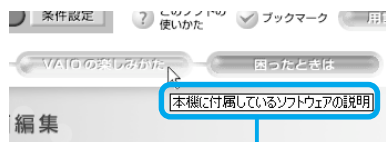
「サイバーサポート」画面の見かた

1 ナビゲーションボタン	
トップへ戻る	「サイバーサポート」を開いたときに、最初に表示される画面に戻ります。（188ページ）
戻る　進む	前に見ていた画面に戻ったり、また進んだりできます。（188ページ）
表示切替	一部のボタンを隠して、本文ページをより広く表示できるようにします。（189ページ）
2 マニュアル表示ボタン	
できる Windows	Windowsの基本的な使いかたの説明を見ることができます。
インターネット	インターネットに接続して、ホームページや電子メールを楽しむための説明を見ることができます。
VAIOの使いかた	本機の基本的な使いかたの説明を見ることができます。
VAIOの楽しみかた	本機に付属しているソフトウェアの説明を見ることができます。
困ったときは	本機を操作していて困ったときの解決方法や、トラブルが発生したときの対処方法の説明を見ることができます。
サービス/サポート	VAIOについてのサービスやサポートを受けるための説明を見ることができます。
3 キーワード検索エリア	
検索	キーワードを入力して情報を探すことができます。（187ページ）
条件設定	検索条件を設定したり、あらかじめ用意された質問文例などからキーワードを選んで情報を探すことができます。（187ページ）

次のページへつづく

4	
このソフトの使いかた	「サイバーサポート」の使いかたを見ることができます。
ブックマーク	よく見るページを登録することができます。登録したページは簡単に呼び出すことができます。
用語集	コンピュータ用語の説明を見ることができます。
5	
本機に付属しているソフトウェアの楽しみかたの紹介です。見たいトピックをクリックしてください。	
6	
最新の情報に更新	「サイバーサポート」で検索できる情報を更新します。（190ページ）
VAIOカスタマーリンク	VAIOカスタマーリンクのホームページを見ることができます。（190ページ）
Sonyのホームページ	ソニーのホームページを見ることができます。

ちょっと一言

「サイバーサポート」画面にある各ボタンにポインタを近づけると、ボタンをクリックしたときに表示される情報の内容が表示されます。

ここに情報が表示される。

「サイバーサポート」を見るには

ご注意

「サイバーサポート」は必ず「Microsoft Internet Explorer Version 6.0」ソフトウェアを使って表示させてください。「Microsoft Internet Explorer Version 6.0」以外のソフトウェアでは正しく表示されないことがあります。

「サイバーサポート」を見るには、「Windowsを準備する」（49ページ）の手順が終わったあと、本機の電源が入っている状態で、以下のように操作します。

「サイバーサポート」を開くには

デスクトップ画面上の（VAIOマニュアル CyberSupport）をダブルクリックする。

「サイバーサポート」画面が表示されます。

デスクトップ画面にあるこのアイコンをダブルクリックする。

ちょっと一言

- デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［ヘルプとサポート］をクリックし、表示された「ヘルプとサポート」画面から［VAIOマニュアル CyberSupport］をクリックしても「サイバーサポート」を表示できます。
- 初めて「サイバーサポート」を開いたときは、「使用許諾の確認」画面が表示されます。画面に表示された内容を読み、内容に同意するときは、［同意する］をクリックしてください。［同意しない］をクリックすると、「サイバーサポート」を開くことができません。

使用許諾の確認

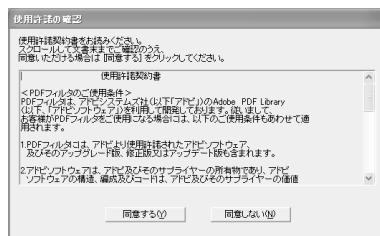
使用許諾契約書をお読みください。
スクロールして文書末までご確認のうえ、
同意いただける場合は［同意する］をクリックしてください。

使用許諾契約書

＜PDFフィルタのご使用条件＞
PDFフィルタは、アドビシステムズ社（以下「アドビ」）のAdobe PDF Library
（以下、「アドビソフトウェア」）を利用して開発しております。従いまして、
お客様がPDFフィルタをご使用になる場合には、以下のご使用条件もあわせて適
用されます。

1.PDFフィルタには、アドビより使用許諾されたアドビソフトウェア、
及びそのアップグレード版、修正版又はアップデート版も含まれます。

2.アドビソフトウェアは、アドビ及びそのサプライヤーの所有物であり、アドビ
ソフトウェアの構造、編成及びコードは、アドビ及びそのサプライヤーの価値

同意する(Y)　同意しない(N)

「サイバーサポート」を閉じる

「サイバーサポート」画面の右上の ☒ をクリックする。

「サイバーサポート」が終了します。

ここをクリックする。

ちょっと一言

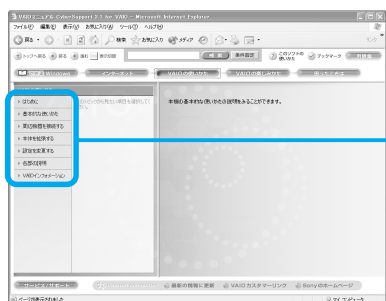
- 「サイバーサポート」画面右上の ＿（最小化）ボタンを使って、「サイバーサポート」をデスクトップ画面から隠す（最小化する）ことができます。最小化したウィンドウはタスクバーのボタンをクリックすると元のサイズに戻ります。
- 「サイバーサポート」をデスクトップ画面上に表示させたまま他のソフトウェアなどを操作することもできます。

目次から情報を探す

「サイバーサポート」画面上部の［できるWindows］、［インターネット］、［VAIOの使いかた］、［VAIOの楽しみかた］、画面下部の［サービス／サポート］のボタンをクリックすると、左画面に目次が、右画面に情報が表示されます。左画面の目次から、探したい情報をクリックして選んでください。

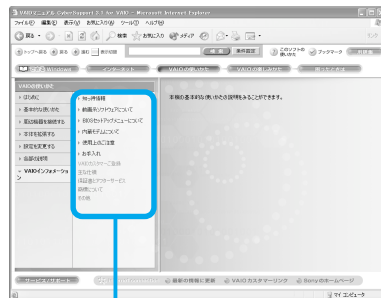
1 「サイバーサポート」画面にあるいずれかのボタンをクリックする。

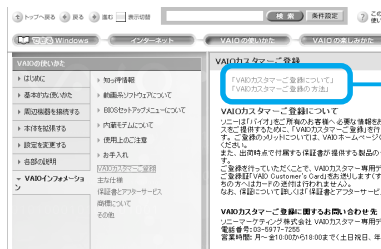
クリックしたボタンに含まれる情報の目次が左画面に表示されます。

2 目次から表示したい項目を選び、クリックする。

項目の最初に ▶ がついている項目をクリックすると、▶ が ▼ になり、さらに詳しい項目が表示されます。

次のページへつづく

3 知りたい項目をクリックする。

右画面にその情報が表示されます。

ページの見かた

- ページの冒頭に見出しが表示されているときは、見たい内容の見出しをクリックすると、同じページ内の目的の情報が表示されます。

- 本文中の【詳細】をクリックすると、その内容のさらに詳しい説明のあるページが表示されます。
- 「ここにも注目」の見出しをクリックすると、見ているページに関連する項目のあるページが表示されます。

キーワードで情報を探す

1 「サイバーサポート」画面上部の 検索 にキーワードを入力する。

ここに入力する。

2 検索 をクリックする。

検索結果の一覧が表示されます。一覧から見たい情報を選びます。

 ちょっと一言

条件設定 をクリックすると、検索対象を絞り込んだり、あらかじめ用意された質問文例などからキーワードを選んで検索することができます。

条件設定 をクリックすると、右画面に検索のしかたの説明が表示されます。詳しくはそちらの説明をご覧ください。

困ったときの情報の探しかた

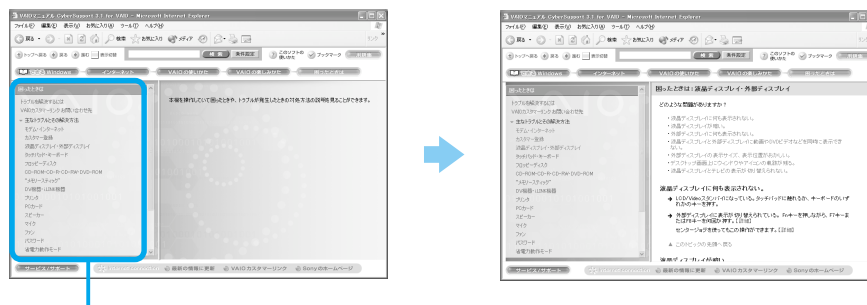
1 「サイバーサポート」画面上部にある 困ったときは をクリックする。

ここをクリックする。

「困ったときは」の目次が表示されます。

次のページへつづく

2 左画面の表示したい項目をクリックする。

右画面にトラブルとその解決方法が表示されます。

表示したい項目をクリックする。

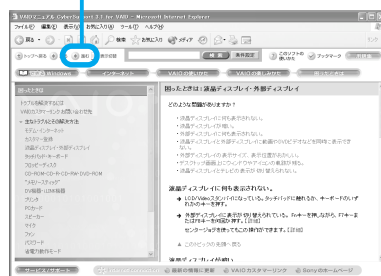
ちょっと一言

「サイバーサポート」画面上部のキーワード検索エリアにある 条件設定 をクリックしてキーワード検索をすると、VAIOカスタマーリンクに寄せられたFAQ（よくある質問をその回答）などから上記以外のトラブル解決方法を見ることができます。

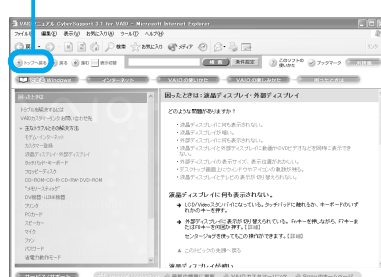
前に見ていた画面に戻る

戻る をクリックします。

元のページに戻るには、進む をクリックします。

ここをクリックする。

最初の画面に戻る

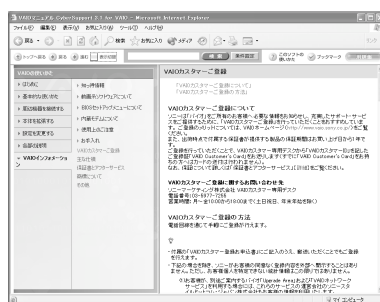
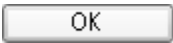
トップへ戻る をクリックします。

ここをクリックする。

画面の大きさを切り替える

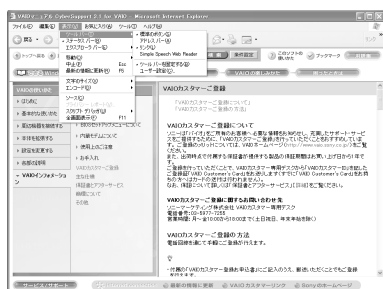
「サイバーサポート」画面上部の 表示切替 をクリックします。

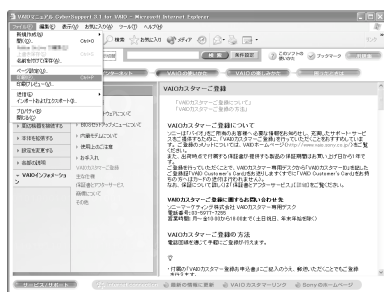
サービス/サポート などの一部のボタンが隠れ、より多くの情報が1度に表示されるようになります。

隠れたボタンを元に戻すには、もう1度 表示切替 をクリックします。

ここをクリックする。

ちょっと一言

より多くの情報が表示されるように、「Microsoft Internet Explorer」のツールバーの表示を一部隠すことができます。

［表示］メニューから［ツールバー］を選び、［標準のボタン］などをクリックします。再度クリックすると元の表示に戻ります。

見ている画面を印刷する

［ファイル］メニューから［印刷］を選んでクリックし、プリンタの設定を確認して OK をクリックします。

ちょっと一言

印刷をするにはあらかじめプリンタを接続、設定しておく必要があります。

次のページへつづく

VAIOについての最新情報を見る

VAIOカスタマーリンクのホームページではお客様の疑問や質問を解決するための各種サービスと、バイオに関するサービスやサポート体制についての最新情報を提供しておりますので定期的にご覧ください。
なお、VAIOカスタマーリンクのホームページを見るには、あらかじめインターネットに接続できるよう設定しておく必要があります。インターネット接続について詳しくは、「インターネットを始める」（120ページ）をご覧ください。

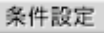
VAIOカスタマーリンクのホームページを見るには

「サイバーサポート」画面下部の VAIOカスタマーリンク をクリックすると、VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。

「サイバーサポート」で検索できる情報を更新するには

VAIOカスタマーリンクのホームページにアクセスし、「サイバーサポート」で検索できる情報を、更新することができます。
更新のしかたについて詳しくは、「サイバーサポート」画面下部の 最新の情報に更新 をクリックして表示される画面をご覧ください。
なお、VAIOカスタマーリンクのホームページを見るには、あらかじめインターネットに接続できるよう設定しておく必要があります。インターネット接続について詳しくは、「インターネットを始める」（120ページ）をご覧ください。

ご注意

初めて更新するときは、数十分時間がかかることがあります。

困ったときは

この章では、本機を操作していて困ったことやトラブルの解決方法を説明します。

わからないことやトラブルを解決する

本機を操作していて困ったときは、あわてずに下記の流れに従ってください。また、メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

1 電子マニュアルやヘルプで調べる。

- **本書194ページからの説明をご覧ください。**
- **デスクトップ画面上の** （VAIO**マニュアル** CyberSupport）**をダブルクリックして、「サイバーサポート」を起動させ、「困ったときは」や関連する項目「主なトラブルとその解決方法」から該当する項目をクリックして表示される情報をご覧ください。**
  また「サイバーサポート」画面上部のキーワード入力エリアにキーワードを入力し 検索 をクリックすることで、「サイバーサポート」やVAIOカスタマーリンクに寄せられたFAQ（よくある質問とその回答）などから自動的にその解決方法を検索できます。 条件設定 をクリックすると、検索対象を絞り込んだり、あらかじめ用意された質問文例などからキーワードを選んで検索することもできます。

ちょっと一言

「サイバーサポート」は、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［ヘルプとサポート］をクリックし、表示された［ヘルプとサポートセンター］画面から、［VAIOマニュアル：CyberSupport］をクリックしても起動することができます。

- **ソフトウェアのヘルプや電子マニュアル**
- Windows**のヘルプ**
  デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［ヘルプとサポート］をクリックして、「ヘルプとサポートセンター」をご覧ください。

2 VAIOカスタマーリンクのホームページを確認する。

VAIOカスタマーリンクホームページでは、トラブルの解決方法や疑問の解消に役立つ情報やサービスを掲載していますのでご覧ください。

VAIO**カスタマーリンクホームページ** http://vcl.vaio.sony.co.jp/

「サイバーサポート」を初めてお使いになるときは

VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）では、製品出荷後の最新情報を提供しています。VAIOカスタマーリンクのホームページにアクセスし、「サイバーサポート」の「キーワード検索」で検索できる情報を更新してください。
更新するには、インターネットに接続した状態で、「サイバーサポート」画面下部の 最新の情報に更新 をクリックします。自動的に、情報が更新されます。最初に更新するときは、数十分時間がかかることがありますので、ご注意ください。
この機能を使うには、あらかじめインターネットに接続していることが必要です。インターネット接続について詳しくは、「インターネットを始める」（120ページ）をご覧ください。

VAIOカスタマーリンクに電話で問い合わせる。

以下のお問い合わせ先にご相談ください。

VAIO**カスタマーリンク**

電話番号

（0466）30-3000

- お問い合わせには「VAIOカスタマーID」が必要です。
- 一般的にお電話は午前中より午後の方がつながりやすくなっております。

受付時間

平日	10時～20時
土、日、祝日	10時～17時

（年末年始は除く）

- お電話は音声認識を用いた自動音声のアナウンスに従って、ご希望のメニューをお選びください。各メニューの担当オペレーターが対応いたします。
- 付属のソフトウェアについては、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの楽しみかた］をクリックして、［付属ソフトウェアの一覧］をクリックして表示される情報をご覧になり、各ソフトウェアのお問い合わせ先にお電話ください。

お電話の前に以下の内容をご用意ください。

① お客様のVAIO**カスタマー**ID
② 本機の**型名**：PCV-RX73/RX63/RX53
③ 本機の**製造番号**（保証書などに記載されている7桁の番号です）
④ カスタマー登録していただいたときの**電話番号**、または登録予定の**電話番号**

発信者番号通知でお電話していただくとよりスムーズに担当者につながります。

⑤ 本機に接続している**周辺機器名**（メーカー名と型名）
⑥ 表示された**エラーメッセージ**
⑦ 本機に付属していないソフトウェアを追加した場合は、その**ソフトウェアの名前**とバージョン
⑧ トラブルが発生する前または**直前に行った操作**
⑨ トラブルがどのくらいの**頻度**で再現するか
⑩ その他お気づきの点

修理の場合は

⑪ VAIOカルテ（修理をお申込みになるとき）
⑫ 筆記用具（修理を受付する際にお伝えする修理受付番号を控えるのに必要です）

主なトラブルとその解決方法

ここでは、主なトラブルとその解決方法について説明します。

ご注意

再起動または電源を入れ直す場合は、必ず「電源を切る」（58ページ）の手順に従い、いったん電源を切ってください。他の方法で電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。
接続し直すときは、必ず「電源を切る」（58ページ）の手順に従い、いったん電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

電源

電源が入らない。

→ 本機の電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する。

→ すべてのケーブルがしっかり接続されているか確認する（46ページ）。

→ スイッチ付テーブルタップなどに本機の電源コードをつないでいるときは、スイッチが入っているかどうか、また、テーブルタップが壁のコンセントにしっかり差し込まれているか確認する。

電源が切れない。

電源が切れないときの状況によって対処方法が異なります。以下の点を確認した上で、それぞれの操作を行ってください。

→ キーボードが正しく接続されているか確認する（39ページ）。

→ プリンタやUSB機器などの周辺機器を接続している場合やネットワークを使用している場合には、それらを使用しない状態にしてから電源を切る操作を行ってください。Windowsは、周辺機器やネットワークと通信を行っている間は、電源が切れないしくみになっています。

→ 新しくインストールしたソフトウェアやデータ、その操作などを確認する。

→ 「電源を切る」（58ページ）の操作をしても、「Windowsを終了しています」または「電源を切る準備ができました」と表示されたまま動かない場合は、キーボードの Enter（エンター）キーを押してください。

→ 「スタート」メニューの［終了オプション］を選んでも「コンピュータの電源を切る」画面が表示されない場合は、Alt（オルト）キーを押しながら F4 キーを数回押して「コンピュータの電源を切る」画面を表示させ、［電源を切る］をクリックする。
Alt（オルト）キーを押しながら F4 キーを数回押しても「コンピュータの電源を切る」画面が表示されない場合は、Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを押し、「Windowsタスクマネージャ」画面が表示されたら、［シャットダウン］をクリックし、表示されるリストから［コンピュータの電源を切る］をクリックしてください。

次のページへつづく

→ 前ページのいずれの操作を行っても電源が切れない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して電源ランプが消灯するか確認してください。ただし、この操作をすると、作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。また、本機の電源を入れ直した際、「スキャンディスク」ユーティリティが実行されたり、Safe（セーフ）モードで起動することがあります。その場合は、デスクトップ画面が表示されるまで画面の指示に従って操作し、その後「電源を切る」（58ページ）の手順に従っていったん本機の電源を正しく切ってください。

本機がスタンバイモードに移行せず、すぐに戻ってしまい、Windowsの動作状態が不安定になる。

→ 使用中のソフトウェアを終了して、本機を再起動する。
再起動できない場合は、本機前面の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して電源を切ってください。ただし、この操作をすると作成中のファイルや編集中のファイルが使えなくなることがあります。

電源を入れると、「Non-System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが表示される。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、フロッピーディスクイジェクトボタンを押して、取り出す。その後、キーボードのいずれかのキーを押してください。

電源を入れると、「Operating system not found」というメッセージ表示され、Windowsが起動できない。

→ フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入っている場合は、ディスクを取り出してから Ctrl（コントロール）キーと Alt（オルト）キーを押しながら Delete（デリート）キーを2回押して本機を再起動する。

→ 再起動してもこのメッセージが表示され、Windowsが起動しない場合は、指定された方法以外のやりかたでパーティションサイズを変更している可能性があります。本機に付属のリカバリ CDを使って、パーティションサイズを変更し、本機を再セットアップしてください。
詳しくは、「リカバリ CDで本機を再セットアップする」（292ページ）および「パーティションサイズを変更する」（302ページ）をご覧ください。

電源を入れると、「Invalid system disk. Replace the disk, and then press any key.」または「NTLDR is missing. Press any key to restart.」というメッセージが表示され、ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、フロッピーディスクイジェクトボタンを押して、取り出す。その後、Enter（エンター）キーを押す。

電源を入れると、「CMOS Battery Bad」というメッセージが表示される。

→ 本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換については、VAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

電源を入れると、「CMOS Checksum Error」というメッセージが表示される。

→ BIOSの設定内容が壊れている。以下の手順に従って操作し、BIOSをお買い上げ時の設定に戻してください。

1 **本機前面の⏻（電源）ボタンを押し、画面にSonyのロゴが表示されたら、キーボードのF2キーを押す。**

BIOSセットアップメニューが起動し、「AwardBIOS Setup Utility」画面が表示されます。

2 **F5（Setup Defaults）キーを押す。**

「Load default configuration now?」というメッセージが表示されます。

3 **Home／End キーを押して［Yes］を選び、Enter（エンター）キーを押す。**

すべての設定項目がお買い上げ時の設定に戻ります。

4 **F10（Save and Exit）キーを押す。**

「Save configuration changes and exit now?」というメッセージが表示されます。

5 **Home／End キーを押して［Yes］を選び、Enter（エンター）キーを押す。**

変更された設定が保存され、BIOSセットアップメニューが終了し、Windowsが起動します。

→ BIOSをお買い上げ時の設定に戻しても再度メッセージが表示されるときは、本機内のバッテリが消耗しているため、バッテリを交換する必要があります。バッテリの交換についてはVAIOカスタマーリンク修理窓口へお問い合わせください。

次のページへつづく

▢ ディスプレイ／テレビ

画面に何も表示されない。

→ 本機とディスプレイの電源コードがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する（46ページ）。

→ 本機とディスプレイを正しく接続する（32、33ページ）。

→ 本機とディスプレイの電源スイッチが入っているか確認する（47ページ）。

→ ディスプレイの明るさボタンとコントラストボタンで調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

→ 本機後面のMONITORコネクタとDVIコネクタの両方にディスプレイを接続していないか確認する。

→ PCVD-15XD5などをお使いの場合は、ディスプレイに付属のACアダプタを接続しているか確認する。付属のACアダプタ以外で接続していると、正常に画面が表示されないことがあります。

画像が乱れる。

→ ラジオなど、近くに磁気を発生するものや磁気を帯びているものがある場合は、ディスプレイから離す。

画質が悪い。

→ ディスプレイの調整ボタンで画質を調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

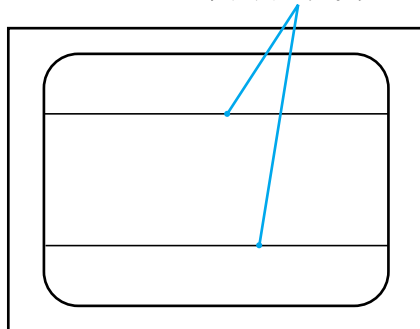
画像の端が欠ける。

→ ディスプレイの調整ボタンで表示位置を調整する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

表示サイズ、表示位置がおかしい。

→ ディスプレイの調整ボタンで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

画面に細い横線が出る。

→ トリニトロン管内部のアパチャーグリルに取り付けられたダンパーワイヤーの影です。ダンパーワイヤーは、アパチャーグリルの振動を抑えるはたらきをしています。アパチャーグリルは、ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイのトリニトロン管特有の構造です。故障ではありません。

テレビの映像が映らない、チャンネルの映像が映らない。

→ アンテナ接続ケーブルが本機後面のVHF／UHFコネクタと正しく接続されているか確認する。詳しくは「接続する／準備する」(32ページ) をご覧ください。

→ ご使用のアンテナの受信状況が良好か確認する。
一般のテレビに接続して受信できるか、分配器を使用している場合は、分岐前のケーブルを接続して受信できるかどうかを確認する。アンテナを分配すると電波が弱くなり、映像が正常に表示されないことがあります。この場合は、別売りのアンテナブースターをご利用ください。

→ 「Giga Pocket」ソフトウェアの地域設定が正しく設定されているか確認する。
詳しくは「テレビを見る準備をする」(55ページ) をご覧ください。

→ 「Giga Pocket」ソフトウェアのチャンネル設定が正しくされているか確認する。
設定が正しくない場合は、以下の手順に従って設定を変更してください。また、「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプもあわせてご覧ください。
ここでは、「VAIOテレビ」が「3チャンネル」に設定されているが、ご使用になっている地域では「20チャンネル」で放送されており、「VAIOテレビ」のチャンネル設定を「3チャンネル」から「20チャンネル」に変更する例で、以下の手順を説明します。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［すべてのプログラム］にポインタを合わせ、［Giga Pocket］、［Giga ビデオレコーダー］の順にクリックする。**
「Giga ビデオレコーダー」ソフトウェアが起動します。

2 **［設定］をクリックして、表示されるメニューから［チャンネルの設定］をクリックする。**
「チャンネルの設定」画面が表示されます。

3 **変更するチャンネル名（ここでは「VAIOテレビ」）を選択し、［変更］をクリックする。**
「チャンネルの追加／変更」画面が表示されます。

4 **「受信チャンネル」から設定したいチャンネル（ここでは「20チャンネル」なので「20」）を選ぶ。**
チャンネル番号がわからない場合は、「受信チャンネル」の ▼ をクリックしてチャンネルを変更していき、設定したいチャンネルが表示されるチャンネル番号を選択してください。

5 **OK をクリックする。**

以上の手順をくり返して、映らないチャンネルすべての設定をしてください。

DVDビデオの映像がテレビ画面に表示されない。

→ 本機をテレビに正しく接続する。詳しくは、「テレビにつなぐ」（241ページ）をご覧ください。

→ 以下の手順に従って操作し、映像と音声出力をテレビに切り換えてください。

1 **DVDビデオの再生を停止しているときに、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［すべてのプログラム］にポインタを合わせ、［Media Bar］、［DVD Player］の順にクリックする。**

「DVD Player」画面が表示されます。

2 **設定 をクリックする。**

「DVD 設定」画面が表示されます。

3 **［映像・音声出力］タブをクリックする。**

「映像・音声出力」画面が表示されます。

4 **「ソニーMPEG2エンコーダーボード」の ○ をクリックして ◉ にし、OK をクリックする。**

DVDビデオの映像や音声がテレビ画面に表示されるようになります。

スピーカー

スピーカーから音が出ない。

→ アクティブスピーカーを接続している場合は、スピーカーの音声ケーブルが本機にしっかり接続されているか確認する。

→ アクティブスピーカーを接続している場合は、スピーカー用ACアダプタがしっかりコンセントに差し込まれているか確認する（46ページ）。

→ アクティブスピーカーを接続している場合に、スイッチ付テーブルタップなどにスピーカー用ACアダプタをつないでいるときは、スイッチが入っているか、また、テーブルタップのコードが壁のコンセントにしっかり差し込まれているか確認する。

→ アクティブスピーカーを接続している場合は、アクティブスピーカーの電源が入っているか確認する（47ページ）。

→ アクティブスピーカーの音量が最小になっている。音量つまみで音量を上げる（47ページ）。

→ Windowsの音量がミュートまたは最小になっていないか確認する。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、[コントロールパネル] をクリックする。**

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 **[サウンド、音声、およびオーディオデバイス] をクリックし、[サウンドとオーディオデバイス] をクリックする。**

「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」画面が表示されます。

3 **[音量] タブをクリックする。**

音量がミュートまたは最小になっているときは、音量を上げてください。

リモコン

リモコンで操作できない。

→ リモコンとリモコン用受光ユニットの間に障害物がある。障害物を取り除く。

→ リモコンと受光ユニットの距離が離れすぎている。近寄って操作する。

→ リモコンの発光部が受光ユニットの方を向いていない。リモコンを受光ユニットに向ける。

→ リモコンの電池が＋／－逆に入っている。正しい方向に入れ直す。

→ リモコンの乾電池が消耗している。電池を交換する。

→ 本機の近くにインバーター方式の蛍光灯がある。本機と蛍光灯を離して設置する。

「Giga Pocket」ソフトウェアを操作できない。

→ テレビ／VAIO切り換えスイッチが「VAIO」になっているか確認する。

テレビを操作できない。

→ テレビ／VAIO切り換えスイッチが「テレビ」になっているか確認する。

→ テレビのメーカー番号の設定を確認する。

次のページへつづく

文字入力

日本語が入力できない。

→ 「文字の入力を練習する（キーボードの使いかた）」（81ページ）をご覧ください。

全角の「～」が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「ひらがな」を選んで、ひらがなで「から」と入力し「～」が選ばれるまで [ ]（スペース）キーを押すか、[Shift]（シフト）キーを押しながら [^] キーを押す。

URLで使われる半角の「~」（チルダ）が入力できない。

→ MS-IMEツールバーで「直接入力」または「半角英数」を選び、[Shift]（シフト）キーを押しながら [^] キーを押す。

入力した文字が表示されない。

→ 本機とキーボードが正しく接続されているか確認する（39ページ）。

→ 文字を入力したいソフトウェアの画面が前面に出ていない（タイトルバー（ウィンドウの上の部分）は薄い色になります）。文字を入力したいソフトウェアのウィンドウのどこかをクリックするか、[Alt]（オルト）キーと [Tab]（タブ）キーを同時に押して目的のソフトウェアを前面に出し、使える状態にする（タイトルバーが青い色になります）。

キーボードを使って正しく入力できない。

→ 数字キーで数字を入力できない場合は、キーボード右上のNum Lock（ナム・ロック）ランプが消灯していないか確認する。消灯している場合は、[NumLk ScrLk]（ナム・ロック）キーを押してランプを点灯させてから入力してください。

→ キーボードの設定が「日本語 PS／2キーボード（106／109キー Ctrl＋英数）」に設定されているか確認する。異なるキーボードに設定していると、入力したい文字と違う文字が表示されることがあります。

1 **デスクトップ画面左下の [スタート] をクリックして、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 **［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする。**

「パフォーマンスとメンテナンス」が表示されます。

3 **（システム）をクリックする。**

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

4 **［ハードウェア］タブをクリックする。**

5 デバイス マネージャ(D) **をクリックする。**

「デバイスマネージャー」画面が表示されます。

6 **キーボードの項目をクリックする。**

「日本語 PS／2キーボード（106／109キー Ctrl＋英数）」と表示されます。

上記と異なるキーボードタイプに設定していると、入力したい文字と違う文字が表示されることがあります。

マウス

マウスがマウスパッドの端まで来てしまい、これ以上動かせない。

→ マウスを持ち上げてマウスパッドの中央に戻す。

画面上のポインタが動かない。

→ 本機とマウスが正しく接続されているか確認する（39ページ）。

→ マウスの内部が汚れている場合は、マウスを掃除する（310ページ）。

→ （ウィンドウズ）キーを押して「スタート」メニューを表示させ、（ページアップ）キーまたは（ページダウン）キーを押して［終了オプション］を選んで、（エンター）キーを押す。そのあと（タブ）キーで［再起動］を選び、（エンター）キーを押して本機を再起動する。

→ DVD-ROM／CD-ROMを再生しているときなどに、ポインタが動かなくなってしまった場合は、（コントロール）キーと（オルト）キーを押しながら（デリート）キーを押し、DVD-ROM／CD-ROMを再生しているソフトウェアを強制的に終わらせ、本機を再起動する。

画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。

→ 本機前面の（電源）ボタンを4秒以上押して、電源をいったん切ってから入れ直す。

次のページへつづく

スクロールしない。

→ スクロール機能に対応していないソフトウェアを起動している。スクロールの必要のないソフトウェアはスクロールできません。また、ソフトウェアによっては、スクロール機能に対応していないものがあります。

マウスを動かしてもカーソルが動かない。

→ オートスクロール設定になっている。ホイールボタンを押して、オートスクロールの状態を解除してください。

フロッピーディスク

フロッピーディスクが取り出せない。

→「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［基本的な使いかた］→［フロッピーディスクを使う］→［フロッピーディスクを入れる／取り出す］→［フロッピーディスクを取り出すには］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って保存し直す。

「このディスクは書き込み禁止になっています。」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［基本的な使いかた］→［フロッピーディスクを使う］→［フロッピーディスクを書き込み禁止にする］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

フロッピーディスクを初期化しようとしたができない。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［基本的な使いかた］→［フロッピーディスクを使う］→［フロッピーディスクを書き込み禁止にする］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

→ フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。

→ 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。

ハードディスク

誤ってハードディスクを初期化してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。詳しくは「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(292ページ) をご覧ください。

ハードディスクの内容を誤って消してしまった。

→ リカバリ CDを使って、本機を再セットアップする必要があります。詳しくは「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(292ページ) をご覧ください。

ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。

→ ディスクドライブにリカバリ CDが入っていないか確認する。

→ ディスクドライブにブータブルCDが入っていないか確認する。

→ 上記の操作を行っても起動できない場合は、リカバリ CDを使って本機を再セットアップする。詳しくは「リカバリ CDで本機を再セットアップする」(292ページ) をご覧ください。

DVD-ROM／CD-ROM

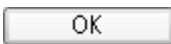
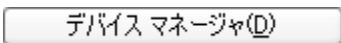
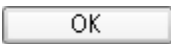
CD-ROMが再生されない、または音楽CDの再生時、ノイズが聞こえたり、音がとぎれる。

→ CD-ROMをディスクドライブに入れてください。

→ CD-ROMが正しくディスクドライブに入っているか確認する。CD-ROMは文字が書いてある面を上にして入れます。

→ CD-ROMの再生面を柔らかい布できれいに拭き、汚れをとる。

→ CDレンズクリーナーでレンズの汚れをとる。

→ 結露している。しばらく待って電源を入れ直してから、もう1度再生してみる。

次のページへつづく

→ 使用できないディスクの可能性があります。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［VAIOインフォメーション］→［知っ得情報］→［使用できるディスク］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

音楽CDを再生していると、ノイズが聞こえたり、音がとぎれる。

→ 以下の手順に従って設定を変更してください。

1 **デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［すべてのプログラム］にポインタを合わせ、［Windows Media Player］をクリックする。**
「Windows Media Player」ソフトウェアが起動します。

2 **［ツール］をクリックし、表示されるリストから［オプション］をクリックする。**
「オプション」画面が表示されます。

3 **［デバイス］タブをクリックする。**

4 **［プロパティ(P)］をクリックする。**

5 **「再生」の中にある［アナログ］の◉をクリックして、◯にする。**

6 **［OK］をクリックする。**

7 **デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックし、（マイコンピュータ）を右クリックして、表示されるリストから［プロパティ］をクリックする。**
「システムのプロパティ」画面が表示されます。

8 **［ハードウェア］タブをクリックする。**
「ハードウェア」画面が表示されます。

9 **［デバイス マネージャ(D)］をクリックする。**
「デバイスマネージャー」画面が表示されます。

10 **［DVD／CD-ROMドライブ］をダブルクリックし、表示されるディスクドライブ名を右クリックして［プロパティ］をクリックする。**
「（ディスクドライブ名）のプロパティ」画面が表示されます。

11 **［プロパティ］タブをクリックする。**

12 **「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」の☑をクリックして、☐にする。**

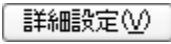
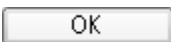
13 **［OK］をクリックする。**

DVD-ROMが再生できない、またはDVD再生時、画像または音がとぎれる。

→ DVD-ROMが正しくDVD-RWドライブ（PCV-RX73/RX63）またはDVD-ROMドライブ（PCV-RX53）に入っているか確認する。DVD-ROMは再生したい面を下に向けて入れます。

→ 地域番号（リージョンコード）が違うDVD-ROMを入れている。本機では地域番号（リージョンコード）として「2」（日本）または「ALL」が記されていないDVD-ROMは再生できません。

→ DVD-ROMの再生面を柔らかい布できれいに拭き、汚れをとる。

→ CDレンズクリーナーでレンズの汚れをとる。

→ 結露している。しばらく待って電源を入れ直してから、もう1度再生してみる。

DVD-ROMが取り出せない。

→ DVD-ROMはイジェクトボタンを押しても、状態によっては取り出せないことがあります。

エラーメッセージが出て、DVDビデオの再生ができない。

→ ハードウェアアクセラレータが最大になっているか確認する。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［コントロールパネル］をクリックする。**
「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 **［デスクトップの表示とテーマ］アイコンをクリックする。**
「ディスクトップの表示とテーマ」画面が表示されます。

3 **［画面］をクリックする。**
「画面のプロパティ」画面が表示されます。

4 **［設定］タブをクリックする。**
「設定」画面が表示されます。

5 **詳細設定(V) をクリックする。**
プロパティ画面が表示されます。

6 **［トラブルシューティング］タブをクリックする。**
「トラブルシューティング」画面が表示されます。

7 **「ハードウェアアクセラレータ」のスライダを動かし、最大に設定する。**

8 **OK をクリックする。**
「設定」画面が表示されます。

9 **「画面のプロパティ」画面で OK をクリックする。**

次のページへつづく

「DVDソフトウェアデコーダの設定をするアクセス権がありません」と表示された。

→ 1度、「コンピューターの管理者」アカウントを持つユーザーでログオンしてから、DVDビデオを再生してください。次に電源を入れたときからは、通常のユーザーで再生できます。

CD-RW／CD-R

CD-Rに書き込めない。

→ CD-Rは1度書き込むと書き換えはできません。ソフトウェアによっては、ディスクに空きがあるときは追記が可能な場合があります。

→ CD-Rはディスクがいっぱいになると、1度書き込んだデータを削除しても空き容量は増えません。

CD-RWを使用して作成した音楽CDがCDプレーヤーで再生できない。

→ CD-RWを使用して作成した音楽CDはCD-RWに対応しているドライブでのみ再生できます。

DVD-RW／DVD-R（PCV-RX73/RX63のみ）

DVD-RW／DVD-Rに書き込めない。

→ 「RecordNow DX」ソフトウェアでデータを書き込むときは、書き込み済みのディスクには追記で書き込みはできません。
DVD-RWの場合は、書き込み済みデータの消去を行えば再度書き込みができます。

→ 「RecordNow DX」ソフトウェアでデータを書き込むときは、書き込みデータ容量の1割増程度のハードディスク空き容量が必要となります。ハードディスクに充分な空き容量があることを確認してください。例えば、4.3Gバイトのデータを書き込む場合は、ハードディスクには約4.7Gバイトの空き容量が必要になります。

→ 「RecordNow DX」ソフトウェアでデータを書き込むときは、1つのファイルサイズが、4Gバイト（4,294,967,296バイト）以上のファイルは、書き込むことはできません。

→ 「DVDit! for VAIO」ソフトウェアでデータを書き込むときは、ハードディスクの空き容量が、書き込むデータ容量の約2倍必要となります。ハードディスクに充分な空き容量（最大約10Gバイト）があるか確認してください。

→ 「DVDit! for VAIO」ソフトウェアでデータを書き込むときは、書き込むことのできるデータは、本機に付属の「DVgate」や「Giga Pocket」ソフトウェアで作成したMPEGファイルのみです。

DVD-RW／DVD-Rへの書き込み時にデータの書き損じが起こる。

→ データ書き込み中に他のソフトウェアを起動すると、書き込みは正常に行われません。

→ データ書き込み中に、スクリーンセーバーなどの常駐プログラムが自動的に起動すると、書き込みは正常に行われません。
データを書き込む前にこれらの機能の設定を解除しておいてください。

→ データの書き込み中に、i.LINK対応機器やUSB機器などを接続したり、それらの電源を入／切したり、また、インターネットに接続したり電子メールを送受信するなど他のコンピュータやネットワークにアクセスすると、書き込みは正常に行われません。

DVD-RW／DVD-Rの書き込みに時間がかかる。

→ DVD-Rにディスク・アット・ワンスで書き込む場合、データは最低限1Gバイト（1倍速で約12分）で書き込む必要があります。書き込むデータの容量が1Gバイト以下の場合、本機では合計で1Gバイトまでダミーの書き込みを行います。これは、規格上、再生互換性を保つためです。
そのため、DVD-RW／DVD-Rに書き込むときに、1Gバイト未満の容量のデータを書き込んだ場合、データの書き込みは終了していても、書き込み処理完了までさらに20分〜40分かかることがありますが、故障ではありません。この場合、プログレスバーは100%を示したままで変化はありませんが、そのままお待ちください。

i.LINK

本機と接続したi.LINK対応機器が認識されていない。

→ i.LINK対応機器の電源を切り、いったんi.LINKケーブルを抜き差ししてから、電源を入れ直してください。

「DVgate」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器に映像を録画できない。

→ 他のソフトウェアが起動していないか確認する。他のソフトウェアが起動中に「DVgate」ソフトウェアを使ってi.LINK対応機器への録画をくり返し行うと、録画ができなくなることがあります。この場合は、本機を再起動してください。

i.LINK接続したVAIO同士で接続できない。

→ お使いの機種によっては、本機とデータのやりとりができない場合があります。詳しくは、「i.LINK接続でデータをやりとりする」（244ページ）をご覧ください。

→ i.LINKケーブルをいったん抜いてからもう1度挿し直してください。
しばらく待って接続できないようでしたら再起動してください。

→ ネットワークの設定によっては、省電力モードから復帰後に接続できなくなることがあります。その場合は、省電力モードに入らないようにしてご使用ください。

次のページへつづく

本機および本機と接続したi.LINK対応機器が正しく動作しない。

→ 本機にi.LINK対応機器を接続すると、まれに正しく動作しないことがあります。この場合は、下記の手順に従って操作してください。

1 **本機およびi.LINK対応機器からi.LINKケーブルを取りはずす。**

2 **本機およびi.LINK対応機器の電源を切る。**
本機の電源を切るときは、デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックし、［終了オプション］をクリックして表示される［コンピュータの電源を切る］画面で、［電源を切る］を選んで電源を切ってください。
本機を再起動しても、i.LINK対応機器は本機に正しく認識されません。

3 **本機およびi.LINK対応機器の電源を入れる。**

4 **i.LINKケーブルを使って本機とi.LINK対応機器を接続する。**

録画、再生

テレビの映像が映らない、チャンネルの映像が映らない。

→ 199ページをご覧ください。

「DVgate」ソフトウェアまたは「Giga Pocket」ソフトウェアを使って録画が正常にできない。

→ 本機につないだ機器が正しく接続されているか確認する。

→ 「DVgate」ソフトウェアまたは「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプをご覧ください。

録画を実行しても何も録画されない。

→ 本機に接続した機器が動作していない。ビデオカメラレコーダーやビデオデッキから録画するときは、電源が入っているか、機器と本機が正しく接続されているか確認してください。

→ ゲーム機器などの映像は、表示や録画ができないことがあります。本機と接続したビデオ機器から映像を入力している場合、一時停止したときの画像、映像が入力されていないときの画面（青い画面など）、本機に接続したビデオ機器が表示するメニュー画面などは表示や録画ができないことがあります。

番組を予約録画できない。

→ 入力設定が間違っている。「Giga Pocket」ソフトウェアの入力設定（TVチューナー、VIDEO 1 INPUT（後面）、VIDEO 2 INPUT（前面）、i.LINK）を確認してください。

→ 予約マネージャーが起動していない。本機の電源が入っているか確認してください。または予約マネージャーが起動しているか確認してください。

最初の部分が録画されていない。

→ 録画が始まるまでに10数秒かかることがあります。実際に録画をするときは、10数秒早く［録画］をクリックしてください。

画面の色がきれいに表示されない、ダイアログボックスなどの表示サイズが大きすぎる（小さすぎる）。

→ ディスプレイの設定を「Giga Pocket」ソフトウェア用に設定しないと、正しく表示されません。詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の［VAIOの使いかた］をクリックして、［設定を変更する］→［ディスプレイの設定を変更する］→［設定変更のしかた］をクリックして表示される情報をご覧ください。

i.LINKコネクタに映像が出力されている。

→ 「Giga ビデオレコーダー」ソフトウェアの「設定」画面の［i.LINK端子へ出力］にチェックマークが付いていると、i.LINKを入力に選択した場合以外、選択されているテレビやアナログビデオの映像がDV変換され、i.LINKコネクタに出力されます。映像をi.LINKコネクタに出力したくないときは、「Giga ビデオレコーダー」ソフトウェアの「設定」画面の［i.LINK端子へ出力］のチェックマークをはずしてください。

カスタマーご登録

オンラインでカスタマー登録できない。

→ カスタマー登録するときは、「コンピューターの管理者」アカウントを持つユーザーでログオンしてください。

→ 本機が電話回線に正しく接続されているか確認する（41ページ）。

→ お使いの電話回線がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、ダイヤルの種類に合わせて内蔵モデムを設定する（116、142ページ）。
お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、NTTなどの電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線（基本）使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。電話回線のダイヤル方法について詳しくは、NTT（局番なしの116番）などの電話会社にお問い合わせください。

次のページへつづく

→ ISDN回線をお使いの場合は、ターミナルアダプタのUSBコネクタと本機のUSBコネクタをつないでください（44ページ）。

→ ターミナルアダプタなどお使いになる通信機器によっては正しく通信できないことがあります。この場合は、本機後面のLINE（電話回線）ジャックと一般電話回線をつなぎ通信を行ってください。

モデム／インターネット

モジュラジャックが取りはずせない。

→ 「接続する／準備する」の「本機からテレホンコードを取りはずすには」（43ページ）をご覧ください。

インターネットに接続できない。

インターネットへの接続から、ホームページの閲覧や電子メールのやりとりは、以下の手順で行われています。

❶ **本機が内蔵モデムやターミナルアダプタ（ISDN回線の場合）を認識する。**

❷ **本機の内蔵モデムやターミナルアダプタがプロバイダに電話をかける。**

❸ **プロバイダのサーバーに接続され、プロバイダと本機の内蔵モデムやターミナルアダプタとの間で必要な信号のやりとりが行われる。**

❹ **プロバイダのサーバーが、ユーザー名やパスワードなど、インターネットへの接続に必要な項目を確認する。**
ここまでで問題がなければ、本機がインターネットに接続します。

❺ **ウェブブラウザ（「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアなど）でホームページを見る。**

❻ **電子メールをやりとりする。**

インターネットに接続できない場合は、上記の各手順で問題があることが考えられます。次ページのチェック項目に従って接続や設定を確認してください。それでも接続できないときは、VAIOカスタマーリンクにご相談ください。

ご注意

接続や設定は、「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーでログオンして確認してください。

1　本機が内蔵モデムやターミナルアダプタ（ISDN回線の場合）を認識していない。

以下の点をご確認ください。

チェック項目	ここをご覧ください
□ 内蔵モデムは認識されていますか？ また、接続した電話回線は内蔵モデムで使用できるものですか？	A-1（215ページ）、 A-2（216ページ）
□ ISDN回線に接続していませんか？	B-1（219ページ）、 B-2（220ページ）、 B-3（220ページ）
□ テレホンコードは正しく接続されていますか？	C-1（220ページ）、 C-2（220ページ）、 C-3（220ページ）

2　本機の内蔵モデムやターミナルアダプタがプロバイダに電話をかけていない。

以下の点をご確認ください。

チェック項目	ここをご覧ください
□ ダイヤル方法は正しいですか？	D-1（221ページ）、 D-2（221ページ）
□ 接続先（プロバイダのアクセスポイント）の電話番号は間違っていませんか？	E-1（222ページ）
□ トーンを待ってダイヤルする設定になっていませんか？	F-1（223ページ）
□ 内蔵モデムやターミナルアダプタが3回以上連続してダイヤルしていませんか？	G-1（224ページ）

3　プロバイダのサーバーと本機の内蔵モデムやターミナルアダプタとの間で必要な信号のやりとりが行われていない。

以下の点をご確認ください。

チェック項目	ここをご覧ください
□ ネゴシエーションは正しくできていますか？	H-1（224ページ）
□「ハイパーターミナル」ソフトウェアで時報など、他の電話番号にダイヤルしても接続できませんか？	I-1（225ページ）、 I-2（226ページ）

次のページへつづく

4　ユーザー名やパスワードなど、インターネットへの接続に必要な項目がプロバイダのサーバーによって認証されない。

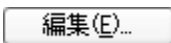
以下の点をご確認ください。

チェック項目	ここをご覧ください
□ ユーザー名やパスワードは正しく設定されていますか？	J-1（226ページ）
□ ユーザー名やパスワードを忘れてしまったのですか？	K-1（227ページ）
□ ダイヤルアップネットワークの設定は正しいですか？	L-1（227ページ）
□ ネットワークの設定は正しいですか？	M-1（229ページ）
□ ダイヤルアップ接続アイコンを削除し、再度作り直しても接続できませんか？	N-1（230ページ）

5　ウェブブラウザ（「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアなど）でホームページを見ることができない。

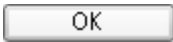
以下の点をご確認ください。

チェック項目	ここをご覧ください
□ ネットワークやダイヤルアップネットワークの設定は正しいですか？	O-1（231ページ）
□ ホームページのURLをアドレスバーに入力してホームページを見るとき、URLは正しいですか？	P-1（232ページ）

6　電子メールをやりとりできない。

以下の点をご確認ください。

チェック項目	ここをご覧ください
□ 電子メールソフトウェアの設定は正しいですか？	Q-1（232ページ）、Q-2（233ページ）

A-1 PBXなどの交換機や他の通信機器を経由して接続している。

NTTの一般電話回線と直接接続してください。本機の内蔵モデムは一般電話回線との接続を前提としています。集合住宅などで、PBXなどの交換機を経由する場合は、PBXなどの交換機が一般電話回線用のモデムに対応しているか確認してください。対応していない場合、接続できなかったり、本機の故障や破損の原因となることがあります。また、接続できても途中でとぎれたり、通信速度が遅いことがあります。
PBXなどの交換機を経由して0発信で接続するときは、以下の手順に従って操作し、外線発信番号を「0」(0発信)にしてください。

1 デスクトップ画面左下の [スタート] をクリックして[コントロールパネル]をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 [プリンタとその他のハードウェア]をクリックする。

「プリンタとその他のハードウェア」画面が表示されます。

3 [電話とモデムのオプション]をクリックする。

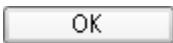
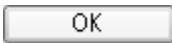
「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。

4 「ダイヤル情報」タブをクリックし、[編集(E)...] をクリックする。

「所在地の編集」画面が表示されます。

5 「市内通話の場合の外線発信番号」と「市外電話の場合の外線発信番号」に半角で「0」(ゼロ)と入力する。

次のページへつづく

困ったときは

6 **OK をクリックする。**

7 **［モデム］タブをクリックする。**

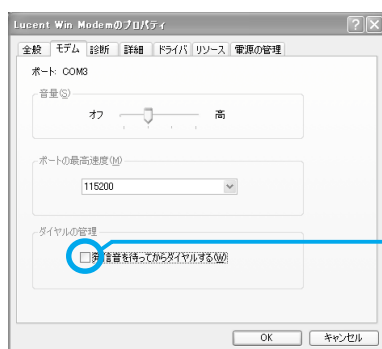
「モデム」画面が表示されます。

8 **お使いのモデムをクリックして選び プロパティ(P) をクリックする。**

内蔵モデムのプロパティ画面が表示されます。

9 **［モデム］タブをクリックする。**

「モデム」画面が表示されます。

10 **「ダイヤルの管理」の「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックをはずす。**

11 **OK をクリックする。**

12 **「電話とモデムのオプション」画面で OK をクリックする。**

A-2 以下の手順に従って操作し、内蔵モデムが正しく認識されているか確認してください。

1 内蔵モデムが本機に認識されているか確認します。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 ［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする。

「プリンタとその他のハードウェア」画面が表示されます。

3 ［電話とモデムのオプション］をクリックする。

「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。

4 ［モデム］タブをクリックする。

「モデム」画面が表示されます。

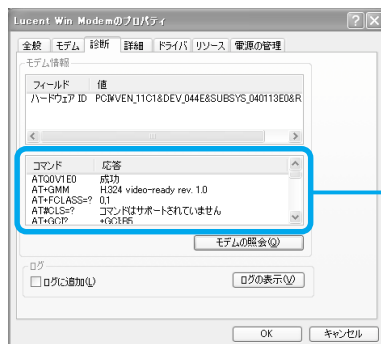
5 お使いのモデムをクリックして選び プロパティ(P) をクリックする。

内蔵モデムのプロパティ画面が表示されます。

6 ［診断］タブをクリックする。

7 モデムの照会(Q) をクリックする。

コマンドに対して応答メッセージが表示されたら、内蔵モデムは正しく認識されています。

コマンドに対して応答メッセージが表示されない場合は、本機を再起動して手順1～7をもう1度行ってください。

2 内蔵モデムが他のデバイスと競合していないか確認します。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 ［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする。

「パフォーマンスとメンテナンス」画面が表示されます。

次のページへつづく

3 [システム] をクリックする。

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

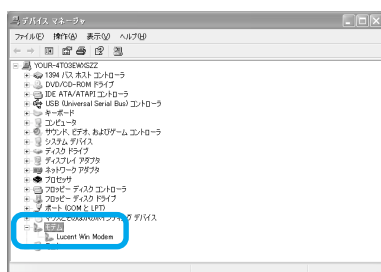
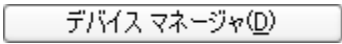
4 [ハードウェア] タブをクリックする。

「ハードウェア」画面が表示されます。

5 デバイス マネージャ(D) をクリックする。

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

6 （モデム）をダブルクリックする。

お使いのモデムのアイコンに「！」がついているものは、他のデバイスと競合を起こしています。

③ 内蔵モデムの設定をいったん削除し、もう1度、組み込み直します。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして [コントロールパネル] をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 [パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする。

「パフォーマンスとメンテナンス」画面が表示されます。

3 [システム] をクリックする。

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

4 [ハードウェア] タブをクリックする。

「ハードウェア」画面が表示されます。

5 デバイス マネージャ(D) をクリックする。

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

6 **[モデム] をダブルクリックする。**

7 **お使いのモデムをクリックして選び、メニューバーの [操作] をクリックし表示されるメニューから [削除] をクリックする。**

「デバイス削除の確認」画面が表示されます。

8 **[OK] をクリックする。**

内蔵モデムの設定が削除されます。

9 **「デバイスマネージャ」画面の [×] をクリックして画面を閉じる。**

10 **「システムのプロパティ」画面で [OK] をクリックする。**

「システムのプロパティ」画面が閉じます。

11 **本機を再起動する。**

再起動時に内蔵モデムが検出され、対応するドライバが自動的に組み込まれます。

B-1 一般電話回線がある場合は、一般電話回線に接続し直してください。

契約するプロバイダによっては、オンラインサインアップソフトウェアがISDN回線に対応していないことがあります。オンラインサインアップソフトウェアのISDN回線への対応状況について詳しくは、各プロバイダにお問い合わせください。
オンラインサインアップ後に、ISDN回線に接続し直してください。

次のページへつづく

B-2 ISDN回線しかない場合は、本機の内蔵モデムをターミナルアダプタのアナログポートに接続するか、または、ターミナルアダプタの設定を行い、内蔵モデムの代わりに使用してください。

ターミナルアダプタの設定について詳しくは、ターミナルアダプタの取扱説明書をご覧ください。
契約するプロバイダによっては、オンラインサインアップソフトウェアがISDN回線に対応していないことがあります。オンラインサインアップソフトウェアのISDN回線への対応状況について詳しくは、各プロバイダにお問い合わせください。
オンラインサインアップ後に、本機のUSBコネクタとターミナルアダプタのUSBコネクタを接続し直してください。

B-3 ISDN回線に接続しているときは、ターミナルアダプタが使える状態になっているか確認してください。

詳しくは、ターミナルアダプタの取扱説明書をご覧ください。

C-1 本機を電話回線に接続するときは、付属のテレホンコードをお使いください。

C-2 「発信音が聞こえません」または「ダイヤル先のコンピュータが応答しません」というメッセージが表示されるときは、テレホンコードが本機側および壁側、ターミナルアダプタなどへしっかりと奥まで接続されているか確認してください。

C-3 電話回線のコンセントと本機の間に付属以外の分配器などの機器をつなげないでください。

D-1 以下の手順に従って操作し、ダイヤル方法（トーン／パルス）が正しく設定されているか確認してください。

1 **デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 **［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする。**

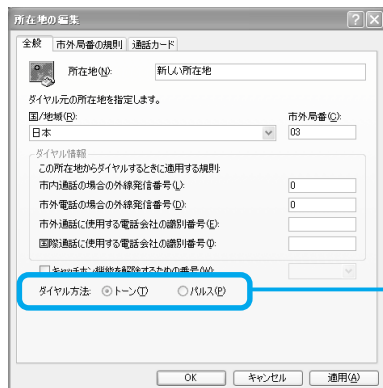
「プリンタとその他のハードウェア」画面が表示されます。

3 **［電話とモデムのオプション］をクリックする。**

「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。

4 **［編集(E)...］をクリックする。**

「所在地の編集」画面が表示されます。

5 **「ダイヤル方法」が140ページで作成したチェックシートの❻トーン／パルス（電話回線の種類）と同じか確認する。**

6 **［OK］をクリックする。**

7 **「電話とモデムのオプション」画面で［OK］をクリックする。**

D-2 お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、NTTなどの電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線（基本）使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。電話回線のダイヤル方法について詳しくは、NTT（局番なしの116番）などの電話会社にお問い合わせください。

次のページへつづく

E-1 以下の手順に従って操作し、接続先の電話番号を確認してください。

1 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 ［ネットワークとインターネット接続］をクリックする。

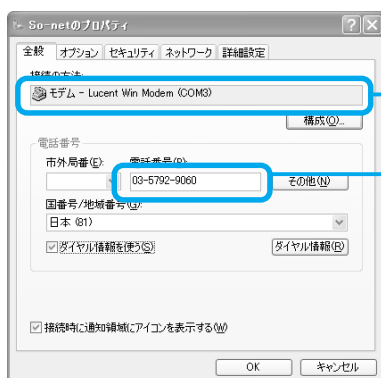
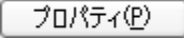
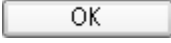
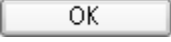
「ネットワークとインターネット接続」画面が表示されます。

3 ［ネットワーク接続］をクリックする。

「ネットワーク接続」画面が表示されます。

4 ダイヤルアップ接続名（140ページで作成したチェックシートの❶ダイヤルアップ接続名）を右クリックし、表示されるメニューから［プロパティ］をクリックする。

プロパティ画面が表示されます。

5 「接続の方法」の表示内容および「電話番号」の入力欄が間違っていないか確認する。

ちょっと一言

プロバイダによっては、同じアクセスポイントでも一般電話回線とISDN回線で電話番号を分けていることもあります。使用する電話回線に合った電話番号かは、契約したプロバイダにお問い合わせください。

F-1 以下の手順に従って操作し、トーンを待ってダイヤルする設定を解除してください。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 ［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする。

「プリンタとその他のハードウェア」画面が表示されます。

3 ［電話とモデムのオプション］をクリックする。

「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。

4 ［モデム］タブをクリックする。

「モデム」画面が表示されます。

5 お使いのモデムをクリックして選び、 プロパティ(P) をクリックする。

内蔵モデムのプロパティ画面が表示されます。

6 ［モデム］タブをクリックする。

「モデム」画面が表示されます。

7 「ダイヤルの管理」の「発信音を待ってからダイヤルする」のチェックをはずす。

8 OK をクリックする。

9 「電話とモデムのオプション」画面で OK をクリックする。

次のページへつづく

G-1 3分以内に3回以上同じ電話番号にかけた場合は、リダイヤル制限がかかる場合があります。3分以上、時間をおいてからかけ直してください。

H-1 内蔵モデムやターミナルアダプタが発信しているのに、ネゴシエーションが始まらない場合は、以下のような問題が考えられます。

ネゴシエーションとは？

内蔵モデムやターミナルアダプタがプロバイダのサーバーとの間で必要な信号のやりとりを行うことで、接続先につながると、「ピーヒョロロロ…」という音がします。

電話回線の問題

- 電話回線の状態が良くない。
- 電話回線が混み合っている。

この場合は、時間帯をずらして再度、接続してみてください。

接続先（プロバイダのアクセスポイント）の問題

- 接続先の回線の状態が良くない。
- 接続先の回線が混み合っている。
- 接続先のモデムが不調である。

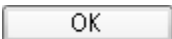
この場合は、時間帯をずらして再度、接続してみるか、アクセスポイントを変更して接続してみてください。

アクセスポイントを変更するには、以下の手順に従って操作します。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」画面が表示されます。

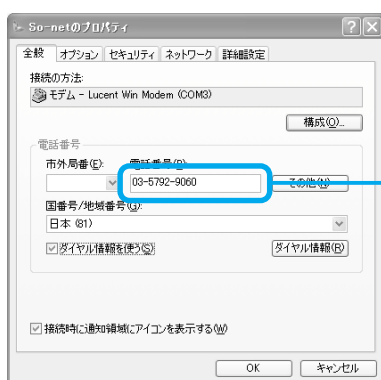
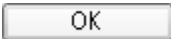
2 **［ネットワークとインターネット接続］をクリックする。**

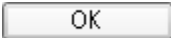
「ネットワークとインターネット接続」画面が表示されます。

3 **［ネットワーク接続］をクリックする。**

「ネットワーク接続」画面が表示されます。

4 **ダイヤルアップ接続名（140ページで作成したチェックシートの❶ダイヤルアップ接続名）を右クリックして表示されるメニューから［プロパティ］をクリックする。**

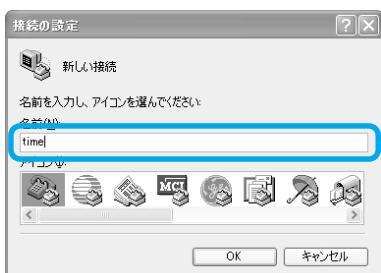
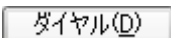
プロパティ画面が表示されます。

5 **「電話番号」の入力欄に別のアクセスポイントの電話番号を半角の数字で入力する。**

6 **［OK］をクリックしてプロパティ画面を閉じる。**

I-1 以下の手順に従って操作し、「ハイパーターミナル」ソフトウェアで時報の電話番号に接続できるか試してください。

1 **デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［すべてのプログラム］にポインタを合わせ、［アクセサリ］、［通信］、［ハイパーターミナル］の順にクリックする。**

「ハイパーターミナル」ソフトウェアが起動し、「接続の設定」画面が表示されます。

2 **「名前」に任意の名前を入れ、［OK］をクリックする。**

次のページへつづく

3 「電話番号」に時報の番号（117）を入れ、[OK] をクリックする。

「接続」画面が表示されます。

4 [ダイヤル(D)] をクリックする。

I-2 お使いになっているソフトウェアの設定を確認してください。

J-1 「ダイヤル先のコンピュータから切断されました。接続アイコンをダブルクリックして、やり直してみてください」または「ダイヤル先のコンピュータは、ダイヤルアップネットワーク接続を確立できません。パスワードを確認してからやり直してみてください」というメッセージが表示されるときは、ユーザー名やパスワードを確認してください。

ご注意

上記のメッセージは、ユーザー名やパスワードが正しくないときにのみ表示されるわけではありません。

ユーザー名とパスワードを確認するには、以下の手順に従って操作します。

1 デスクトップ画面左下の [スタート] をクリックして［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 ［ネットワークとインターネット接続］をクリックする。

「ネットワークとインターネット接続」画面が表示されます。

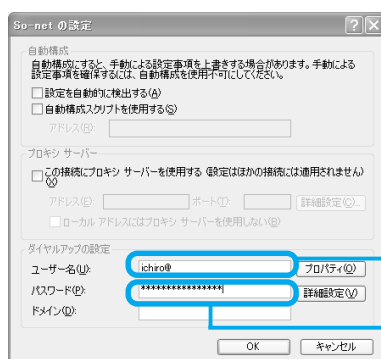
3 ［インターネットオプション］をクリックする。

「インターネットのプロパティ」画面が表示されます。

4 ［接続］タブをクリックする。

5 **「ダイヤルアップと仮想プライベートネットワークの設定」の中のダイヤルアップ接続名（140ページのチェックシートの❶ダイヤルアップ接続名）を選び、 設定(S)... をクリックする。**

設定画面が表示されます。

6 **「ダイヤルアップの設定」の「ユーザー名」や「パスワード」が正しいか確認する。**

K-1 プロバイダから郵送されてきた資料を確認してください。または、契約したプロバイダにお問い合わせください。

L-1 ユーザー名やパスワードを確認して接続してもJ-1（226ページ）で説明したメッセージが表示されるときは、以下の手順に従って、ダイヤルアップネットワークの設定を確認してください。140ページで作成したチェックシートをご覧になりながら、設定内容が正しいか確認していきます。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 **［ネットワークとインターネット接続］をクリックする。**

「ネットワークとインターネット接続」画面が表示されます。

3 **［ネットワーク接続］をクリックする。**

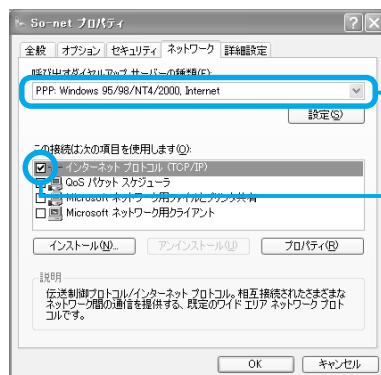
「ネットワーク接続」画面が表示されます。

次のページへつづく

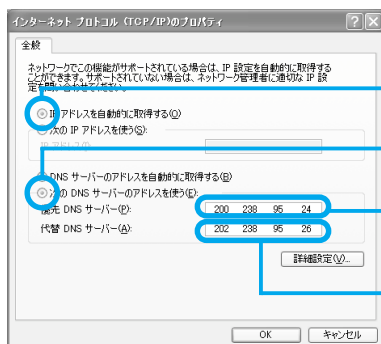
4 ダイヤルアップ接続名（140ページで作成したチェックシートの❶ダイヤルアップ接続名）を右クリックして表示されるメニューから［プロパティ］をクリックする。

「プロパティ」画面が表示されます。

5 各タブをクリックし、各項目がチェックシートどおりに正しく入力されているか確認する。

「全般」タブ

「ネットワーク」タブ

「インターネット プロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面

「ネットワーク」タブで［インターネットプロトコル（TCP/IP）をクリックして選び プロパティ(P) をクリックすると表示されます。

ご注意

プロバイダからDNSサーバーアドレスを指定されない（自動設定）場合は、［次のDNSサーバーのアドレスを自動的に取得する］をクリックしてください。

ちょっと一言

DNSサーバーアドレス（プライマリDNSとセカンダリDNS）がチェックシートと異なる場合は、［次のDNSサーバのアドレスを使う］をクリックしてから、正しいアドレスを入力します。

M-1 以下の手順に従って操作し、ネットワークの設定を確認してください。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 ［ネットワークとインターネット接続］をクリックする。

「ネットワークとインターネット接続」画面が表示されます。

3 ［ネットワーク接続］をクリックする。

「ネットワーク接続」画面が表示されます。

次のページへつづく

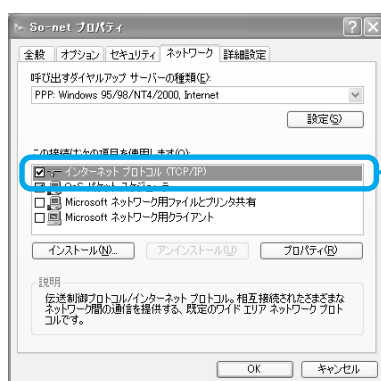
4 ダイヤルアップ接続名（140ページで作成したチェックシートの❶ダイヤルアップ接続名）を右クリックして表示されるメニューから［プロパティ］をクリックする。

プロパティ画面が表示されます。

5 ［ネットワーク］タブをクリックする。

「ネットワーク」画面が表示されます。

6 「この接続は次の項目を使用します」に「インターネットプロトコル（TCP/IP）」があるか確認する。

「この接続は次の項目を使用します」に「インターネットプロトコル（TCP/IP）」がない場合は、［インストール(N)...］をクリックして追加してください。

N-1 ダイヤルアップ接続アイコンを削除し、再度作り直して接続してみてください。

ダイヤルアップ接続アイコンを作り直すには、以下の手順に従って操作します。

1 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 ［ネットワークとインターネット接続］をクリックする。

「ネットワークとインターネット接続」画面が表示されます。

3 ［ネットワーク接続］をクリックする。

「ネットワーク接続」画面が表示されます。

4 ダイヤルアップ接続名（140ページで作成したチェックシートの❶ダイヤルアップ接続名）のアイコンをごみ箱にドラッグアンドドロップする。

ダイヤルアップアイコンを削除するか確認するメッセージが表示されます。

5 はい(Y) をクリックする。

ダイヤルアップ接続アイコンが削除されます。

6 「ネットワークタスク」の中の［新しい接続を作成する］をクリックする。

「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されます。

7 次へ(N) > をクリックする。

「ネットワーク接続の種類」画面が表示されます。

8 ［インターネットに接続する］の ◯ をクリックして ◉ にし、次へ(N) > をクリックする。

「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されます。

以下の手順は「接続のための設定をする」（145ページ）の手順3～25の操作を行ってください。

インターネット接続ウィザードが終了すると、「ネットワーク接続」画面の中に新しいダイヤルアップ接続アイコンができます。

このアイコンをダブルクリックして、接続を試してください。

O-1 L-1（227ページ）やM-1（229ページ）の操作を行い、ネットワークやダイヤルアップネットワークの設定を再度確認してください。

次のページへつづく

P-1 アドレスバーに入力されている英数字を確認してください。また、URLは半角で入力してください。

URLの中には「~」（チルダ）という特殊な記号を入力するものもあります。「~」を入力するには、MS-IMEツールバーで「半角英数」または「直接入力」を選び、Shift（シフト）キーを押しながら ~へ を押します。

Q-1 「Outlook Express」ソフトウェアをお使いの場合は、以下の手順に従って操作し、電子メールソフトウェアの設定を確認してください。140ページで作成したチェックシートをご覧になりながら、設定内容が正しいか確認していきます。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［電子メール］をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが起動します。
「接続」画面が表示されたときは、キャンセル をクリックします。

2 画面上部の［ツール］をクリックし、表示されるメニューから［アカウント］をクリックする。

「インターネットアカウント」画面が表示されます。

3 ［メール］タブをクリックする。

「メール」画面が表示されます。

4 お使いのアカウントをクリックして選び、プロパティ(P) をクリックする。

お使いのアカウントのプロパティ画面が表示されます。

5 各タブをクリックし、各項目がチェックシートどおりに正しく入力されているか確認する。

「全般」タブ

「サーバー」タブ

ご注意

文字は半角文字で入力してください。全角で入力してあると、電子メールソフトウェアが正しく設定されません。

Q-2 「Outlook Express」以外の電子メールソフトウェアをお使いの場合は、それぞれのソフトウェアのヘルプをご覧になり、140ページで作成したチェックシートの⑩～⑭が正しく入力されているか確認してください。

次のページへつづく

動画／静止画編集

「DVgate」ソフトウェアを使って動画や静止画の取り込みができない。

→ i.LINK対応機器の認識ができない。「Smart Capture」ソフトウェアが起動している。「Smart Capture」ソフトウェアと「DVgate」ソフトウェアをいったん終了し、「DVgate」ソフトウェアのみを起動してください。

→ i.LINK対応機器の準備ができていない。i.LINK対応機器の電源が入っているか確認してください。

→ 本機とi.LINK対応機器が正しく接続されていない。i.LINKケーブルで本機とi.LINK機器が正しくつながっているか確認してください。

「DVgate」ソフトウェアについて詳しくは、「DVgate」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

「MovieShaker」ソフトウェアを使って動画の取り込みができない。

→ i.LINK対応機器の準備ができていない。i.LINK対応機器の電源が入っているか確認してください。

→ 本機とi.LINK対応機器が正しく接続されていない。i.LINKケーブルで本機とi.LINK機器が正しくつながっているか確認してください。

「MovieShaker」ソフトウェアについて詳しくは、「MovieShaker」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

「Smart Capture」ソフトウェアを使って動画／静止画を電子メールで送れない。

→ 動画が電子メールで送れないときは、撮影時のモードを確認する。ネットムービーモードで撮影した動画のみ、電子メールに添付できます。

→ 電子メールソフトウェアの設定が正しいか確認する。詳しくは「モデム／インターネット」をご覧ください。

「Smart Capture」ソフトウェアについて詳しくは、「Smart Capture」ソフトウェアのヘルプまたは電子マニュアルをご覧ください。

エラーメッセージ

電源を入れると、「Non-System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが表示される。

→ 196ページをご覧ください。

電源を入れると、「Operating system not found」というメッセージが表示され、Windowsが起動できない。

→ 196ページをご覧ください。

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ 204ページをご覧ください。

「このディスクは書き込み禁止になっています。」というメッセージが表示された。

→ 204ページをご覧ください。

「DVDソフトウェアデコーダの設定をするアクセス権がありません」と表示された。

→ 208ページをご覧ください。

電源を入れると、「Invalid system disk. Replace the disk, and then press any key.」または「NTLDR is missing. Press any key to restart.」というメッセージが表示され、ハードディスクから起動できない。

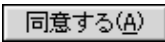
→ 197ページをご覧ください。

電源を入れると、「CMOS Battery Bad」というメッセージが表示される。

→ 197ページをご覧ください。

電源を入れると、「CMOS Checksum Error」というメッセージが表示される。

→ 197ページをご覧ください。

次のページへつづく

「Windows XP CD-ROMのラベルの付いたディスクを挿入し［OK］をクリックしてください。」というメッセージが表示される。

→ 本機の設定を変更したあとに表示されることがあります。以下の手順に従って操作してください。付属のリカバリ CDは、ディスクドライブには挿入しないでください。

1 **メッセージが表示されたら、［OK］をクリックする。**
「ファイルのコピー」画面が表示されます。

2 **「ファイルのコピー元」に、「C:¥WINDOWS¥I386」と入力して［OK］をクリックする。**
必要なファイルがコピーされます。

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアから、PDF形式のファイルを開こうとすると、「Could not find Acrobat External Window Handler.」、「An internal error has occurred.」というメッセージが表示され、PDF形式のファイルを開くことができない。

→ 本機を再起動後、以下の手順を行ってください。

1 **デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［すべてのプログラム］にポインタを合わせ、［Adobe Acrobat 5.0］をクリックする。**

2 **言語を選択する画面が表示されたら、「日本語」を選択し、［OK］をクリックする。**
言語を選択する画面が表示されない場合は、そのまま手順3を行ってください。

3 **「ソフトウェア使用許諾契約書」画面が表示されたら、契約書の内容を読み、［同意する(A)］をクリックする。**
「ソフトウェア使用許諾契約書」画面が表示されずに「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアが起動した場合は、そのまま手順4を行ってください。

4 **「Adobe Acrobat Reader」ソフトウェアが起動したら、画面右上の［×］をクリックする。**

5 **「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアから、先ほど開けなかったPDF形式のファイルを開き、表示されることを確認する。**

接続／拡張するときは

この章では、本機と周辺機器の接続と本機の拡張について説明します。

AV機器をつなぐ

本機にはいろいろなAV機器をつなぐことができます。ここでは用途別に接続例を紹介します。

こんなことがしたい	本機とAV機器をつなぎます。
• ビデオデッキの動画を本機につないだディスプレイで見たい。 • ビデオデッキの動画を本機のハードディスクに録画したい。	本機とビデオデッキをつなぎます。 接続のしかたについては下記の「ビデオ機器をつなぐ」をご覧ください。
• ビデオカメラレコーダーで撮影した動画を本機につないだディスプレイで見たい。 • ビデオカメラレコーダーで撮影した動画を本機のハードディスクに録画したい。	本機とビデオカメラレコーダーをつなぎます。 接続のしかたについては下記の「ビデオ機器をつなぐ」をご覧ください。
• ディスプレイで見ている動画をテレビでも見たい。	本機とテレビをつなぎます。 接続のしかたについては「テレビにつなぐ」(241ページ）をご覧ください。

ビデオ機器をつなぐ

ビデオデッキやビデオカメラレコーダーを本機につないで、ディスプレイでビデオデッキの動画を見たり、本機のハードディスクドライブに動画を録画することができます。また、本機で再生した動画をビデオデッキで録画することもできます。
Sビデオ接続ケーブル（4ピン ←→ 4ピン、別売り）とオーディオ接続ケーブル（付属）を使って、本機とビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーをつなぎます。本機には前面および後面パネルに映像／音声入力コネクタとS映像入力コネクタがあり、どちらの入力コネクタを使うこともできます。
ビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- 本機とビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- 前面パネルの音声入力コネクタを使うときは、別売りのオーディオ接続ケーブルが必要です。

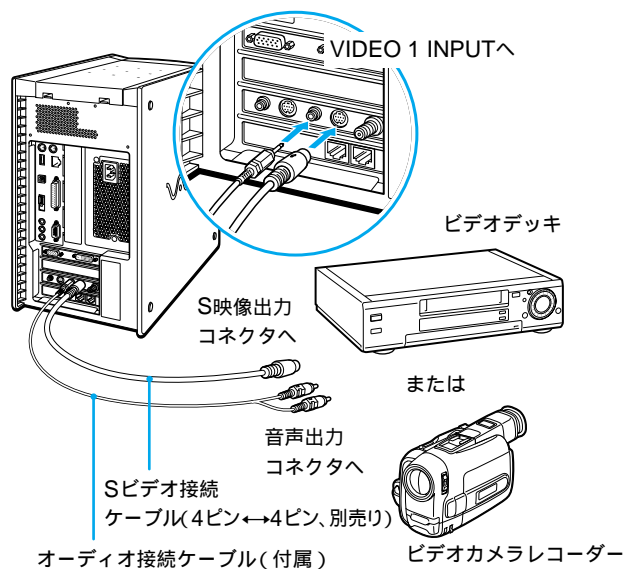
本機とビデオ機器やテレビで同時に1つのアンテナコネクタを使うときは

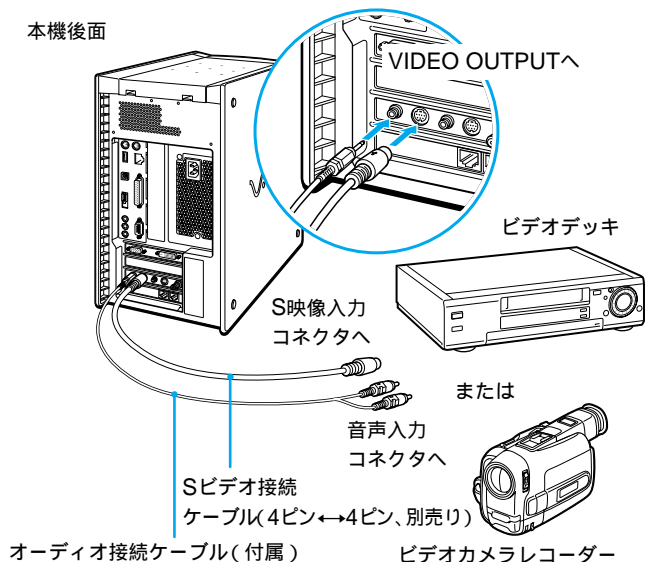
アンテナブースターや分配器を使って分配する必要があります。詳しくは、「接続する／準備する」の手順3（35ページ）をご覧ください。

ビデオ機器の動画を見たり録画するには

付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使います。詳しくは、別冊の「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプをご覧ください。

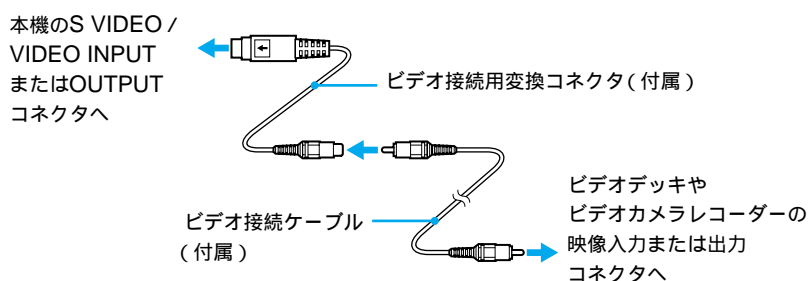
後面パネルのコネクタを使うとき

- **ビデオデッキやビデオカメラレコーダーの動画を見たり取り込むとき**

- **本機で録画した動画をビデオデッキやビデオカメラレコーダーに録画するとき**

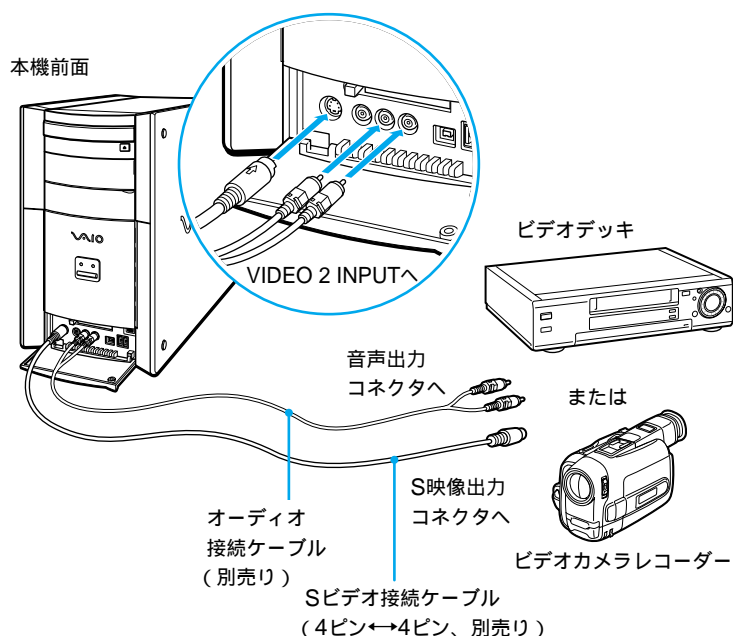
次のページへつづく

ご注意

本機のVIDEO 1 INPUTコネクタとVIDEO OUTPUTコネクタの両方を同一のビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの映像出力コネクタおよび映像入力コネクタにそれぞれつないだとき、ビデオデッキまたはビデオカメラレコーダー側で映像入力を切り換えたり、本機側で「Giga Pocket」ソフトウェアを使って映像入力を切り換えると、雑音が出たり、映像が乱れることがあります。

S映像入力／出力コネクタのないビデオデッキやビデオカメラレコーダーをつなぐときは

Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（付属）をつないで使うことができます。

ちょっと一言

別売りのソニー製のSビデオ接続ケーブルにはYC-15Vなどがあります。

前面パネルのコネクタを使うとき

ちょっと一言

- S映像入力コネクタにSビデオ接続ケーブルをつながないときは、ビデオ／オーディオ接続ケーブル（別売り）をつなぐか、ビデオ接続ケーブル（別売り）を映像入力コネクタへ、オーディオ接続ケーブル（別売り）を音声入力コネクタへつないでください。
- 別売りのソニー製のケーブルには以下のようなものがあります。

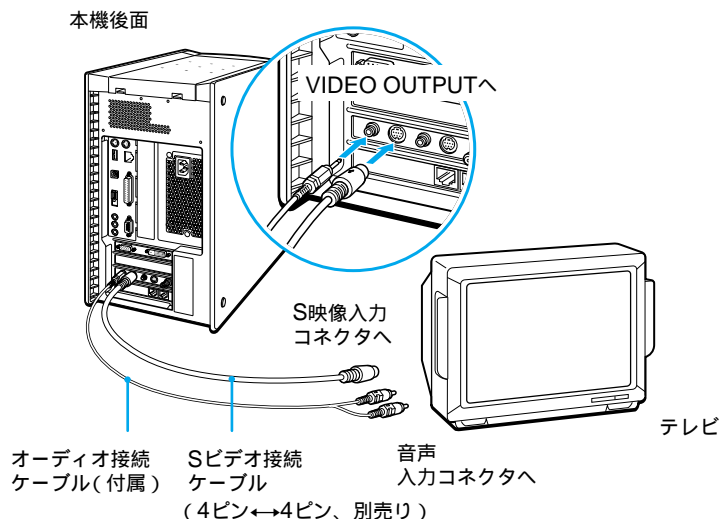
  ビデオ／オーディオ接続ケーブル　：VMC-815Sなど
  ビデオ接続ケーブル　：VMC-15など
  オーディオ接続ケーブル（2ピン←→2ピン）：RK-C315など
  Sビデオ接続ケーブル　：YC-15Vなど
  なお、ビデオ接続ケーブルは本機に1本付属しています。

テレビにつなぐ

「Giga Pocket」ソフトウェアで再生する映像や「Media Bar DVD プレーヤー」ソフトウェアで再生するDVDビデオの映像をテレビでも見ることができます。
Sビデオ接続ケーブル（4ピン←→4ピン、別売り）とオーディオ接続ケーブル（付属）を使って、本機とテレビをつなぎます。接続してから、テレビの入力切り換えを「ビデオ」に合わせます。

ご注意

- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- 本機では、ディスプレイとテレビの両方を接続していてもDVDビデオの映像は両方同時に表示できません。

次のページへつづく

AV機器をつなぐ（つづき）

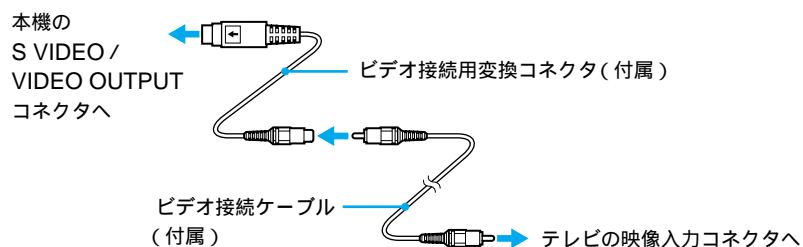
ビデオ機器をつなぐときは

本機のVIDEO OUTPUTコネクタとビデオ機器の映像／音声入力コネクタをつなぎ、ビデオ機器の映像／音声出力コネクタとテレビの映像／音声入力コネクタをつなぎます。

本機とビデオ機器やテレビで同時に1つのアンテナコネクタを使うときは

アンテナブースターや分配器を使って分配する必要があります。詳しくは、「接続する／準備する」の手順3（35ページ）をご覧ください。

S映像入力コネクタのないテレビをつなぐときは

Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（付属）をつないで使うことができます。

ちょっと一言

別売りのソニー製のSビデオ接続ケーブルにはYC-15Vなどがあります。

i.LINK対応機器をつなぐ

デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器を本機につないで、動画や静止画を取り込んだり、本機から動画を送出してテープに録画できます。

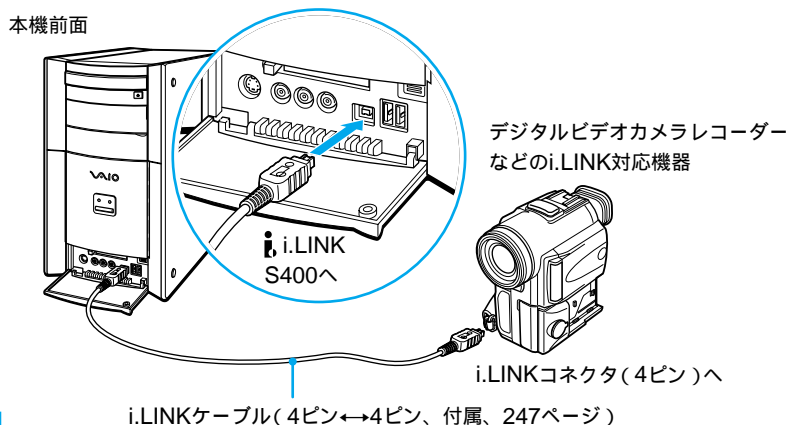
ご注意

- i.LINKコネクタを持つソニーパーソナルコンピューターまたはソニーノートブックコンピューターとデータのやりとりをする場合は、次ページの「i.LINK接続でデータをやりとりする」をご覧ください。
- i.LINKを使った接続や操作には、機器によって異なるものがあります。接続に必要なケーブルや、操作できる機器について詳しくは、「必要なi.LINKケーブル」(247ページ)および「本機で操作できるi.LINK対応機器」(248ページ)をご覧ください。
- デジタルビデオカメラレコーダーを接続するときは1度電源を切ってから接続し、電源を入れ直してください。本機の電源は切る必要はありません。
- 1度に接続できるデジタルビデオカメラレコーダーは1台のみです。同時に2台以上のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することはできません。
- 本機のi.LINKコネクタは最大400Mbpsのデータ転送に対応していますが、実際の転送速度は接続したi.LINK対応機器の転送速度により変わります。
- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、接続するi.LINK対応機器や使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、i.LINK対応機器の取扱説明書や、本機に付属の「DVgate」などの各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- 「DVgate」と「Giga Pocket」ソフトウェアの「アナログDVコンバータ」を併用して、アナログのビデオカメラレコーダーやビデオデッキから動画や静止画を取り込むときは、一緒にi.LINK対応機器をつないだままにせず、取りはずしてください。(PCV-RX73/RX63のみ)

 ちょっと一言

i.LINK対応機器をつないだときに自動的にお好みのソフトウェアが起動するように設定することができます。詳しくは「VAIO Action Setup」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

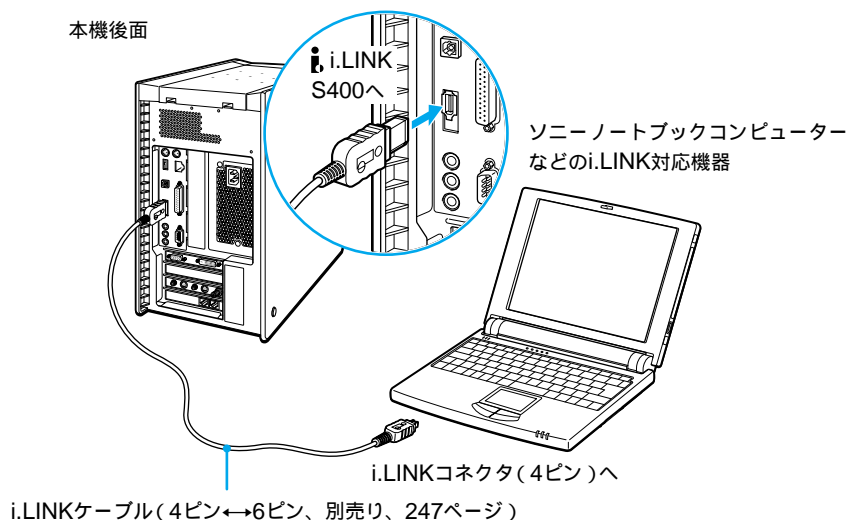
前面パネルのコネクタ(4ピン)を使うとき

i.LINKケーブル(4ピン ⟷ 4ピン、付属、247ページ)を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

接続の際は、付属のi.LINKケーブルをお使いください。

次のページへつづく

後面パネルのコネクタ（6ピン）を使うとき

i.LINKケーブル（4ピン ←→ 6ピン、別売り、247ページ）を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

i.LINK接続でデータをやりとりする

本機と「Smart Connect Ver.3.0」ソフトウェアに対応したVAIOや、Windows XPまたはWindows Meを搭載したVAIOを別売りのi.LINKケーブルで接続すると、お互いのファイルをコピーしたり、削除、編集などを行うことができます。
また、接続先のVAIOにつないだプリンタを使って印刷することもできます。
接続について詳しくは、「i.LINK対応機器をつなぐ」（243ページ）をご覧ください。

Windows XPまたはWindows Meを搭載したVAIOと本機をつなぐ場合

i.LINKケーブルで接続するだけでデータのやりとりができます。

「Smart Connect」ソフトウェアを搭載したVAIOと本機をつなぐ場合

接続先の「Smart Connect」ソフトウェアのバージョンをご確認ください。

- **「Smart Connect Ver.3.0」ソフトウェア以降の場合**

  「Smart Connect Ver.3.0」ソフトウェアの通信モードを「STDモード」にする必要があります。設定方法は、「Smart Connect Ver.3.0」ソフトウェアのヘルプの「通信モードを切り替える」をご覧ください。

- **「**Smart Connect Ver.2.2**」ソフトウェア以前の場合**
  「Smart Connect Ver.3.0」無償アップグレードサービスにより、「Smart Connect」ソフトウェアをアップグレードすることでデータのやりとりができます。詳しくは、VAIOホームページ（http://www.vaio.sony.co.jp/Download/Smart/index.html）をご覧ください。

  ご注意

  - アップグレード対象外の機種もあります。
  - 本機とアップグレード対象外の機種とでは、データのやりとりはできません。

ご注意

- i.LINKケーブルを接続してから実際にデータをやりとりできるようになるまでにしばらく時間がかかる場合があります。
- i.LINKで接続したVAIOでは、次のような条件のときにデータのやりとりができなくなることがあります。
  – i.LINKケーブルを接続したまま、どちらかのコンピュータを再起動したとき
  – データをやりとりできる状態で本機にPCカードを挿入したとき
- i.LINK接続でデータのやりとりをするには、Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有（Windows XP）、またはネットワーク共有サービス（Windows 98、Me）のインストールおよび設定が必要です。詳しくは、「ヘルプとサポートセンター」をご覧ください。

データのやりとりができなくならないように、再起動するときは、i.LINKケーブルを抜く、または、PCカードを挿入してから再起動を行ってください。
データのやりとりができなくなったときは、次ページの手順に従って操作してください。データのやりとりができるようになります。

次のページへつづく

i.LINK対応機器をつなぐ（つづき）

1 i.LINK**ケーブルを抜く。**

2 **接続しているそれぞれのコンピュータを再起動する。**

3 **再度** i.LINK**ケーブルを接続する。**

ご注意

i.LINKケーブルを再度接続したあとは、接続先のVAIOを認識するのに数分かかることがあります。

接続先のコンピュータを探すには

接続先のコンピュータが、ネットワークコンピュータにすぐには表示されないことがあります。そのときは、デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックし、表示されるメニューから［マイコンピュータ］をクリックしたあと、［マイネットワーク］を右クリックして［コンピュータの検索］を選択し、接続先のコンピュータ名を入力して検索してください。

接続先から自分のコンピュータを利用できるようにするには

本機のフォルダや接続しているプリンタを接続先のコンピュータから利用できるようにするには、ネットワーク共有サービスのインストールおよび設定が必要です。
デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックし、表示されるメニューから［マイコンピュータ］をクリックしたあと、［ホーム／小規模オフィスのネットワークのセットアップ］をクリックし、「ネットワークセットアップウィザードの開始」で設定することもできます。
詳しくは、「ヘルプとサポートセンター」をご覧ください。
「ヘルプとサポートセンター」を見るには、デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックし、［ヘルプとサポート］をクリックします。

必要なi.LINKケーブル

ソニーのi.LINKケーブルをお使いください

i.LINK対応機器の接続には、本機に付属のi.LINKケーブル、本機で操作できるi.LINK対応機器に付属のi.LINKケーブルまたは、下記のソニー製i.LINKケーブル（別売り）をお使いください。

本機には4ピン←→4ピンのi.LINKケーブル（1.5m）が付属しています。長い4ピン←→4ピンのi.LINKケーブルが必要な場合は、別売りのVMC-IL4435A（3.5m）をお使いください。

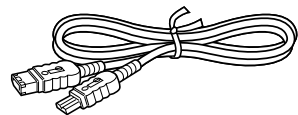
6ピン←→6ピン

• VMC-IL6615A（1.5m）
• VMC-IL6635A（3.5m）

4ピン←→6ピン

• VMC-IL4615A（1.5m）
• VMC-IL4635A（3.5m）

4ピン←→4ピン

• VMC-IL4408A（80cm）
• VMC-IL4415A（1.5m）
• VMC-IL4435A（3.5m）

ご注意

DVケーブルはご使用になれません。

本機で操作できるi.LINK対応機器

本機では、下記のi.LINK対応機器に接続して、データをやりとりしたり、画像をデジタルのまま取り込むことができます。（2001年10月10日現在）

- i.LINKコネクタを持つソニーパーソナルコンピューター
- i.LINKコネクタを持つソニーノートブックコンピューター*

  * 別売りのパワーアップステーションやポートリプリケーターを取り付ける必要があるモデルがあります。取り付けかたについて詳しくは、お使いのノートブックコンピュータの取扱説明書をご覧ください。
- ソニーが2001年9月末日までに日本国内で発売した、DV端子付きの家庭用DV機器（Digital 8デジタルビデオカメラレコーダーを含む、ツーリストモデルは除く）

  ただし、ソフトウェアによっては一部のDV機器が動作対象外になる場合があります。詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書、電子マニュアル、ヘルプ、Readmeファイルなどをご覧ください。
- その他、ソニー製のVAIOブランドのi.LINK対応機器の最新情報は、VAIOカスタマーリンク ホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）をご覧ください。

ご注意

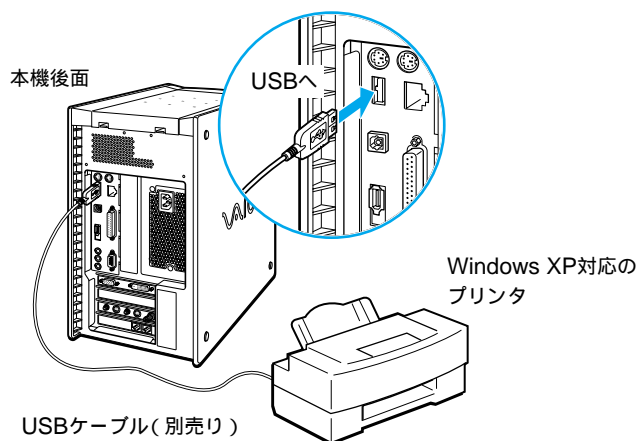
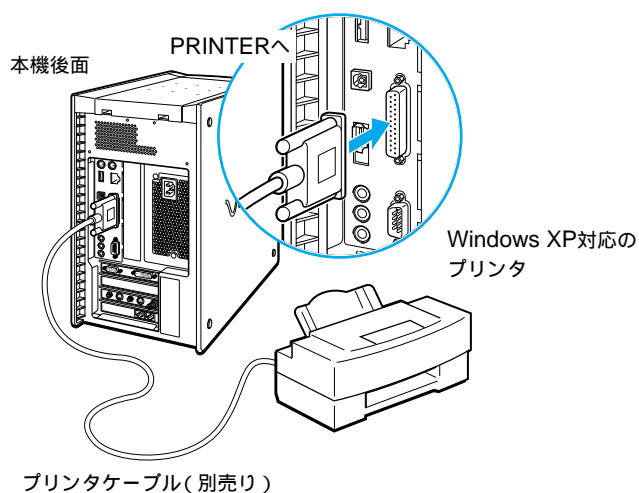
- i.LINKコネクタを持つソニーパーソナルコンピューターまたはソニーノートブックコンピューターとデータのやりとりをする場合は、「i.LINK接続でデータをやりとりする」（244ページ）をご覧ください。
- 本機はDTLAコピー・プロテクション技術に対応していないため、デジタルCSチューナーやD-VHSビデオデッキなどのDTLAコピー・プロテクション技術に対応した機器に接続しても操作することができません。
- i.LINKは、すべての機器間での接続動作が保証されているものではありません。i.LINK搭載各機器の動作条件と接続の可否情報をご確認ください。動作の可否は、各機器のソフトウェア（OSを含む）、ハードウェアによって規定されます。
- i.LINKで接続を行うコンピュータ周辺機器（ハードディスクドライブやCD-RWドライブなど）は、OSによっては対応していない場合があります。i.LINK対応機器をご購入の際には、あらかじめ動作環境をご確認ください。

プリンタをつなぐ

Windows XPに対応しているプリンタを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。
プリンタに付属または別売りのUSBケーブル、またはプリンタケーブルを使って本機につなぎます。

ご注意

- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows XPに対応していないプリンタを本機につないでも、正常に動作しません。

USBケーブルを使うとき

プリンタケーブルを使うとき

接続／拡張するときは

次のページへつづく

プリンタを使用するには

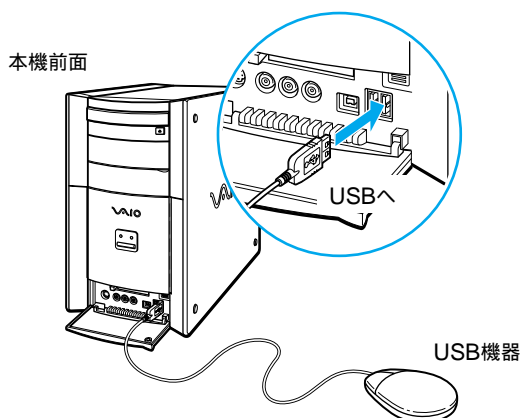
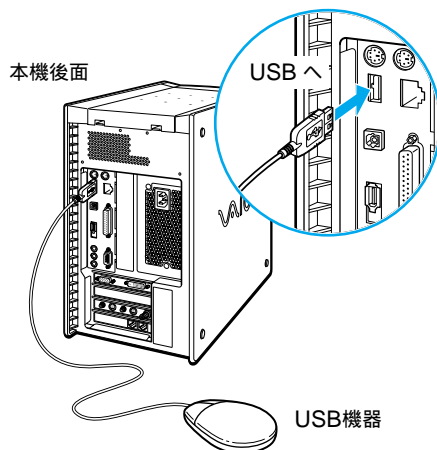
プリンタを使用するには、プリンタに付属のドライバを本機にインストールする必要があります。
詳しくはプリンタの取扱説明書および「ヘルプとサポートセンター」をご覧ください。
「ヘルプとサポートセンター」を見るにはデスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［ヘルプとサポート］をクリックします。

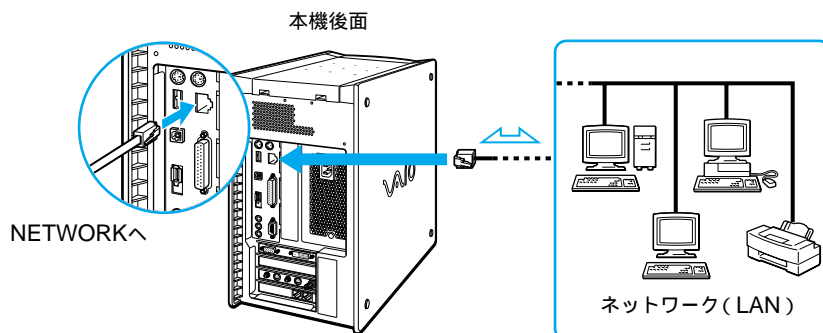
 ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。プリンタのドライバを本機にインストールすることにより、本機からプリンタの動作をコントロールできるようになります。

USB機器をつなぐ

本機の前面と後面にあるUSBコネクタを使って、Windows XPに対応しているUSB機器を接続することができます。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

前面パネルのコネクタを使うとき

後面パネルのコネクタを使うとき

ネットワーク（LAN）につなぐ

本機後面のNETWORKコネクタとネットワーク（LAN）を直接接続して、ネットワーク内の他の機器とデータをやりとりできます。
10BASE-Tと100BASE-TXタイプのネットワークに接続できます。

ちょっと一言

本機をネットワークに接続すると、ネットワークに接続されている他のコンピュータから、「Giga Pocket」ソフトウェアのサーバー機能を利用して、録画を予約したり、録画済みの動画を再生したりできます。「Giga Pocket」ソフトウェアのサーバー機能について詳しくは、別冊の「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプをご覧ください。

ADSLについて

ADSLとは「Asymmetric Digital Subscriber Line」の略で、一般電話回線を利用してインターネットへ高速に常時接続できるサービスのことです。このサービスを利用するには、ADSL接続サービスを提供している接続業者と契約し、申し込むことが必要です。
ADSL接続サービスの申し込み方法、料金、必要な機器とその接続方法について詳しくは、契約するADSL接続サービスを提供している接続業者にお問い合わせください。

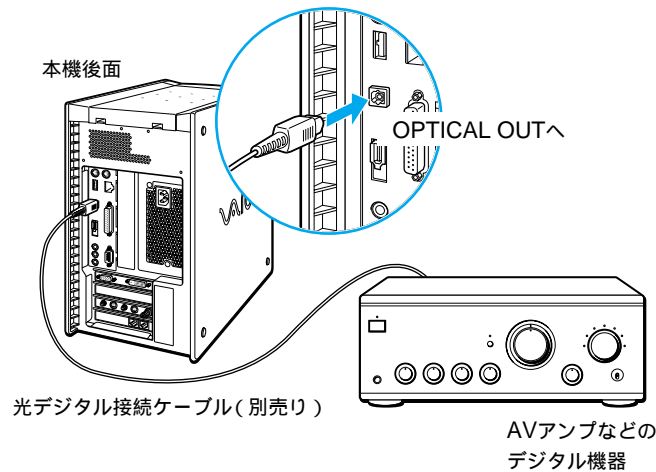
ご注意

NETWORKコネクタには指定以外のネットワークや電話回線を接続しないでください。
お買い上げ時にはNETWORKコネクタ上に誤って接続しないようにシールが貼られています。NETWORKコネクタを使うときは、シールをはがしてから接続してください。

AVアンプなどのデジタル機器をつなぐ（PCV-RX73/RX63のみ）

本機のOPTICAL OUT（光デジタル出力）コネクタを使って、AVアンプやMD、DATなどのデジタル機器をつないで録音することができます。
接続した機器の取扱説明書も合わせてご覧ください。

ご注意

デジタル機器と接続するには、別売りの光デジタル接続ケーブル（角型）が必要です。

ご注意

- OPTICAL OUTコネクタの出力サンプル周波数は48kHzです。MDデッキなどを接続して録音する場合、接続した機器がこれらのサンプリング周波数に対応していないときは録音することができません。
- 「MediaBar DVD プレーヤー」ソフトウェアを使って、DVDビデオ再生時の出力音声形式を切り換えることができます。
  「MediaBar DVD プレーヤー」ソフトウェアの［設定］ボタンを押して表示される「DVD設定」画面で、設定を切り換えます。
  「ドルビーデジタル（AC-3）」に設定した場合は、本機のHEADPHONES（ヘッドホン）コネクタなどから出力されるアナログ音声出力はオフになります。

PCカードを使う

本機にPCカードを装着すると、他のコンピュータとデータをやりとりしたり、さまざまな機能を拡張したりできます。

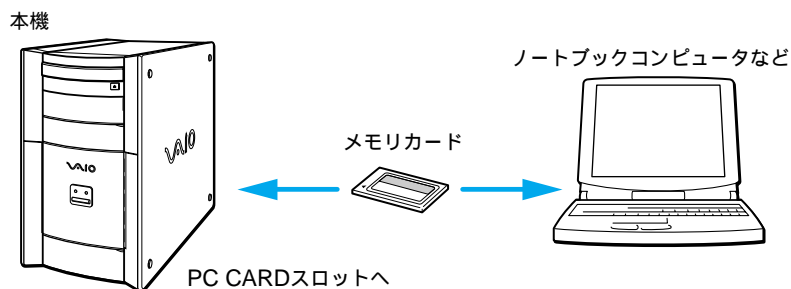
PCカードとは

PC Card規格に準拠した、着脱可能な機能拡張デバイスです。形はクレジットカードに似ていますが、やや大きくて厚みがあります。
主なPCカードには以下のような種類があります。

メモリカード

データをフラッシュメモリに保存します。PCカードに対応したデジタルスチルカメラで撮影した画像であれば、PCカードを本機に取り付けてそのまま取り込めます。
また、本機やPCカードに対応した機器で作成したデータをメモリカードに保存して、データをやりとりできます。

フラッシュメモリとは

電気的にデータを読み書きする、記憶メディアの1つです。普通、書き込み可能なメモリは、電源を切ると内容が消えてしまいますが、フラッシュメモリは電源を切っても内容が消えないという特徴をもっています。

SCSIカード

MOドライブやスキャナなどのSCSIデバイスを接続できます。

MOとは

「エム・オー」と読みます。レーザー光線と磁気を利用してデータを読み書きする外部記憶メディアのことです。フロッピーディスクよりも容量が多く、種類により、最大640Mバイトまでデータを記録することができます。

SCSIとは

「スカジー」と読みます。コンピュータと、MOドライブやプリンタなどの周辺機器を接続するための規格のことです。周辺機器などをSCSIで接続すると、本機を含めて最大7台まで数珠つなぎに接続することができます。

ネットワークカード

イーサネットなどのネットワークに接続できます。

イーサネットとは

コンピュータ間のデータ通信方式のことで、職場などで複数のコンピュータをネットワーク（LAN）でつないで、データをやりとりするときに使われます。

TA（ターミナルアダプタ）カード

ISDN回線に接続できます。

ISDNとは

NTTのデジタル通信網を使った電話回線で、通信速度が速く、1回線で従来の2回線が使えます。

本機には、PC CardタイプⅠとタイプⅡに準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。また、本機のPC CARD（PCカード）スロットは16ビットCardおよびCard Busにも対応しています。
（ZV（Zoomed Video）Portには対応していません。）

ご注意

- PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。
- PCカードによっては、PC CARDスロットに挿入したまま本機の電源を入れると正しく動作しないことがあります。この場合は、PCカードの使用を中止し、いったん取り出してから、もう1度入れ直してください。
- PCカードによっては、ドライバを最新のものにすることによって不具合が改善される場合があります。PCカードの製造メーカーから最新のドライバを入手してお使いください。

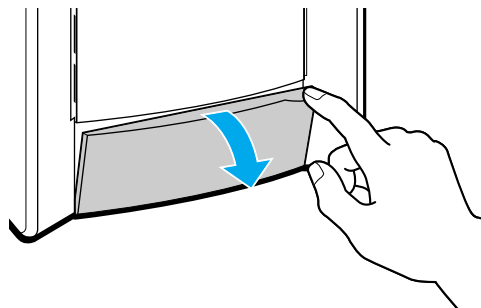
ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータに知らせ、周辺機器を、正しく動かすために必要なソフトです。

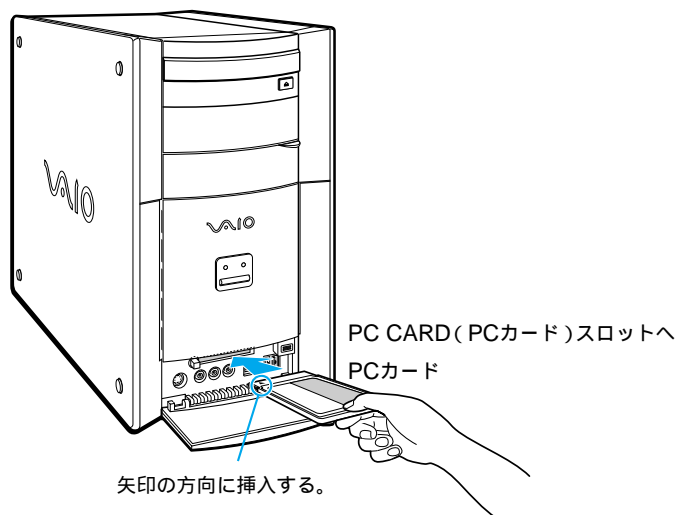
PCカードを取り付ける

PCカードを取り付けるときに本機の電源を切る必要はありません。

1

本機の前面の下にあるふたを手前に開ける。

2

カードをPC CARD（PCカード）スロットに挿入する。

スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。
カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。

取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- お使いのPCカードのメーカーが提供する最新のドライバをお使いください。
- 「デバイスマネージャ」画面のPCカードに「！」がついている場合は、ドライバを削除し、再度インストールする必要があります。「デバイスマネージャ」画面を表示させるには、以下の手順に従って操作してください。

1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［コントロールパネル］をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックし、［システム］をクリックする。

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

3［ハードウェア］タブをクリックし、 デバイス マネージャ(D) をクリックする。

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

PCカードを取り出すには

ご注意

カードを取り出すときは、必ず以下の手順に従ってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。
本機の電源が切れているときは、PC CARD（PCカード）スロットのイジェクトボタンを押すだけでPCカードを取り出せます。（手順1～4は不要です。）
本機がスタンバイモードまたは休止状態のときは、本機を通常の動作モードに戻してから手順1～5を行ってください。本機を通常の動作モードに戻すには、キーボードのスペースキーを押す（スタンバイモード時）か、本機前面の⏻（電源）ボタンを押します。

1 デスクトップ画面右下のタスクトレイにある を右クリックする。

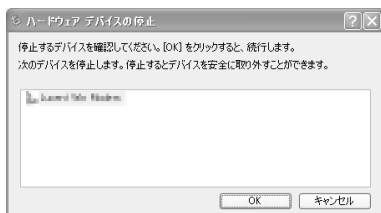
「ハードウェアの安全な取り外し」画面が表示されます。

次のページへつづく

2

リストから取り出したいPCカードをクリックし、 停止(S) **をクリックする。**

「ハードウェアデバイスの停止」画面が表示されます。

3

取りはずすPCカードを確認し、 OK **をクリックする。**

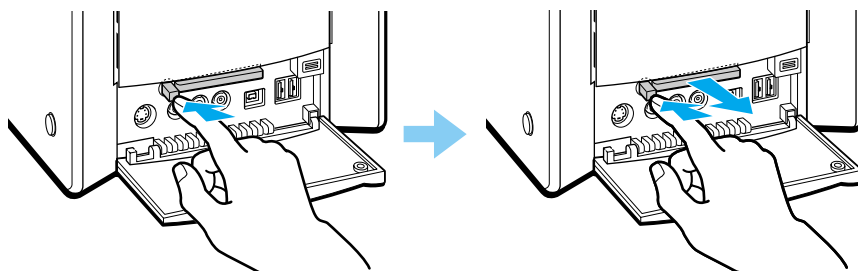
デスクトップ画面右下に「…は安全に取り外すことができます。」と表示されます。

4

「ハードウェアの安全な取り外し」画面の 閉じる(C) **をクリックする。**

5

PC CARD（PCカード）スロットのイジェクトボタンを押す。

1度イジェクトボタンを押してボタンを手前に引き出し、出たボタンをもう1度押すとPCカードを取り出すことができます。

カードがコネクタからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。

拡張ボードを増設する

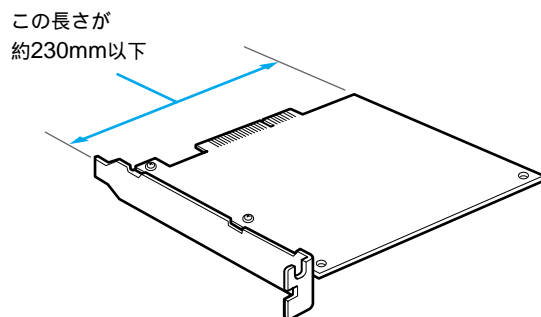
本機では「拡張ボード」と呼ばれる別売り品を装着することで、さまざまな機能を拡張し、よりご自分に合った作業環境を構築することができます。

拡張ボードの種類

本機では「PCI」という規格に対応した拡張ボードを取り付けることができます。拡張ボードをお買い求めの際は、Windows XPとPCI規格に対応していることをご確認ください。

本機には空きスロット（拡張ボードを増設できる場所）が1か所あり、PCI拡張ボードを1枚取り付けることができます。

拡張ボードの大きさについて

本機に取り付けられる拡張ボードの長さは、約230mmまでです。

増設できる拡張ボードについて

VAIOカスタマーリンクまたは販売店にお問い合わせください。

VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）では、増設できる拡張ボードの情報を掲載しています。

次のページへつづく

リソースについて

拡張ボードは一般的にそれぞれ専用の割り込み番号（IRQ）、メモリ、I/Oポートなどの「リソース」（資源）を使用します。
PCI規格の拡張ボードではこれらのリソースが自動的に設定されます。

IRQとは

「アイアールキュー」と読みます。ハードウェアからの割り込み信号のことです。キーボードやマウスなどの周辺機器から入力があると、それを受け付けるかどうか判断します。受け付けるときは、その優先度に応じて割り込みした処理を行います。

メモリとは

コンピュータの中にあって、データやプログラムを保存しておくための場所あるいは、装置のことです。メモリには主記憶装置と、補助記憶装置があります。通常は主記憶装置のRAMを示します。

I/Oポートとは

「アイオーポート」と読みます。コンピュータにデータを入れたり（インプット）、出したり（アウトプット）するための接続部、または、コネクタ部の総称です。入力のための機器としてはキーボードやマウス、出力のための機器としてはディスプレイなどがあります。なお、フロッピーディスクドライブやハードディスクドライブは入出力のどちらも行える機器です。

リソースとは

もともとは、「資源」という意味です。コンピュータを使って何か作業を行う場合に、そのコンピュータが稼働するために必要なメモリ、入力装置、出力装置、制御装置などを指します。

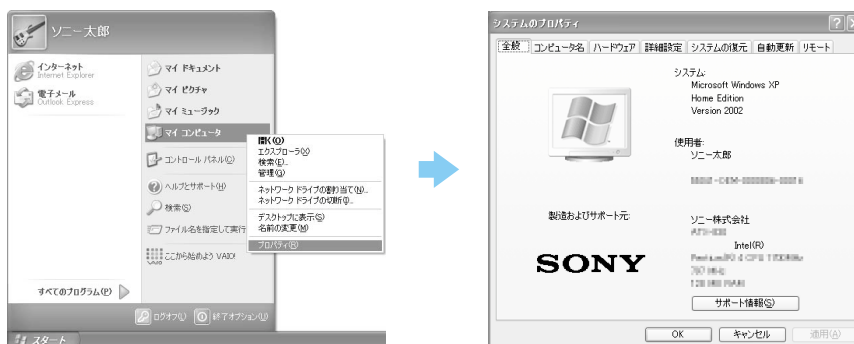
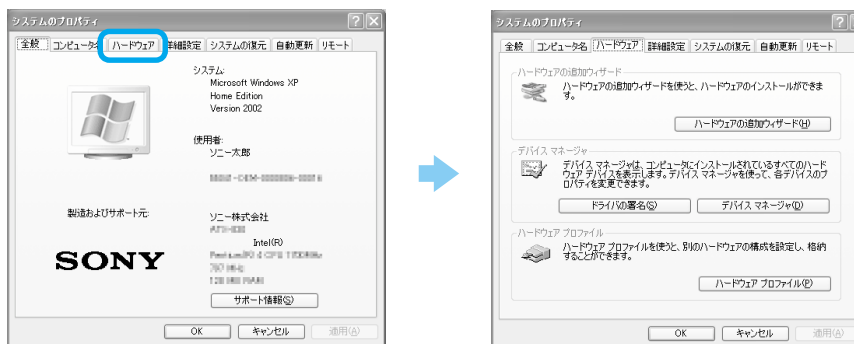
リソースを確認するには

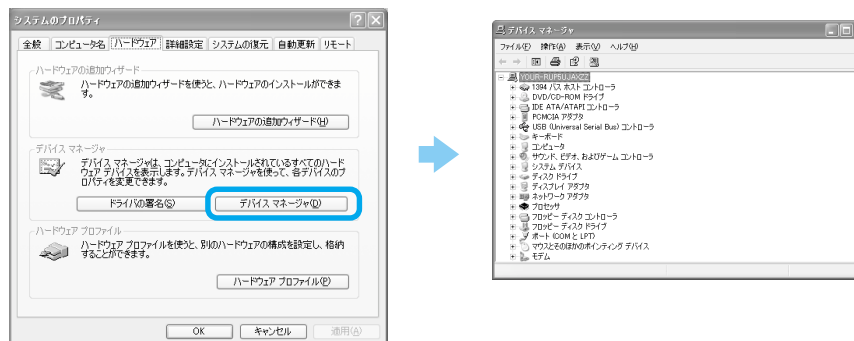
「システムのプロパティ」画面で現在使用中のリソースを確認することができます。以下の手順に従って確認します。

1　デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［マイコンピュータ］を右クリックする。

ショートカットメニューが表示されます。

2 ［プロパティ］をクリックする。

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

3 ［ハードウェア］タブをクリックする。

4 デバイス マネージャ(D) をクリックする。

「デバイスマネージャー」画面が表示されます。

次のページへつづく

5

画面左上の［表示］をクリックして、表示されるメニューから［リソース（種類別）］または［リソース（接続部）］をクリックする。

現在使用中のリソースが種類別または接続別に表示されます。

プラグアンドプレイについて

「プラグアンドプレイ」とは、拡張ボードを装着するだけで特別な設定をしなくてもすぐに使用できる状態になる機能です。本機に取り付けられるPCI規格の拡張ボードはプラグアンドプレイに対応しています。PCI規格の拡張ボードはボードを取り付けた後、リソースの設定が自動的に行われるので、ご自分で面倒な設定をする必要がありません。

拡張ボード取り付けの流れ

以下の流れに沿って、拡張ボードを増設します。

1 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜く

電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切る」（58 ページ）をご覧ください。

2 拡張ボードを取り付ける

拡張ボードの取り付けかたについて詳しくは、次ページの「拡張ボードを取り付ける」（264ページ）をご覧ください。

3 電源コードをコンセントに差し込み、本機の電源を入れる

電源の入れかたについて詳しくは、「電源を入れる」（47 ページ）をご覧ください。

4 ドライバの設定、インストールを行う

拡張ボードが本機に認識されるとメッセージが表示されるので、拡張ボードの取扱説明書なども参照の上、指示に従って操作してください。

ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアです。拡張ボードを増設したときには、ドライバのインストールが必要となる場合があります。

次のページへつづく

拡張ボードを取り付ける

以下の手順に従って拡張ボードを取り付けます。

取り付けるときのご注意

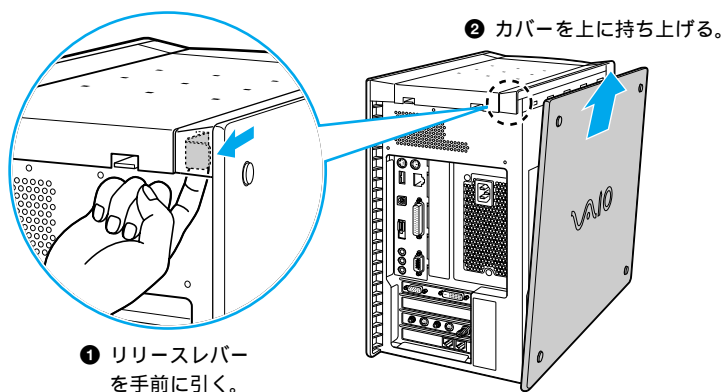
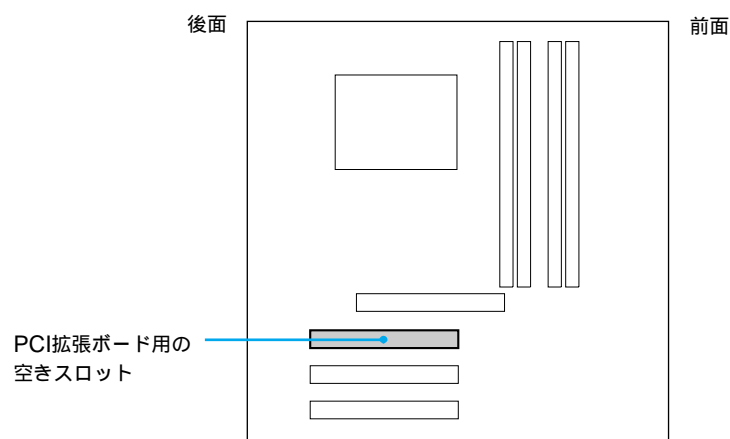
拡張ボードの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、充分時間が経過したあとに行ってください。電源コードを差したまま拡張ボードを取り付けたり取りはずしたりすると、拡張ボードや本機、周辺機器が破損することがあります。

- 拡張ボードの部品には直接手を触れないでください。人体の静電気によって部品が故障することがあります。拡張ボードを触る前には、本機の金属部分などの金属製のものに触れて体内の静電気を放電してください。
- じゅうたんの上など、静電気の発生しやすいところに拡張ボードを放置しないでください。静電気の影響で拡張ボードの部品が壊れてしまうことがあります。
- コネクタ部に直接手を触れないようにご注意ください。
- 拡張ボード内部には精密な電子部品があります。落としたり、強い衝撃を与えないようにご注意ください。
- 拡張ボードを本機から取りはずすときは、必ず本機の拡張ボードの取り扱いかたに従ってください。無理に引き抜くと拡張ボードや本機の故障の原因になります。
- 拡張ボードを水で濡らさないでください。
- 拡張ボード増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いてカバーを取り付けてから電源を入れてください。

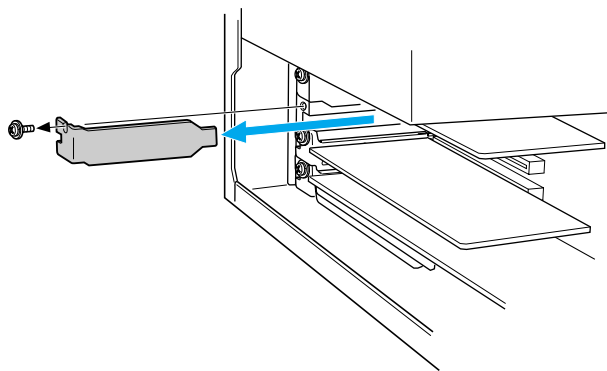
1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよび周辺機器を接続しているすべての接続ケーブルを取りはずす。

ご注意

電源を切ったあとすぐは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

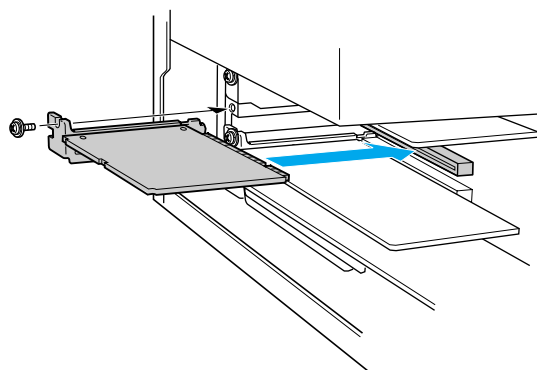
2 側面のカバーをはずす。

本機の内部基板は下図のようになっています。

次のページへつづく

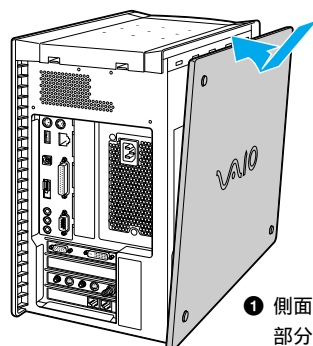
3 拡張ボードを取り付けるスロットのカバーを取りはずす。

スロットのカバーを取り付けているネジをはずし、本体の内部からカバーを取りはずします。

ご注意

内部の基板やケーブル類を傷つけないようにご注意ください。

4 拡張ボードを取り付ける。

拡張ボードを空きスロットに合わせて取り付け、ネジで固定します。詳しくは、拡張ボードの取扱説明書をご覧ください。

5 側面のカバーを取り付ける。

側面カバーの下部をはめてから、上部をはめ込みます。

6 手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。

Windowsが起動すると、「新しいハードウェアが検出されました。必要なソフトウェアをインストールしています。」というメッセージが表示されるので、画面の指示とボードの取扱説明書に従って操作します。

拡張ボードを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよび周辺機器を接続しているすべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

メモリを増設する

本機内部の拡張メモリスロットにメモリを増設することができます。
メモリを増設すると、データの処理速度や複数のソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

- メモリの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。電気的な専門知識が必要な作業ですので、販売店などに取り付けを依頼されることをおすすめします。
- メモリの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンク修理窓口までご連絡ください。
- メモリ増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- メモリ増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないように注意してください。
- メモリ増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いてカバーを取り付けてから電源を入れてください。
- **メモリモジュールの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源コードを差したままメモリモジュールを取り付けたり取りはずしたりすると、メモリモジュールや本機、周辺機器が壊れることがあります。**
- **電源を切ったあとすぐは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。**

メモリモジュールを取り付ける

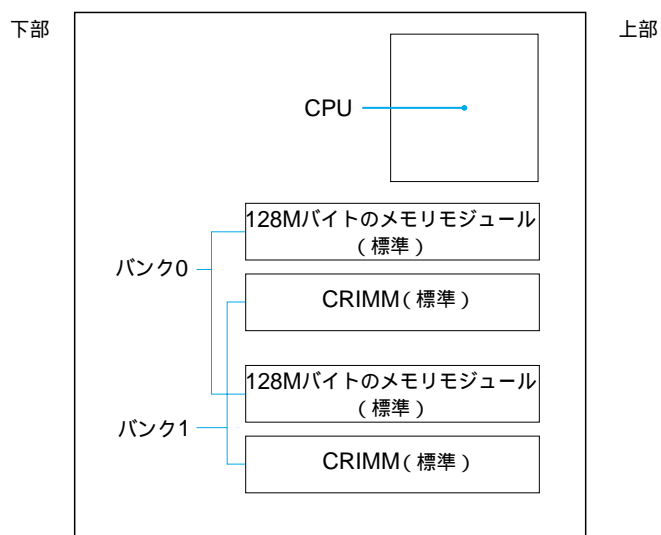
別売りのメモリモジュールを取り付けることにより、メモリを増設します。
ソニー製のメモリーモジュールは、以下のものが本機に取り付けられます。

PCV-RX73/RX63をお使いの場合

容量	メモリモジュール	同じメモリモジュールを2つ増設すると
128Mバイト （64Mバイト×2）	PCVA-MM128R	最大384Mバイトに増設
256Mバイト （128Mバイト×2）	PCVA-MM256R	最大512Mバイトに増設

本機にはメモリモジュールを取り付けるスロットが4つあります。
本機のメモリスロットは2つのバンクにわかれていますので、メモリを増設するときは、以下の点にご注意ください。

- メモリを取り付ける場合には必ずバンク0から取り付けてください。本機は標準で128Mバイトのメモリが2枚（合計256Mバイト）、装着されています。
- 同一バンク内の各スロットには同じ型名で同じ容量のメモリモジュールを取り付けてください。
- 取りはずしたCRIMMは、再度変更するときに必要になることがありますので大切に保管してください。
- 本機に取り付けるメモリモジュールは、すべて同じスピードのメモリモジュールを取り付けてください。本機は標準でPC800スピードのメモリモジュールが装着されています。

本機には標準でバンク0の各スロットに128Mバイトのメモリが2枚、バンク1の各スロットにCRIMMが2枚、合計256Mバイトのメモリが搭載されています。

PCVA-MM128Rを増設することにより、384Mバイトまで、PCVA-MM256Rを増設すると、512Mバイトまでメモリを増設できます。
取り付けの際には、メモリモジュールの取扱説明書もあわせてご覧ください。

次のページへつづく

PCV-RX53をお使いの場合

容量	メモリモジュール	メモリモジュールを増設すると
128Mバイト	PCVA-MM128S	最大384Mバイトに増設
256Mバイト	PCVA-MM256S	最大512Mバイトに増設

本機にはメモリモジュールを取り付けるスロットが2つあります。
本機は、標準で256Mバイトのメモリモジュールが1枚装着されています。
PCVA-MM128Sを1枚取り付けることにより、384Mバイトまでメモリを増設できます。また、PCVA-MM256Sを1枚取り付けることにより、最大512Mバイトまでメモリを増設できます。
取り付けの際には、メモリモジュールの取扱説明書もあわせてご覧ください。

メモリモジュールを選ぶときのご注意

- メモリモジュールには、さまざまな種類のものが存在します。市販のメモリモジュールを取り付ける際には、その製品が本機での動作保証を明記していることをご確認ください。
- 市販のメモリモジュールについてのサポートは弊社では行っておりません。ご不明の点はメモリモジュールの販売元にご相談ください。

メモリモジュールを取り付けるときのご注意

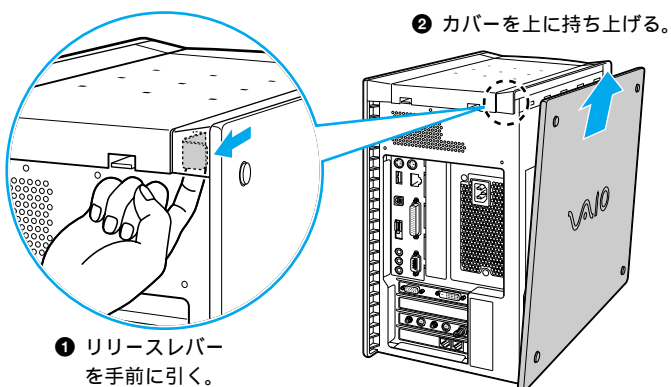
メモリモジュールの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源コードを差したままメモリモジュールを取り付けたり取りはずしたりすると、メモリモジュールや本機、周辺機器が壊れることがあります。

- 静電気でメモリモジュールが破壊しないように、メモリモジュールを取り付けるときは、次のことをお守りください。
  - メモリを増設するときは、静電気の起こりやすい場所（じゅうたんの上など）では作業しないようにしてください。
  - 静電気を体から逃がすため、本機の金属部に触れてから作業を始めてください。
  - メモリモジュールは静電気防止袋に入っています。取り付け直前まで袋から出さないでください。
- メモリモジュールを持つときは半導体やコネクタに触れないようにしてください。
- メモリモジュールを保管するときは、静電気防止袋またはアルミホイルで覆ってください。

1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよび周辺機器を接続しているすべての接続ケーブルを取りはずす。

ご注意

電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

2 側面のカバーを取りはずす。

3 メモリモジュールを梱包から取り出す。

本機の金属部分に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリモジュールを静電気防止袋から取り出します。

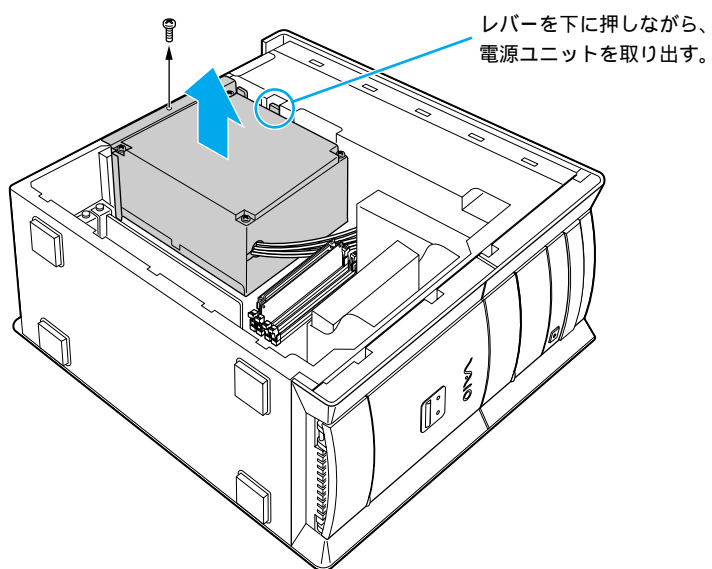
次のページへつづく

4

本機を横に倒して置く。

本機の右側面が下になるように置くと、メモリモジュールを取り付けやすくなります。

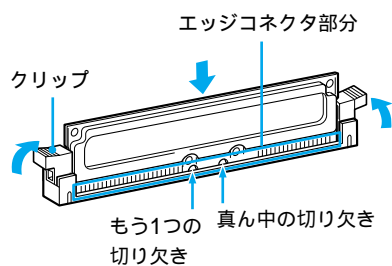
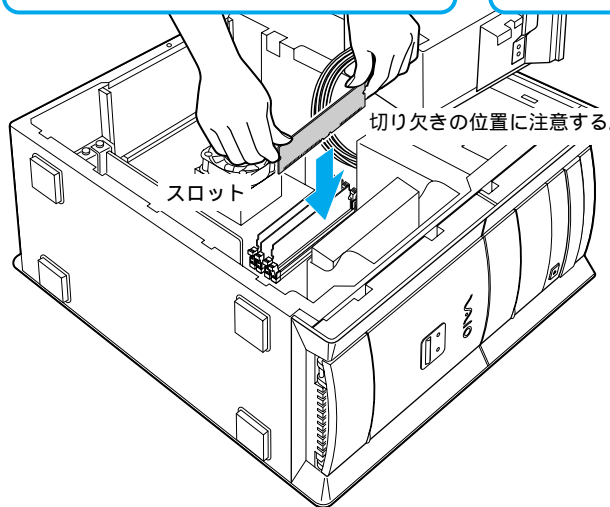
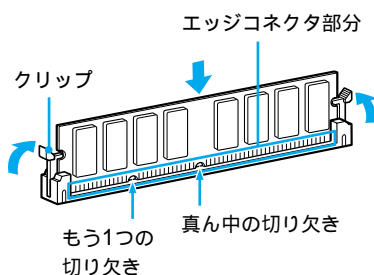
5

電源ユニットと本機を留めているネジをはずし、レバーを押しながら電源ユニットを取り出す。

ご注意

取りはずしたネジは電源ユニットを取り付けるときに必要となります。紛失しないようご注意ください。

6 メモリモジュールを取り付ける。

メモリモジュールにはエッジコネクタ部分の真ん中に切り欠きがあり、その切り欠きによって分けられたエッジの片方にだけもう1つ切り欠きがあります。

❶ メモリモジュールのエッジコネクタ部分のもう1つの切り欠きがある方を本機の底面にしてスロットに合わせる。
❷ クリップが起き上がり、固定されるまでメモリモジュールを垂直にスロットへ押し込む。

メモリモジュールを取り付けるときは、以下の点にご注意ください。正しい方法で取り付けないと故障の原因となります。
- **切り欠きの位置を確認して、メモリモジュールを正しい方向に差し込んでください。**
- **メモリモジュールは、垂直に差し込んでください。**
- **両側のクリップが起き上がるまで、深く押し込んでください。**

ご注意

電源を切ったあとすぐは、メモリモジュールが熱くなっており、やけどをする可能性があります。充分時間をおいてメモリモジュールが冷えるのを待ってから作業を行ってください。

PCV-RX73/RX63にメモリを増設するときは、2枚のメモリモジュールを同時に取り付けてください。1枚だけメモリモジュールを取り付けても動作しません。また、取り付ける2枚のメモリモジュールは同じ型名で同じ容量のものをお使いください。

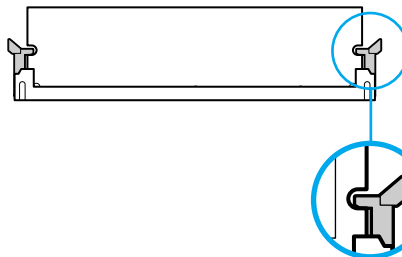
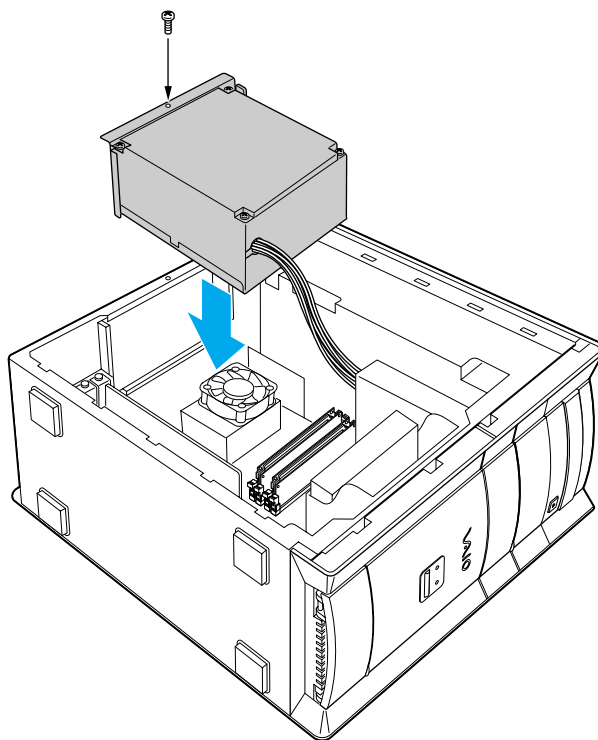
メモリモジュールの取り付けについて詳しくは、VAIOカスタマーリンクまたは販売店にお問い合わせください。

次のページへつづく

7

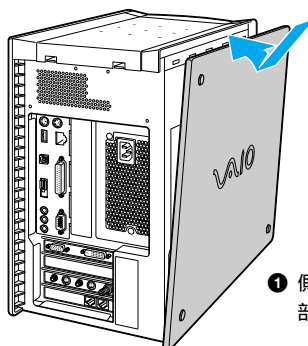
メモリモジュールがきちんと取り付けられているか確認する。

メモリモジュールを取り付けたら、以下の点を確認してください。

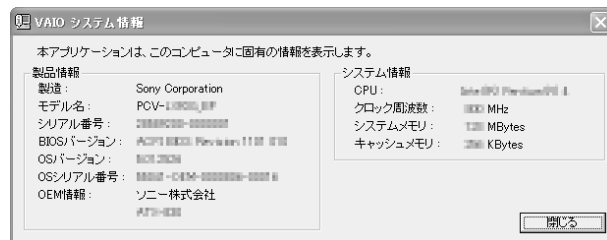
❶ 左右のクリップが、となりのクリップと揃っているかどうか。
❷ 左右のクリップが、きちんとメモリモジュールの溝にはまっているかどうか。

手順5で取りはずした電源ユニットを本機に取り付け、ネジをしめる。

ご注意

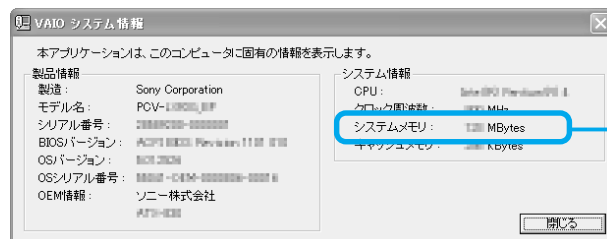
電源ユニットを取り付ける際は、ケーブルをはさみこまないようご注意ください。
ケーブルに傷がつくと、発煙や発火の原因となることがあります。

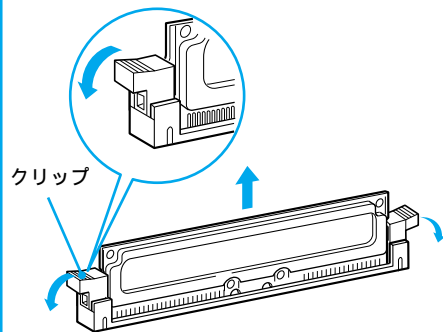
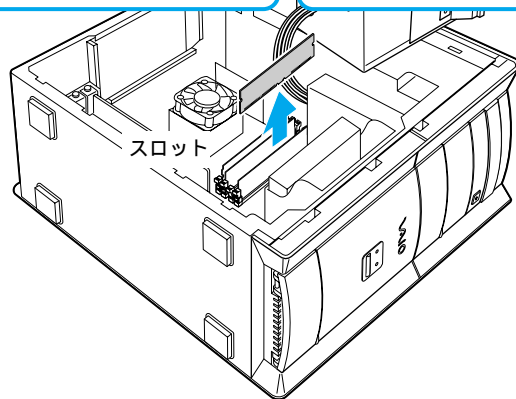
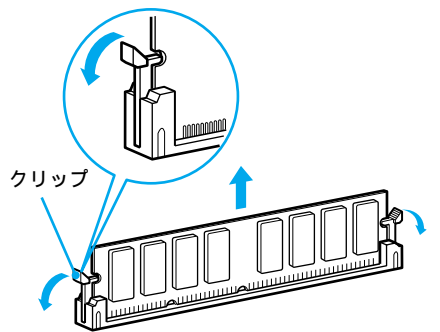
9 側面のカバーを取り付ける。

側面カバーの下部をはめてから、上部をはめ込みます。

10 手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。

11 デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［すべてのプログラム］にポインタを合わせ、［VAIO システム情報］、［VAIO システム情報］の順にクリックする。

「VAIO システム情報」画面が表示されます。

12 「システムメモリ」の項目が増設後のメモリ容量になっていることを確認する。

メモリの容量が正しければ、メモリの増設は完了しました。
メモリの容量が増えていないときは、本機の電源を切っていったんメモリモジュールを取りはずし、もう1度正しく増設の手順を繰り返してください。

メモリモジュールを取りはずすには

本機の金属部分に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリスロットの両端のクリップを外側に押し、メモリモジュールをはずし、スロットからゆっくり抜き取ります。

ハードディスクドライブを増設する

本機内部のハードディスクドライブベイにハードディスクドライブを1つ増設することができます。

ご注意

- ハードディスクドライブの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。
- ハードディスクドライブの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンクまでご連絡ください。
- ハードディスクドライブ増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないように注意してください。
- ハードディスクドライブ増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- ハードディスクドライブ増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いてカバーを取り付けてから電源を入れてください。
- ドライブベイは3.5インチサイズです。
- 増設するハードディスクドライブによっては本機で動作しないものがあります。増設について詳しくは、増設機器メーカーにお問い合わせください。
- 増設するハードディスクドライブによってはi.LINK対応機器から動画を取り込む際に制限が生じる場合があります。
- 増設するハードディスクドライブは、SLAVE（スレーブ）に設定してください。設定方法については、増設するハードディスクドライブの取扱説明書をご覧ください。
- **ハードディスクドライブの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源コードを差したまま、ハードディスクドライブを取り付けたり取りはずしたりすると、ハードディスクドライブや本機、周辺機器が壊れることがあります。**
- **電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。**

ハードディスクドライブを取り付ける

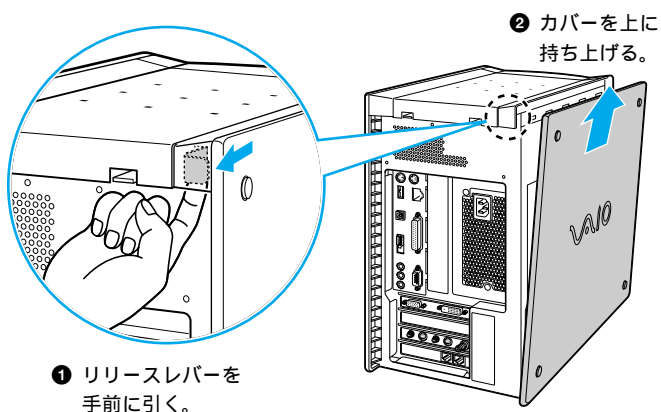
ハードディスクドライブを取り付ける際には、本機のカバーを取りはずす必要があります。以下の手順に従ってハードディスクドライブを取り付けます。
増設するハードディスクドライブの取扱説明書もあわせてご覧ください。

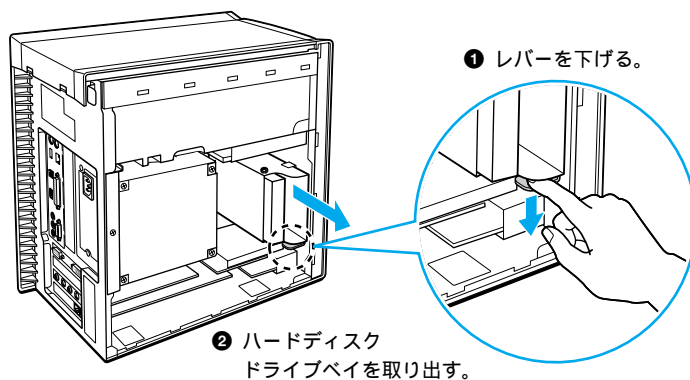
次のページへつづく

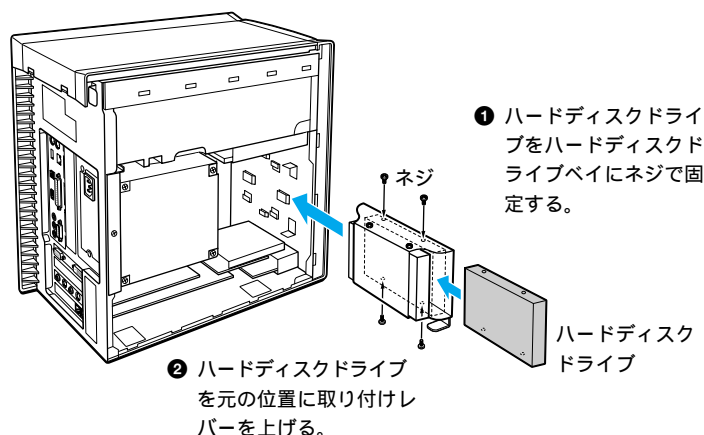
1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよび周辺機器を接続しているすべてのケーブルを取りはずす。

ご注意

電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

2 側面のカバーを取りはずす。

3 ハードディスクドライブベイを取り出す。

お買い上げ時に搭載のハードディスクドライブに接続されているケーブル類を取りはずし、ハードディスクドライブベイを取り出します。

4 ハードディスクドライブベイに増設するハードディスクドライブを取り付ける。

増設するハードディスクドライブをハードディスクドライブベイにネジで固定し、ハードディスクドライブベイを元の位置に取り付けます。

ちょっと一言

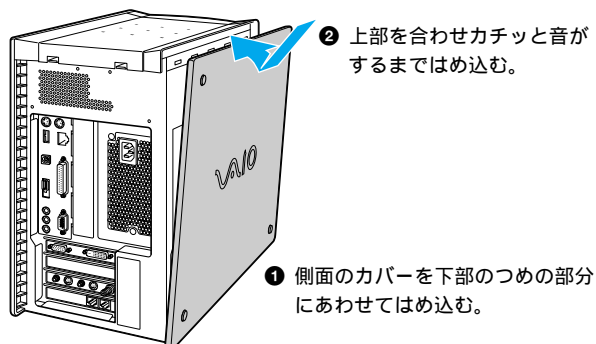
増設するハードディスクドライブは、SLAVE（スレーブ）に設定してください。設定方法については、増設するハードディスクドライブの取扱説明書をご覧ください。ハードディスクドライブの取り付けについて詳しくは、VAIOカスタマーリンクにお問い合わせください。

5 手順3で取りはずしたケーブル類を、お買い上げ時に搭載のハードディスクドライブおよび増設したハードディスクドライブの両方に接続する。

ご注意

電源ケーブルとIDEケーブルを必ず取り付けてください。

6 側面のカバーを取り付ける。

側面カバーの下部をはめてから、上部をはめ込みます。

ハードディスクドライブを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよび周辺機器を接続しているすべてのケーブルを取りはずしてから行ってください。

ご注意

電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

増設したハードディスクドライブを使用する前に

ハードディスクドライブを増設したあとは、下記の手順に従って「パーティションの作成」、「パーティションの種類の設定」、「パーティションのフォーマット」を設定してください。
パーティションについて詳しくは、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［ヘルプとサポート］をクリックし、「ヘルプとサポートセンター」を表示させ、ディスクの管理の概要などの説明をご覧ください。
なお、増設されたハードディスクドライブは拡張パーティションとして作成され、NTFSフォーマットされていないと、本機が正しく動作しなくなることがあります。

1 **本機の電源を入れる。**

電源の入れかたについて詳しくは、「電源を入れる」（47ページ）をご覧ください。

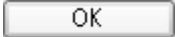
2 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、［コントロールパネル］をクリックする。**

「コントロールパネル」画面が表示されます。

3 **［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックして、［管理ツール］をクリックする。**

「管理ツール」画面が表示されます。

4 （コンピュータの管理）をダブルクリックする。

「コンピュータの管理」画面が表示されます。

5 「コンピュータの管理」画面の左側のウィンドウの中の［ディスクの管理］をクリックする。

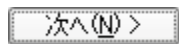
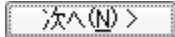
「コンピュータの管理」画面の右側のウィンドウに、接続されているディスクのパーティションの状況が表示されます。新しく増設したハードディスクドライブなど、目的のハードディスクドライブがこれまで使用されたことがなければ「未割り当て」と表示されます。

6 記憶域の中の「ディスク1」を右クリックして「ディスクの初期化」を選ぶ。

7 「ディスク1」がチェックされていることを確認して、OK をクリックする。

8 「未割り当て」の部分を右クリックして、表示されるメニューから［新しいパーティション］をクリックする。

「新しいパーティションウィザード」画面が表示されます。

9 次へ(N) > をクリックする。

「パーティションの種類を選択」画面が表示されます。

10 ［拡張パーティション］をクリックして選び、次へ(N) > をクリックする。

「パーティションサイズの指定」画面が表示されます。

次のページへつづく

11 **「パーティションサイズ」の入力欄に、作りたいパーティションの大きさを入力し、 次へ(N) > をクリックする。**

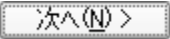
「パーティションの作成ウィザードの完了」画面が表示されます。

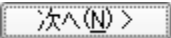
12 **完了 をクリックする。**

「パーティションの作成ウィザードの完了」画面が閉じます。
「コンピュータ管理」画面の右側のウィンドウで、パーティションの設定を行ったハードディスクドライブの表示が「未割り当て」から「空き領域」に変わります。

13 **「空き領域」の部分を右クリックして、表示されるメニューから［新しい論理ドライブの作成］をクリックする。**

「新しいパーティションのウィザードの開始」画面が表示されます。

14 **次へ(N) > をクリックする。**

「パーティションの種類を選択」画面が表示されます。

15 **［論理ドライブ］をクリックして選び、 次へ(N) > をクリックする。**

「パーティションサイズの指定」画面が表示されます。

16 **「パーティションサイズ」の入力欄に、作りたいパーティションの大きさを入力し、 次へ(N) > をクリックする。**

「ドライブ文字またはパスの割り当て」画面が表示されます。

17 **「ドライブ文字の割り当て」を ☑ をクリックしてリストから選び、 次へ(N) > をクリックする。**

「パーティションのフォーマット」画面が表示されます。

18 「フォーマット」の各項目を以下のように設定し、[次へ(N) >]をクリックする。

使用するファイルシステム：NTFS
アロケーションサイズ：既定値
ボリュームラベル：ボリューム
「新しいパーティションのウィザードの完了」画面が表示されます。

19 [完了]をクリックする。

パーティションの設定を行ったハードディスクドライブのフォーマットが始まります。フォーマットの状況は「コンピュータ管理」画面の右側のウィンドウにパーセントで表示されます。
フォーマットが終わると、増設したハードディスクドライブが使えるようになります。

ご注意

「コントロールパネル」画面の「パフォーマンスとメンテナンス」、[電源オプション]の順にクリックすると表示される「電源オプションのプロパティ」画面で「ハードディスクの電源を切る」は「なし」に設定してください。
「なし」以外に設定すると、「Giga Pocket」ソフトウェアを使って録画を行うとき、録画に失敗することがあります。

その他のデバイスを増設する（PCV-RX73/RX63のみ）

PCV-RX73/RX63の前面の拡張デバイスベイにMOドライブやZIPドライブなどの拡張用のIDEデバイスを1つ増設することができます。

ご注意

- デバイスの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。電気的な専門知識が必要な作業ですので、販売店などに取り付けを依頼されることをおすすめします。
- デバイスの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンクまでご連絡ください。
- デバイス増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないように注意してください。
- デバイス増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- デバイス増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙の恐れがあります。必ず異物を取り除いてカバーを取り付けてから電源を入れてください。
- 拡張デバイスベイは5インチサイズです。
- 本機の拡張デバイスベイにはSecondary（セカンダリ）IDEのコネクタが用意されています。増設するデバイスがIDEの場合は、SLAVE（スレーブ）に設定してください。設定方法については、増設するデバイスの取扱説明書をご覧ください。
- 増設する機器によっては本機で動作しないものがあります。
  増設について詳しくは、販売店または増設機器メーカーにお問い合わせください。

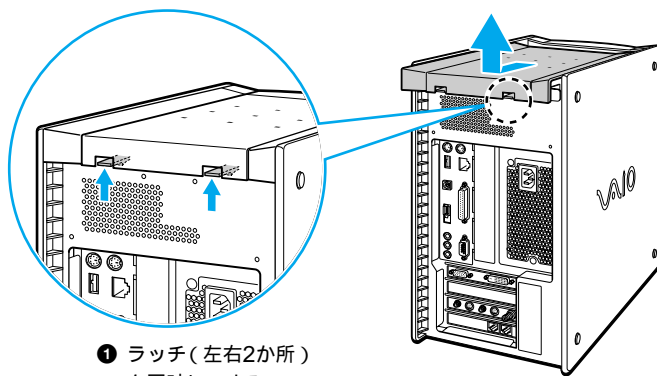
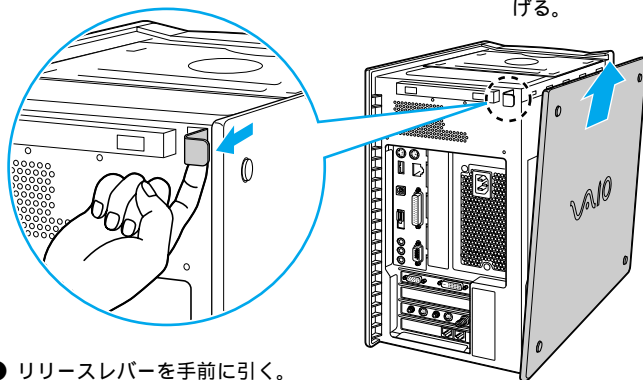
デバイスを取り付ける

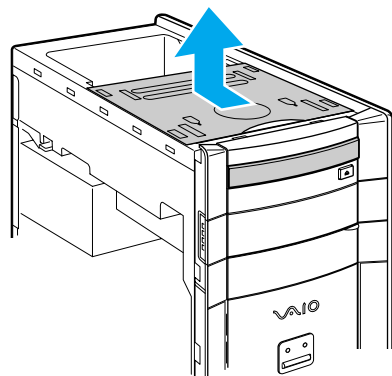
デバイスを取り付ける際には、本機のカバーを取りはずす必要があります。以下の手順に従ってデバイスを取り付けます。
増設するデバイスの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 **本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずす。**

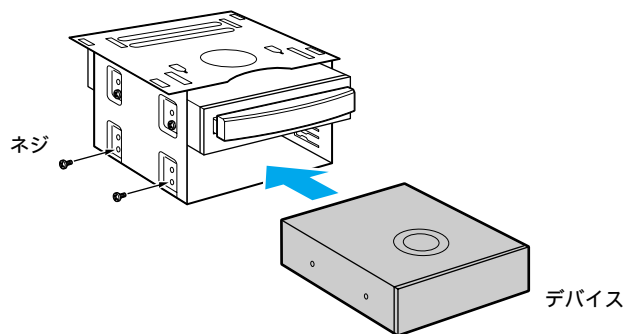
ご注意

電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

2 カバー後面上方にあるラッチをつまみながら、カバーを取りはずす。

3 側面のカバーを取りはずす。

4 拡張デバイスベイを取りはずす。

お買い上げ時に搭載のDVD-RWドライブに接続されているケーブル類を取りはずし、拡張デバイスベイを後ろの方向にスライドして取りはずします。

次のページへつづく

5 増設するデバイスを取り付ける。

デバイスベイに増設するデバイスをネジで固定します。
取り付けかたについて詳しくは、増設する機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

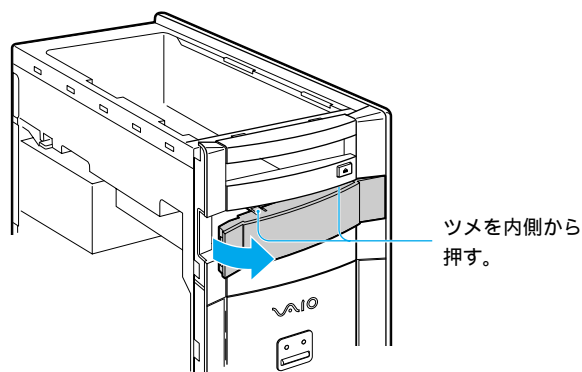
ハードディスクドライブとDVD-RWドライブを同一のIDEコネクタに接続しないでください。

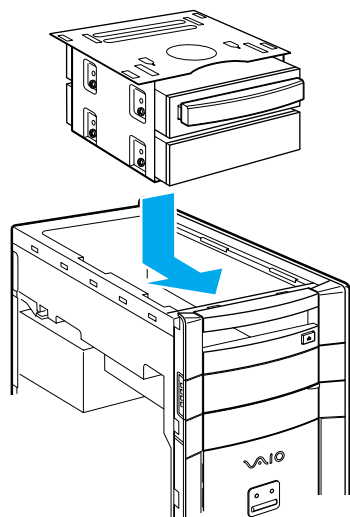
 ちょっと一言

増設するデバイスがIDEの場合は、SLAVE（スレーブ）に設定してください。
設定方法については、増設するデバイスの取扱説明書をご覧ください。

デバイスの取り付けについて詳しくは、VAIOカスタマーリンクまたは販売店にお問い合わせください。

ベイカバーを取りはずすときは

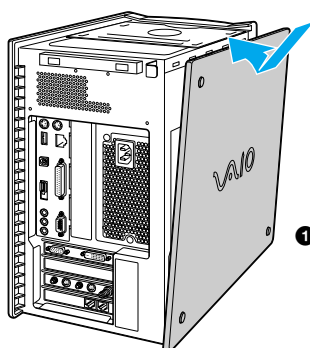
MOドライブなど、前面からディスクなどを挿入する機器を増設したときは、ベイカバーを前面パネルから取りはずします。
ベイカバー上部のツメを内側から押してから、ベイカバー側面のツメを手前に引いてベイカバーを取りはずしてください。

6 拡張デバイスベイを取り付ける。

拡張デバイスベイを元の位置に取り付けます。

7 手順4で取りはずしたケーブル類を、お買い上げ時に搭載のDVD-RWドライブおよび増設したドライブの両方に接続する。

ご注意

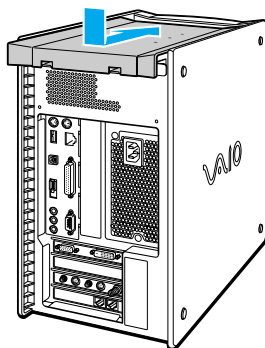
電源ケーブルとIDEケーブルを必ず取り付けてください。

8 側面のカバーを取り付ける。

側面カバーの下部をはめてから、上部をはめ込む。

次のページへつづく

上部のカバーを取り付ける。

カバーを上からかぶせるようにはめ込み、カバーを前の方向にずらし、ロックします。

❶ カバーを上からかぶせるようにはめ込む。

❷ カバーを前の方向にずらし、ラッチがカチッと音がするまで押し込む。

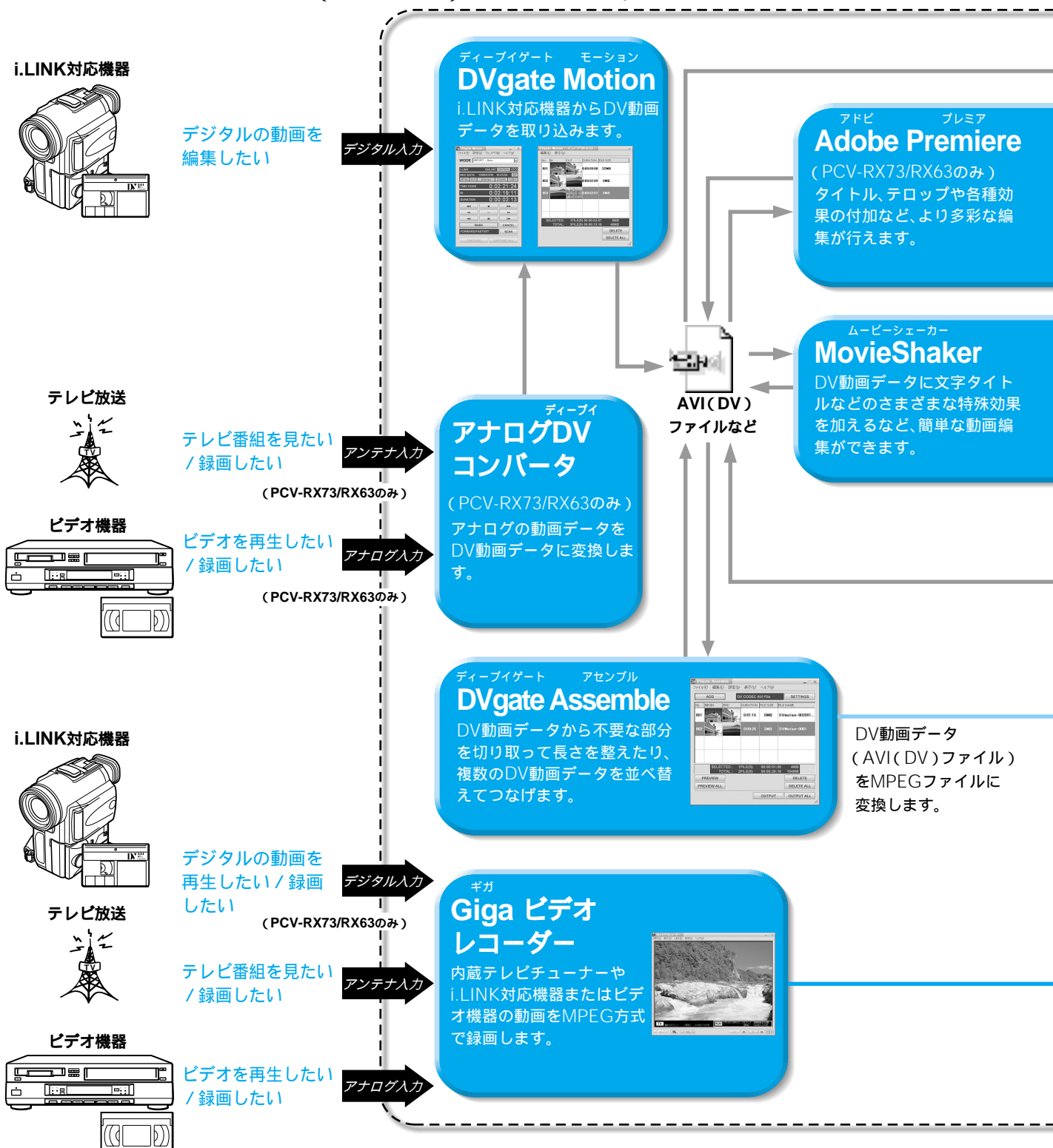
デバイスを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよびすべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

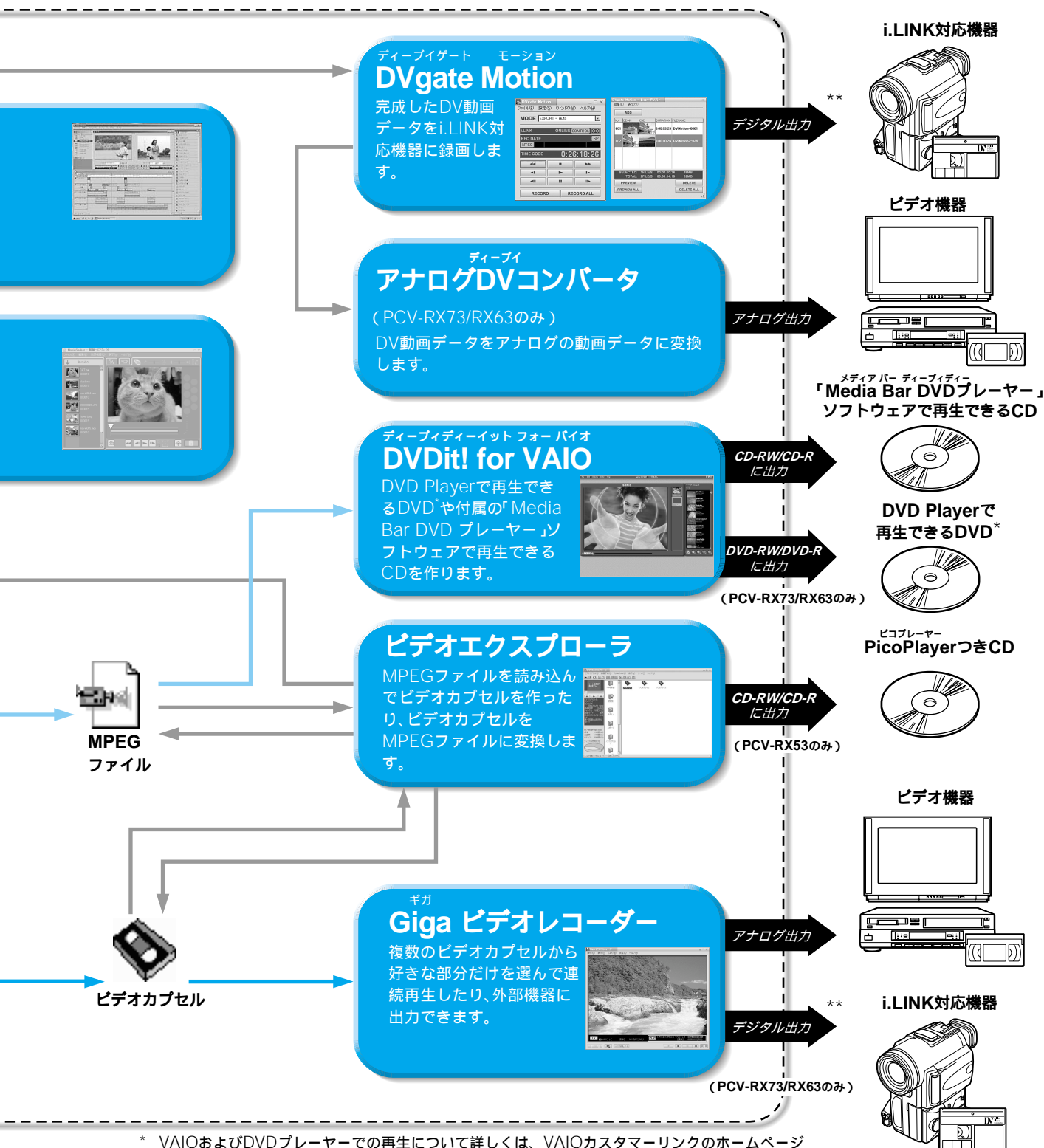
その他

本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明します。

動画系ソフトウェアの操作の流れ

本機には動画を扱うソフトウェアが数多く付属しています。それぞれのソフトウェアの役割と操作の流れを簡単に紹介します。それぞれのソフトウェアの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。本機とAV機器やi.LINK対応機器のつなぎかたについては、「接続する／準備する」（32ページ）、「AV機器をつなぐ」（238ページ）または「i.LINK対応機器をつなぐ」（243ページ）をご覧ください。

→ AVI（DV）：Windowsで動画や音声を再生するために米マイクロソフト社が作ったファイル形式です。
「DVgate Motion」ソフトウェアではDV形式で圧縮されたAVIファイルのみを扱っています。

→ MPEG：動画データの圧縮方式です。

→ **ビデオカプセル**：「Giga Pocket」ソフトウェアでは、MPEGの動画ファイルと各種の付加情報を1つにまとめて「ビデオカプセル」と呼びます。

* VAIOおよびDVDプレーヤーでの再生について詳しくは、VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）をご覧ください。

** 番組録画の日時やチャンネルなどの録画情報が出力されないことがあります。この場合、この録画情報を記録したDVテープを再生すると録画情報が表示されないことがありますが、異常ではありません。

リカバリ CDで本機を再セットアップする

ここでは付属のリカバリ CD-ROM（以降、リカバリ CDと略します）を使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリ CDとは

付属のリカバリ CDには「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の 2種類があり、お買い上げ時のハードディスク内のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、あらかじめインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使ってハードディスクの内容をお買い上げ時の状態に戻すことができます。

リカバリ CDを使うと、次のことができます

- ハードディスクを初期化した上で、すべてのファイルを復元する（お買い上げ時の状態に戻る）。
- ハードディスクのパーティションのサイズを変更する。
詳しくは「パーティションサイズを変更する」（302ページ）をご覧ください。

ご注意

- 付属のリカバリ CDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- 付属のリカバリ CDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや作成したデータを復元することはできません。また、Windowsだけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- 再セットアップする際は、必ず「システム リカバリ CD-ROM」と「アプリケーション リカバリ CD-ROM」の両方のリカバリ CDを使ってください。「アプリケーション リカバリ CD-ROM」を使わずに再セットアップを完了すると、本機の動作が不安定になる場合があります。
- BIOSの設定を変えた場合は、お買い上げ時の設定に戻してから再セットアップしてください。

BIOSとは

「バイオス」と読みます。コンピュータの基本的な設定をするためのプログラムの集まりで、電源を入れると最初にBIOSの読み込みが始まります。もし、BIOSが正しく働かないと、コンピュータは起動しなくなります。

再セットアップする前に

本機を再セットアップする前に、大切なデータは必ずバックアップをとってください。
バックアップをとるには、次の方法があります。

- フロッピーディスクにコピーする。
- DVD-RW／DVD-R（PCV-RX73/RX63）またはCD-RW／CD-Rにコピーする。
- D:ドライブにデータを残して、再セットアップを行う。

本機のハードディスクは、C:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれています。「再セットアップする」の手順7で「フォーマットしてリカバリ」を選んだ場合、C:ドライブのファイルはすべて消えてしまいますが、D:ドライブにあるファイルは残ります。

ご注意

- 「SonicStage for VAIO」ソフトウェアに取り込んだ曲や管理データは、「SonicStage for VAIO」ソフトウェアのバックアップツールを使って必ずバックアップをとってください。
  パックアップツールについて詳しくは、「SonicStage for VAIO」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- 「再セットアップする」の手順7で「パーティションサイズを変更してリカバリ」または「出荷時状態へリカバリ」を選んだ場合は、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更したり、お買い上げ時の状態に戻す前に、大切なデータはフロッピーディスクやDVD-RW／DVD-R（PCV-RX73/RX63）またはCD-RW／CD-Rに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

再セットアップする

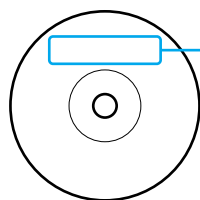
再セットアップする前に、以下の点を確認してください。

- 本機に接続しているすべての周辺機器を取りはずしてください。周辺機器は、再セットアップが終わったあとに再び接続してください。
- 大切なデータはバックアップをとったか確認してください。
- フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っていないか確認してください。

Windowsが完全に起動できない場合などに本機を再セットアップするときは、「Windowsが完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには」（298ページ）をご覧ください。
パーティションサイズを変更するときは、「パーティションサイズを変更する」（302ページ）をご覧ください。

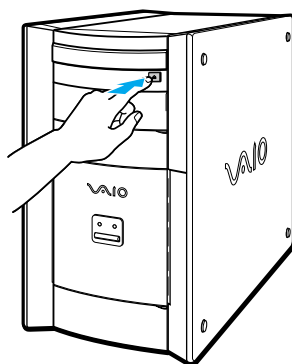
次のページへつづく

ご注意

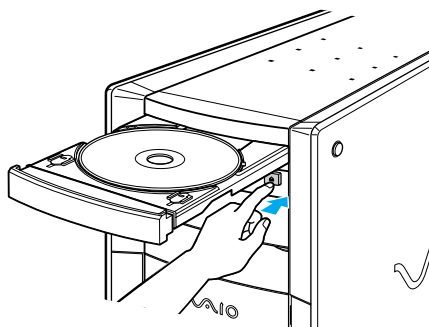
- 再セットアップした場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。再セットアップする前に、大切なデータはフロッピーディスクやDVD-RW／DVD-R（PCV-RX73/RX63）またはCD-RW／CD-Rに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。
- リカバリ CDの番号はディスクの表面に記載されています。

1 本機の電源を入れる。

電源の入れかたについて詳しくは、「電源を入れる」（47ページ）をご覧ください。

2 DVD-RWイジェクトボタン（PCV-RX73/RX63）またはDVD-ROMイジェクトボタン（PCV-RX53）を押す。

ディスクトレイが自動的に引き出されます。

3 付属の「システム リカバリ CD-ROM」の1枚目を、レーベル面（文字が書いてある面）を上にして、ディスクをトレイの中央に置く。

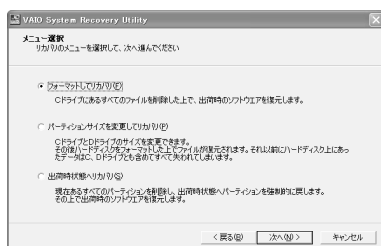
4 DVD-RW**イジェクトボタン（**PCV-RX73/RX63**）または**DVD-ROM**イジェクトボタン（**PCV-RX53**）を押して、トレイを閉める。**

自動的に「VAIO System Recovery Utility」が起動し、「はじめに」画面が表示されます。

5 内容をよく読み、 をクリックする。

6 引き続き内容をよく読んでから「同意する」の をクリックして にし、次へ(N) > をクリックする。

ちょっと一言

「同意しない」をクリックすると、再セットアップ作業を続けることはできません。

「メニュー選択」画面が表示されます。

次のページへつづく

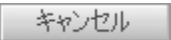
7

再セットアップの方法を選んで、 をクリックして にし、 次へ(N) > をクリックする。

次の中から再セットアップの方法を選びます。

「フォーマットしてリカバリ」：C:ドライブにあるファイルをすべて削除して、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「パーティションサイズを変更してリカバリ」：C:ドライブとD:ドライブのサイズを変更してから、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「出荷時状態へリカバリ」：パーティションをお買い上げ時の状態に戻してから、ソフトウェアを復元します。

ちょっと一言

「フォーマットしてリカバリ」を選んだ場合、C：ドライブ以外のドライブにあるファイルは削除されません。

8

画面の指示に従って操作し、「再起動してリカバリを開始します」画面が表示されたら、「リカバリを開始する」の □ をクリックして ☑ にし、 完了 をクリックする。

自動的に本機が再起動し、再セットアップが始まります。

再セットアップを中止するときは、 キャンセル をクリックします。

9

画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を入れ、何かキーボード上のキーを押す。

```
*************
*******************
  枚目のディスクをいれてください。
何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。
```

「システム リカバリ CD-ROM」は、必ず画面に表示される順番に従って入れてください。

入れるディスクの番号は、「システム リカバリ CD-ROM」のディスク面に表記されています。

10 セットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。

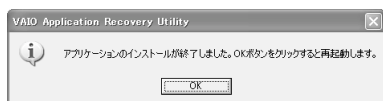
ご注意

「システム リカバリ CD-ROM」のディスクの中には、再セットアップには使用しないディスクが含まれている場合があります。必ず画面の指示に従って操作し、ディスクを入れる順番や、使用するディスクなどを間違えないよう、ご注意ください。

11 「Windowsを準備する」（49ページ）の手順に従って、Windowsをセットアップする。

12 Windowsのセットアップ終了後、「リカバリが終了していません」画面が表示されたら OK をクリックする。

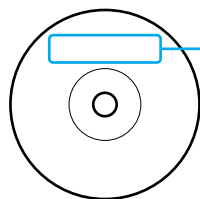
13 付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をDVD-RWドライブ（PCV-RX73/RX63）またはDVD-ROMドライブ（PCV-RX53）に入れる。

「アプリケーションのインストールを開始します」というメッセージが表示されたら OK をクリックする。自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、OK をクリックしてください。

14 本機を再セットアップする前にインターネットに接続していた場合は、「インターネットを始める」（120ページ）の手順に従ってインターネットへの接続の設定を行う。

その他

Windowsが完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには

ご注意

リカバリ CDの番号はディスクの表面に記載されています。

1

本機の電源を入れる。

電源の入れかたについて詳しくは、「電源を入れる」（47ページ）をご覧ください。

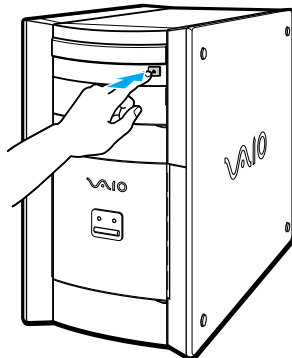
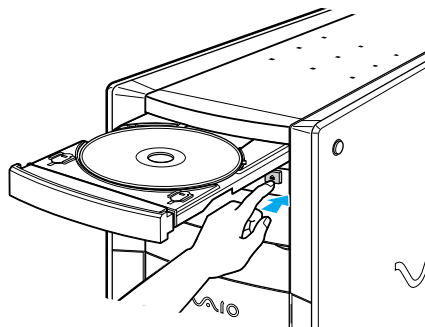
2

DVD-RW**イジェクトボタン**（PCV-RX73/RX63）**または**DVD-ROM**イジェクトボタン**（PCV-RX53）**を押す。**

ディスクトレイが自動的に引き出されます。

3

付属の「システム リカバリ CD-ROM**」の1枚目を、レーベル面（文字が書いてある面）を上にして、ディスクをトレイの中央に置く。**

4

DVD-RW**イジェクトボタン**（PCV-RX73/RX63）**または**DVD-ROM **イジェクトボタン**（PCV-RX53）**を押して、トレイを閉める。**

5 Windowsが起動している場合は終了し、本機の電源を切る。

Windowsの終了のしかた、電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切る」（58ページ）をご覧ください。

6 30秒ほど待ってから、⏻（電源）ボタンを押して本機の電源を入れる。

しばらくするとDVD-RWドライブ（PCV-RX73/RX63）またはDVD-ROMドライブ（PCV-RX53）から起動し、リカバリ CD上のプログラムが動作します。

7 「何かキーを押してください。」というメッセージが表示されたら、何かキーボード上のキーを押す。

メニュー画面が表示されます。

```
メインメニュー
1. フォーマットしてリカバリ......
2. パーティションサイズの変更......
3. 出荷状態へリカバリ......
4. システム リカバリ CD-ROM を終了する......

上の項目から希望する番号を選んでください。(1, 2, 3, 4) ? _
```

8 再セットアップの方法を選び、Enter（エンター）キーを押す。

次の中から再セットアップの方法を選びます。再セットアップを中止するときは4を選びます。

「1.フォーマットしてリカバリ...」：C:ドライブにあるファイルをすべて削除して、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「2.パーティションサイズの変更...」：C:ドライブとD:ドライブのサイズを変更してから、お買い上げ時のソフトウェアを復元します。

「3.出荷時状態へリカバリ...」：パーティションをお買い上げ時の状態に戻してから、ソフトウェアを復元します。

「4.システム リカバリ CD-ROMを終了する...」：再セットアップを中止します。

ちょっと一言

「フォーマットしてリカバリ」を選んだ場合、C：ドライブ以外のドライブにあるファイルは削除されません。

次のページへつづく

その他

9 画面の指示に従って操作する。

操作を続けるかどうか聞かれたときは、Y キーを押して Enter（エンター）キーを押してください。

10 画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を入れ、何かキーボード上のキーを押す。

```
*************
*******************
　枚目のディスクをいれてください。
何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。
```

「システム リカバリ CD-ROM」は、必ず画面に表示される順番に従って入れてください。

入れるディスクの順番は、「システム リカバリ CD-ROM」のディスク面に表記されています。

11 セットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。

ご注意

「システム リカバリ CD-ROM」のディスクの中には、再セットアップには使用しないディスクが含まれている場合があります。必ず画面の指示に従って操作し、ディスクを入れる順番や、使用するディスクなどを間違えないよう、ご注意ください。

12 「Windowsを準備する」（49ページ）の手順に従って、Windowsをセットアップする。

13 Windowsのセットアップ終了後、「リカバリが終了していません」画面が表示されたら OK をクリックする。

14 付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をDVD-RWドライブ（PCV-RX73/RX63）またはDVD-ROMドライブ（PCV-RX53）に入れる。

「アプリケーションのインストールを開始します」というメッセージが表示されたら OK をクリックする。自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、 OK をクリックしてください。

15 本機を再セットアップする前にインターネットに接続していた場合は、「インターネットを始める」（120ページ）の手順に従ってインターネットの接続の設定を行う。

ご注意

BIOSの設定状態によっては、リカバリ CDが起動しないことがあります。この場合は、BIOSをお買い上げ時の設定に戻す必要があります。BIOSをお買い上げ時の設定に戻すには、以下のように操作します。

1 **本機前面の ⏻（電源）ボタンを押し、画面にSonyのロゴが表示されたら、キーボードの F2 キーを押す。**
BIOSセットアップメニューが起動し、「AwardBIOS Setup Utility」画面が表示されます。

2 **F5（Setup Defaults）キーを押す。**
「Load default configuration now?」というメッセージが表示されます。

3 **Home／End キーを押して［Yes］を選び、Enter（エンター）キーを押す。**
すべての設定項目がお買い上げ時の設定に戻ります。

4 **F10（Save and Exit）キーを押す。**
「Save configuration changes and exit now?」というメッセージが表示されます。

5 **Home／End キーを押して［Yes］を選び、Enter（エンター）キーを押す。**
変更された設定が保存され、BIOSセットアップメニューが終了し、Windowsが起動します。
このあとは、294ページからの手順に従って本機を再セットアップしてください。
Windowsが起動しない場合は、「Windowsが完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには」（298ページ）の手順に従って本機を再セットアップしてください。

パーティションサイズを変更する

本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれており、D:ドライブは、「DVgate」ソフトウェアや「Giga Pocket」ソフトウェアなどで取り込んだ動画などの容量が大きいデータを保存したり、操作したりするための領域（データスペース）として使えるように設定されています（お買い上げ時）。付属のリカバリ CDを使ってパーティションサイズを変更できます。
動画の取り込みや書き出しを行う場合は、大容量のデータを高速で読み書きするため、ハードディスクの断片化が起こり、フレーム落ちの原因となります。そのため、データスペースとしてお使いになるパーティションは、ハードディスクの空き容量が常に連続になるよう、最適化（デフラグ）またはフォーマットを行ってください。
パーティションを区切ると、WindowsはC:ドライブにインストールされます。C:ドライブを最適化するのに非常に時間がかかる場合がありますので、D:ドライブをデータスペースとしてお使いになることをおすすめします。

パーティションとは

ハードディスクなどの大容量補助記憶装置の領域を分割することです。分割することで、1台のハードディスクが複数台のハードディスクと同じように使えるため、ファイルや、ソフトウェアの格納場所を分けるといったような使い分けができます。

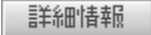
断片化とは

「フラグメンテーション」とも言います。ディスクに記録するファイルが連続した領域に収まらずに、あちこちに散らばって記録された状態のことです。通常は大きな問題になりませんが、データの記録や読み出しに時間がかかるなどの症状があらわれます。長期間にわたって断片化を放置すると、断片化した場所が大きくなり、エラーが頻発する原因になることもあります。

デフラグ（最適化）とは

ディスク中の断片化したデータをきれいにまとめることです。デフラグ（最適化）により、データの読み出し書き込みが速くなったり、エラーが起きる可能性が低くなったりします。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはフロッピーディスクやDVD-RW／DVD-R（PCV-RX73/RX63）またはCD-RW／CD-Rなどに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

1

「再セットアップする」(293ページ)の手順1〜6を行う。

2

再セットアップの方法の中から、「パーティションサイズを変更してリカバリ」の ◯ をクリックして ◉ にし、 次へ(N) > をクリックする。

「パーティションサイズを変更してリカバリ」画面が表示されます。

詳細情報 をクリックすると、現在のパーティションサイズを確認できます。

3

一覧からパーティションサイズを選び、 次へ(N) > をクリックする。

4

画面の指示に従って操作し、「再起動してリカバリを開始します」画面が表示されたら、「リカバリを開始する」の □ をクリックして ☑ にし、 完了 をクリックする。

パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。

再セットアップを中止するときは、 キャンセル をクリックします。

5

画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を入れ、何かキーボード上のキーを押す。

****
****
　枚目のディスクをいれてください。
何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。

「システム リカバリ CD-ROM」は、必ず画面に表示される順番に従って入れてください。

入れるディスクの順番は、「システム リカバリ CD-ROM」のディスク面に表記されています。

次のページへつづく

6 セットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。

ご注意

「システム リカバリ CD-ROM」のディスクの中には、再セットアップには使用しないディスクが含まれている場合があります。必ず画面の指示に従って操作し、ディスクを入れる順番や、使用するディスクなどを間違えないよう、ご注意ください。

7 「Windowsを準備する」（49ページ）の手順に従って、Windowsをセットアップする。

8 Windowsのセットアップ終了後、「リカバリが終了していません」画面が表示されたら OK をクリックする。

9 付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をDVD-RWドライブ（PCV-RX73/RX63）またはDVD-ROMドライブ（PCV-RX53）に入れる。

「アプリケーションのインストールを開始します」というメッセージが表示されたら OK をクリックする。自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、OK をクリックしてください。

10 本機を再セットアップする前にインターネットに接続していた場合は、「インターネットを始める」（120ページ）の手順に従ってインターネットへの接続の設定を行う。

Windowsが完全に起動しない状態で本機のパーティションサイズを変更するには

1 **「Windowsが完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには」(298ページ)の手順1〜7を行う。**

2 **メニュー画面が表示されたら、「2.パーティションサイズの変更...」を選び、Enter(エンター)キーを押す。**

パーティションサイズの選択画面が表示されます。
Esc(エスケープ)キーを押すと、現在のパーティションサイズを確認できます。

3 **パーティションサイズを選び、Enter(エンター)キーを押す。**

サイズの変更を中止する場合は、N キーを押してから Enter(エンター)キーを押すと手順2の画面に戻ります。

4 **画面の指示に従って操作する。**

操作を続けるかどうかを聞かれたときは Y キーを押し、Enter(エンター)キーを押してください。
パーティションサイズが変更され、自動的に本機が再起動します。再起動後、各ドライブが初期化され、再セットアップが始まります。

5 **画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を入れ、何かキーボード上のキーを押す。**

```
*************
*******************
  枚目のディスクをいれてください。
何かキーを押すとリカバリ処理を続行します。
```

「システム リカバリ CD-ROM」は、必ず画面に表示される順番に従って入れてください。

入れるディスクの順番は、「システム リカバリ CD-ROM」のディスク面に表記されています。

次のページへつづく

6 **セットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示に従って「システム リカバリ CD-ROM」を取り出してから、何かキーボード上のキーを押し、本機を再起動する。**

ご注意

「システム リカバリ CD-ROM」のディスクの中には、再セットアップには使用しないディスクが含まれている場合があります。必ず画面の指示に従って操作し、ディスクを入れる順番や、使用するディスクなどを間違えないよう、ご注意ください。

7 **「Windowsを準備する」（49ページ）の手順に従って、Windowsをセットアップする。**

8 **Windowsのセットアップ終了後、「リカバリが終了していません」画面が表示されたら OK をクリックする。**

9 **付属の「アプリケーション リカバリ CD-ROM」をDVD-RWドライブ（PCV-RX73/RX63）またはDVD-ROMドライブ（PCV-RX53）に入れる。**

「アプリケーションのインストールを開始します」というメッセージが表示されたら OK をクリックする。自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、 OK をクリックしてください。

10 **本機を再セットアップする前にインターネットに接続していた場合は、「インターネットを始める」（120ページ）の手順に従ってインターネットへの接続の設定を行う。**

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- DVD-RW／DVD-R（PCV-RX73/RX63のみ）またはCD-RW／CD-Rにデータを記録中に振動や衝撃を与えないでください。
- 直射日光が当たる場所、暖房器具の近くなど、異常な高温になる場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- ほこりが多い場所では使用しないでください。
- 湿気が多い場所では使用しないでください。
- 風通しが悪い場所では使用しないでください。

結露について

結露とは空気中の水分が金属の板などに付着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。そのままご使用になると故障の原因となります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。
ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- 振動や衝撃を与えないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

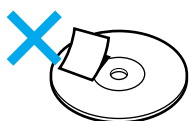
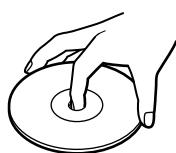
バックアップをとる

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップをとることをおすすめします。
ソフトウェアはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、「Windowsのヘルプ」をお読みください。

次のページへつづく

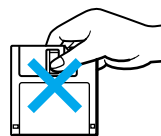
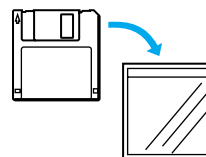
DVD-RW／DVD-R（PCV-RX73/RX63のみ）またはDVD-ROM／CD-ROM／CD-RW／CD-Rの取り扱いについて

DVD-RW／DVD-R（PCV-RX73/RX63のみ）またはDVD-ROM／CD-ROM／CD-RW／CD-Rに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。

- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。DVD-RW／DVD-R（PCV-RX73/RX63のみ）またはCD-RW／CD-Rは記録面が汚れると、データの書き込みができなくなります。記録面には触れないでください。

- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- 直射日光が当たって高温になった自動車の中に長時間放置しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。
- DVD-RW／DVD-R（PCV-RX73/RX63のみ）またはCD-RW／CD-Rのレーベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンをお使いください。ボールペンなどで文字を書くと、記録面を傷つけ、データの書き込みができなくなることがあります。

フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。

- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。
また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは原則として禁じられています。ソフトウェアの使用許諾契約書をよくお読みのうえ、お使いください。

DVD-RWドライブまたはDVD-ROMドライブの地域番号（リージョンコード）書き換えについて

お買い上げ時、本機のDVD-RWドライブ（PCV-RX73/RX63）またはDVD-ROMドライブ（PCV-RX53）の地域番号は「2」（日本）に設定されています。Windowsおよび一部のソフトウェアにはこの地域番号を書き換える機能がありますが、お使いにならないでください。この機能をお使いになった結果生じた不具合につきましては、保証期間内でも有償修理とさせていただきます。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows XP用、DOS/V用、PC/AT互換機用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。
ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。
市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

お手入れ

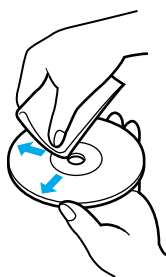
本機やディスプレイのお手入れ

本機やディスプレイについたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機やディスプレイの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてからお手入れをしてください。
- 濡れたもので本機やディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

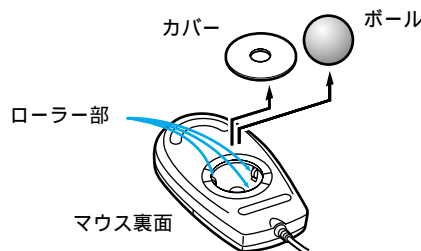
CD-ROM／DVD-ROMのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読み取りエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。

- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

DVD-RW／DVD-R（PCV-RX73/RX63のみ）またはCD-RW／CD-Rのお手入れ

- DVD-RW／DVD-R（PCV-RX73/RX63のみ）またはCD-RW／CD-Rは、データを記録する前には絶対にクリーナーで拭かないでください。ほこりなどの汚れは、ブロワーを使って吹き飛ばしてください。
- ベンジンやシンナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。
- DVD-RW／DVD-R（PCV-RX73/RX63のみ）またはCD-RW／CD-Rの未記録部分にキズやほこりがあると正しいデータが記録できないことがあります。取り扱いには充分ご注意ください。
- DVD-RW／DVD-R（PCV-RX73/RX63のみ）またはCD-RW／CD-Rは直射日光を避けて保存してください。

マウスを掃除する

マウスは長く使っていると、内部にゴミやほこりなどがたまり、画面上のポインタが思うように動かなくなります。この場合は、マウスの裏面のカバーを取りはずし、ボールを取り出して内部を掃除します。

- 乾いた布で内部のゴミやほこりなどを取り除いてから綿棒でローラー部のゴミをこすり取ってください。

• 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

• 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、マウスを本機から取りはずしてからマウスを掃除してください。
• 濡れたものでマウスを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
• アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

キーボードを掃除する

キーボードは長く使っていると、キーが汚れたり、キーの間にゴミやほこりがたまります。キーの間にゴミやほこりがたまると、キーを押しても目的の文字を入力できなくなったり、押したキーがへこんだまま元に戻らなくなることがあります。この場合は、キーボードを掃除します。

• 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
• キーの側面は、綿棒でこすり取ってください。
• キーの間は、エア・スプレーなどでゴミやほこりを散らしてください。

ご注意

• 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、キーボードを本機から取りはずしてからキーボードを掃除してください。
• 濡れたものでキーボードを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
• アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3か月です。カスタマー登録していただいたお客様は1年間となります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOカスタマーリンクへご連絡ください

VAIOカスタマーリンクについては、別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
ただし、故障の原因が不当な分解や改造であると判明した場合は、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではパーソナルコンピュータの修理は引取修理を行っています。
当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは別冊の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出す前に、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。弊社の修理により、ハードディスクなどのプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルコンピュータの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご相談ください。
ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- お客様のカスタマーID
- 型名：PCV-RX73/RX63/RX53
- 製造番号：
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

部品の交換について

この製品は修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

索引

五十音順

次のページへつづく

アルファベット順

この説明書は再生紙を使用しています。

本機をお使いになる前に、必ずお買い上げのコンピュータに添付のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

商標について

- VAIO はソニー株式会社の商標です。
- "Memory Stick"("メモリースティック")および MEMORY STICK™ は、ソニー株式会社の商標です。
- OpenMGはソニー株式会社の商標です。
- CyberCodeはソニー株式会社の商標です。
- So-net、ソネットおよびSo-netロゴはソニー株式会社の登録商標です。
- i.LINKは、IEEE1394-1995およびその拡張仕様を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ" " は商標です。
- Microsoft、MS-DOS、Windows Media、WindowsおよびOutlookは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- Adobe®、Adobe® Photoshop®、Adobe Premiere®およびAdobe® Acrobat® Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の商標です。
- Sonic、Sonic Solutions、DVDit!は米国Sonic Solutions社の米国およびその他の国における商標です。
- 2001 AMERICA ONLINE. INC. All Rights Reserved.
- BIGLOBEは日本電気株式会社の登録商標です。
- DIONはKDDI株式会社の登録商標です。
- Copyright© 1991-2001 QUALCOMM, Incorporated.
  Copyright© 1995-2001 株式会社クニリサーチインターナショナル
- @niftyはニフティ株式会社の商標です。
- ドルビー、DOLBY、ダブルD記号DD、AC-3およびプロロジックはドルビーラボラトリーズの商標です。
- OCNは、NTTコミュニケーションズ株式会社の商標です。
- ODNは日本テレコム株式会社の商標です。
- PostPetはソニーコミュニケーションネットワーク株式会社の登録商標です。
- 「ぷらら」は株式会社ぷららネットワークスの登録商標です。
- 「できる」は株式会社インプレスの登録商標です。
- 「ConceptBase」「ConceptBase Search」「CBSearch」は株式会社ジャストシステムの登録商標です。
  Partion Copyright 2000 株式会社ジャストシステム
  Partion Copyright 1981-1998 Microsft Corporation
- PrimoSDK for CD
  Partial software replication technology by VERITAS Software Corporation.
  Copyright© 2001 Easy Systems Japan Ltd. All rights reserved.
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。
  なお、本文中では™、®マークは明記していません。

VAIOホームページ
VAIOを楽しく使っていただくための情報をご案内します。
● http://www.vaio.sony.co.jp/

VAIOカスタマーリンク ホームページ
VAIOの最新サポート情報をご案内します。
● http://vcl.vaio.sony.co.jp/

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35
http://www.sony.co.jp/

Printed in Japan